

令和6年度  
人権についての  
市民意識調査報告書

2025(令和7)年3月

八尾市



# 目 次

第1章 調査の概要.....	1
1. 調査目的.....	1
2. 調査内容.....	1
3. 回収結果.....	1
4. 報告書を作成するにあたって.....	1
第2章 調査の集計結果.....	3
1. 回答者の属性.....	3
(1) 性別.....	3
(2) 年齢.....	3
(3) 職業.....	3
2. 人権全般について.....	4
3. 人権に対する意識や行動について.....	34
4. 人権侵害や擁護について.....	92
5. 人権に関する啓発活動について.....	104
第3章 考察.....	127
1. 人権全般についての考察.....	127
(1) この5年間における意識の変化.....	127
(2) 人権課題について.....	127
2. 人権侵害や擁護についての考察.....	139
3. 人権に関する啓発活動についての考察.....	140
資料編	
調査票.....	143

## 第1章 調査の概要

### 1. 調査目的

本市では、2001(平成13)年に、「八尾市人権尊重の社会づくり条例」を制定し、人権が尊重され、共に認め合い、幸せに暮らせる社会づくりに取り組んでおり、「八尾市第6次総合計画」では、まちづくりの目標の1つに「つながりを創り育て自分らしさを大切にしようまち」を掲げ、人権尊重のまちづくりを進めています。

また、市民一人ひとりが人権を自分自身の課題としてとらえ、人権を尊重することの重要性を正しく認識し、すべての人びとの人権にも十分に配慮した行動がとれるよう、2025(令和7)年度までの10年間を目標年次として2016(平成28)年3月に「第2次八尾市人権教育・啓発プラン」を策定、中間見直しにより2021(令和3)年3月に改定し、人権尊重のまちづくりの実現に向けた総合的な施策の推進を図ってきたところです。

2025(令和7)年度には、「(仮)第3次八尾市人権教育・啓発プラン」の策定を予定しており、今後の人権施策に反映するため、地域での人権に関する意識や行動、意見等を把握することを目的として、令和6年度人権についての市民意識調査を実施しました。

### 2. 調査内容

調査対象	八尾市在住満16歳以上の市民(外国人含む) 3,000人(男女各1,500人(うち外国人90人<各45人))
実施期間	2024(令和6)年10月1日～10月15日
調査方法	郵送による調査票配布・郵送または八尾市電子申請システムによる回答
調査項目	31項目 属性:性別、年齢、職業 設問:28問
抽出方法	ランダムサンプリング抽出法 住民基本台帳データの対象者から無作為抽出

### 3. 回収結果

配布数	有効回答数			有効回答率
	郵送による回答	八尾市電子申請システムによる回答	計	
3,000	967	276	1,243	41.4%

### 4. 報告書を作成するにあたって

- 2019(令和元)年実施の前回調査との比較検討を行いました。
- 以下のクロス集計を行いました。
  - ✓ 属性別クロス集計(性別、年齢別、職業別)
  - ✓ 学習経験別クロス集計  
問21で1～9のいずれかを選択している場合を人権学習の経験「あり」  
問21で10を選択している場合を人権学習の経験「なし」としました。

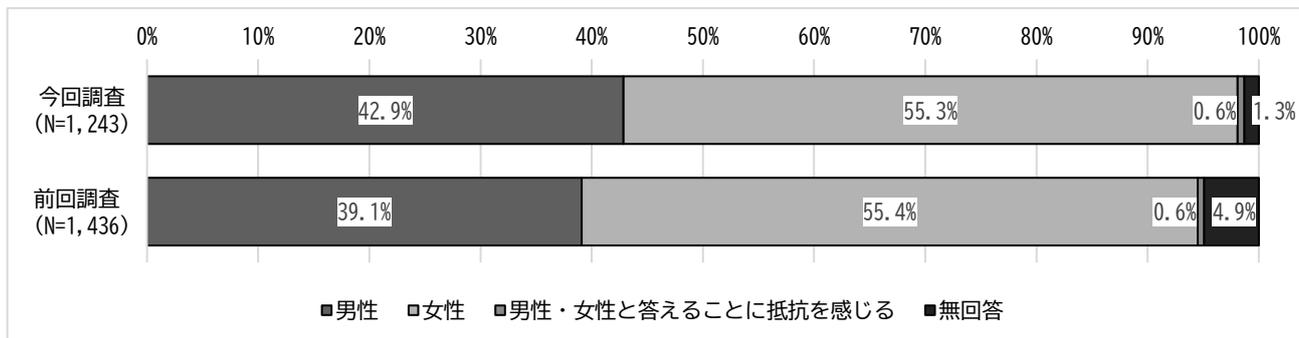
- 図及び表の“N”は各設問における母数を表しています。クロス集計の場合は、クロス集計の基準となる回答項目の母数です。
- 百分比(%)は、原則として小数第 2 位を四捨五入し、小数第 1 位まで表示しています。そのため、四捨五入の結果、個々の比率の合計が 100%と一致しないことがあります。

※ 本市では、市民の人権意識をより正確に把握するため、さまざまな視点で調査を実施しています。潜在的な人権意識を把握することで課題を明確にし、施策に反映することを目的とするものであり、差別を助長するものではありません。

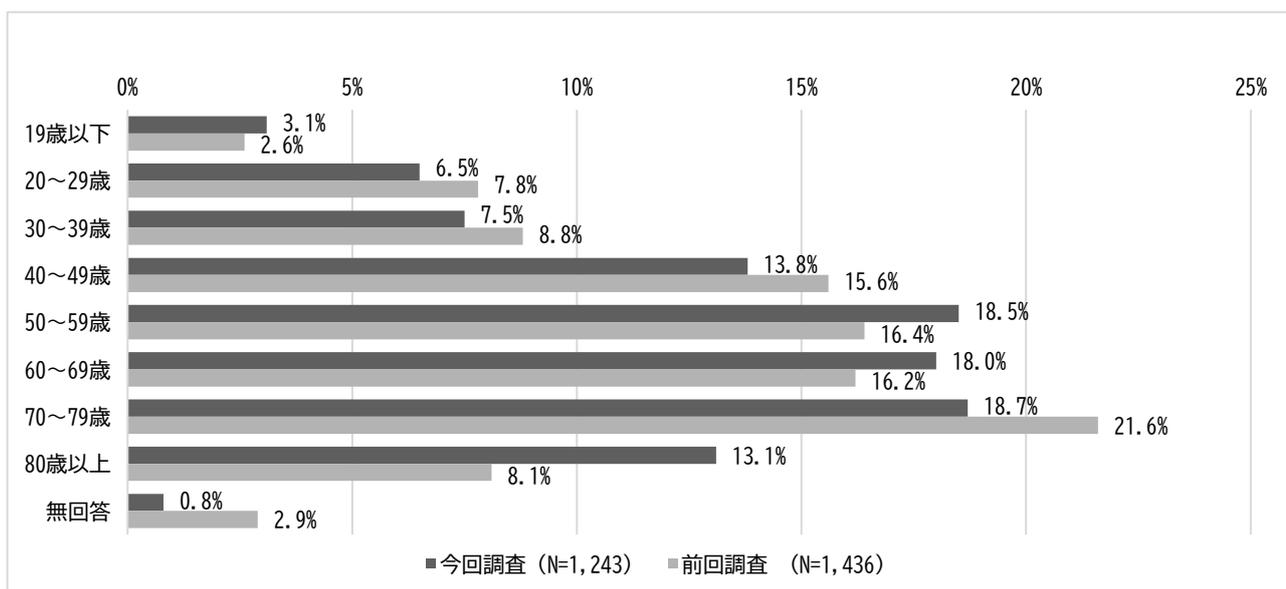
## 第2章 調査の集計結果

### 1. 回答者の属性

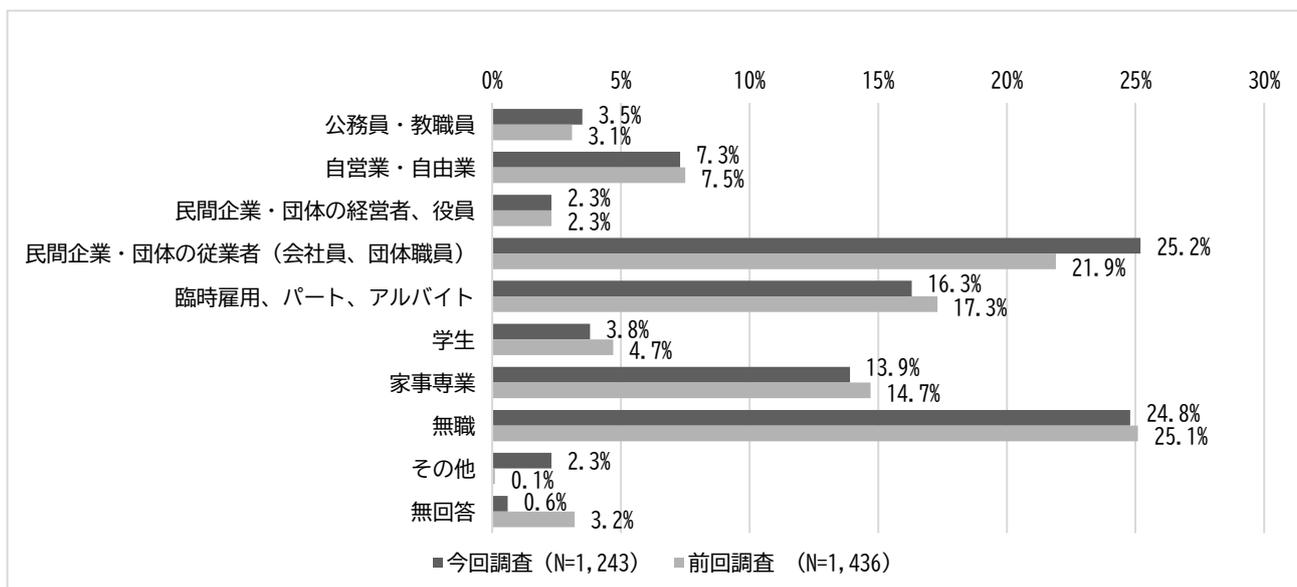
#### (1) 性別



#### (2) 年齢



#### (3) 職業



## 2. 人権全般について

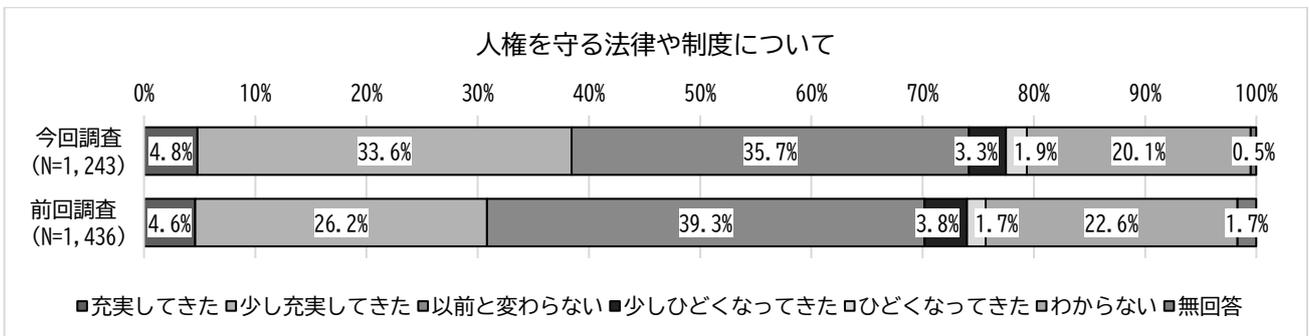
問1 次のことについて、あなたはこの5年間でどう変化したと感じていますか(1つ選択してください)。

### (1)人権を守る法律や制度について

「充実してきた」「少し充実してきた」を合計した「充実してきた計」、「少しひどくなってきた」「ひどくなってきた」を合計した「ひどくなってきた計」と比較すると、以下のようになります。

#### ■ 全体

「充実してきた計」は38.4%で、「ひどくなってきた計」の5.2%を33.2ポイント上回っています。  
また、「充実してきた計」は前回調査の30.8%に比べ、7.6ポイント増加しています。



#### ■ 性別

「充実してきた計」で見ると、男女差はみられません。

#### ■ 年齢別

「充実してきた計」は「19歳以下」が47.4%でもっとも高く、次いで「60～69歳」が42.5%、「50～59歳」が41.3%となっており、「80歳以上」が31.3%でもっとも低くなっています。

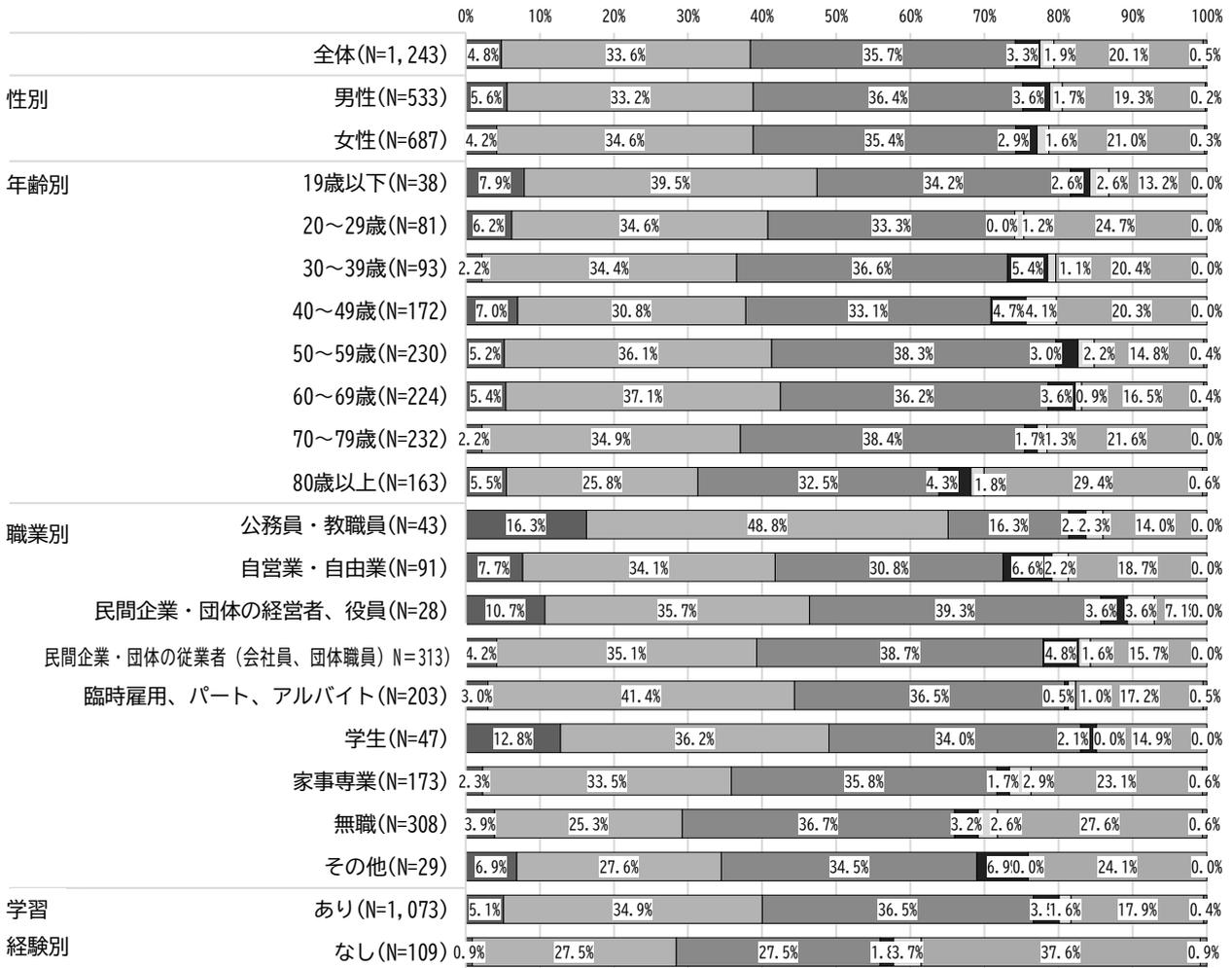
#### ■ 職業別

「充実してきた計」は「公務員・教職員」が65.1%でもっとも高く、次いで「学生」が49.0%、「民間企業・団体の経営者、役員」が46.4%となっており、「無職」が29.2%でもっとも低くなっています。

#### ■ 学習経験別

「充実してきた計」は「あり」が「なし」を11.6ポイント上回っています。

(1) 人権を守る法律や制度について



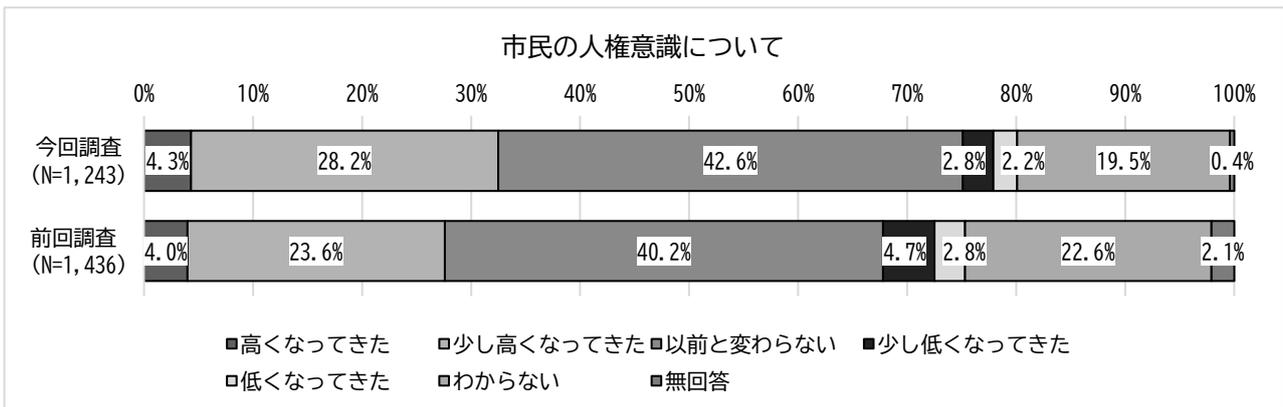
■充実してきた □少し充実してきた ■以前と変わらない ■少しひどくなってきた □ひどくなってきた ■わからない ■無回答

## (2)市民の人権意識について

「高くなってきた」「少し高くなってきた」を合計した「高くなってきた計」、「少し低くなってきた」「低くなってきた」を合計した「低くなってきた計」と比較すると、以下ようになります。

### ■ 全体

「高くなってきた計」は 32.5%で、「低くなってきた計」の 5.0%を 27.5 ポイント上回っています。  
また、「高くなってきた計」は前回調査の 27.6%に比べ、4.9 ポイント増加しています。



### ■ 性別

「高くなってきた計」で見ると、男女差はほとんどみられません。

### ■ 年齢別

「高くなってきた計」は「40～49 歳」が 36.1%でもっとも高く、次いで「70～79 歳」が 34.9%、「50～59 歳」が 34.8%となっており、「80 歳以上」が 26.4%でもっとも低くなっています。

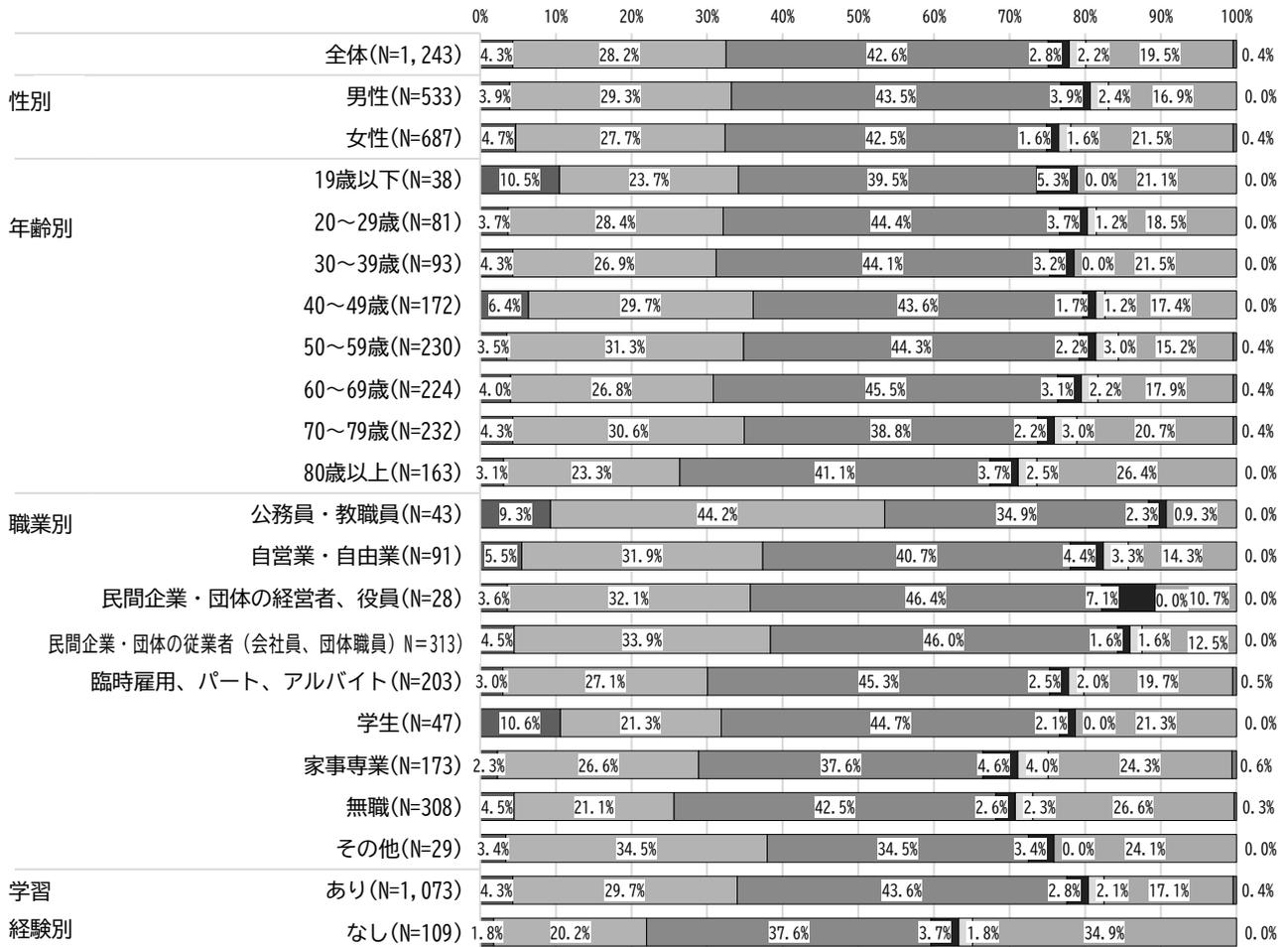
### ■ 職業別

「高くなってきた計」は「公務員・教職員」が 53.5%でもっとも高く、次いで「民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)」が 38.4%、「その他」が 37.9%となっており、「無職」が 25.6%でもっとも低くなっています。

### ■ 学習経験別

「高くなってきた計」は「あり」が「なし」を 12.0 ポイント上回っています。

## (2) 市民の人権意識について



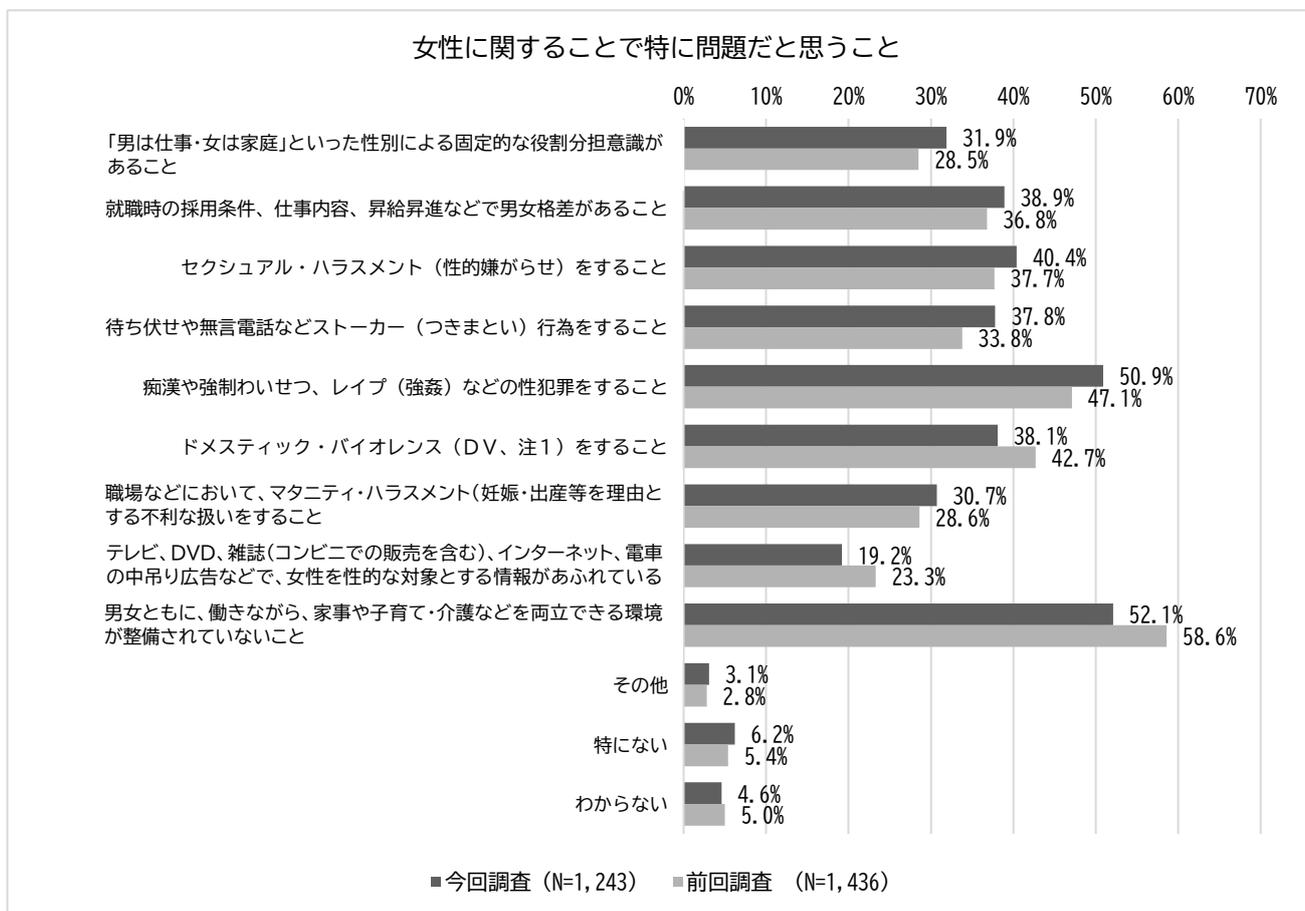
■高くなってきた □少し高くなってきた ■以前と変わらない ■少し低くなってきた □低くなってきた □わからない ■無回答

問2 女性に関することで、あなたが特に問題だと思うのはどのようなことですか  
(いくつでも選択できます)。

■ 全体

「男女ともに、働きながら、家事や子育て・介護などを両立できる環境が整備されていないこと」が 52.1%で最も高く、次いで「痴漢や強制わいせつ、レイプ(強姦)などの性犯罪をすること」が 50.9%、「セクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)をすること」が 40.4%となっています。

前回調査との比較では「待ち伏せや無言電話などストーカー(つきまとい)行為をすること」が 4.0 ポイント増加し、「男女ともに、働きながら、家事や子育て・介護などを両立できる環境が整備されていないこと」が 6.5 ポイント減少しています。



■ 性別

「男女ともに、働きながら、家事や子育て・介護などを両立できる環境が整備されていないこと」は 10.0 ポイント、「就職時の採用条件、仕事内容、昇給昇進などで男女格差があること」は 9.8 ポイント、「痴漢や強制わいせつ、レイプ(強姦)などの性犯罪をすること」は 7.4 ポイント、「女性」が「男性」を上回っています。

■ 年齢別

「19歳以下」「20～29歳」「50～59歳」「60～69歳」は「痴漢や強制わいせつ、レイプ(強姦)などの性犯罪

をすること」、「30～39歳」「40～49歳」「70～79歳」及び「80歳以上」は「男女ともに、働きながら、家事や子育て・介護などを両立できる環境が整備されていないこと」がもっとも高くなっています。

## ■ 職業別

「自営業・自由業」「民間企業・団体の経営者、役員」「臨時雇用、パート、アルバイト」「学生」「その他」は「痴漢や強制わいせつ、レイプ(強姦)などの性犯罪をすること」、「公務員・教職員」「民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)」「家事専業」「無職」は「男女ともに、働きながら、家事や子育て・介護などを両立できる環境が整備されていないこと」がもっとも高くなっています。

## ■ 学習経験別

「男女ともに、働きながら、家事や子育て・介護などを両立できる環境が整備されていないこと」は 11.5 ポイント、「セクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)をすること」は 7.9 ポイント、「就職時の採用条件、仕事内容、昇給昇進などで男女格差があること」は 7.4 ポイント、「あり」が「なし」を上回り、「わからない」は「なし」が「あり」を 7.7 ポイント上回っています。

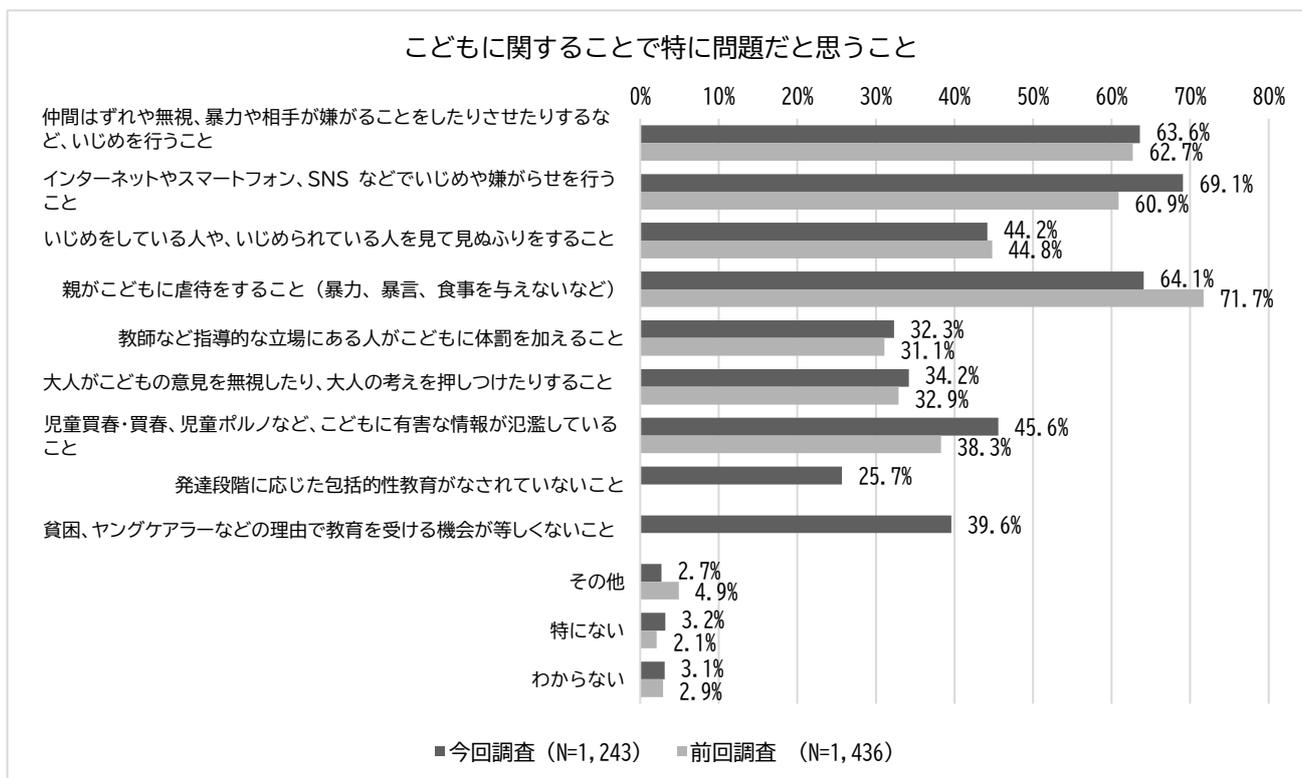
		「男は仕事、女は家庭」といった性別による固定的な役割分担意識があること	就職時の採用条件、仕事内容、昇給昇進などで男女格差があること	セクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)をすること	待ち伏せや無言電話などストーカー(つきまとい)行為をすること	痴漢や強制わいせつ、レイプ(強姦)などの性犯罪をすること	ドメスティック・バイオレンス(DV、注1)をすること	職場などにおいて、マタニティ・ハラスメント(妊娠・出産等を理由とする不利な扱い)をすること	対象とする情報があふれていること	テレビ、DVD、雑誌(コンビニでの販売を含む)、インターネット、電車の中吊り広告などで、女性を性的な対象とする情報があふれていること	男女ともに、働きながら、家事や子育て・介護などを両立できる環境が整備されていないこと	その他	特になし	わからない
	全体(N=1,243)	31.9%	38.9%	40.4%	37.8%	50.9%	38.1%	30.7%	19.2%	52.1%	3.1%	6.2%	4.6%	
性別	男性(N=533)	29.8%	33.4%	40.9%	39.2%	47.3%	37.5%	28.5%	15.9%	46.5%	2.6%	7.1%	6.0%	
	女性(N=687)	33.5%	43.2%	40.2%	37.1%	54.7%	39.0%	32.5%	22.1%	56.5%	3.2%	5.5%	3.3%	
年齢別	19歳以下(N=38)	44.7%	47.4%	39.5%	36.8%	50.0%	39.5%	44.7%	21.1%	42.1%	2.6%	0.0%	7.9%	
	20～29歳(N=81)	37.0%	33.3%	49.4%	43.2%	54.3%	38.3%	39.5%	19.8%	39.5%	2.5%	4.9%	7.4%	
	30～39歳(N=93)	36.6%	43.0%	45.2%	34.4%	52.7%	36.6%	36.6%	22.6%	66.7%	3.2%	2.2%	2.2%	
	40～49歳(N=172)	39.0%	38.4%	40.1%	37.2%	57.0%	43.0%	40.1%	15.7%	59.9%	4.1%	1.2%	1.7%	
	50～59歳(N=230)	34.8%	37.8%	47.4%	42.2%	52.6%	44.8%	32.2%	18.3%	51.7%	3.9%	9.1%	2.2%	
	60～69歳(N=224)	26.8%	42.0%	39.7%	38.8%	59.4%	41.1%	24.1%	16.5%	53.6%	2.2%	4.9%	3.1%	
	70～79歳(N=232)	28.4%	38.8%	35.8%	37.5%	42.2%	35.3%	25.0%	22.8%	50.0%	2.2%	8.2%	6.0%	
	80歳以上(N=163)	25.2%	35.6%	32.5%	31.9%	42.3%	24.5%	25.2%	20.9%	47.2%	3.7%	9.8%	9.8%	
職業別	公務員・教職員(N=43)	37.2%	30.2%	55.8%	44.2%	60.5%	51.2%	44.2%	20.9%	62.8%	4.7%	0.0%	0.0%	
	自営業・自由業(N=91)	35.2%	36.3%	44.0%	42.9%	54.9%	47.3%	36.3%	22.0%	49.5%	4.4%	6.6%	1.1%	
	民間企業・団体の経営者、役員(N=28)	32.1%	28.6%	50.0%	42.9%	53.6%	32.1%	25.0%	14.3%	32.1%	0.0%	10.7%	10.7%	
	民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)(N=313)	35.1%	42.2%	40.6%	37.4%	51.8%	39.0%	31.3%	16.9%	58.5%	2.9%	5.1%	1.0%	
	臨時雇用、パート、アルバイト(N=203)	35.5%	35.0%	41.9%	39.9%	59.1%	42.4%	27.1%	20.2%	51.2%	2.5%	7.4%	2.5%	
	学生(N=47)	42.6%	42.6%	42.6%	40.4%	53.2%	38.3%	44.7%	23.4%	36.2%	2.1%	2.1%	4.3%	
	家事専業(N=173)	27.2%	40.5%	36.4%	36.4%	53.8%	34.7%	35.3%	22.0%	59.0%	2.9%	4.0%	2.3%	
	無職(N=308)	25.6%	39.3%	36.4%	33.1%	39.9%	31.2%	23.4%	17.9%	46.8%	3.9%	8.4%	10.7%	
	その他(N=29)	34.5%	41.4%	51.7%	55.2%	58.6%	51.7%	44.8%	24.1%	48.3%	3.4%	3.4%	20.7%	
学習経験別	あり(N=1,073)	32.4%	40.4%	41.8%	38.4%	52.1%	39.1%	31.7%	19.7%	53.7%	3.1%	5.3%	3.3%	
	なし(N=109)	33.0%	33.0%	33.9%	36.7%	46.8%	33.9%	24.8%	22.0%	42.2%	4.6%	9.2%	11.0%	

問3 こどもに関することで、あなたが特に問題だと思うのはどのようなことですか  
(いくつでも選択できます)。

■ 全体

「インターネットやスマートフォン、SNSなどでいじめや嫌がらせを行うこと」が 69.1%でもっとも高く、次いで「親がこどもに虐待をすること(暴力、暴言、食事を与えないなど)」が 64.1%、「仲間はずれや無視、暴力や相手が嫌がることをしたりさせたりするなど、いじめを行うこと」が 63.6%となっています。

前回調査との比較では「インターネットやスマートフォン、SNSなどでいじめや嫌がらせを行うこと」が 8.2 ポイント、「児童売春・買春、児童ポルノなど、こどもに有害な情報が氾濫していること」が 7.3 ポイント増加し、「親がこどもに虐待をすること(暴力、暴言、食事を与えないなど)」が 7.6 ポイント減少しています。



■ 性別

「貧困、ヤングケアラーなどの理由で教育を受ける機会が等しくないこと」が 7.9 ポイント、「教師など指導的な立場にある人がこどもに体罰を加えること」が 7.6 ポイント、「児童売春・買春、児童ポルノなど、こどもに有害な情報が氾濫していること」が 7.5 ポイント、「女性」が「男性」を上回っているなど、「女性」が「男性」を上回る傾向にあります。

■ 年齢別

「19歳以下」「30～39歳」「40～49歳」「50～59歳」「60～69歳」は「インターネットやスマートフォン、SNSなどでいじめや嫌がらせを行うこと」、「20～29歳」は「親がこどもに虐待をすること(暴力、暴言、食事を与えないなど)」、「70～79歳」「80歳以上」は「仲間はずれや無視、暴力や相手が嫌がることをしたりさせたりするなど、いじめを行うこと」がもっとも高くなっています。

■ 職業別

「無職」以外は「インターネットやスマートフォン、SNSなどでいじめや嫌がらせを行うこと」、「無職」は「仲間はずれや無視、暴力や相手が嫌がることをしたりさせたりするなど、いじめを行うこと」「親がこどもに虐待をすること(暴力、暴言、食事を与えないなど)」がもっとも高くなっています。

■ 学習経験別

「インターネットやスマートフォン、SNSなどでいじめや嫌がらせを行うこと」が 19.4 ポイント、「貧困、ヤングケアラーなどの理由で教育を受ける機会が等しくないこと」が 10.9 ポイント、「あり」が「なし」を上回っています。

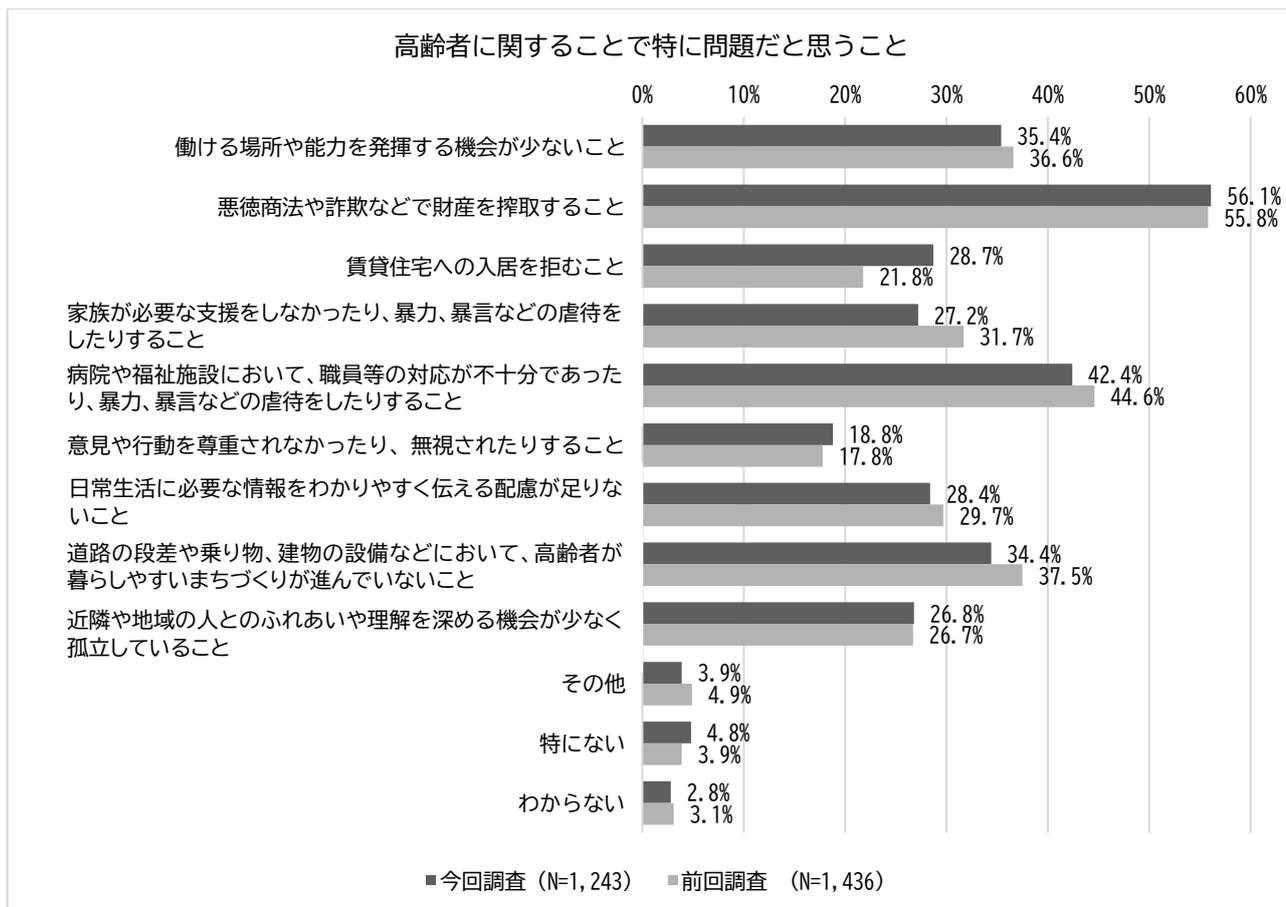
		仲間はずれや無視、暴力や相手が嫌がることをしたりさせたりするなど、いじめを行うこと	インターネットやスマートフォン、SNSなどでいじめや嫌がらせを行うこと	いじめをしている人や、いじめられている人を見ぬふりをする	親がこどもに虐待をすること(暴力、暴言、食事を与えないなど)	教師など指導的な立場にある人がこどもに体罰を加えること	大人がこどもの意見を無視したり、大人の考えを押しつけたりすること	児童売春・買春、児童ポルノなど、こどもに有害な情報が氾濫していること	発達段階に応じた包括的性教育がなされていないこと	貧困、ヤングケアラーなどの理由で教育を受ける機会が等しくないこと	その他	特になし	わからない
性別	全体(N=1,243)	63.6%	69.1%	44.2%	64.1%	32.3%	34.2%	45.6%	25.7%	39.6%	2.7%	3.2%	3.1%
	男性(N=533)	60.4%	67.4%	44.1%	60.4%	28.1%	31.9%	41.7%	21.8%	35.3%	1.9%	4.5%	3.4%
	女性(N=687)	66.7%	71.3%	44.4%	67.8%	35.7%	35.8%	49.2%	28.8%	43.2%	3.3%	2.2%	2.6%
年齢別	19歳以下(N=38)	60.5%	65.8%	47.4%	50.0%	36.8%	44.7%	44.7%	34.2%	42.1%	2.6%	0.0%	0.0%
	20～29歳(N=81)	61.7%	67.9%	44.4%	72.8%	44.4%	48.1%	37.0%	23.5%	35.8%	3.7%	1.2%	4.9%
	30～39歳(N=93)	62.4%	69.9%	49.5%	60.2%	36.6%	46.2%	49.5%	29.0%	46.2%	6.5%	2.2%	2.2%
	40～49歳(N=172)	69.2%	84.3%	51.7%	67.4%	36.0%	39.5%	52.3%	33.1%	43.0%	3.5%	1.2%	0.0%
	50～59歳(N=230)	64.3%	78.7%	41.3%	67.8%	33.5%	33.5%	42.6%	26.5%	43.0%	2.6%	3.5%	1.7%
	60～69歳(N=224)	65.2%	73.7%	45.5%	65.2%	27.2%	29.9%	45.1%	21.4%	40.2%	2.2%	2.2%	3.1%
	70～79歳(N=232)	62.5%	59.9%	40.9%	62.1%	29.7%	28.0%	44.4%	19.8%	38.8%	0.4%	4.3%	5.6%
	80歳以上(N=163)	59.5%	49.1%	39.9%	58.9%	28.2%	28.2%	49.1%	27.6%	29.4%	3.7%	6.7%	4.9%
職業別	公務員・教職員(N=43)	65.1%	81.4%	48.8%	79.1%	37.2%	32.6%	62.8%	30.2%	55.8%	2.3%	0.0%	0.0%
	自営業・自由業(N=91)	68.1%	78.0%	46.2%	71.4%	31.9%	44.0%	49.5%	24.2%	37.4%	3.3%	0.0%	1.1%
	民間企業・団体の経営者・役員(N=28)	64.3%	75.0%	46.4%	60.7%	25.0%	28.6%	50.0%	21.4%	46.4%	0.0%	0.0%	3.6%
	民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)(N=313)	64.2%	74.4%	47.9%	62.9%	29.4%	35.5%	44.1%	25.2%	39.6%	3.2%	4.2%	1.6%
	臨時雇用、パート、アルバイト(N=203)	63.5%	74.9%	45.3%	65.5%	36.9%	36.0%	51.2%	25.6%	37.4%	1.5%	3.0%	0.5%
	学生(N=47)	61.7%	68.1%	42.6%	55.3%	40.4%	46.8%	42.6%	31.9%	40.4%	2.1%	2.1%	0.0%
	家事専業(N=173)	67.1%	69.4%	43.4%	68.2%	35.3%	37.6%	46.8%	30.6%	45.1%	4.0%	0.0%	2.9%
	無職(N=308)	59.1%	54.9%	38.0%	59.1%	28.9%	25.6%	39.0%	21.4%	34.7%	1.6%	6.2%	7.8%
	その他(N=29)	72.4%	75.9%	55.2%	69.0%	37.9%	37.9%	55.2%	34.5%	48.3%	13.8%	0.0%	6.9%
学習経験別	あり(N=1,073)	64.5%	71.7%	44.5%	64.9%	32.4%	35.1%	45.9%	26.2%	41.2%	2.7%	2.8%	2.4%
	なし(N=109)	57.8%	52.3%	45.0%	63.3%	33.9%	30.3%	48.6%	22.9%	30.3%	3.7%	5.5%	6.4%

問4 高齢者に関することで、あなたが特に問題だと思うのはどのようなことですか  
(いくつでも選択できます)。

■ 全体

「悪徳商法や詐欺などで財産を搾取すること」が 56.1%でもっとも高く、次いで「病院や福祉施設において、職員等の対応が不十分であったり、暴力、暴言などの虐待をしたりすること」が42.4%、「働ける場所や能力を発揮する機会が少ないこと」が 35.4%となっています。

前回調査と比較すると、「賃貸住宅への入居を拒むこと」が 6.9 ポイント増加し、「家族が必要な支援をしなかったり、暴力、暴言などの虐待をしたりすること」が4.5 ポイント減少しています。



■ 性別

「病院や福祉施設において、職員等の対応が不十分であったり、暴力、暴言などの虐待をしたりすること」が 10.3 ポイント、「賃貸住宅への入居を拒むこと」が 7.9 ポイント、「日常生活に必要な情報をわかりやすく伝える配慮が足りないこと」が 5.8 ポイント、「女性」が「男性」を上回っています。

■ 年齢別

「19歳以下」は「病院や福祉施設において、職員等の対応が不十分であったり、暴力、暴言などの虐待をしたりすること」、20歳以上は「悪徳商法や詐欺などで財産を搾取すること」がもっとも高くなっています。

■ 職業別

「学生」は「病院や福祉施設において、職員等の対応が不十分であったり、暴力、暴言などの虐待をしたりすること」、「学生」以外はすべて「悪徳商法や詐欺などで財産を搾取すること」がもっとも高くなっています。

■ 学習経験別

「働ける場所や能力を発揮する機会が少ないこと」が 6.9 ポイント、「近隣や地域の人とのふれあいや理解を深める機会が少なく孤立していること」が 4.5 ポイント、「日常生活に必要な情報をわかりやすく伝える配慮が足りないこと」が 4.1 ポイント、「あり」が「なし」を上回り、「意見や行動を尊重されなかったり、無視されたりすること」は 3.5 ポイント、「なし」が「あり」を上回っています。

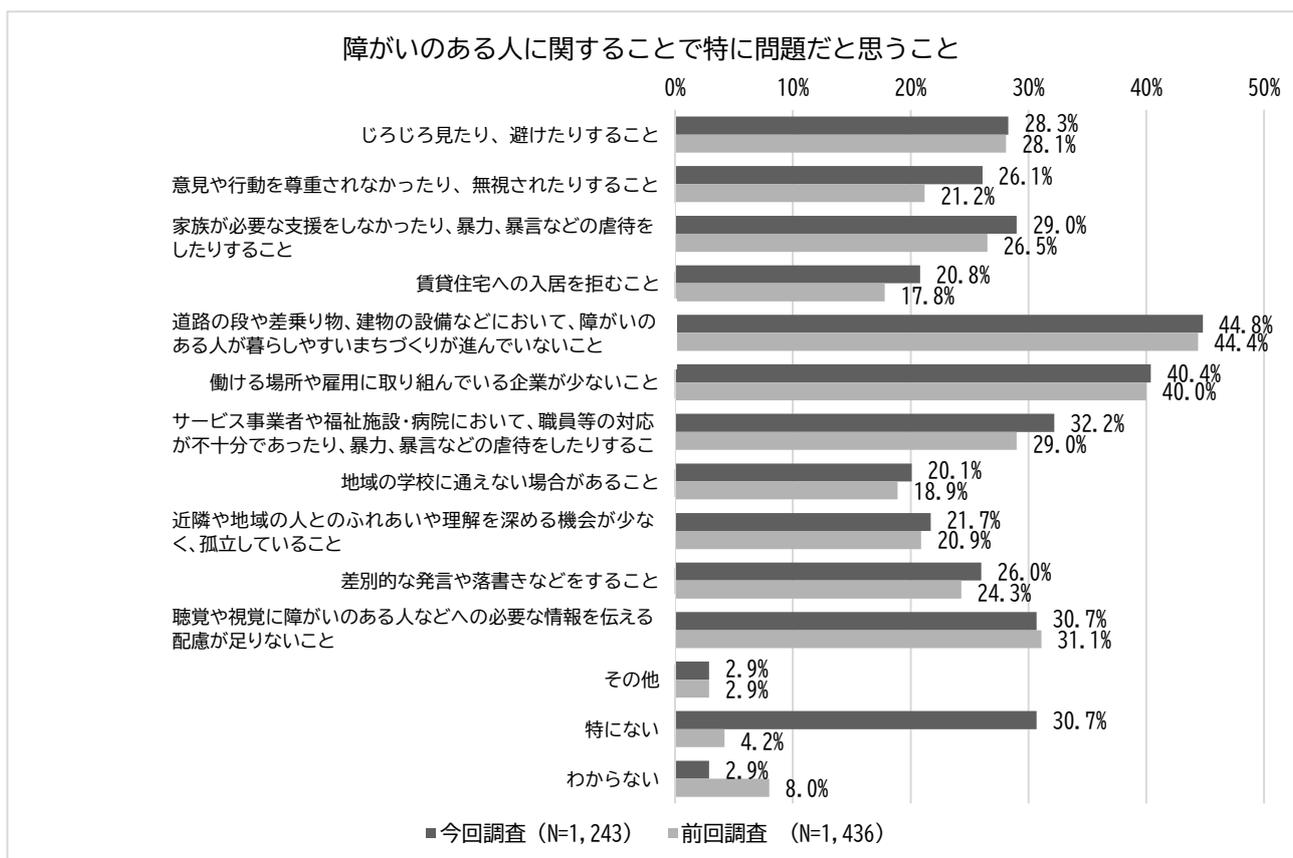
		働ける場所や能力を発揮する機会が少ないこと	悪徳商法や詐欺などで財産を搾取すること	賃貸住宅への入居を拒むこと	暴力、暴言などの虐待をしたりすること	家族が必要な支援をしなかったり、暴力、暴言などの虐待をしたりすること	病院や福祉施設において、職員等の対応が不十分であったり、暴力、暴言などの虐待をしたりすること	無視されたりすること	意見や行動を尊重されなかったり、無視されたりすること	日常生活に必要な情報をわかりやすく伝える配慮が足りないこと	道路の段差や乗り物、建物の設備などにおいて、高齢者が暮らしやすいまちづくりが進んでいないこと	近隣や地域の人とのふれあいや理解を深める機会が少なく孤立していること	その他	特になし	わからない
	全体(N=1,243)	35.4%	56.1%	28.7%	27.2%	42.4%	18.8%	28.4%	34.4%	26.8%	3.9%	4.8%	2.8%		
性別	男性(N=533)	33.2%	54.6%	24.4%	25.9%	37.0%	17.3%	25.3%	31.9%	27.2%	3.4%	6.6%	3.6%		
	女性(N=687)	37.8%	57.8%	32.3%	28.5%	47.3%	20.2%	31.1%	36.2%	26.9%	4.4%	3.6%	2.2%		
	19歳以下(N=38)	34.2%	42.1%	13.2%	34.2%	44.7%	18.4%	31.6%	26.3%	23.7%	2.6%	2.6%	5.3%		
年齢別	20～29歳(N=81)	25.9%	48.1%	23.5%	24.7%	34.6%	13.6%	25.9%	27.2%	28.4%	4.9%	8.6%	6.2%		
	30～39歳(N=93)	43.0%	46.2%	30.1%	25.8%	44.1%	20.4%	21.5%	31.2%	30.1%	3.2%	4.3%	3.2%		
	40～49歳(N=172)	39.5%	66.3%	30.8%	37.8%	48.3%	22.1%	30.8%	31.4%	32.0%	3.5%	2.3%	2.9%		
	50～59歳(N=230)	40.0%	63.5%	33.5%	30.4%	48.3%	18.3%	32.2%	38.3%	24.8%	3.9%	4.8%	1.3%		
	60～69歳(N=224)	36.6%	54.9%	25.4%	24.1%	40.6%	14.3%	30.4%	31.7%	25.0%	3.1%	4.0%	3.1%		
	70～79歳(N=232)	36.2%	48.7%	30.2%	22.4%	38.4%	19.8%	27.2%	35.8%	28.4%	2.6%	5.2%	3.0%		
	80歳以上(N=163)	23.9%	60.7%	28.2%	23.3%	39.3%	23.3%	25.2%	39.9%	23.3%	7.4%	7.4%	1.8%		
	職業別	公務員・教職員(N=43)	41.9%	58.1%	25.6%	41.9%	51.2%	14.0%	20.9%	37.2%	39.5%	4.7%	0.0%	0.0%	
自営業・自由業(N=91)		44.0%	52.7%	33.0%	36.3%	50.5%	24.2%	28.6%	35.2%	28.6%	2.2%	1.1%	1.1%		
民間企業・団体の経営者、役員(N=28)		14.3%	64.3%	14.3%	39.3%	35.7%	14.3%	10.7%	32.1%	14.3%	0.0%	3.6%	7.1%		
民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)(N=313)		42.8%	55.6%	30.4%	27.5%	40.6%	20.4%	30.7%	33.5%	28.1%	4.2%	5.4%	1.6%		
臨時雇用、パート、アルバイト(N=203)		41.4%	60.1%	29.1%	27.1%	45.8%	16.3%	28.6%	32.5%	31.0%	2.5%	4.9%	3.4%		
学生(N=47)		34.0%	42.6%	14.9%	34.0%	46.8%	19.1%	31.9%	25.5%	27.7%	4.3%	6.4%	4.3%		
家事専業(N=173)		32.9%	59.5%	31.8%	24.9%	49.1%	17.9%	30.6%	37.6%	23.1%	4.6%	2.9%	0.6%		
無職(N=308)		24.7%	53.9%	27.3%	20.8%	34.7%	16.9%	26.9%	35.1%	23.4%	4.2%	7.1%	4.2%		
その他(N=29)		34.5%	58.6%	34.5%	37.9%	41.4%	41.4%	31.0%	37.9%	31.0%	10.3%	3.4%	13.8%		
学習経験別	あり(N=1,073)	36.3%	57.1%	28.7%	27.7%	42.8%	18.5%	28.9%	34.4%	27.4%	3.8%	4.5%	2.5%		
	なし(N=109)	29.4%	53.2%	29.4%	24.8%	43.1%	22.0%	24.8%	34.9%	22.9%	6.4%	4.6%	3.7%		

問5 障がいのある人に関することで、あなたが特に問題だと思うのはどのようなことですか  
(いくつでも選択できます)。

■ 全体

「道路の段差や乗り物、建物の設備などにおいて、障がいのある人が暮らしやすいまちづくりが進んでいないこと」が44.8%でもっとも高く、次いで「働ける場所や雇用に取り組んでいる企業が少ないこと」が40.4%、「サービス事業所や福祉施設・病院において、職員等の対応が不十分であったり、暴力、暴言などの虐待をしたりすること」が32.2%となっています。

前回調査との比較では「特にない」が 26.5 ポイント、「意見や行動を尊重されなかったり、無視されたりすること」が4.9 ポイント増加しています。



■ 性別

「道路の段差や乗り物、建物の設備などにおいて、障がいのある人が暮らしやすいまちづくりが進んでいないこと」が5.4 ポイント、「家族が必要な支援をしなかったり、暴力、暴言などの虐待をしたりすること」が3.5 ポイント、「女性」が「男性」を上回り、「賃貸住宅への入居を拒むこと」が2.6 ポイント、「男性」が「女性」を上回っています。

■ 年齢別

「19歳以下」は「意見や行動を尊重されなかったり、無視されたりすること」、「20～29歳」は「差別的な発言や落書きなどをすること」、「30～39歳」は「働ける場所や雇用に取り組んでいる企業が少ないこと」、40歳以上は「道路の段差や乗り物、建物の設備などにおいて、障がいのある人が暮らしやすいまちづくりが進んでいないこと」がもっとも高くなっています。

■ 職業別

「公務員・教職員」「臨時雇用、パート、アルバイト」は「働ける場所や雇用に取り組んでいる企業が少なく」と、「民間企業・団体の経営者、役員」は「差別的な発言や落書きなどをする事」、「自営業・自由業」「民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)」「家事専業」「無職」「その他」は「道路の段差や乗り物、建物の設備などにおいて、障がいのある人が暮らしやすいまちづくりが進んでいないこと」、「学生」は「意見や行動を尊重されなかったり、無視されたりすること」がもっとも高くなっています。

■ 学習経験別

「働ける場所や雇用に取り組んでいる企業が少なく」とは 7.9 ポイント、「意見や行動を尊重されなかったり、無視されたりすること」は 5.1 ポイント、「差別的な発言や落書きなどをする事」は 4.7 ポイント、「あり」が「なし」を上回り、「近隣や地域の人とのふれあいや理解を深める機会が少なく、孤立していること」は 7.2 ポイント、「じろじろ見たり、避けたりすること」は 5.1 ポイント、「なし」が「あり」を上回っています。

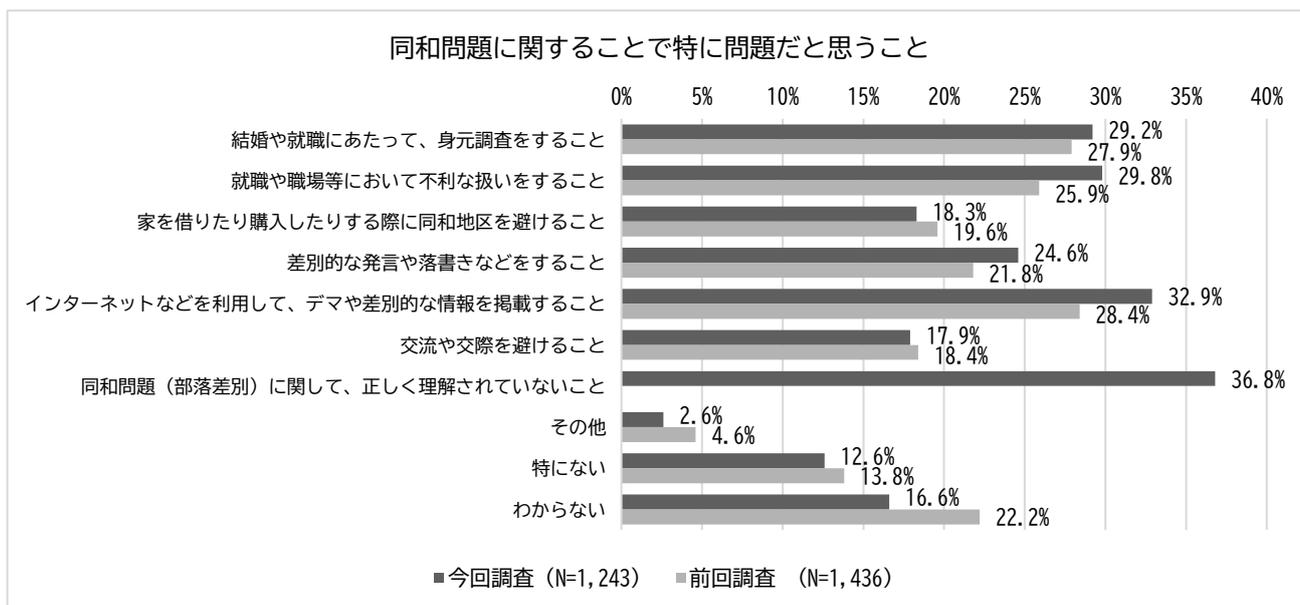
		じろじろ見たり、避けたりすること	意見や行動を尊重されなかったり、無視されたりすること	家族が必要な支援をしなかったり、暴力、暴言などの虐待をしたりすること	賃貸住宅への入居を拒むこと	道路の段差や乗り物、建物の設備などにおいて、障がいのある人が暮らしやすいまちづくりが進んでいないこと	働ける場所や雇用に取り組んでいる企業が少なく	暴力、暴言などの虐待をしたりすること	サービス事業所や福祉施設・病院において、職員等の対応が不十分であったり、暴力、暴言などの虐待をしたりすること	地域の学校に通えない場合があること	近隣や地域の人とのふれあいや理解を深める機会が少なく、孤立していること	差別的な発言や落書きなどをする事	聴覚や視覚に障がいのある人などへ必要な情報を伝える配慮が足りないこと	その他	特になし	わからない
性別	全体(N=1,243)	28.3%	26.1%	29.0%	20.8%	44.8%	40.4%	32.2%	20.1%	21.7%	26.0%	30.7%	2.9%	30.7%	2.9%	
	男性(N=533)	27.8%	24.4%	27.2%	22.3%	41.8%	38.8%	32.6%	20.6%	22.5%	26.1%	30.2%	2.6%	30.2%	2.6%	
	女性(N=687)	29.0%	27.4%	30.7%	19.7%	47.2%	41.8%	32.2%	19.9%	21.3%	26.1%	31.4%	3.1%	31.4%	3.1%	
年齢別	19歳以下(N=38)	47.4%	52.6%	42.1%	18.4%	28.9%	34.2%	44.7%	26.3%	23.7%	36.8%	34.2%	5.3%	34.2%	5.3%	
	20~29歳(N=81)	35.8%	29.6%	32.1%	21.0%	35.8%	35.8%	32.1%	19.8%	22.2%	44.4%	27.2%	1.2%	27.2%	1.2%	
	30~39歳(N=93)	28.0%	33.3%	28.0%	18.3%	37.6%	46.2%	37.6%	21.5%	20.4%	34.4%	29.0%	4.3%	29.0%	4.3%	
	40~49歳(N=172)	26.2%	28.5%	39.0%	22.7%	43.6%	40.7%	33.7%	25.6%	25.6%	35.5%	31.4%	3.5%	31.4%	3.5%	
	50~59歳(N=230)	27.8%	25.7%	28.7%	23.0%	47.4%	45.2%	35.7%	23.0%	17.4%	29.1%	37.8%	3.9%	37.8%	3.9%	
	60~69歳(N=224)	26.3%	21.4%	26.3%	16.1%	46.4%	42.9%	30.4%	20.1%	20.1%	17.4%	32.1%	2.2%	32.1%	2.2%	
	70~79歳(N=232)	29.7%	26.7%	25.9%	20.7%	47.0%	41.4%	28.0%	17.2%	22.4%	19.8%	25.9%	1.3%	25.9%	1.3%	
	80歳以上(N=163)	24.5%	17.8%	23.3%	25.2%	49.7%	29.4%	28.2%	12.9%	25.8%	15.3%	27.6%	3.7%	27.6%	3.7%	
職業別	公務員・教職員(N=43)	30.2%	30.2%	39.5%	20.9%	41.9%	53.5%	39.5%	16.3%	27.9%	44.2%	44.2%	4.7%	44.2%	4.7%	
	自営業・自由業(N=91)	27.5%	24.2%	33.0%	19.8%	46.2%	41.8%	41.8%	24.2%	22.0%	28.6%	28.6%	1.1%	28.6%	1.1%	
	民間企業・団体の経営者、役員(N=28)	32.1%	21.4%	35.7%	17.9%	35.7%	21.4%	25.0%	21.4%	14.3%	39.3%	35.7%	0.0%	35.7%	0.0%	
	民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)(N=313)	27.8%	29.1%	31.0%	25.9%	44.1%	42.8%	32.6%	24.9%	23.0%	30.0%	34.5%	2.9%	34.5%	2.9%	
	臨時雇用、パート、アルバイト(N=203)	29.1%	26.1%	30.5%	18.2%	41.4%	46.3%	35.0%	21.7%	19.7%	25.1%	29.6%	3.4%	29.6%	3.4%	
	学生(N=47)	44.7%	51.1%	38.3%	19.1%	36.2%	36.2%	40.4%	25.5%	25.5%	40.4%	34.0%	4.3%	34.0%	4.3%	
	家事専業(N=173)	27.7%	27.7%	27.7%	19.1%	50.3%	42.2%	31.8%	14.5%	19.7%	24.9%	24.3%	4.0%	24.3%	4.0%	
	無職(N=308)	25.3%	18.2%	21.8%	19.2%	46.1%	33.8%	25.3%	15.6%	21.8%	15.6%	28.2%	2.3%	28.2%	2.3%	
	その他(N=29)	34.5%	31.0%	31.0%	24.1%	51.7%	34.5%	37.9%	24.1%	27.6%	31.0%	41.4%	3.4%	41.4%	3.4%	
	学習経験別	あり(N=1,073)	27.9%	27.1%	29.3%	20.7%	44.9%	41.8%	32.3%	20.0%	21.2%	26.7%	31.4%	3.1%	31.4%	3.1%
なし(N=109)	33.0%	22.0%	26.6%	24.8%	45.0%	33.9%	31.2%	22.9%	28.4%	22.0%	28.4%	1.8%	28.4%	1.8%		

問6 同和問題(部落差別)に関することで、あなたが特に問題だと思うのはどのようなことですか  
(いくつでも選択できます)。

■ 全体

「同和問題(部落差別)に関して、正しく理解されていないこと」が 36.8%でもっとも高く、次いで「インターネットなどを利用して、デマや差別的な情報を掲載すること」が 32.9%、「就職や職場等において不利な扱いをすること」が 29.8%、「結婚や就職にあたって、身元調査をすること」が 29.2%となっています。

前回調査との比較では「インターネットなどを利用して、デマや差別的な情報を掲載すること」が 4.5 ポイント、「就職や職場等において不利な扱いをすること」が 3.9 ポイント増加し、「わからない」が 5.6 ポイント減少しています。



■ 性別

大きな差はみられません。

■ 年齢別

「19歳以下」は「結婚や就職にあたって、身元調査をすること」、「20～29歳」は「就職や職場等において不利な扱いをすること」、「40～49歳」「50～59歳」は「インターネットなどを利用して、デマや差別的な情報を掲載すること」、「30～39歳」及び「60歳以上」は「同和問題(部落差別)に関して、正しく理解されていないこと」がもっとも多くなっています。

■ 職業別

「公務員・教職員」「民間企業・団体の経営者、役員」「その他」は「インターネットなどを利用して、デマや差別的な情報を掲載すること」「同和問題(部落差別)に関して、正しく理解されていないこと」、「自営業・自由業」は「インターネットなどを利用して、デマや差別的な情報を掲載すること」、「民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)」「臨時雇用、パート、アルバイト」「家事専業」「無職」は「同和問題(部落差別)に関して、正しく理解されていないこと」、「学生」は「就職や職場等において不利な扱いをすること」がもっとも高くなっています。

■ 学習経験別

「結婚や就職にあたって、身元調査をすること」は 10.4 ポイント、「インターネットなどを利用して、デマや差別的な情報を掲載すること」は 8.3 ポイント、「就職や職場等において不利な扱いをすること」は 5.9 ポイント、「あり」が「なし」を上回っています。

また、「わからない」は 12.9 ポイント、「なし」が「あり」を上回っています。

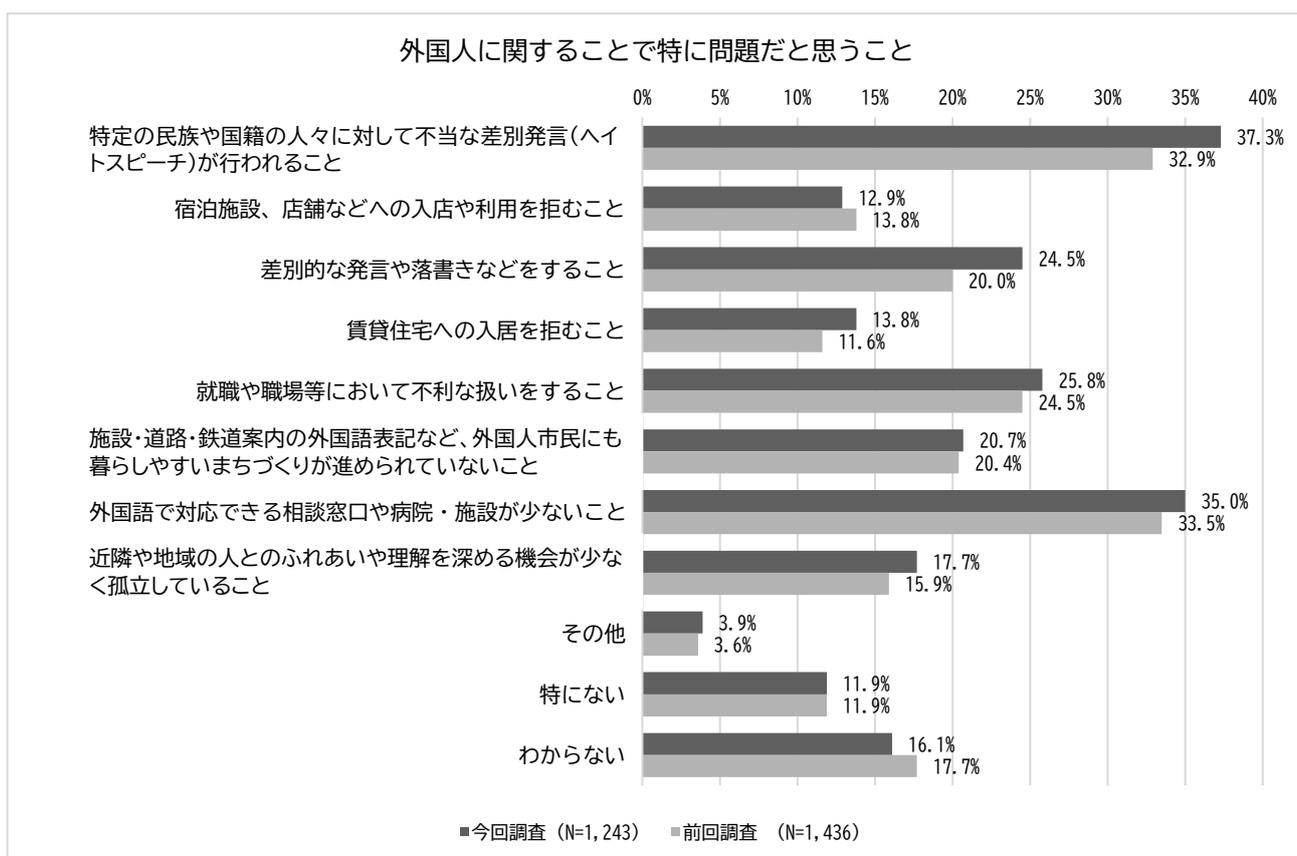
		結婚や就職にあたって、身元調査をすること	就職や職場等において不利な扱いをすること	家を借りたり購入したりする際に同和地区を避けること	差別的な発言や落書きなどをすること	インターネットなどを利用して、デマや差別的な情報を掲載すること	交流や交際を避けること	同和問題（部落差別）に関して、正しく理解されていないこと	その他	特になし	わからない
性別	全体(N=1,243)	29.2%	29.8%	18.3%	24.6%	32.9%	17.9%	36.8%	2.6%	12.6%	16.6%
	男性(N=533)	27.0%	29.5%	16.9%	25.3%	34.5%	17.1%	35.5%	3.2%	16.1%	14.8%
	女性(N=687)	30.9%	30.3%	19.5%	24.2%	31.9%	18.5%	38.4%	2.2%	9.6%	17.9%
年齢別	19歳以下(N=38)	44.7%	42.1%	15.8%	31.6%	42.1%	26.3%	36.8%	5.3%	0.0%	15.8%
	20～29歳(N=81)	33.3%	40.7%	19.8%	25.9%	35.8%	24.7%	35.8%	1.2%	8.6%	18.5%
	30～39歳(N=93)	32.3%	28.0%	12.9%	29.0%	36.6%	14.0%	37.6%	2.2%	6.5%	23.7%
	40～49歳(N=172)	27.3%	34.9%	17.4%	32.0%	39.0%	20.9%	36.6%	2.9%	13.4%	16.3%
	50～59歳(N=230)	29.6%	33.9%	18.3%	30.0%	37.0%	18.7%	36.5%	1.7%	15.7%	11.3%
	60～69歳(N=224)	27.7%	23.2%	17.9%	15.6%	27.7%	13.8%	32.6%	3.6%	12.5%	17.9%
	70～79歳(N=232)	26.7%	25.9%	18.1%	21.6%	29.7%	15.9%	43.5%	2.6%	12.1%	17.2%
	80歳以上(N=163)	28.8%	27.0%	22.7%	21.5%	27.6%	19.0%	34.4%	1.8%	16.6%	16.6%
職業別	公務員・教職員(N=43)	25.6%	37.2%	23.3%	48.8%	51.2%	32.6%	51.2%	2.3%	7.0%	4.7%
	自営業・自由業(N=91)	23.1%	23.1%	17.6%	23.1%	35.2%	16.5%	31.9%	2.2%	7.7%	20.9%
	民間企業・団体の経営者、役員(N=28)	14.3%	17.9%	17.9%	25.0%	35.7%	21.4%	35.7%	3.6%	21.4%	10.7%
	民間企業・団体の従業者（会社員、団体職員）(N=313)	28.4%	33.5%	18.5%	27.8%	34.2%	16.9%	36.7%	3.5%	14.7%	12.1%
	臨時雇用、パート、アルバイト(N=203)	31.5%	31.0%	14.8%	21.2%	31.5%	15.3%	37.4%	3.9%	10.8%	17.2%
	学生(N=47)	42.6%	46.8%	19.1%	34.0%	38.3%	29.8%	36.2%	4.3%	4.3%	12.8%
	家事専業(N=173)	27.7%	28.3%	20.8%	21.4%	30.6%	16.2%	38.2%	0.6%	11.0%	20.8%
	無職(N=308)	28.9%	24.4%	16.2%	20.5%	27.6%	16.9%	33.8%	1.6%	15.3%	20.1%
その他(N=29)	48.3%	44.8%	37.9%	31.0%	55.2%	27.6%	55.2%	0.0%	10.3%	13.8%	
学習経験別	あり(N=1,073)	30.6%	30.7%	18.6%	25.3%	34.0%	18.5%	37.6%	2.7%	12.3%	14.6%
	なし(N=109)	20.2%	24.8%	15.6%	21.1%	25.7%	14.7%	33.9%	1.8%	14.7%	27.5%

問7 外国人に関することで、あなたが特に問題だと思うのはどのようなことですか  
(いくつでも選択できます)。

■ 全体

「特定の民族や国籍の人々に対して不当な差別的言動(ヘイトスピーチ)が行われること」が 37.3%でもっとも高く、次いで「外国語で対応できる相談窓口や病院・施設が少ないこと」が35.0%、「就職や職場等において不利な扱いをすること」が 25.8%となっています。

前回調査との比較では「差別的な発言や落書きなどをすること」が 4.5 ポイント、「特定の民族や国籍の人々に対して不当な差別的言動(ヘイトスピーチ)が行われること」が 4.4 ポイント増加しています。



■ 性別

「施設・道路・鉄道案内の外国語表記など、外国人市民にも暮らしやすいまちづくりが進められていないこと」が 5.4 ポイント、「外国語で対応できる相談窓口や病院・施設が少ないこと」が 4.7 ポイント、「賃貸住宅への入居を拒むこと」が 4.2 ポイント、「わからない」が 3.4 ポイント、「女性」が「男性」を上回っています。

■ 年齢別

「19歳以下」は「特定の民族や国籍の人々に対して不当な差別的言動(ヘイトスピーチ)が行われること」「就職や職場等において不利な扱いをすること」、「20～29歳」及び「40歳以上」は「特定の民族や国籍の人々に対して不当な差別的言動(ヘイトスピーチ)が行われること」、「30～39歳」は「外国語で対応できる相談窓口や病院・施設が少ないこと」がもっとも高くなっています。

■ 職業別

「民間企業・団体の従業者」は「外国語で対応できる相談窓口や病院・施設が少ないこと」、「民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)」以外は「特定の民族や国籍の人々に対して不当な差別的言動(ヘイトスピーチ)が行われること」がもっとも高くなっています。

■ 学習経験別

「特定の民族や国籍の人々に対して不当な差別的言動(ヘイトスピーチ)が行われること」が 14.6 ポイント、「外国語で対応できる相談窓口や病院・施設が少ないこと」が 9.0 ポイント、「差別的な発言や落書きなどをすること」が 8.6 ポイント、「あり」が「なし」を上回っています。

また、「わからない」は 15.1 ポイント、「なし」が「あり」を上回っています。

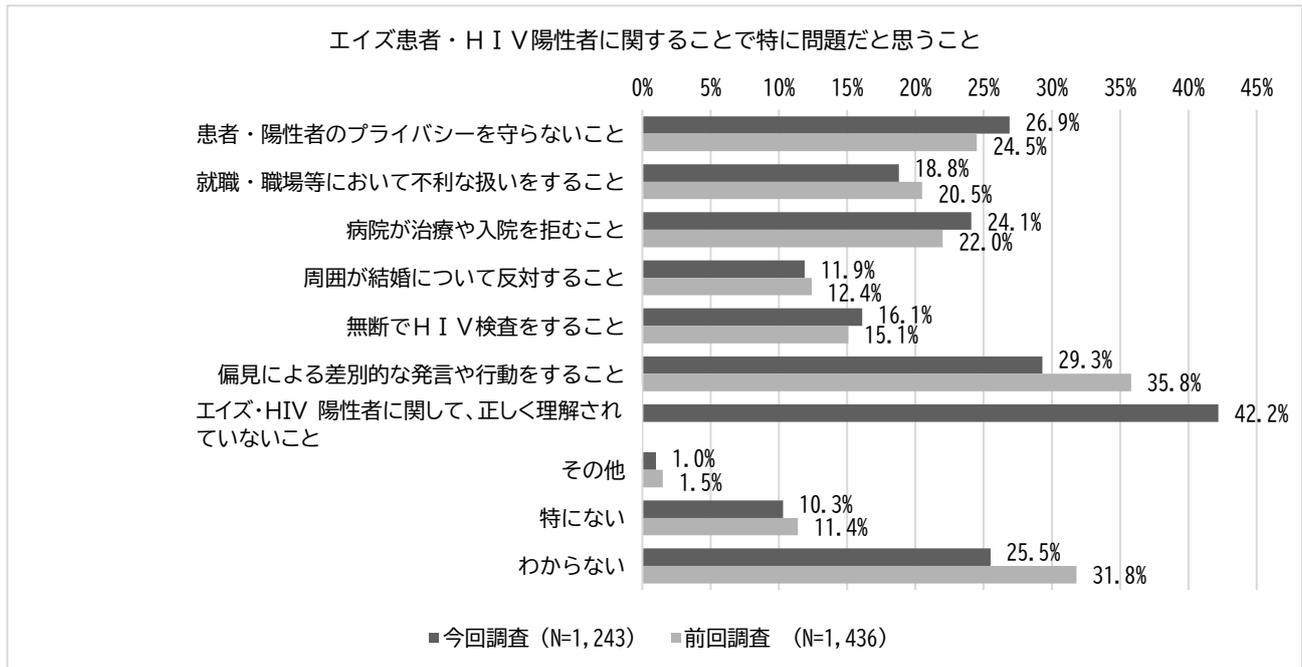
		特定の民族や国籍の人々に対して不当な差別的言動(ヘイトスピーチ)が行われること	宿泊施設、店舗などへの入店や利用を拒むこと	差別的な発言や落書きなどをすること	賃貸住宅への入居を拒むこと	就職や職場等において不利な扱いをすること	暮らしやすいまちづくりが進められていないこと	施設・道路・鉄道案内の外国語表記など、外国人市民にも暮らしやすいまちづくりが進められていないこと	外国語で対応できる相談窓口や病院・施設が少ないこと	近隣や地域の人とのふれあいや理解を深める機会が少なく孤立していること	その他	特になし	わからない
	全体(N=1,243)	37.3%	12.9%	24.5%	13.8%	25.8%	20.7%	35.0%	17.7%	3.9%	11.9%	16.1%	
性別	男性(N=533)	36.4%	12.0%	24.0%	11.4%	25.1%	17.6%	32.6%	18.6%	4.7%	14.8%	14.1%	
	女性(N=687)	38.4%	13.4%	24.9%	15.6%	26.6%	23.0%	37.3%	17.2%	3.3%	9.6%	17.5%	
年齢別	19歳以下(N=38)	39.5%	21.1%	36.8%	15.8%	39.5%	13.2%	34.2%	15.8%	2.6%	5.3%	15.8%	
	20～29歳(N=81)	38.3%	17.3%	37.0%	22.2%	32.1%	27.2%	30.9%	23.5%	6.2%	13.6%	9.9%	
	30～39歳(N=93)	35.5%	11.8%	31.2%	12.9%	31.2%	18.3%	39.8%	15.1%	6.5%	10.8%	11.8%	
	40～49歳(N=172)	43.0%	14.0%	28.5%	14.0%	23.8%	19.8%	36.6%	16.3%	2.3%	11.0%	16.9%	
	50～59歳(N=230)	38.7%	14.3%	28.3%	13.5%	26.5%	19.1%	37.0%	20.0%	5.7%	13.9%	12.2%	
	60～69歳(N=224)	41.5%	7.1%	16.5%	9.8%	24.6%	20.5%	40.2%	19.2%	4.0%	11.6%	14.7%	
	70～79歳(N=232)	35.8%	11.6%	22.0%	12.9%	22.8%	24.1%	34.1%	14.7%	2.6%	11.2%	19.8%	
	80歳以上(N=163)	27.0%	15.3%	17.2%	16.6%	24.5%	19.0%	25.2%	17.8%	2.5%	12.9%	22.7%	
職業別	公務員・教職員(N=43)	55.8%	14.0%	39.5%	11.6%	27.9%	14.0%	41.9%	18.6%	2.3%	4.7%	11.6%	
	自営業・自由業(N=91)	42.9%	14.3%	30.8%	11.0%	23.1%	16.5%	30.8%	13.2%	3.3%	8.8%	18.7%	
	民間企業・団体の経営者、役員(N=28)	53.6%	14.3%	25.0%	14.3%	25.0%	21.4%	21.4%	25.0%	3.6%	10.7%	14.3%	
	民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)(N=313)	36.4%	13.1%	26.5%	13.4%	28.8%	22.7%	41.2%	21.4%	5.4%	15.3%	8.6%	
	臨時雇用、パート、アルバイト(N=203)	35.5%	12.8%	23.6%	14.3%	26.6%	20.7%	35.0%	19.2%	3.9%	13.3%	18.7%	
	学生(N=47)	46.8%	25.5%	38.3%	23.4%	44.7%	23.4%	40.4%	19.1%	4.3%	4.3%	10.6%	
	家事専業(N=173)	39.3%	11.6%	22.5%	13.3%	26.0%	23.7%	35.8%	13.3%	4.6%	8.7%	16.8%	
	無職(N=308)	32.1%	10.4%	17.9%	13.6%	20.5%	17.9%	29.9%	14.9%	2.3%	12.3%	22.1%	
その他(N=29)	31.0%	13.8%	27.6%	17.2%	24.1%	27.6%	27.6%	27.6%	3.4%	13.8%	17.2%		
学習経験別	あり(N=1,073)	39.4%	13.0%	26.0%	13.8%	26.9%	21.1%	36.5%	18.8%	4.1%	11.3%	14.3%	
	なし(N=109)	24.8%	15.6%	17.4%	16.5%	21.1%	22.0%	27.5%	11.0%	2.8%	13.8%	29.4%	

問8 エイズ患者・HIV陽性者に関することで、あなたが特に問題だと思うのはどのようなことですか  
(いくつでも選択できます)。

■ 全体

「エイズ・HIV陽性者に関して、正しく理解されていないこと」が 42.2%でもっとも高く、次いで「偏見による差別的な発言や行動をすること」が 29.3%、「患者・陽性者のプライバシーを守らないこと」が 26.9%となっています。

前回調査との比較では「偏見による差別的な発言や行動をすること」が6.5ポイント、「わからない」が6.3ポイント減少しています。



■ 性別

「エイズ・HIV陽性者に関して、正しく理解されていないこと」が 7.6ポイント、「患者・陽性者のプライバシーを守らないこと」が 4.0ポイント、「周囲が結婚について反対すること」が 3.7ポイント、「女性」が「男性」を上回っています。

■ 年齢別

「19歳以下」は「偏見による差別的な発言や行動をすること」「エイズ・HIV陽性者に関して、正しく理解されていないこと」、「20～79歳」は「エイズ・HIV陽性者に関して、正しく理解されていないこと」、「80歳以上」は「わからない」がもっとも高くなっています。

■ 職業別

「無職」以外は「エイズ・HIV陽性者に関して、正しく理解されていないこと」、「無職」は「わからない」がもっとも多くなっています。

■ 学習経験別

「患者・陽性者のプライバシーを守らないこと」が11.7ポイント、「偏見による差別的な発言や行動をすること」

が10.6ポイント、「あり」が「なし」を上回り、「わからない」は「なし」が「あり」を15.9ポイント上回っています。

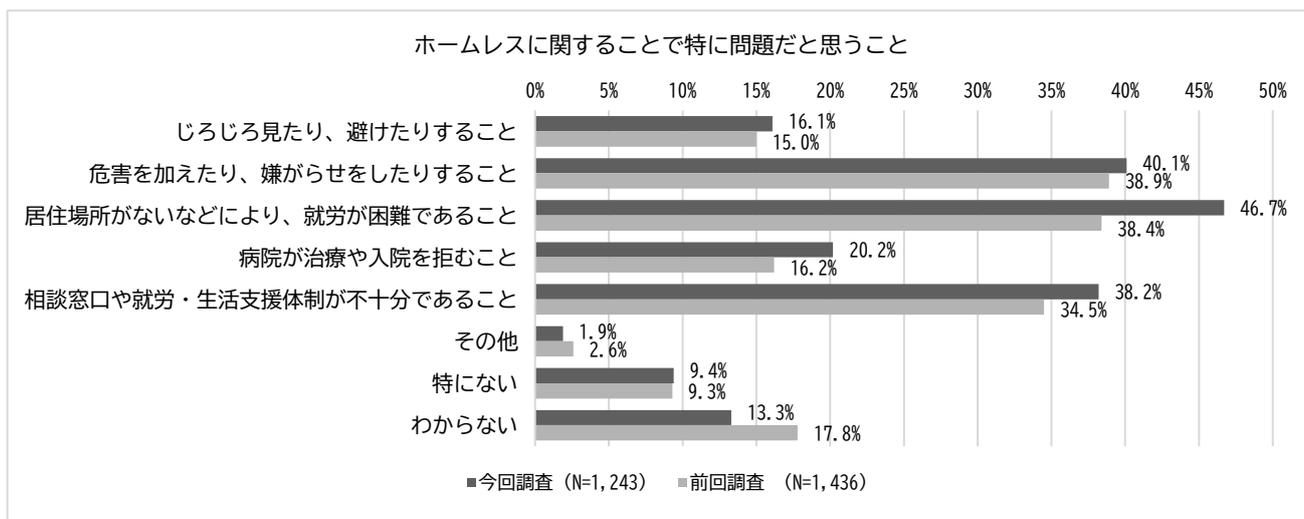
		患者・陽性者のプライバシーを守らないこと	就職・職場等において不利な扱いをすること	病院が治療や入院を拒むこと	周囲が結婚について反対すること	無断でHIV検査をすること	偏見による差別的な発言や行動をすること	エイズ・HIV陽性者に関して、正しく理解されていないこと	その他	特になし	わからない
性別	全体(N=1,243)	26.9%	18.8%	24.1%	11.9%	16.1%	29.3%	42.2%	1.0%	10.3%	25.5%
	男性(N=533)	24.8%	17.6%	23.6%	9.8%	15.2%	28.9%	38.3%	1.1%	13.5%	25.7%
	女性(N=687)	28.8%	19.9%	24.7%	13.5%	17.0%	29.8%	45.9%	0.9%	7.7%	25.2%
年齢別	19歳以下(N=38)	34.2%	23.7%	31.6%	23.7%	13.2%	36.8%	36.8%	2.6%	2.6%	21.1%
	20～29歳(N=81)	28.4%	23.5%	28.4%	16.0%	12.3%	32.1%	42.0%	0.0%	9.9%	25.9%
	30～39歳(N=93)	35.5%	21.5%	26.9%	14.0%	16.1%	34.4%	49.5%	0.0%	5.4%	22.6%
	40～49歳(N=172)	29.1%	23.8%	23.8%	12.8%	21.5%	37.8%	43.6%	1.2%	12.2%	19.8%
	50～59歳(N=230)	34.8%	21.3%	28.3%	13.5%	20.4%	37.0%	46.1%	1.7%	13.0%	18.3%
	60～69歳(N=224)	23.2%	12.9%	18.8%	8.0%	11.6%	23.7%	45.5%	0.4%	7.1%	28.1%
	70～79歳(N=232)	19.0%	17.2%	21.1%	8.6%	15.5%	22.8%	40.9%	1.3%	10.8%	30.6%
	80歳以上(N=163)	22.1%	15.3%	24.5%	12.3%	14.1%	20.9%	30.7%	0.6%	13.5%	33.1%
職業別	公務員・教職員(N=43)	41.9%	23.3%	25.6%	14.0%	20.9%	48.8%	51.2%	2.3%	7.0%	14.0%
	自営業・自由業(N=91)	28.6%	18.7%	24.2%	12.1%	17.6%	27.5%	46.2%	1.1%	7.7%	19.8%
	民間企業・団体の経営者、役員(N=28)	21.4%	17.9%	21.4%	7.1%	21.4%	21.4%	35.7%	3.6%	10.7%	28.6%
	民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)(N=313)	32.3%	19.8%	27.5%	11.8%	17.9%	33.9%	46.3%	1.3%	12.1%	18.5%
	臨時雇用、パート、アルバイト(N=203)	28.1%	20.7%	23.2%	13.3%	18.7%	33.0%	47.8%	0.0%	9.9%	22.7%
	学生(N=47)	29.8%	23.4%	34.0%	25.5%	17.0%	38.3%	42.6%	2.1%	4.3%	19.1%
	家事専業(N=173)	26.0%	22.0%	23.7%	12.1%	17.9%	25.4%	42.2%	1.7%	9.2%	30.1%
	無職(N=308)	18.8%	14.3%	19.5%	8.1%	9.4%	21.8%	32.8%	0.3%	11.7%	35.7%
	その他(N=29)	20.7%	10.3%	27.6%	17.2%	20.7%	27.6%	41.4%	0.0%	10.3%	27.6%
学習経験別	あり(N=1,073)	28.2%	19.9%	24.6%	12.6%	16.5%	30.8%	44.2%	1.1%	10.2%	23.5%
	なし(N=109)	16.5%	13.8%	22.9%	9.2%	13.8%	20.2%	33.9%	0.0%	10.1%	39.4%

問9 ホームレスに関することで、あなたが特に問題だと思うのはどのようなことですか  
(いくつでも選択できます)。

■ 全体

「居住場所がないなどにより、就労が困難であること」が 46.7%でもっとも高く、次いで「危害を加えたり、嫌がらせをしたりすること」が40.1%、「相談窓口や就労・生活支援体制が不十分であること」が38.2%となっています。

前回調査との比較では、「居住場所がないなどにより、就労が困難であること」が 8.3 ポイント、「病院が治療や入院を拒むこと」が4.0 ポイント、「相談窓口や就労・生活支援体制が不十分であること」が3.7 ポイント増加しています。



■ 性別

「居住場所がないなどにより、就労が困難であること」が 8.5 ポイント、「相談窓口や就労・生活支援体制が不十分であること」が 6.1 ポイント、「女性」が「男性」を上回っています。

■ 年齢別

「19歳以下」及び「60～69歳」は「危害を加えたり、嫌がらせをしたりすること」、「20～59歳」及び「70歳以上」は「居住場所がないなどにより、就労が困難であること」がもっとも高くなっています。

■ 職業別

「公務員・教職員」「自営業・自由業」「民間企業・団体の経営者、役員」は「危害を加えたり、嫌がらせをしたりすること」、「民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)」「臨時雇用、パート、アルバイト」「学生」「家事専業」「無職」は「居住場所がないなどにより、就労が困難であること」、「その他」は「相談窓口や就労・生活支援体制が不十分であること」がもっとも高くなっています。

■ 学習経験別

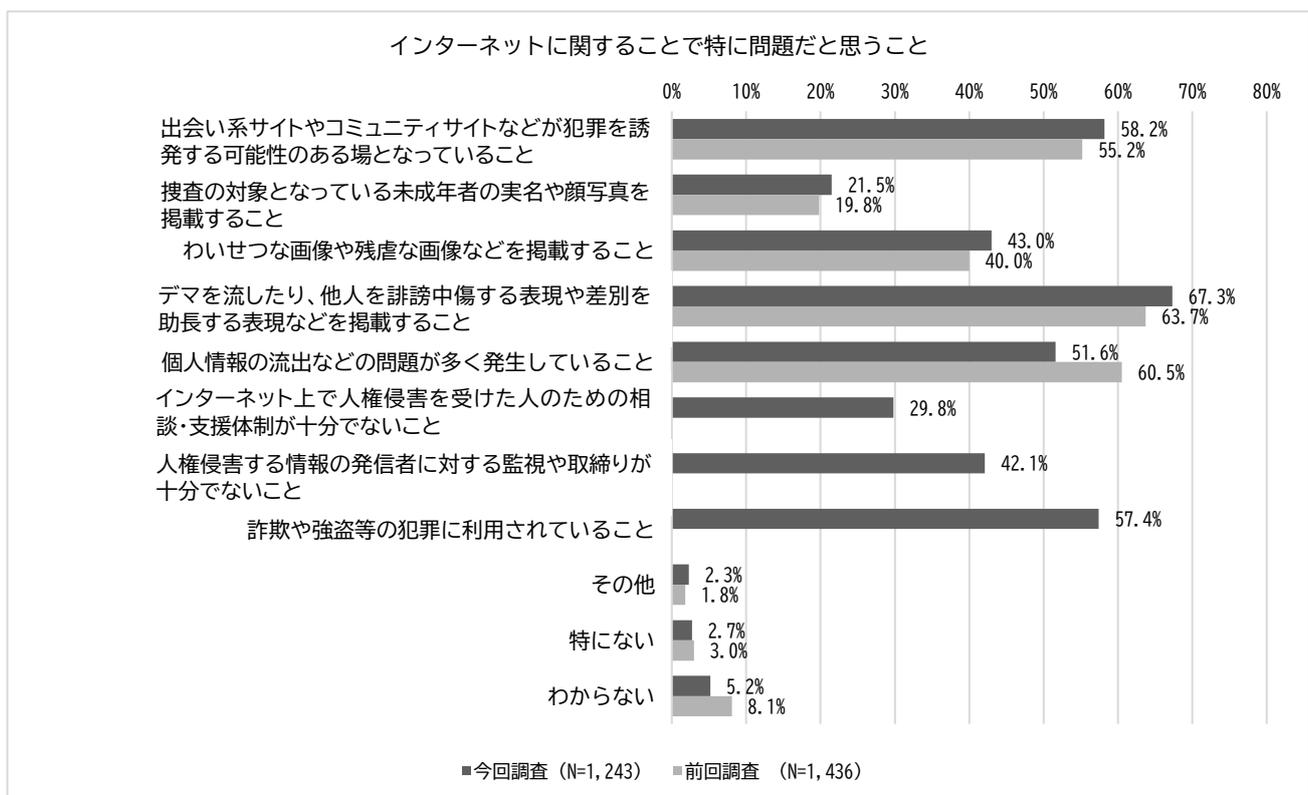
「居住場所がないなどにより、就労が困難であること」は 10.2 ポイント、「危害を加えたり、嫌がらせをしたりすること」は 9.5 ポイント、「あり」が「なし」を上回り、「わからない」は「なし」が「あり」を 11.7 ポイント上回っています。

		けろろ見たり、避 けたりすること	危害を加えたり、嫌 がらせをしたりする こと	居住場所がないなど により、就労が困難 であること	病院が治療や入院を 拒むこと	相談窓口や就労・生 活支援体制が不十分 であること	その他	特 に な い	わ か ら な い
	全体(N=1,243)	16.1%	40.1%	46.7%	20.2%	38.2%	1.9%	9.4%	13.3%
性別	男性(N=533)	14.6%	38.1%	42.6%	18.9%	34.9%	2.4%	13.1%	12.4%
	女性(N=687)	17.2%	41.9%	51.1%	21.4%	41.0%	1.5%	6.4%	14.0%
年齢別	19歳以下(N=38)	28.9%	42.1%	39.5%	23.7%	39.5%	5.3%	5.3%	10.5%
	20～29歳(N=81)	23.5%	42.0%	48.1%	24.7%	37.0%	3.7%	13.6%	11.1%
	30～39歳(N=93)	19.4%	35.5%	51.6%	23.7%	39.8%	1.1%	9.7%	10.8%
	40～49歳(N=172)	13.4%	44.8%	48.8%	19.2%	39.5%	1.7%	8.1%	10.5%
	50～59歳(N=230)	10.0%	44.8%	50.0%	24.8%	38.7%	1.3%	11.3%	11.7%
	60～69歳(N=224)	13.8%	44.2%	43.3%	14.3%	32.6%	1.3%	10.3%	13.4%
	70～79歳(N=232)	17.7%	35.8%	47.0%	18.1%	39.7%	2.6%	8.6%	15.9%
	80歳以上(N=163)	20.2%	30.1%	44.8%	21.5%	42.3%	1.2%	6.7%	17.2%
職業別	公務員・教職員(N=43)	18.6%	62.8%	44.2%	16.3%	46.5%	4.7%	7.0%	2.3%
	自営業・自由業(N=91)	14.3%	48.4%	45.1%	18.7%	34.1%	3.3%	7.7%	17.6%
	民間企業・団体の経営者、 役員(N=28)	17.9%	35.7%	32.1%	14.3%	21.4%	3.6%	14.3%	17.9%
	民間企業・団体の従業者(会 社員、団体職員)(N=313)	15.3%	41.2%	48.2%	22.0%	38.3%	1.3%	13.7%	7.7%
	臨時雇用、パート、アルバ イト(N=203)	15.3%	42.4%	49.8%	20.7%	36.9%	1.0%	8.9%	15.8%
	学生(N=47)	27.7%	38.3%	48.9%	21.3%	40.4%	4.3%	8.5%	8.5%
	家事専業(N=173)	13.9%	37.6%	52.6%	20.8%	38.7%	1.7%	5.2%	13.9%
	無職(N=308)	15.3%	33.4%	43.5%	17.5%	39.3%	1.9%	7.8%	17.5%
その他(N=29)	34.5%	41.4%	37.9%	37.9%	48.3%	3.4%	13.8%	13.8%	
学習 経験別	あり(N=1,073)	16.4%	41.6%	48.7%	20.7%	39.2%	1.8%	9.6%	11.2%
	なし(N=109)	17.4%	32.1%	38.5%	19.3%	36.7%	3.7%	7.3%	22.9%

問 10 インターネットに関することで、あなたが特に問題だと思うのはどのようなことですか  
(いくつでも選択できます)。

■ 全体

「デマを流したり、他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現などを掲載すること」が 67.3%でもっとも高く、次いで「出会い系サイトやコミュニティサイトなどが犯罪を誘発する可能性のある場となっていること」が 58.2%、「詐欺や強盗等の犯罪に利用されていること」が 57.4%となっています。  
前回調査との比較では「デマを流したり、他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現などを掲載すること」が 3.6 ポイント、「わいせつな画像や残虐な画像などを掲載すること」「出会い系サイトやコミュニティサイトなどが犯罪を誘発する可能性のある場となっていること」が 3.0 ポイント増加し、「個人情報の流出などの問題が多く発生していること」が 8.9 ポイント減少しています。



■ 性別

「わいせつな画像や残虐な画像などを掲載すること」が 18.1 ポイント、「出会い系サイトやコミュニティサイトなどが犯罪を誘発する可能性のある場となっていること」が 11.1 ポイント、「個人情報の流出などの問題が多く発生していること」が 8.4 ポイント、「女性」が「男性」を上回っています。

■ 年齢別

「19歳以下」は「デマを流したり、他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現などを掲載すること」「個人情報の流出などの問題が多く発生していること」、「20～69歳」は「デマを流したり、他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現などを掲載すること」、「70歳以上」は「出会い系サイトやコミュニティサイトなどが犯罪を誘発する可能性のある場となっていること」がもっとも高くなっています。

■ 職業別

「無職」は「詐欺や強盗等の犯罪に利用されていること」、「その他」は「出会い系サイトやコミュニティサイトなどが犯罪を誘発する可能性のある場となっていること」、それ以外の職業では「デマを流したり、他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現などを掲載すること」がもっとも多くなっています。

■ 学習経験別

「個人情報の流出などの問題が多く発生していること」は 19.2 ポイント、「デマを流したり、他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現などを掲載すること」は 16.1 ポイント、「詐欺や強盗等の犯罪に利用されていること」は 12.3 ポイント、「あり」が「なし」を上回り、「わからない」は 9.1 ポイント、「なし」が「あり」を上回っています。

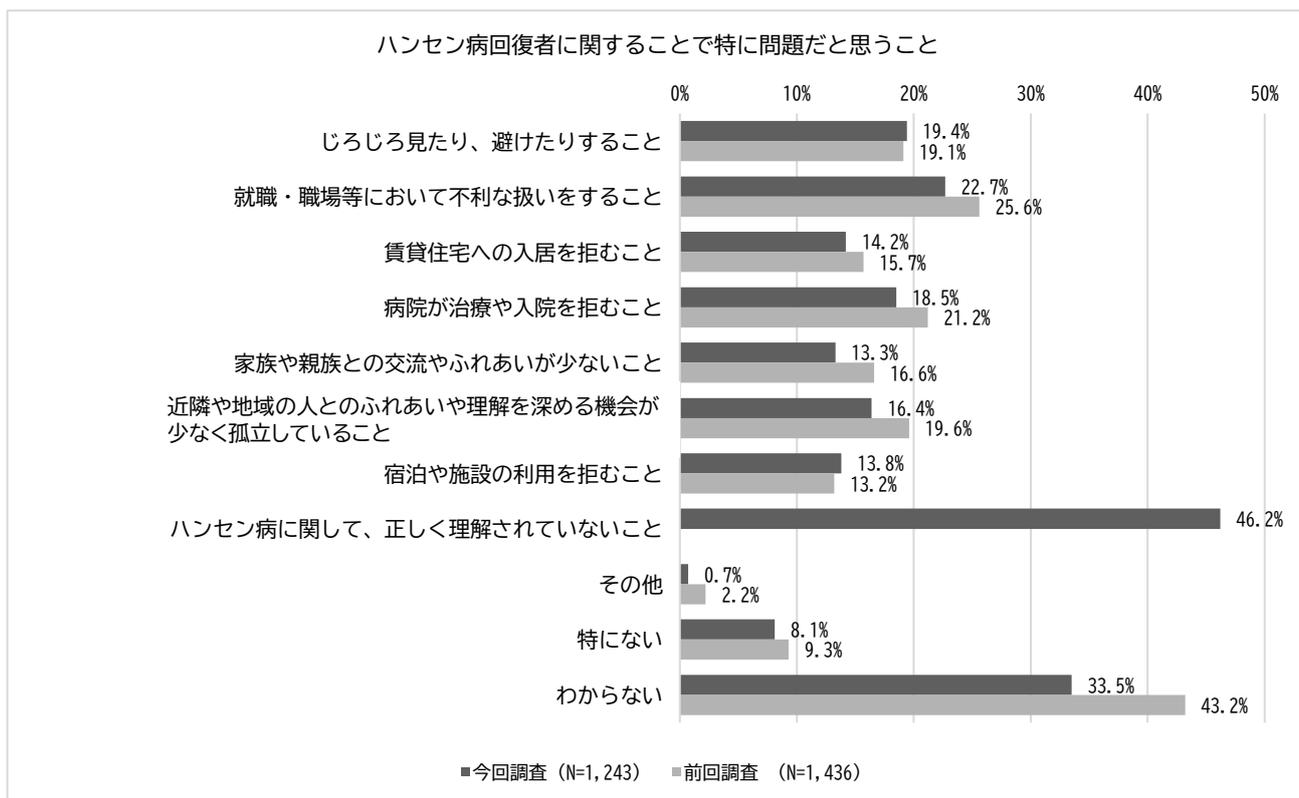
		出会い系サイトやコミュニティサイトなどが犯罪を誘発する可能性のある場となっていること	捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真を掲載すること	わいせつな画像や残虐な画像などを掲載すること	デマを流したり、他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現などを掲載すること	個人情報の流出などの問題が多く発生していること	インターネット上で人権侵害を受けた人との相談・支援体制が十分でないこと	人権侵害する情報の発信者に対する監視や取締りが十分でないこと	詐欺や強盗等の犯罪に利用されていること	その他	特になし	わからない
性別	全体(N=1,243)	58.2%	21.5%	43.0%	67.3%	51.6%	29.8%	42.1%	57.4%	2.3%	2.7%	5.2%
	男性(N=533)	52.5%	18.9%	33.0%	66.2%	47.1%	28.7%	41.1%	58.3%	1.9%	3.4%	5.4%
	女性(N=687)	63.6%	23.7%	51.1%	68.7%	55.5%	30.6%	43.4%	57.6%	2.8%	2.2%	4.8%
年齢別	19歳以下(N=38)	47.4%	28.9%	28.9%	57.9%	57.9%	28.9%	31.6%	42.1%	2.6%	2.6%	2.6%
	20～29歳(N=81)	59.3%	25.9%	43.2%	76.5%	48.1%	30.9%	34.6%	53.1%	1.2%	6.2%	6.2%
	30～39歳(N=93)	66.7%	24.7%	52.7%	77.4%	61.3%	37.6%	45.2%	50.5%	6.5%	1.1%	1.1%
	40～49歳(N=172)	60.5%	26.2%	52.9%	77.9%	61.0%	33.7%	45.3%	62.8%	1.7%	1.7%	1.7%
	50～59歳(N=230)	59.6%	24.3%	43.9%	70.4%	60.0%	37.4%	47.8%	65.7%	1.7%	3.5%	3.0%
	60～69歳(N=224)	59.8%	17.4%	40.2%	74.6%	47.3%	26.8%	45.1%	59.4%	1.8%	1.8%	3.1%
	70～79歳(N=232)	59.5%	18.5%	41.4%	59.1%	49.1%	25.9%	42.7%	57.8%	2.2%	2.2%	8.2%
	80歳以上(N=163)	49.1%	17.2%	35.0%	46.0%	33.7%	20.2%	30.7%	48.5%	3.1%	4.3%	12.9%
職業別	公務員・教職員(N=43)	65.1%	25.6%	62.8%	83.7%	53.5%	39.5%	58.1%	62.8%	4.7%	0.0%	0.0%
	自営業・自由業(N=91)	60.4%	19.8%	40.7%	73.6%	53.8%	37.4%	48.4%	63.7%	2.2%	0.0%	5.5%
	民間企業・団体の経営者、役員(N=28)	53.6%	17.9%	42.9%	64.3%	39.3%	14.3%	35.7%	57.1%	0.0%	0.0%	3.6%
	民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)(N=313)	59.7%	24.6%	41.2%	75.7%	57.5%	32.6%	44.4%	61.3%	2.6%	2.9%	1.3%
	臨時雇用、パート、アルバイト(N=203)	63.1%	24.6%	50.2%	71.9%	56.7%	28.6%	42.9%	57.6%	1.5%	3.4%	3.4%
	学生(N=47)	53.2%	29.8%	34.0%	61.7%	55.3%	31.9%	31.9%	51.1%	2.1%	4.3%	2.1%
	家事専業(N=173)	61.3%	21.4%	48.6%	68.8%	57.8%	29.5%	43.9%	53.8%	2.9%	1.7%	2.3%
	無職(N=308)	51.6%	15.3%	36.4%	52.9%	38.3%	25.3%	35.7%	54.2%	1.6%	3.2%	12.7%
その他(N=29)	62.1%	24.1%	37.9%	55.2%	48.3%	31.0%	48.3%	58.6%	10.3%	10.3%	13.8%	
学習経験別	あり(N=1,073)	59.8%	22.5%	44.5%	70.2%	54.1%	30.8%	43.7%	60.0%	2.4%	2.5%	3.7%
	なし(N=109)	50.5%	18.3%	38.5%	54.1%	34.9%	27.5%	38.5%	47.7%	2.8%	2.8%	12.8%

問 11 ハンセン病回復者に関することで、あなたが特に問題だと思うのはどのようなことですか  
(いくつでも選択できます)。

■ 全体

「ハンセン病に関して、正しく理解されていないこと」が 46.2%でもっとも高く、次いで「わからない」が 33.5%、「就職・職場等において不利な扱いをすること」が 22.7%、「じろじろ見たり、避けたりすること」が 19.4%となっています。

前回調査との比較では「わからない」が 9.7 ポイント、「家族や親族との交流やふれあいが少ないこと」が 3.3 ポイント、「近隣や地域の人とのふれあいや理解を深める機会が少なく孤立していること」が 3.2 ポイント減少しています。



■ 性別

「就職・職場等において不利な扱いをすること」が 7.9 ポイント、「ハンセン病に関して、正しく理解されていないこと」が 6.5 ポイント、「じろじろ見たり、避けたりすること」が 6.4 ポイント、「女性」が「男性」を上回っています。

■ 年齢別

「19歳以下」は「わからない」、「20歳以上」は「ハンセン病に関して、正しく理解されていないこと」がもっとも多くなっています。

■ 職業別

「その他」は「わからない」、「その他」以外の職業は「ハンセン病に関して、正しく理解されていないこと」がもっとも多くなっています。

## ■ 学習経験別

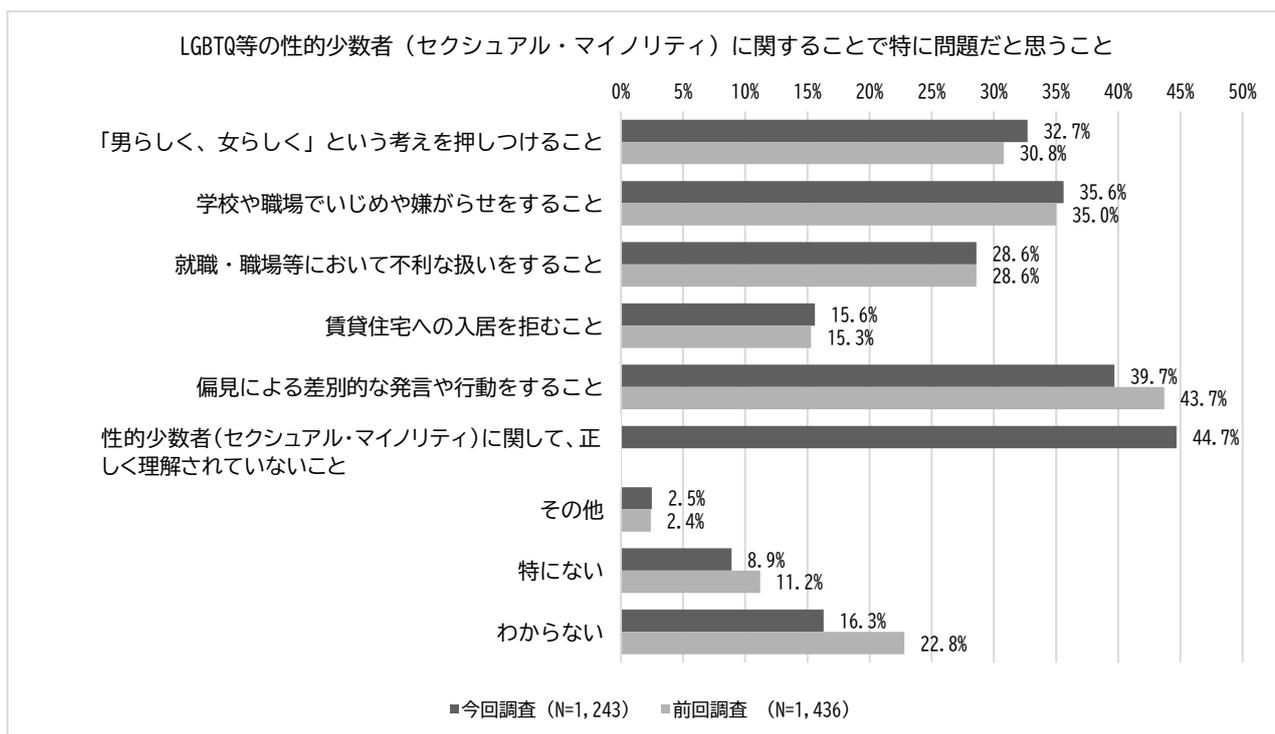
「就職・職場等において不利な扱いをすること」は8.1ポイント、「ハンセン病に関して、正しく理解されていないこと」は4.4ポイント、「じろじろ見たり、避けたりすること」は3.6ポイント、「あり」が「なし」を上回り、「近隣や地域の人とのふれあいや理解を深める機会が少なく孤立していること」は4.0ポイント、「なし」が「あり」を上回っています。

		じろじろ見たり、避けたりすること	就職・職場等において不利な扱いをすること	賃貸住宅への入居を拒むこと	病院が治療や入院を拒むこと	家族や親族との交流やふれあいが少ないこと	近隣や地域の人とのふれあいや理解を深める機会が少なく孤立していること	宿泊や施設の利用を拒むこと	ハンセン病に関して、正しく理解されていないこと	その他	特になし	わからない
	全体(N=1,243)	19.4%	22.7%	14.2%	18.5%	13.3%	16.4%	13.8%	46.2%	0.7%	8.1%	33.5%
性別	男性(N=533)	15.9%	18.4%	13.5%	17.3%	12.0%	16.5%	13.1%	42.8%	0.9%	9.4%	34.5%
	女性(N=687)	22.3%	26.3%	14.7%	19.7%	14.4%	16.6%	14.4%	49.3%	0.6%	7.1%	32.8%
年齢別	19歳以下(N=38)	26.3%	23.7%	13.2%	15.8%	2.6%	18.4%	15.8%	34.2%	0.0%	2.6%	44.7%
	20～29歳(N=81)	22.2%	17.3%	12.3%	18.5%	14.8%	11.1%	11.1%	46.9%	0.0%	7.4%	35.8%
	30～39歳(N=93)	18.3%	22.6%	14.0%	16.1%	8.6%	5.4%	11.8%	47.3%	0.0%	5.4%	36.6%
	40～49歳(N=172)	19.8%	23.8%	16.9%	18.0%	14.5%	15.1%	15.1%	44.2%	0.0%	8.1%	38.4%
	50～59歳(N=230)	19.1%	25.7%	17.8%	22.2%	14.3%	17.8%	17.4%	46.1%	0.4%	9.1%	33.0%
	60～69歳(N=224)	17.0%	16.1%	7.1%	12.5%	8.5%	12.1%	7.1%	48.2%	0.9%	7.6%	33.0%
	70～79歳(N=232)	19.4%	25.0%	13.4%	20.3%	15.9%	21.1%	13.4%	48.3%	1.3%	8.6%	29.3%
80歳以上(N=163)	20.2%	25.8%	17.8%	21.5%	17.2%	23.3%	19.0%	45.4%	1.8%	9.8%	30.1%	
職業別	公務員・教職員(N=43)	25.6%	30.2%	18.6%	27.9%	9.3%	23.3%	23.3%	55.8%	2.3%	4.7%	25.6%
	自営業・自由業(N=91)	19.8%	24.2%	17.6%	22.0%	18.7%	16.5%	13.2%	42.9%	1.1%	7.7%	34.1%
	民間企業・団体の経営者、役員(N=28)	7.1%	14.3%	7.1%	14.3%	7.1%	3.6%	3.6%	46.4%	0.0%	17.9%	28.6%
	民間企業・団体の従業員(会社員、団体職員)(N=313)	19.8%	22.0%	15.3%	18.2%	13.7%	15.3%	14.1%	47.9%	0.3%	10.2%	31.6%
	臨時雇用、パート、アルバイト(N=203)	20.2%	23.6%	13.8%	17.7%	13.8%	17.2%	15.3%	47.8%	0.0%	6.4%	36.5%
	学生(N=47)	27.7%	23.4%	12.8%	14.9%	10.6%	19.1%	14.9%	42.6%	0.0%	4.3%	38.3%
	家事専業(N=173)	20.2%	25.4%	13.3%	20.8%	11.0%	13.9%	13.9%	49.1%	1.2%	4.0%	34.1%
	無職(N=308)	16.2%	20.5%	13.0%	16.2%	12.7%	18.5%	11.7%	43.5%	1.3%	9.4%	33.4%
その他(N=29)	24.1%	20.7%	13.8%	20.7%	20.7%	10.3%	17.2%	31.0%	0.0%	10.3%	37.9%	
学習経験別	あり(N=1,073)	20.1%	23.7%	14.7%	18.8%	13.3%	16.2%	14.0%	47.5%	0.7%	7.6%	32.9%
	なし(N=109)	16.5%	15.6%	11.9%	17.4%	12.8%	20.2%	15.6%	43.1%	1.8%	8.3%	35.8%

問 12 LGBTQ等の性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)に関することで、あなたが特に問題だと思うのはどのようなことですか(いくつでも選択できます)。

■ 全体

「性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)に関して、正しく理解されていないこと」が 44.7%でもっとも高く、次いで「偏見による差別的な発言や行動をすること」が 39.7%、「学校や職場でいじめや嫌がらせをすること」が 35.6%となっています。  
 前回調査との比較では「わからない」が 6.5 ポイント、「偏見による差別的な発言や行動をすること」が 4.0 ポイント減少しています。



■ 性別

「就職・職場等において不利な扱いをすること」が 9.4 ポイント、「男らしく、女らしく」という考えを押しつけることが 8.4 ポイント、「偏見による差別的な発言や行動をすること」が 8.2 ポイント、「学校や職場でいじめや嫌がらせをすること」が 8.1 ポイント、「女性」が「男性」を上回っています。

■ 年齢別

「19歳以下」及び「20～29歳」は『男らしく、女らしく』という考えを押しつけること、「30～79歳」は「性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)に関して、正しく理解されていないこと」、「80歳以上」は「偏見による差別的な発言や行動をすること」がもっとも多くなっています。

■ 職業別

「学生」は『男らしく、女らしく』という考えを押しつけること、「無職」は「偏見による差別的な発言や行動をすること」「性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)に関して、正しく理解されていないこと」、「その他」は「学校

や職場でいじめや嫌がらせをすること」「性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)に関して、正しく理解されていないこと」、それ以外の職業は「性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)に関して、正しく理解されていないこと」がもっとも多くなっています。

## ■ 学習経験別

「性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)に関して、正しく理解されていないこと」が17.1ポイント、「男らしく、女らしく」という考えを押しつけること」が13.6ポイント、「学校や職場でいじめや嫌がらせをすること」が11.0ポイント、「あり」が「なし」を上回り、「わからない」は18.7ポイント、「なし」が「あり」を上回っています。

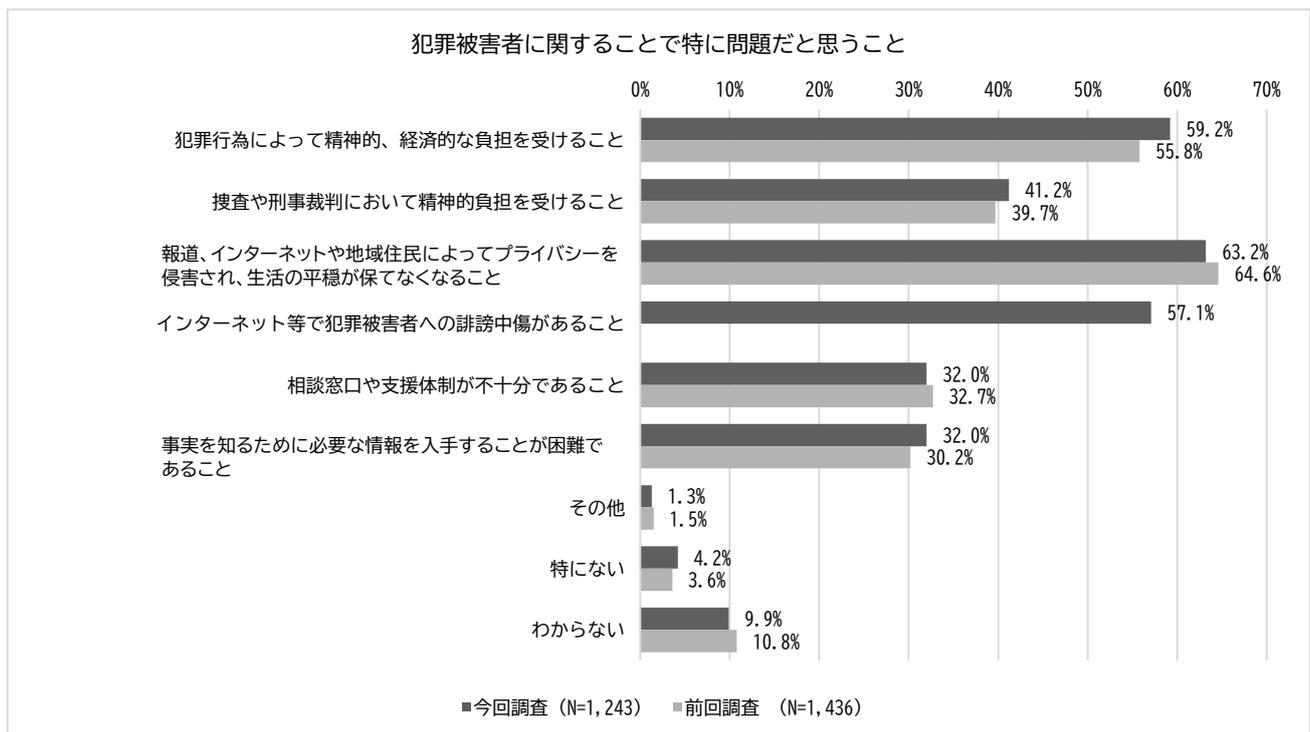
		「男らしく、女らしく」という考えを押しつけること	学校や職場でいじめや嫌がらせをすること	就職・職場等において不利な扱いをすること	賃貸住宅への入居を拒むこと	偏見による差別的な発言や行動をすること	性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)に関して、正しく理解されていないこと	その他	特にない	わからない
	全体(N=1,243)	32.7%	35.6%	28.6%	15.6%	39.7%	44.7%	2.5%	8.9%	16.3%
性別	男性(N=533)	28.0%	31.1%	23.5%	13.9%	35.5%	41.7%	2.6%	11.8%	17.8%
	女性(N=687)	36.4%	39.2%	32.9%	16.9%	43.7%	47.5%	2.3%	6.7%	15.0%
年齢別	19歳以下(N=38)	60.5%	36.8%	23.7%	21.1%	39.5%	52.6%	2.6%	7.9%	7.9%
	20～29歳(N=81)	50.6%	46.9%	33.3%	19.8%	43.2%	39.5%	2.5%	12.3%	8.6%
	30～39歳(N=93)	39.8%	45.2%	35.5%	21.5%	43.0%	47.3%	6.5%	5.4%	12.9%
	40～49歳(N=172)	44.2%	44.2%	32.6%	17.4%	48.3%	49.4%	2.3%	8.1%	7.0%
	50～59歳(N=230)	34.3%	36.5%	29.6%	18.7%	40.9%	50.9%	3.9%	10.4%	13.0%
	60～69歳(N=224)	27.7%	33.0%	26.3%	9.8%	40.6%	49.1%	2.2%	7.1%	13.8%
	70～79歳(N=232)	24.1%	27.2%	26.7%	12.5%	36.2%	41.8%	0.9%	8.2%	24.6%
	80歳以上(N=163)	18.4%	30.1%	23.9%	14.7%	30.7%	29.4%	0.6%	12.3%	28.8%
職業別	公務員・教職員(N=43)	48.8%	48.8%	32.6%	20.9%	55.8%	58.1%	4.7%	4.7%	2.3%
	自営業・自由業(N=91)	31.9%	36.3%	31.9%	18.7%	35.2%	44.0%	2.2%	9.9%	14.3%
	民間企業・団体の経営者、役員(N=28)	35.7%	25.0%	25.0%	14.3%	35.7%	57.1%	0.0%	17.9%	17.9%
	民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)(N=313)	36.7%	39.3%	31.9%	16.9%	44.1%	51.1%	3.5%	9.9%	7.7%
	臨時雇用、パート、アルバイト(N=203)	35.5%	35.0%	27.1%	14.8%	41.4%	46.8%	2.0%	6.9%	17.2%
	学生(N=47)	59.6%	40.4%	27.7%	25.5%	46.8%	48.9%	4.3%	10.6%	6.4%
	家事専業(N=173)	30.1%	38.2%	34.1%	14.5%	38.7%	43.4%	1.7%	5.8%	14.5%
	無職(N=308)	22.7%	28.2%	22.4%	12.7%	34.4%	34.4%	1.6%	10.1%	28.2%
その他(N=29)	24.1%	44.8%	24.1%	10.3%	31.0%	44.8%	3.4%	13.8%	24.1%	
学習経験別	あり(N=1,073)	34.7%	37.6%	29.6%	16.4%	41.5%	47.4%	2.7%	8.9%	13.4%
	なし(N=109)	21.1%	26.6%	21.1%	11.9%	32.1%	30.3%	0.9%	9.2%	32.1%

問 13 犯罪被害者(犯罪によって被害を受けた人および家族など)に関することで、あなたが特に問題だと思うのはどのようなことですか(いくつでも選択できます)。

■ 全体

「報道、インターネットや地域住民によってプライバシーを侵害され、生活の平穏が保てなくなること」が63.2%でもっとも高く、次いで「犯罪行為によって精神的、経済的な負担を受けること」が59.2%、「インターネット等で犯罪被害者への誹謗中傷があること」が57.1%となっています。

前回調査との比較では「犯罪行為によって精神的、経済的な負担を受けること」が 3.4 ポイント増加しています。



■ 性別

「捜査や刑事裁判において精神的負担を受けること」が8.0ポイント、「報道、インターネットや地域住民によってプライバシーを侵害され、生活の平穏が保てなくなること」が7.2ポイント、「インターネット等で犯罪被害者への誹謗中傷があること」が3.4ポイント、「女性」が「男性」を上回っています。

■ 年齢別

「19歳以下」及び「30～39歳」は「犯罪行為によって精神的、経済的な負担を受けること」、それ以外の年齢では「報道、インターネットや地域住民によってプライバシーを侵害され、生活の平穏が保てなくなること」がもっとも多くなっています。

■ 職業別

「公務員・教職員」「学生」「その他」は「犯罪行為によって精神的、経済的な負担を受けること」、「民間企業・団体の経営者、役員」は「報道、インターネットや地域住民によってプライバシーを侵害され、生活の平穏が保て

なくなること」「インターネット等で犯罪被害者への誹謗中傷があること」、それ以外の職業では「報道、インターネットや地域住民によってプライバシーを侵害され、生活の平穏が保てなくなること」がもっとも高くなっています。

## ■ 学習経験別

「犯罪行為によって精神的、経済的な負担を受けること」が 24.0 ポイント、「捜査や刑事裁判において精神的負担を受けること」が 18.4 ポイント、「インターネット等で犯罪被害者への誹謗中傷があること」が 16.9 ポイント、「あり」が「なし」を上回り、「わからない」は 14.7 ポイント、「なし」が「あり」を上回っています。

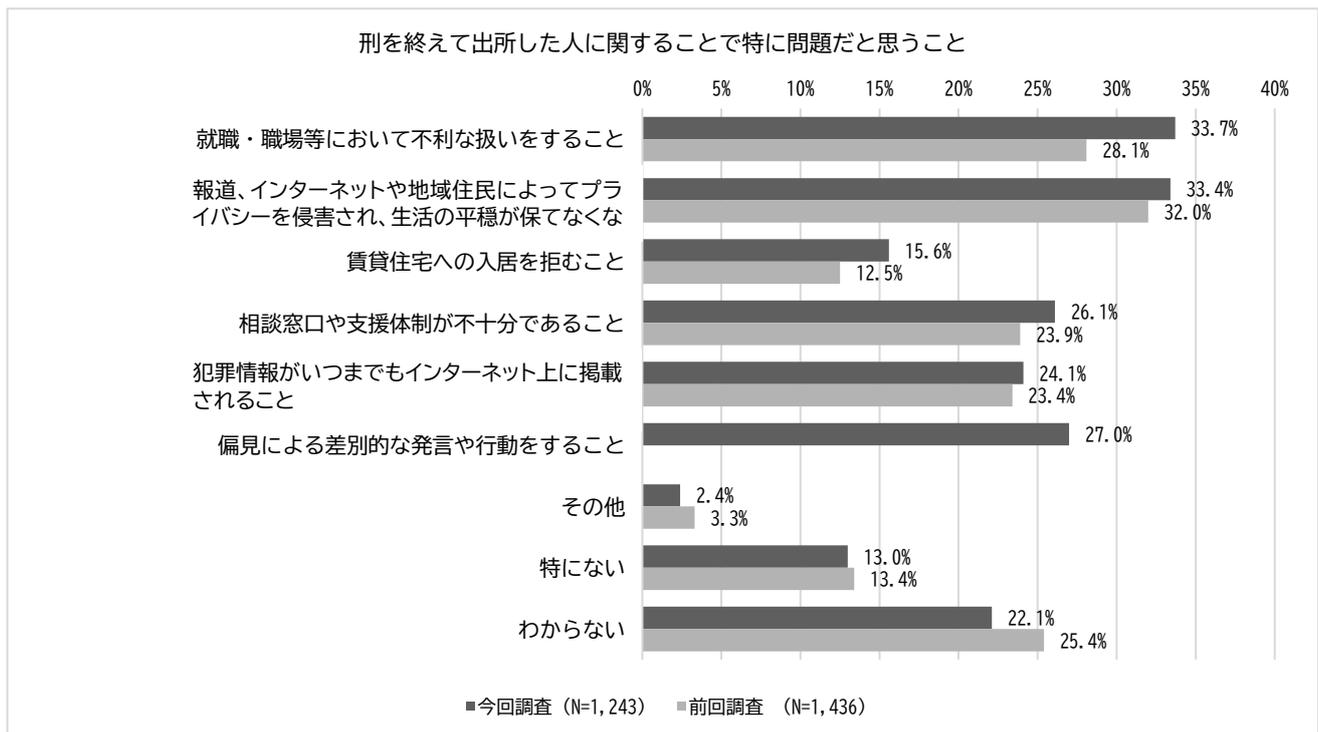
		犯罪行為によって精神的、経済的な負担を受けること	捜査や刑事裁判において精神的負担を受けること	報道、インターネットや地域住民によってプライバシーを侵害され、生活の平穏が保てなくなること	インターネット等で犯罪被害者への誹謗中傷があること	相談窓口や支援体制が不十分であること	事実を知るために必要な情報を入手することが困難であること	その他	特にない	わからない
	全体(N=1,243)	59.2%	41.2%	63.2%	57.1%	32.0%	32.0%	1.3%	4.2%	9.9%
性別	男性(N=533)	58.3%	37.0%	59.8%	55.7%	31.3%	31.1%	1.1%	5.4%	9.9%
	女性(N=687)	60.6%	45.0%	67.0%	59.1%	32.9%	32.9%	1.3%	3.2%	9.5%
年齢別	19歳以下(N=38)	60.5%	26.3%	55.3%	50.0%	31.6%	18.4%	2.6%	2.6%	7.9%
	20～29歳(N=81)	55.6%	42.0%	63.0%	55.6%	28.4%	30.9%	1.2%	8.6%	8.6%
	30～39歳(N=93)	68.8%	46.2%	65.6%	66.7%	34.4%	35.5%	2.2%	2.2%	8.6%
	40～49歳(N=172)	71.5%	58.7%	77.9%	64.0%	36.0%	37.2%	0.6%	4.7%	4.7%
	50～59歳(N=230)	65.2%	43.5%	69.6%	63.5%	39.6%	43.0%	1.7%	3.0%	5.2%
	60～69歳(N=224)	57.1%	37.5%	63.8%	57.6%	30.8%	28.6%	1.3%	3.6%	7.6%
	70～79歳(N=232)	54.7%	38.8%	59.5%	53.4%	28.4%	27.2%	0.4%	4.3%	14.2%
	80歳以上(N=163)	44.8%	29.4%	46.6%	43.6%	25.2%	25.2%	1.8%	5.5%	19.6%
職業別	公務員・教職員(N=43)	88.4%	55.8%	76.7%	69.8%	46.5%	34.9%	2.3%	4.7%	0.0%
	自営業・自由業(N=91)	58.2%	44.0%	68.1%	54.9%	30.8%	33.0%	1.1%	5.5%	8.8%
	民間企業・団体の経営者、役員(N=28)	46.4%	28.6%	57.1%	57.1%	25.0%	21.4%	0.0%	7.1%	14.3%
	民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)(N=313)	62.6%	45.7%	69.3%	62.0%	35.5%	39.3%	1.0%	2.9%	4.5%
	臨時雇用、パート、アルバイト(N=203)	66.0%	47.8%	68.0%	60.1%	29.1%	32.5%	0.5%	3.0%	7.9%
	学生(N=47)	66.0%	38.3%	59.6%	55.3%	31.9%	25.5%	2.1%	4.3%	4.3%
	家事専業(N=173)	61.3%	39.3%	65.9%	60.7%	31.8%	30.1%	2.3%	2.3%	11.0%
	無職(N=308)	47.7%	32.5%	53.2%	48.7%	29.9%	26.9%	1.0%	6.2%	17.2%
	その他(N=29)	51.7%	41.4%	41.4%	44.8%	31.0%	31.0%	6.9%	10.3%	17.2%
学習経験別	あり(N=1,073)	62.5%	44.1%	65.9%	60.0%	33.5%	33.9%	1.5%	3.9%	7.3%
	なし(N=109)	38.5%	25.7%	54.1%	43.1%	26.6%	21.1%	0.0%	6.4%	22.0%

問 14 刑を終えて出所した人に関する事で、あなたが特に問題だと思うのはどのようなことですか  
(いくつでも選択できます)。

■ 全体

「就職・職場等において不利な扱いをすること」が33.7%でもっとも高く、次いで「報道、インターネットや地域住民によってプライバシーを侵害され、生活の平穏が保てなくなること」が 33.4%、「偏見による差別的な発言や行動をすること」が27.0%となっています。

前回調査との比較では「就職・職場等において不利な扱いをすること」が5.6ポイント、「賃貸住宅への入居を拒むこと」が3.1ポイント増加しています。また、「わからない」が3.3ポイント減少しています。



■ 性別

「報道、インターネットや地域住民によってプライバシーを侵害され、生活の平穏が保てなくなること」が4.9ポイント、「犯罪情報がいつまでもインターネット上に掲載されること」が4.7ポイント、「女性」が「男性」を上回っています。

■ 年齢別

「19歳以下」及び「20～49歳」は「報道、インターネットや地域住民によってプライバシーを侵害され、生活の平穏が保てなくなること」、「50歳以上」は「就職・職場等において不利な扱いをすること」がもっとも多くなっています。

■ 職業別

「公務員・教職員」「臨時雇用、パート、アルバイト」「学生」は「報道、インターネットや地域住民によってプライバシーを侵害され、生活の平穏が保てなくなること」、それ以外の職業は「就職・職場等において不利な扱いを

すること」、「その他」は「わからない」がもっとも多くなっています。

### ■ 学習経験別

「相談窓口や支援体制が不十分であること」が 7.2 ポイント、「偏見による差別的な発言や行動をすること」が 4.9 ポイント、「あり」が「なし」を上回り、「わからない」が 8.4 ポイント、「なし」が「あり」を上回っています。

		就職・職場等において不利な扱いを すること	報道、インターネットや地域住民に よってプライバシーを侵害され、生 活の平穏が保てなくなる	賃貸住宅への入居を拒むこと	相談窓口や支援体制が不十分である こと	犯罪情報がいつまでもインターネット ト上に掲載されること	偏見による差別的な発言や行動をす ること	その他	特 に な い	わ か ら な い
	全体(N=1,243)	33.7%	33.4%	15.6%	26.1%	24.1%	27.0%	2.4%	13.0%	22.1%
性別	男性(N=533)	32.5%	30.8%	14.4%	24.8%	21.6%	26.3%	2.3%	16.9%	19.7%
	女性(N=687)	34.8%	35.7%	16.3%	27.4%	26.3%	27.5%	2.6%	10.3%	23.7%
年齢別	19歳以下(N=38)	28.9%	36.8%	18.4%	26.3%	23.7%	28.9%	2.6%	13.2%	13.2%
	20～29歳(N=81)	27.2%	34.6%	13.6%	28.4%	23.5%	18.5%	3.7%	28.4%	8.6%
	30～39歳(N=93)	33.3%	34.4%	9.7%	21.5%	17.2%	18.3%	2.2%	21.5%	22.6%
	40～49歳(N=172)	25.0%	29.7%	14.5%	21.5%	24.4%	19.2%	2.3%	21.5%	20.3%
	50～59歳(N=230)	33.0%	32.2%	16.1%	30.9%	23.5%	31.3%	3.0%	12.2%	19.1%
	60～69歳(N=224)	33.0%	31.3%	14.3%	24.6%	21.9%	29.0%	3.1%	11.2%	25.0%
	70～79歳(N=232)	41.4%	38.8%	18.1%	29.3%	28.4%	27.6%	0.9%	6.5%	23.7%
	80歳以上(N=163)	39.3%	33.1%	17.8%	23.9%	26.4%	33.7%	2.5%	5.5%	29.4%
職業別	公務員・教職員(N=43)	32.6%	37.2%	14.0%	32.6%	20.9%	32.6%	2.3%	11.6%	16.3%
	自営業・自由業(N=91)	34.1%	33.0%	19.8%	28.6%	19.8%	26.4%	3.3%	11.0%	18.7%
	民間企業・団体の経営者、役員(N=28)	32.1%	25.0%	14.3%	21.4%	10.7%	21.4%	0.0%	28.6%	25.0%
	民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)(N=313)	33.2%	30.7%	13.4%	24.3%	24.6%	24.3%	2.2%	22.0%	16.3%
	臨時雇用、パート、アルバイト(N=203)	33.0%	36.5%	18.7%	30.5%	26.1%	28.6%	1.0%	10.8%	22.2%
	学生(N=47)	29.8%	44.7%	17.0%	29.8%	25.5%	29.8%	4.3%	12.8%	8.5%
	家事専業(N=173)	37.6%	35.3%	17.3%	24.9%	26.6%	28.3%	2.9%	6.9%	25.4%
	無職(N=308)	34.4%	33.4%	13.6%	24.0%	24.4%	26.9%	2.6%	9.1%	27.3%
その他(N=29)	27.6%	20.7%	17.2%	27.6%	17.2%	31.0%	6.9%	6.9%	41.4%	
学習 経験別	あり(N=1,073)	33.7%	34.1%	15.9%	27.4%	24.6%	27.8%	2.7%	13.6%	20.0%
	なし(N=109)	37.6%	33.9%	12.8%	20.2%	26.6%	22.9%	0.9%	10.1%	28.4%

### 3. 人権に対する意識や行動について

問 15 あなたは、次にあげる①～②の考え方について、どう思われますか

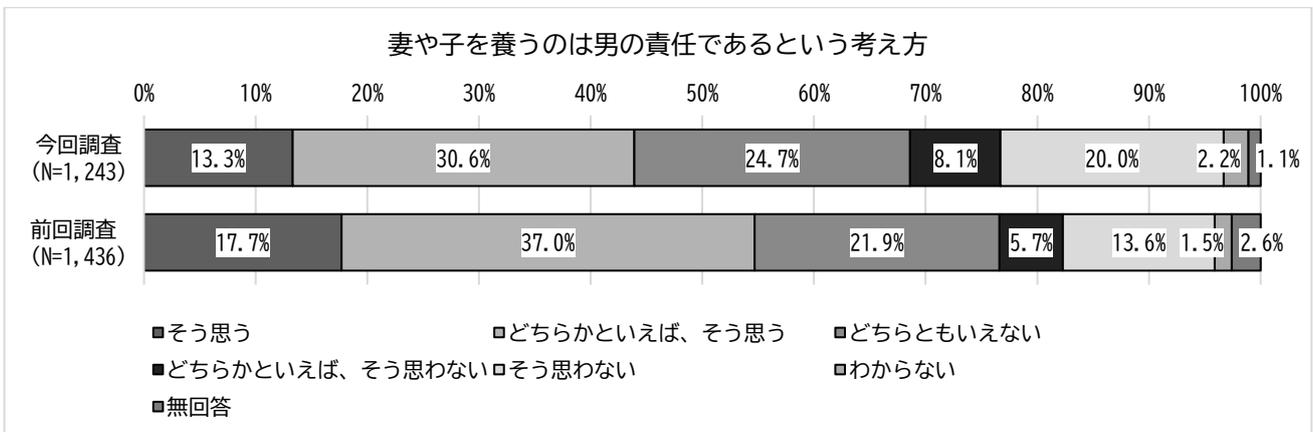
(①～②について該当する番号を選択してください)。

「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」を合計した「そう思う計」、「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」を合計した「そう思わない計」で比較すると、以下ようになります。

#### ① 固定的な性別役割分担意識について

##### ■ 全体

「そう思う計」は 43.9% となっており、「そう思わない計」の 28.1% に比べ 15.8 ポイント上回っています。前回調査と比較すると、「そう思う計」は 10.8 ポイント減少し、「そう思わない計」は 8.8 ポイント増加しています。



##### ■ 性別

「そう思う計」は「男性」が 60.8% で、「女性」が 31.0% と、「男性」が「女性」を 29.8 ポイント上回っています。また、「そう思わない計」は「女性」が 36.9% で、「男性」が 16.7% と、「女性」が「男性」を 20.2 ポイント上回っています。

##### ■ 年齢別

「そう思う計」は「70～79歳」が 51.7% でもっとも高く、次いで「60～69歳」が 47.8%、「80歳以上」が 46.0% となっており、「19歳以下」は 28.9% でもっとも低くなっています。また、「そう思わない計」は「19歳以下」が 50.0% でもっとも高く、次いで「20～29歳」が 45.6%、「30～39歳」が 39.8% となっており、「70～79歳」は 18.5% でもっとも低くなっています。

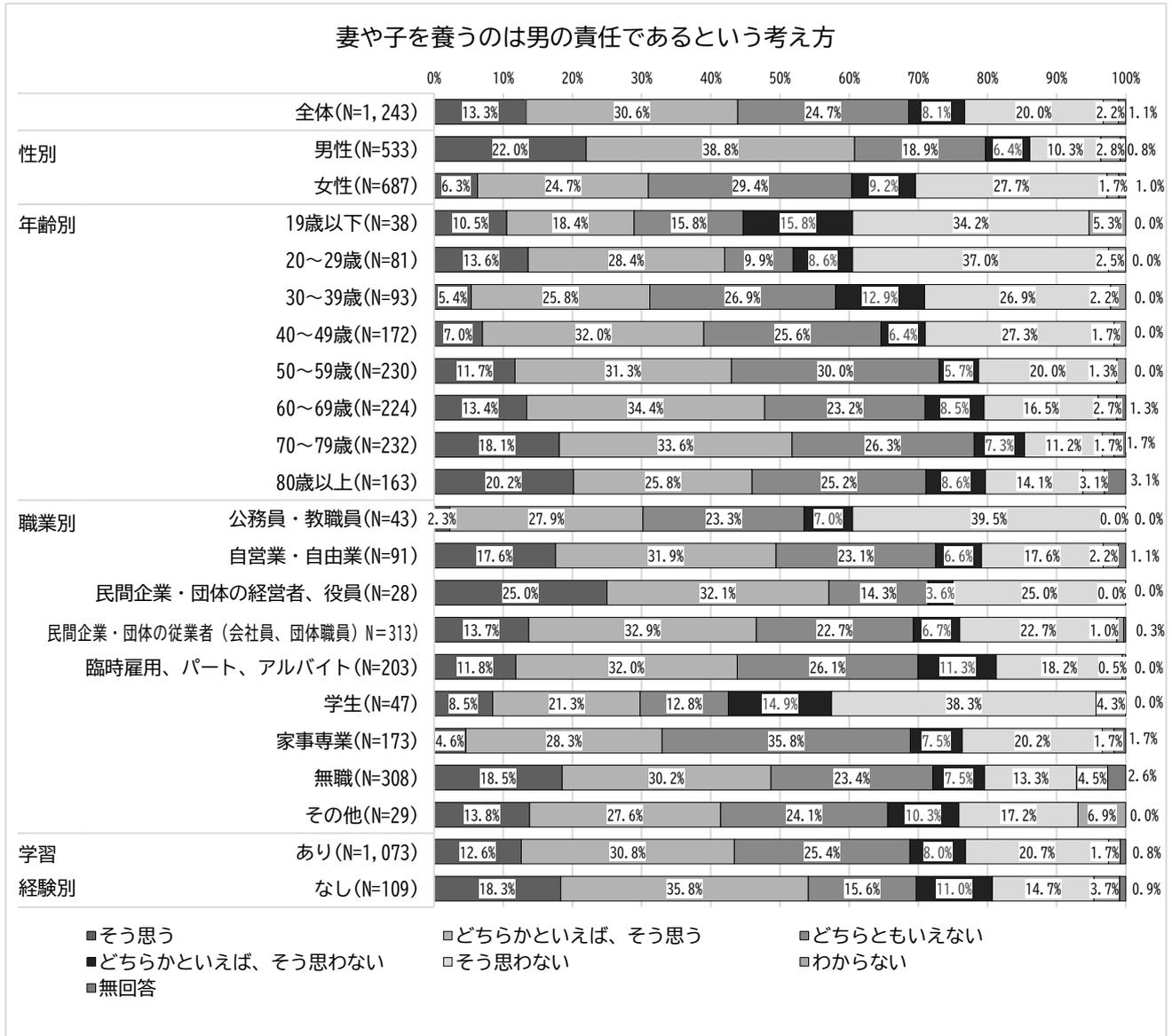
##### ■ 職業別

「そう思う計」は「民間企業・団体の経営者、役員」が 57.1% でもっとも高く、次いで「自営業・自由業」が 49.5%、「無職」が 48.7% となっており、「学生」は 29.8% でもっとも低くなっています。また、「そう思わない計」は「学生」が 53.2% でもっとも高く、次いで「公務員・教職員」が 46.5%、「臨時雇用、パート、アルバイト」が 29.5%、「民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)」が 29.4% となっており、「無職」は 20.8% ても

とも低くなっています。

### ■ 学習経験別

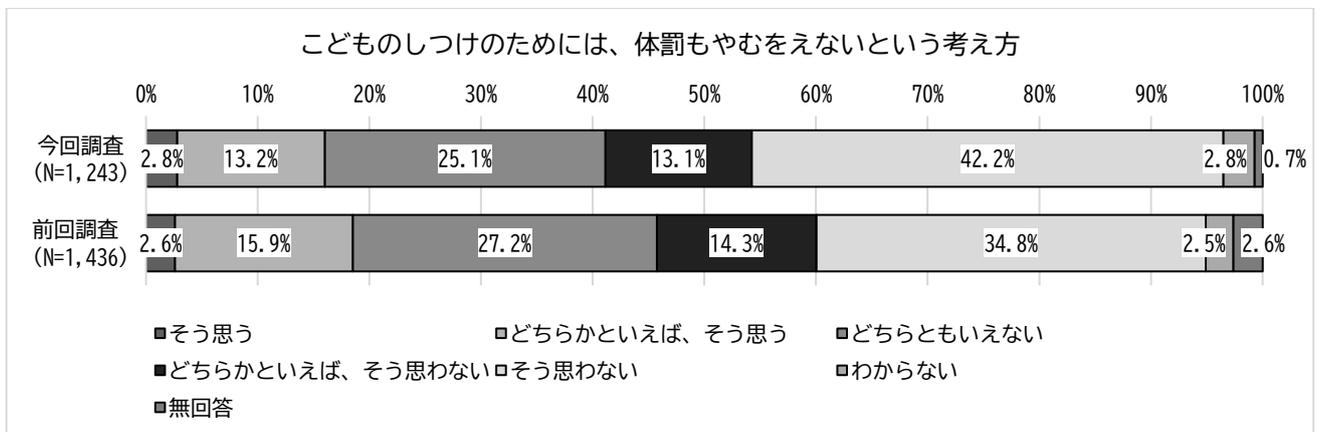
「そう思う計」は「なし」が「あり」を 10.7 ポイント上回っています。また、「そう思わない計」は「あり」が「なし」を 3.0 ポイント上回っています。



## ② こどもの虐待について

### ■ 全体

「そう思わない計」は55.3%で、「そう思う計」の16.0%に比べ39.3ポイント上回っています。前回調査と比較すると、「そう思わない計」は6.2ポイント増加しています。



### ■ 性別

「そう思う計」は「男性」が23.1%、女性が10.4%で、「男性」が「女性」を12.7ポイント上回っています。また、「そう思わない計」は「女性」が60.9%、「男性」が48.8%で、「女性」が「男性」を12.1ポイント上回っています。

### ■ 年齢別

「そう思う計」は「50～59歳」が18.7%でもっとも高く、次いで「40～49歳」が18.0%、「80歳以上」が17.8%となっており、「19歳以下」は7.9%でもっとも低くなっています。また、「そう思わない計」は「19歳以下」が76.3%でもっとも高く、次いで「20～29歳」が64.2%、「30～39歳」が60.2%となっており、「80歳以上」は51.5%でもっとも低くなっています。

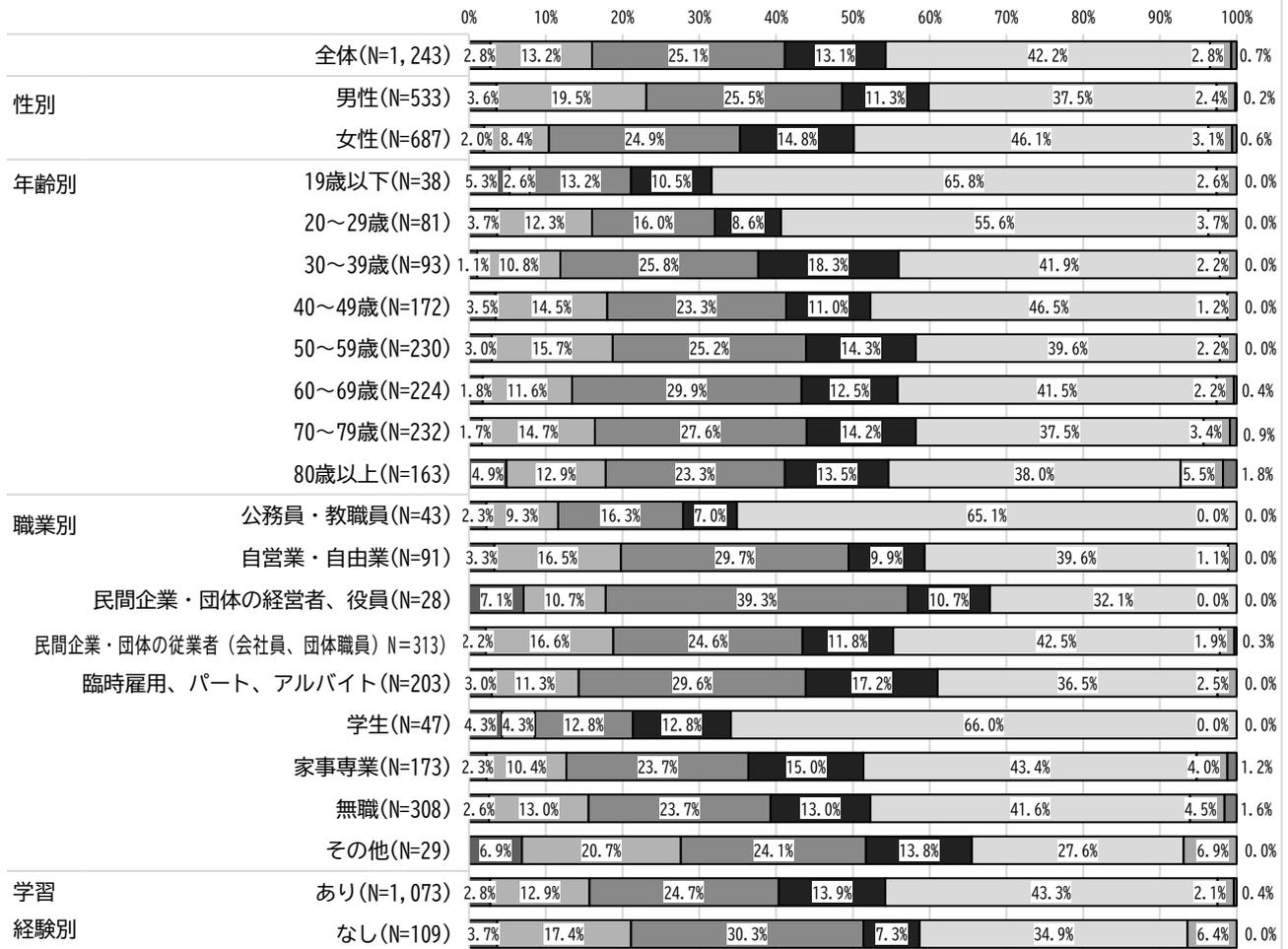
### ■ 職業別

「そう思う計」は「その他」が27.6%でもっとも高く、次いで「自営業・自由業」が19.8%、「民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)」が18.8%となっており、「学生」は8.6%でもっとも低くなっています。また、「そう思わない計」は「学生」が78.8%でもっとも高く、次いで「公務員・教職員」が72.1%、「家事専業」が58.4%となっており、「その他」は41.4%でもっとも低くなっています。

### ■ 学習経験別

「そう思う計」は「なし」が「あり」を5.4ポイント上回っています。また、「そう思わない計」は「あり」が「なし」を15.0ポイント上回っています。

こどものしつけのためには、体罰もやむをえないという考え方

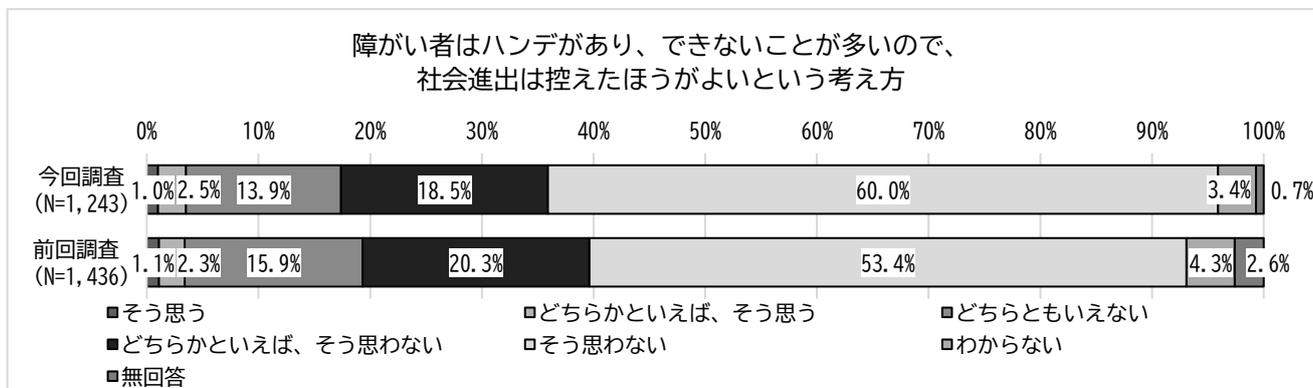


- そう思う
- どちらかといえば、そう思う
- どちらともいえない
- どちらかといえば、そう思わない
- そう思わない
- わからない
- 無回答

### ③ 障がいのある人への偏見について

#### ■ 全体

「そう思わない計」は78.5%で、「そう思う計」の3.5%に比べ75.0ポイント上回っています。前回調査と比較すると、「そう思わない計」は4.8ポイント増加しています。



#### ■ 性別

「そう思う計」は「男性」が4.7%、「女性」が2.3%で、「男性」が「女性」を2.4ポイント上回っています。また、「そう思わない計」は「女性」が82.4%、「男性」が75.2%で、「女性」が「男性」を7.2ポイント上回っています。

#### ■ 年齢別

「そう思う計」は「19歳以下」が13.2%でもっとも高く、次いで「20～29歳」が6.1%、「30～39歳」が4.3%となっており、「60～69歳」が1.7%でもっとも低くなっています。また、「そう思わない計」は「20～29歳」が83.9%でもっとも高く、次いで「50～59歳」が82.2%、「60～69歳」が80.8%となっており、「80歳以上」は70.5%でもっとも低くなっています。

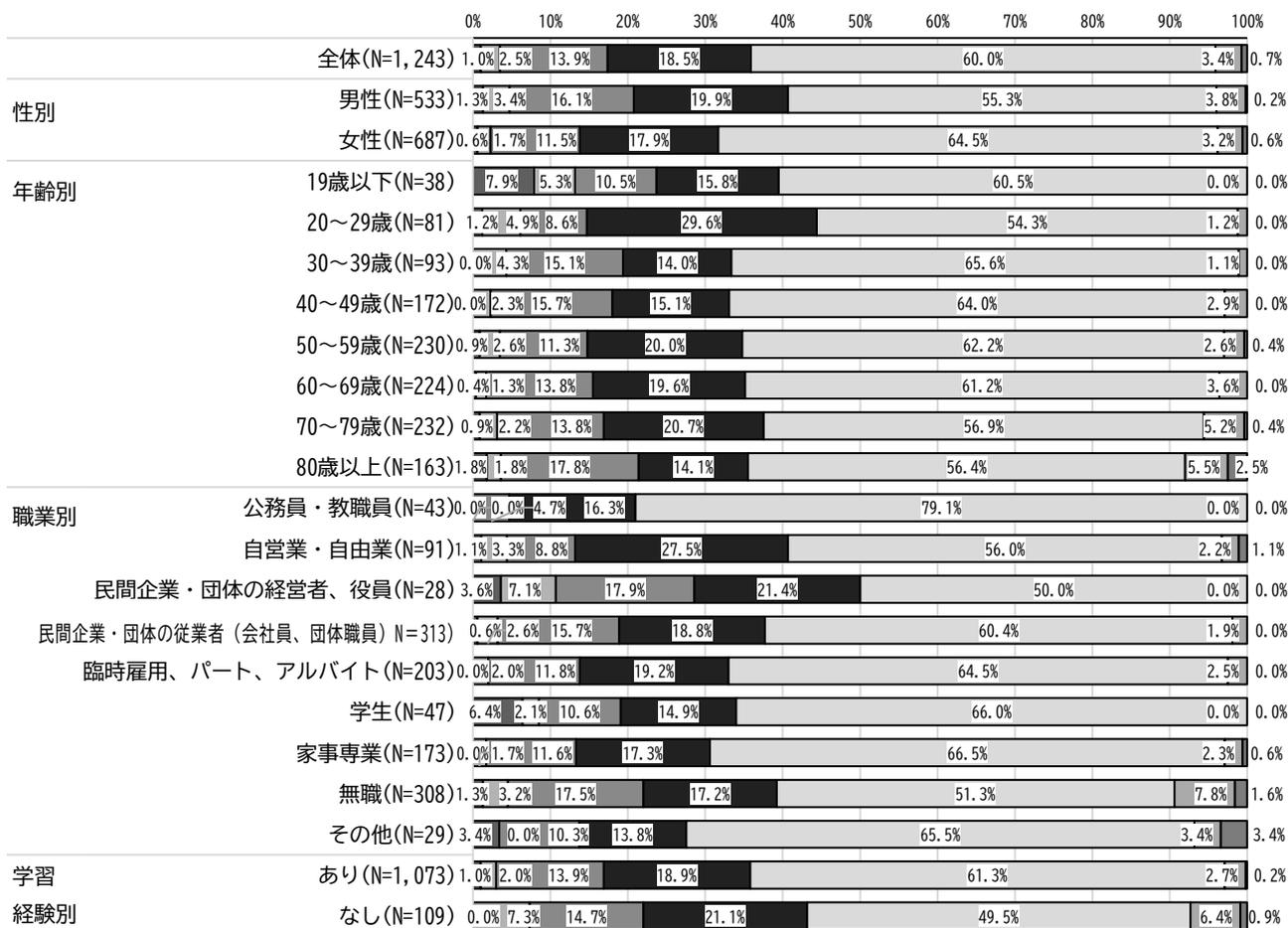
#### ■ 職業別

「そう思う計」は「民間企業・団体の経営者、役員」が10.7%でもっとも高く、次いで「学生」が8.5%、「無職」が4.5%となっており、「公務員・教職員」が0.0%でもっとも低くなっています。また、「そう思わない計」は「公務員・教職員」が95.4%でもっとも高く、次いで「家事専業」が83.8%、「臨時雇用、パート、アルバイト」が83.7%となっており、「無職」は68.5%でもっとも低くなっています。

#### ■ 学習経験別

「そう思う計」は「なし」が「あり」を4.3ポイント上回っています。また、「そう思わない計」は「あり」が「なし」を9.6ポイント上回っています。

障がい者はハンデがあり、できないことが多いので、  
社会進出は控えたほうがよいという考え方

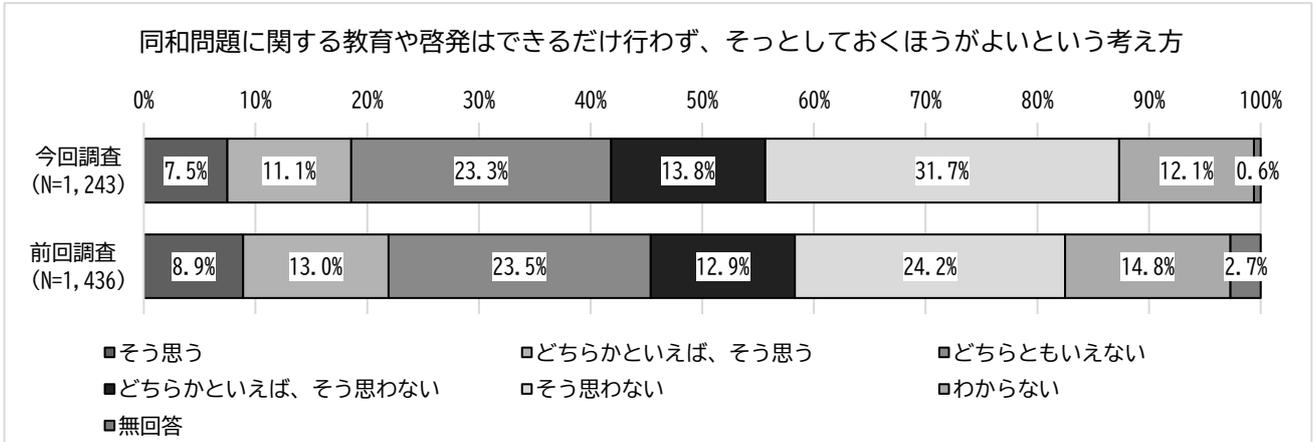


- そう思う
- どちらかといえば、そう思う
- どちらともいえない
- どちらかといえば、そう思わない
- そう思わない
- わからない
- 無回答

#### ④ 同和問題(部落差別)への偏見について

##### ■ 全体

「そう思わない計」は45.5%で、「そう思う計」の18.6%に比べ26.9ポイント上回っています。前回調査と比較すると、「そう思わない計」は8.4ポイント増加しています。



##### ■ 性別

「そう思う計」に大きな差はみられません。「そう思わない計」は「男性」が49.0%、「女性」が43.6%で、「男性」が「女性」を5.4ポイント上回っています。

##### ■ 年齢別

「そう思う計」は「80歳以上」が27.0%でもっとも高く、次いで「19歳以下」が26.4%、「70～79歳」が21.1%となっており、「30～39歳」が12.9%でもっとも低くなっています。また、「そう思わない計」は「20～29歳」が54.3%でもっとも高く、次いで「30～39歳」が52.7%、「50～59歳」が51.3%となっており、「80歳以上」は36.2%でもっとも低くなっています。

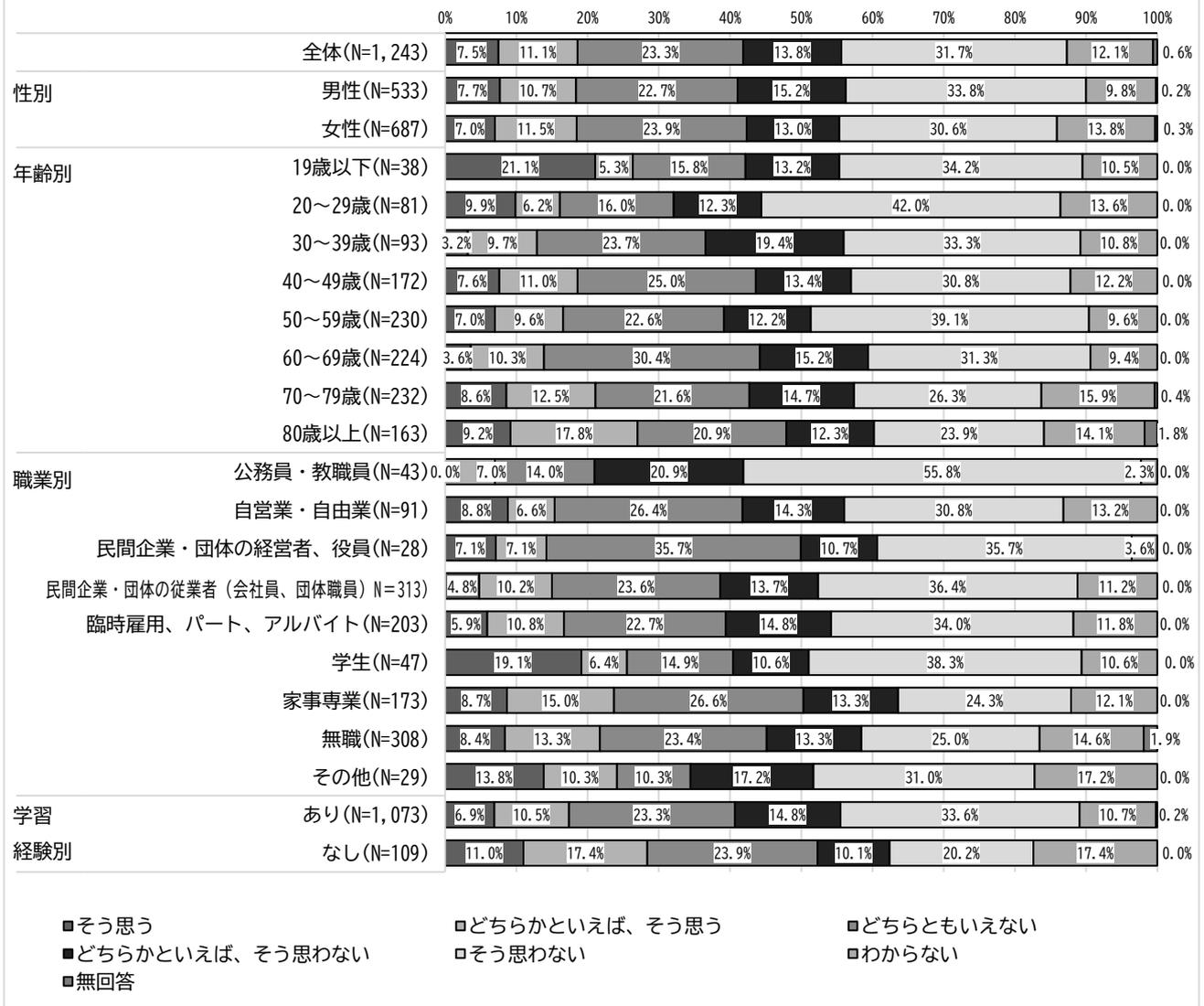
##### ■ 職業別

「そう思う計」は「学生」が25.5%でもっとも高く、次いで「その他」が24.1%、「家事専業」が23.7%となっており、「公務員・教職員」が7.0%でもっとも低くなっています。また、「そう思わない計」は「公務員・教職員」が76.7%でもっとも高く、次いで「民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)」が50.1%、「学生」が48.9%となっており、「家事専業」は37.6%でもっとも低くなっています。

##### ■ 学習経験別

「そう思う計」は「なし」が「あり」を11.0ポイント上回っています。また、「そう思わない計」は「あり」が「なし」を18.1ポイント上回っています。

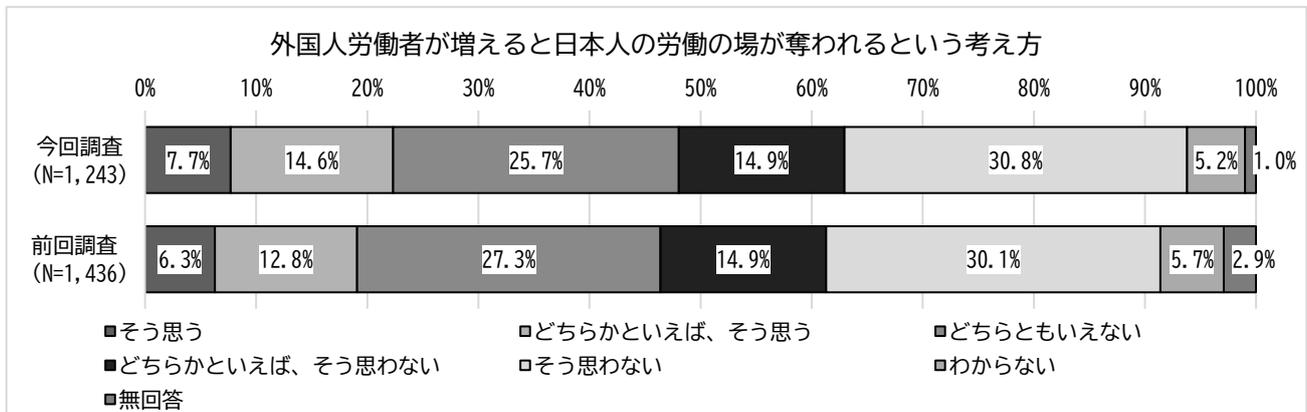
同和問題（部落差別）に関する教育や啓発はできるだけ行わず、  
そっとしておくほうがよいという考え方



## ⑤ 外国人労働者への偏見について

### ■ 全体

「そう思わない計」は45.7%で、「そう思う計」の22.3%に比べ23.4ポイント上回っています。  
 前回調査と比較すると、「そう思う計」は3.2ポイント、「そう思わない計」は0.7ポイント増加しています。



### ■ 性別

「そう思う計」に大きな差はみられません。また、「そう思わない計」は「男性」が47.9%、「女性」が44.7%で、「男性」が「女性」を3.2ポイント上回っています。

### ■ 年齢別

「そう思う計」は「30～39歳」が28.0%でもっとも高く、次いで「40～49歳」が27.9%、「20～29歳」が27.2%となっており、「80歳以上」が17.8%でもっとも低くなっています。また、「そう思わない計」は「20～29歳」が53.0%でもっとも高く、次いで「19歳以下」が52.6%、「70～79歳」が50.9%となっており、「80歳以上」は34.9%でもっとも低くなっています。

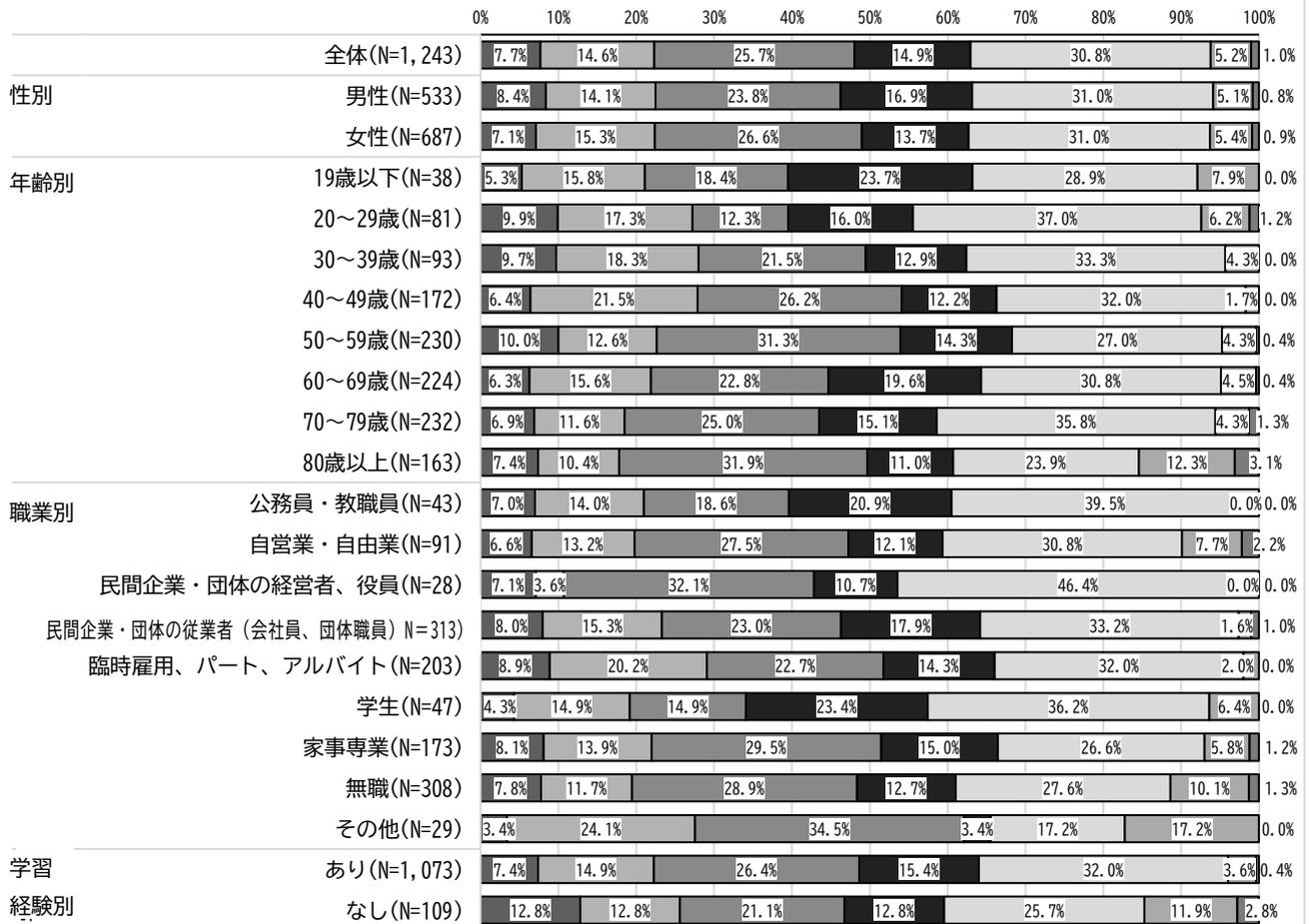
### ■ 職業別

「そう思う計」は「臨時雇用、パート、アルバイト」が29.1%でもっとも高く、次いで「その他」が27.5%、「民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)」が23.3%となっており、「民間企業・団体の経営者、役員」が10.7%でもっとも低くなっています。また、「そう思わない計」は「公務員・教職員」が60.4%でもっとも高く、次いで「学生」が59.6%、「民間企業・団体の経営者、役員」が57.1%となっており、「その他」は20.6%でもっとも低くなっています。

### ■ 学習経験別

「そう思う計」は「なし」が「あり」を3.3ポイント上回っています。また、「そう思わない計」は「あり」が「なし」を8.9ポイント上回っています。

### 外国人労働者が増えると日本人の労働の場が奪われるという考え方

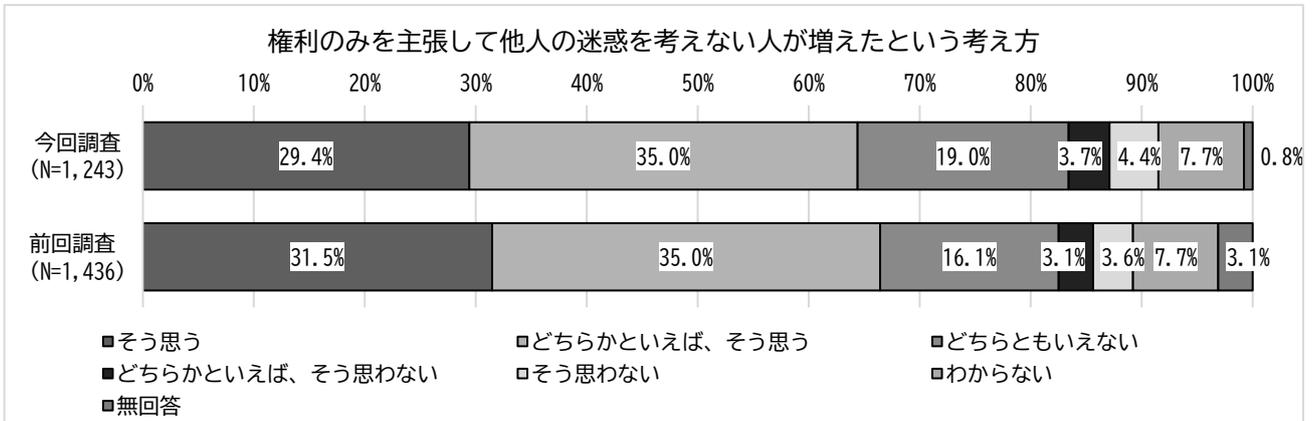


- そう思う
- どちらかといえば、そう思う
- どちらかといえば、そう思わない
- 無回答
- どちらかといえば、そう思う
- そう思わない
- どちらともいえない
- わからない

⑥ 権利のみを主張して他人の迷惑を考えない人が増えたという考え方について

■ 全体

「そう思う計」は64.4%で、「そう思わない計」の8.1%に比べ56.3ポイント上回っています。前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



■ 性別

「そう思う計」は「男性」が70.1%、「女性」が60.4%で、「男性」が「女性」を9.7ポイント上回っています。また、「そう思わない計」は「女性」が9.0%、「男性」が7.0%で、「女性」が「男性」を2.0ポイント上回っています。

■ 年齢別

「そう思う計」は「40～49歳」が72.1%でもっとも高く、次いで「60～69歳」が67.0%、「30～39歳」が66.7%となっており、「80歳以上」は57.1%でもっとも低くなっています。また、「そう思わない計」は「20～29歳」が13.6%でもっとも高く、次いで「80歳以上」が11.6%、「30～39歳」が10.8%となっており、「40～49歳」が4.7%でもっとも低くなっています。

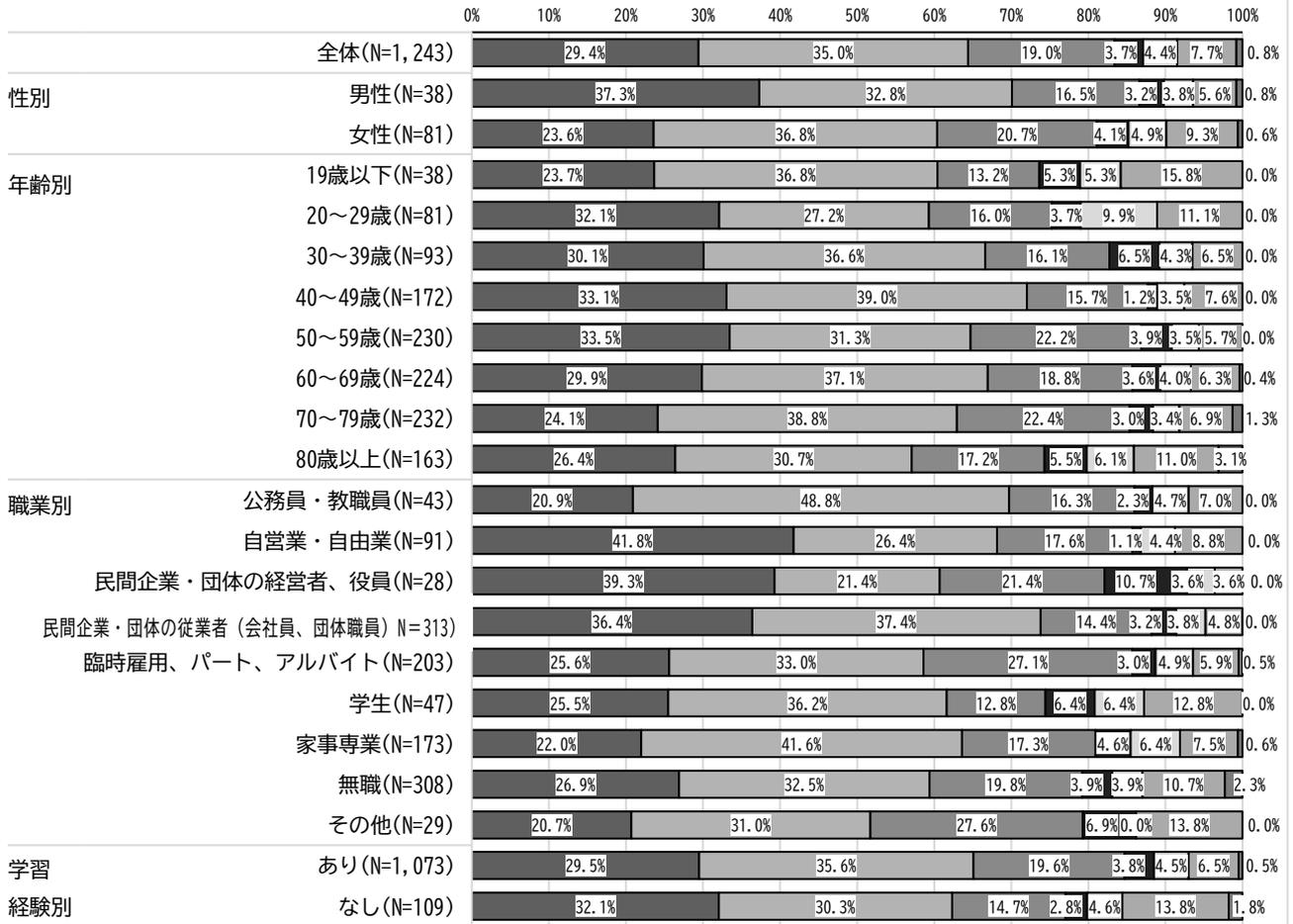
■ 職業別

「そう思う計」は「民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)」が73.8%でもっとも高く、次いで「公務員・教職員」が69.7%、「自営業・自由業」が68.2%となっており、「その他」は51.7%でもっとも低くなっています。また、「そう思わない計」は「学生」が12.8%でもっとも高く、次いで「民間企業・団体の経営者、役員」が14.3%、「家事専業」が11.0%となっており、「自営業・自由業」が5.5%でもっとも低くなっています。

■ 学習経験別

「そう思う計」は「あり」が「なし」を2.7ポイント上回っています。また、「そう思わない計」は「あり」が「なし」を0.9ポイント上回っています。

権利のみを主張して他人の迷惑を考えない人が増えたという考え方

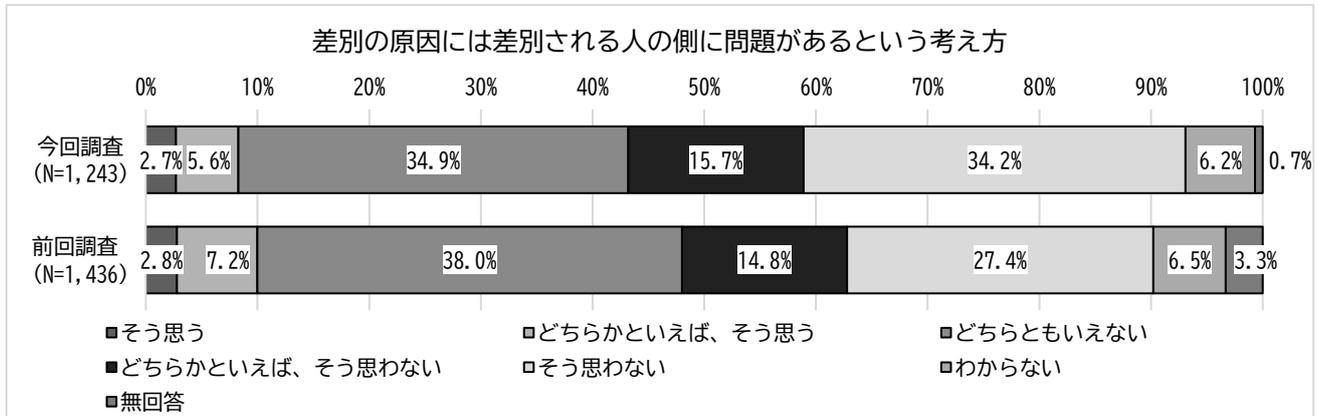


- そう思う
- どちらかといえば、そう思わない
- 無回答
- どちらかといえば、そう思う
- そう思わない
- どちらともいえない
- わからない

⑦ 差別の原因には差別される人の側に問題があるという考え方について

■ 全体

「そう思わない計」は49.9%で、「そう思う計」の8.3%に比べ41.6ポイント上回っています。前回調査と比較すると、「そう思わない計」は7.7ポイント増加しています。



■ 性別

「そう思う計」は「男性」が10.1%、「女性」が6.8%で、「男性」が「女性」を3.3ポイント上回っています。また、「そう思わない計」は「女性」が52.3%、「男性」が47.9%で、「女性」が「男性」を4.4ポイント上回っています。

■ 年齢別

「そう思う計」は「80歳以上」が14.1%でもっとも高く、次いで「20～29歳」が11.1%、「70～79歳」が10.7%となっており、「30～39歳」が4.4%でもっとも低くなっています。また、「そう思わない計」は「20～29歳」が65.4%でもっとも高く、次いで「30～39歳」が62.4%、「19歳以下」が57.9%となっており、「80歳以上」は36.8%でもっとも低くなっています。

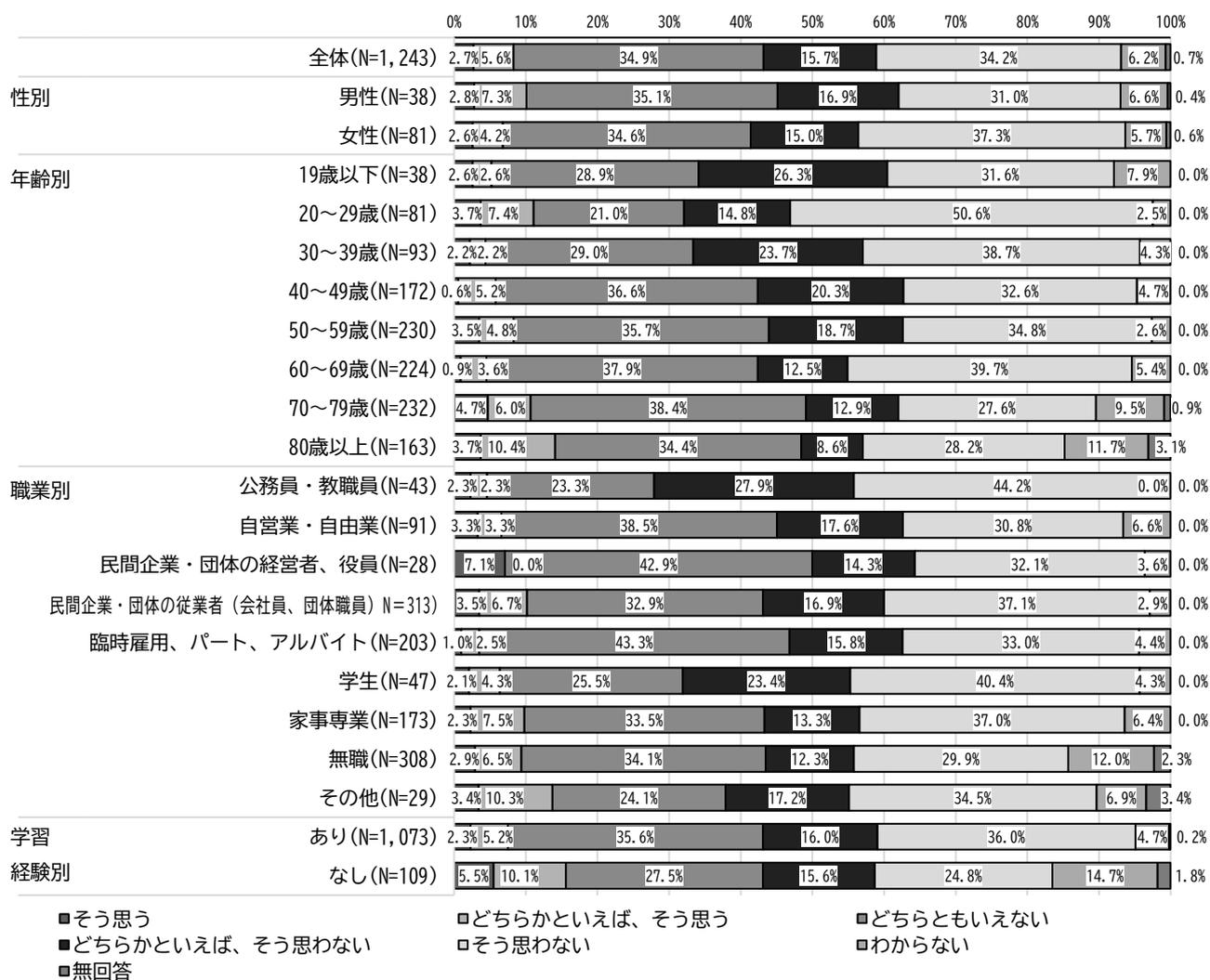
■ 職業別

「そう思う計」は「その他」が13.7%でもっとも高く、次いで「民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)」が10.2%、「家事専業」が9.8%となっており、「臨時雇用、パート、アルバイト」が3.5%でもっとも低くなっています。また、「そう思わない計」は「公務員・教職員」が72.1%でもっとも高く、次いで「学生」が63.8%、「民間企業・団体の従業者」が54.0%となっており、「無職」は42.2%でもっとも低くなっています。

■ 学習経験別

「そう思う計」は「なし」が「あり」を8.1ポイント上回っています。また、「そう思わない計」は「あり」が「なし」を11.6ポイント上回っています。

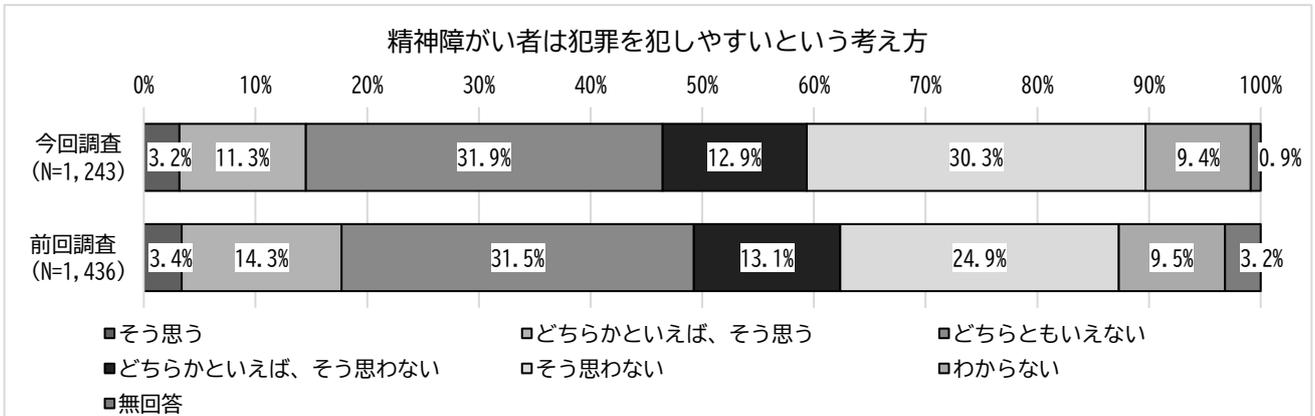
### 差別の原因には差別される人の側に問題があるという考え方



⑧ 精神障がいのある人への偏見について

■ 全体

「そう思わない計」は43.2%で、「そう思う計」の14.5%に比べ28.7ポイント上回っています。前回調査と比較すると、「そう思わない計」は5.2ポイント増加しています。



■ 性別

「そう思う計」に大きな差はみられません。また、「そう思わない計」は「女性」が45.1%、「男性」が40.8%で、「女性」が「男性」を4.3ポイント上回っています。

■ 年齢別

「そう思う計」は「19歳以下」が23.7%ともっとも高く、次いで「20～29歳」が22.2%、「40～49歳」が19.8%となっており、「80歳以上」が6.1%でもっとも低くなっています。また、「そう思わない計」は「80歳以上」が51.6%でもっとも高く、次いで「70～79歳」が50.0%、「20～29歳」が45.7%となっており、「19歳以下」は31.6%でもっとも低くなっています。

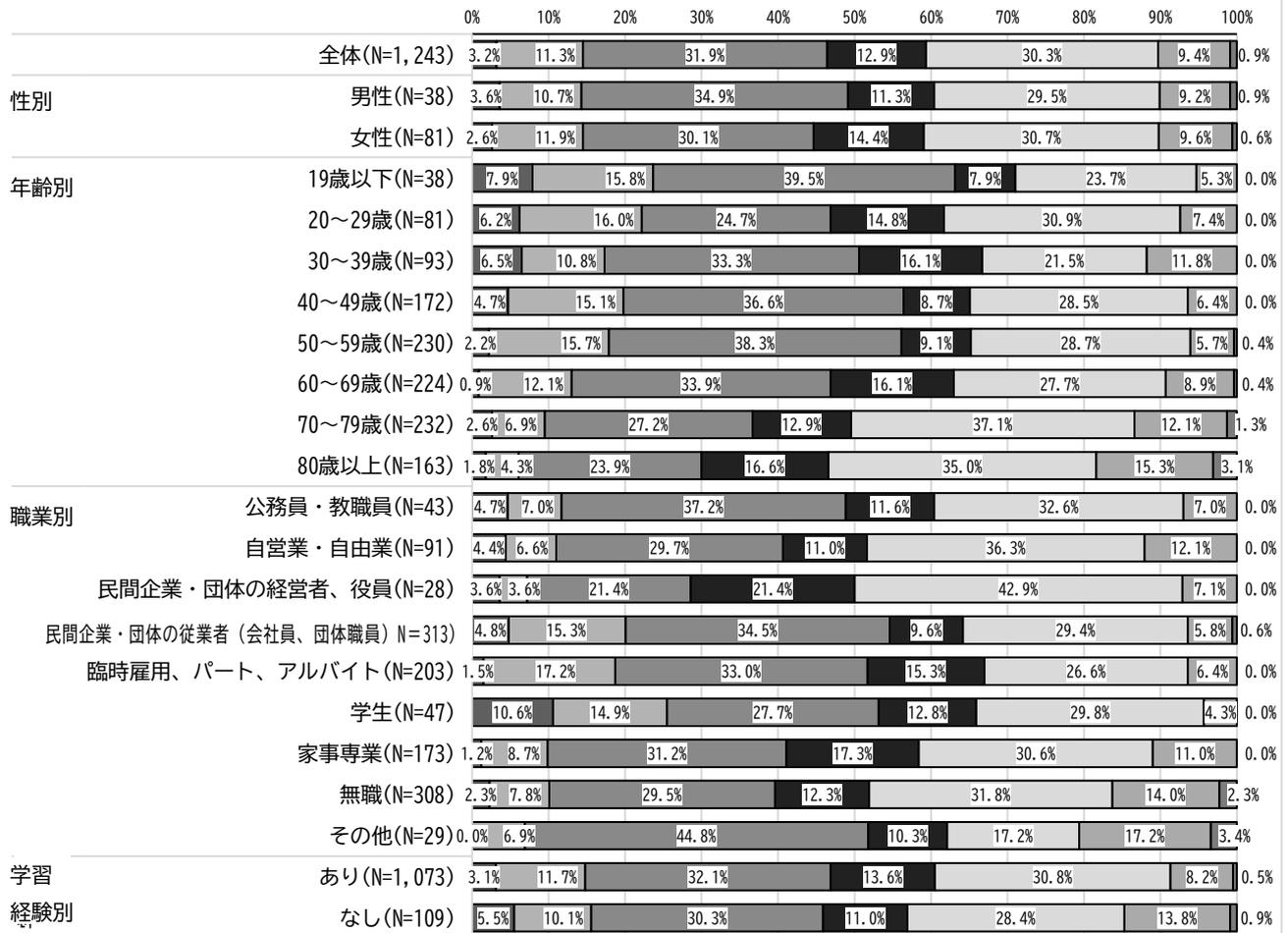
■ 職業別

「そう思う計」は「学生」が25.5%でもっとも高く、次いで「民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)」が20.1%、「臨時雇用、パート、アルバイト」が18.7%となっており、「その他」が6.9%でもっとも低くなっています。また、「そう思わない計」は「民間企業・団体の経営者、役員」が64.3%でもっとも高く、次いで「家事専業」が47.9%、「自営業・自由業」が47.3%となっており、「その他」は27.5%でもっとも低くなっています。

■ 学習経験別

「そう思う計」は「なし」が「あり」を0.8ポイント上回っています。また、「そう思わない計」は「あり」が「なし」を5.0ポイント上回っています。

### 精神障がい者は犯罪を犯しやすいという考え方

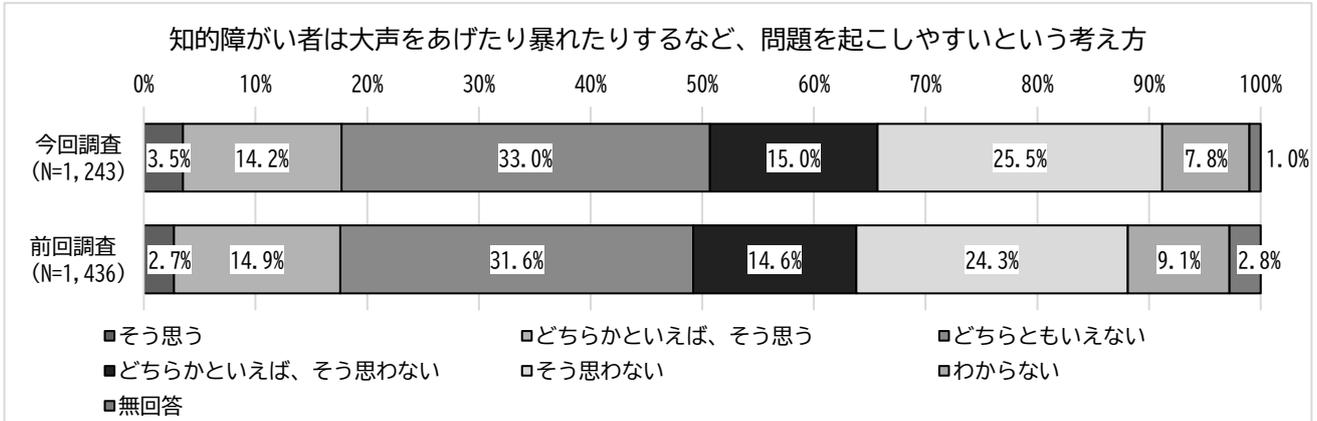


- そう思う
- どちらかといえば、そう思う
- どちらともいえない
- どちらかといえば、そう思わない
- そう思わない
- わからない
- 無回答

⑨ 知的障がいのある人への偏見について

■ 全体

「そう思わない計」は40.5%で、「そう思う計」の17.7%に比べ22.8ポイント上回っています。前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



■ 性別

「そう思う計」は「女性」が18.6%、「男性」が16.7%で、「女性」が「男性」を1.9ポイント上回っています。また、「そう思わない計」に大きな変化はみられません。

■ 年齢別

「そう思う計」は「19歳以下」が31.6%でもっとも高く、次いで「20～29歳」が28.4%、「40～49歳」が22.7%となっており、「80歳以上」が11.7%でもっとも低くなっています。また、「そう思わない計」は「20～29歳」が46.9%でもっとも高く、次いで「30～39歳」が45.2%、「70～79歳」が44.4%となっており、「19歳以下」は34.2%でもっとも低くなっています。

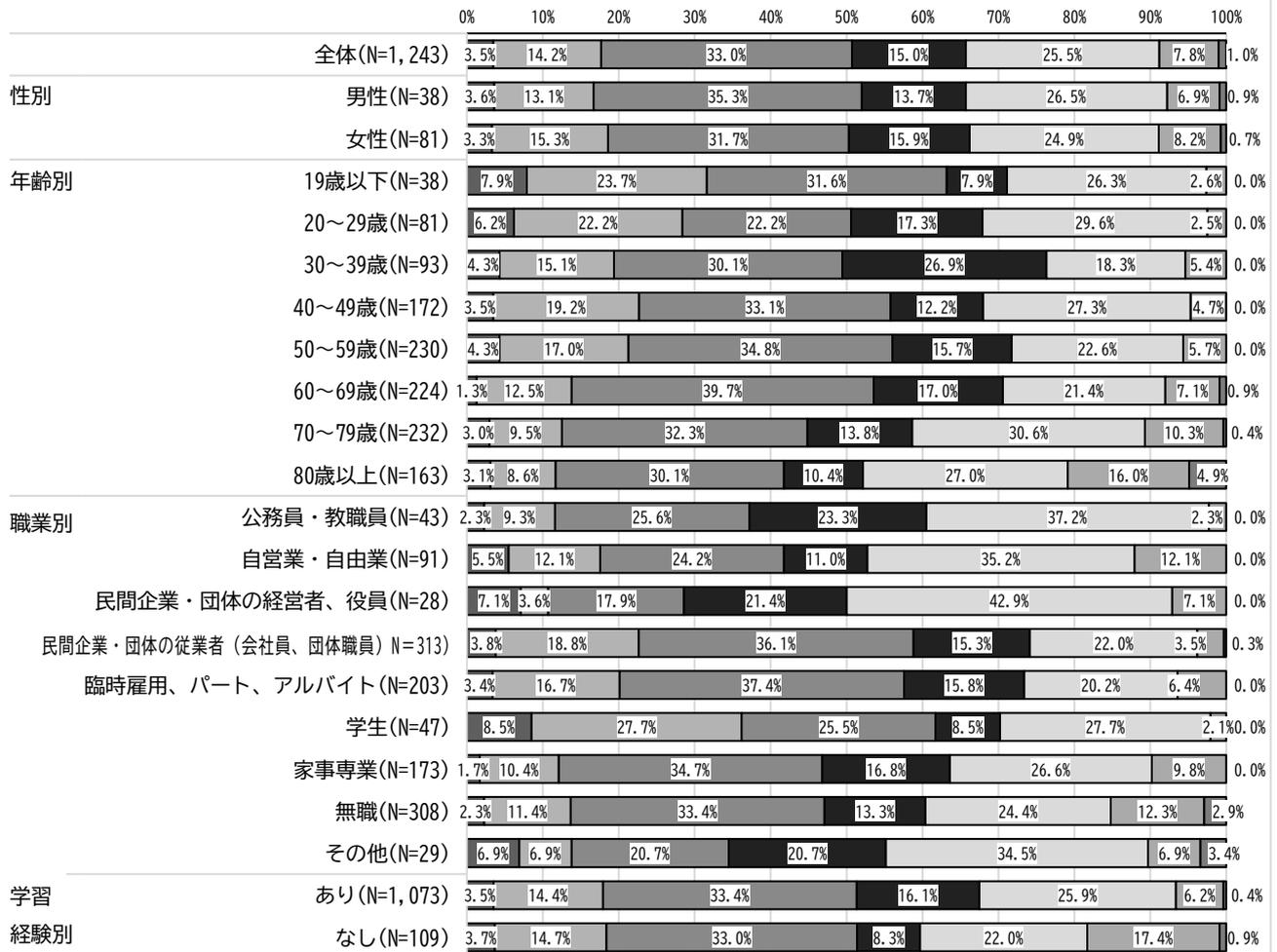
■ 職業別

「そう思う計」は「学生」が36.2%でもっとも高く、次いで「民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)」が22.6%、「臨時雇用、パート、アルバイト」が20.1%となっており、「民間企業・団体の経営者、役員」が10.7%でもっとも低くなっています。また、「そう思わない計」は「民間企業・団体の経営者、役員」が64.3%でもっとも高く、次いで「公務員・教職員」が60.5%、「その他」が55.2%となっており、「臨時雇用、パート、アルバイト」は36.0%でもっとも低くなっています。

■ 学習経験別

「そう思う計」は「なし」が「あり」を0.5ポイント上回っています。また、「そう思わない計」は「あり」が「なし」を11.7ポイント上回っています。

知的障がい者は大声をあげたり暴れたりするなど、  
問題を起こしやすいという考え方



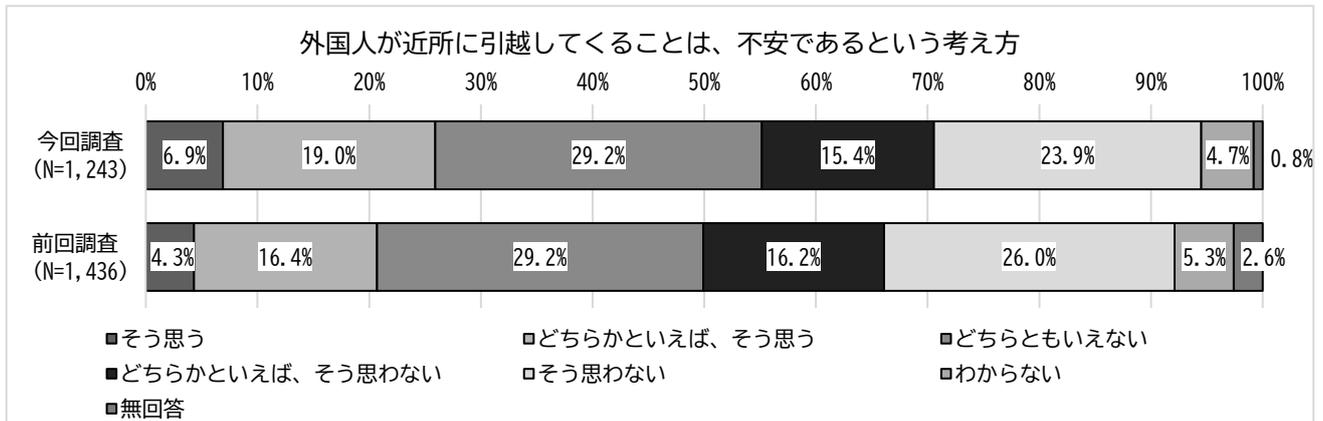
- そう思う
- どちらかといえば、そう思う
- どちらともいえない
- どちらかといえば、そう思わない
- そう思わない
- わからない
- 無回答

## ⑩ 外国人への偏見について

### ■ 全体

「そう思わない計」は39.3%で、「そう思う計」の25.9%に比べ13.4ポイント上回っています。

前回調査と比較すると、「そう思う計」は5.2ポイント増加し、「そう思わない計」は2.9ポイント減少しています。



### ■ 性別

「そう思う計」は「男性」が28.5%、「女性」が24.1%で、「男性」が「女性」を4.4ポイント上回っています。また、「そう思わない計」は「女性」が40.6%、「男性」が37.7%で、「女性」が「男性」を2.9ポイント上回っています。

### ■ 年齢別

「そう思う計」は「40～49歳」が35.5%でもっとも高く、次いで「19歳以下」が31.6%、「30～39歳」が28.0%となっており、「80歳以上」は19.6%でもっとも低くなっています。また、「そう思わない計」は「20～29歳」が56.8%でもっとも高く、次いで「19歳以下」が47.4%、「30～39歳」が43.0%となっており、「40～49歳」「50～59歳」はいずれも34.8%でもっとも低くなっています。

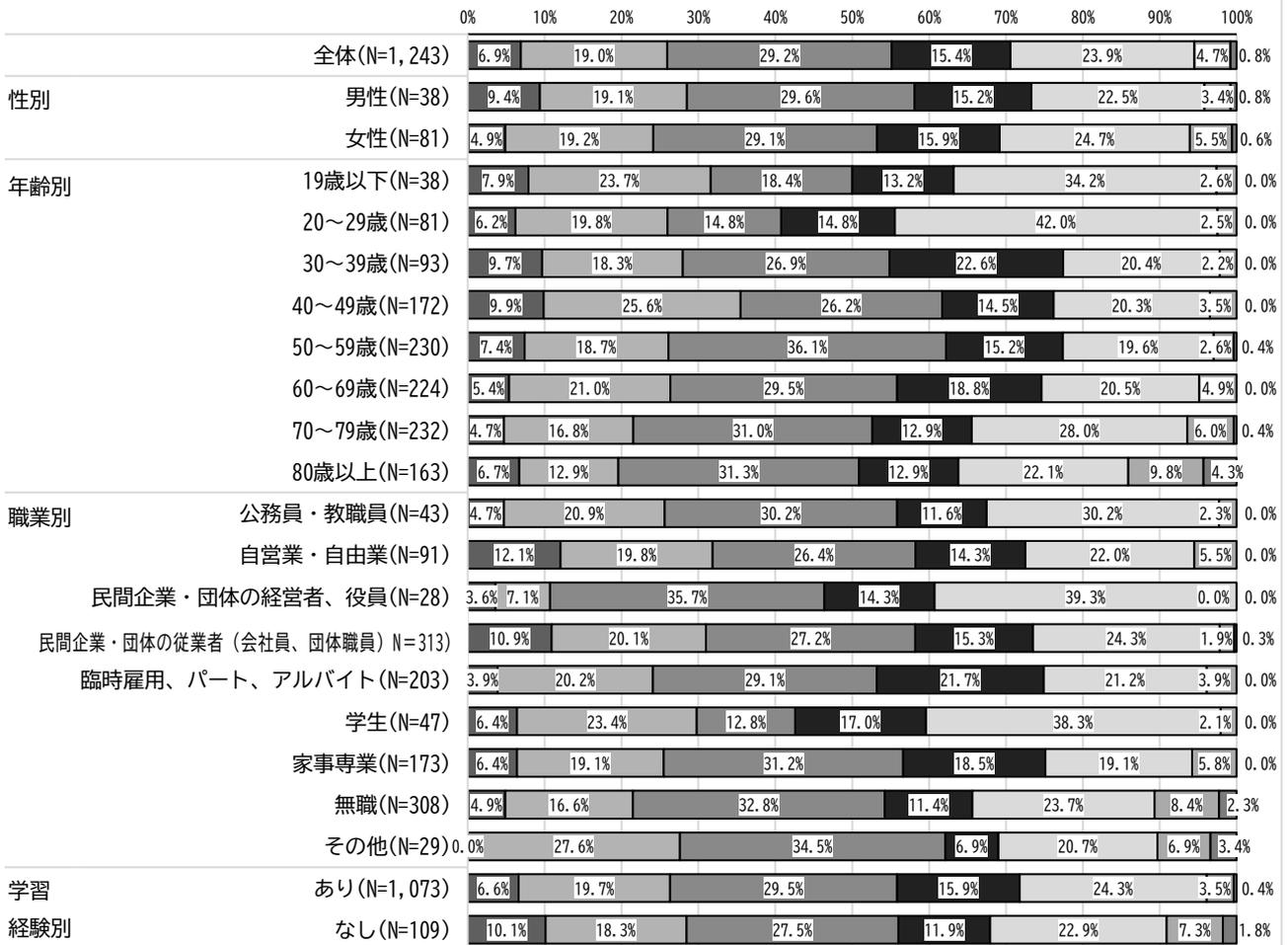
### ■ 職業別

「そう思う計」は「自営業・自由業」が31.9%でもっとも高く、次いで「民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)」が31.0%、「学生」が29.8%となっており、「民間企業・団体の経営者、役員」は10.7%でもっとも低くなっています。また、「そう思わない計」は「学生」が55.3%でもっとも高く、次いで「民間企業・団体の経営者、役員」が53.6%、「臨時雇用、パート、アルバイト」が42.9%となっており、「その他」は27.6%でもっとも低くなっています。

### ■ 学習経験別

「そう思う計」は「なし」が「あり」を2.1ポイント上回っています。また、「そう思わない計」は「あり」が「なし」を5.4ポイント上回っています。

外国人が近所に引越してくることは、不安であるという考え方

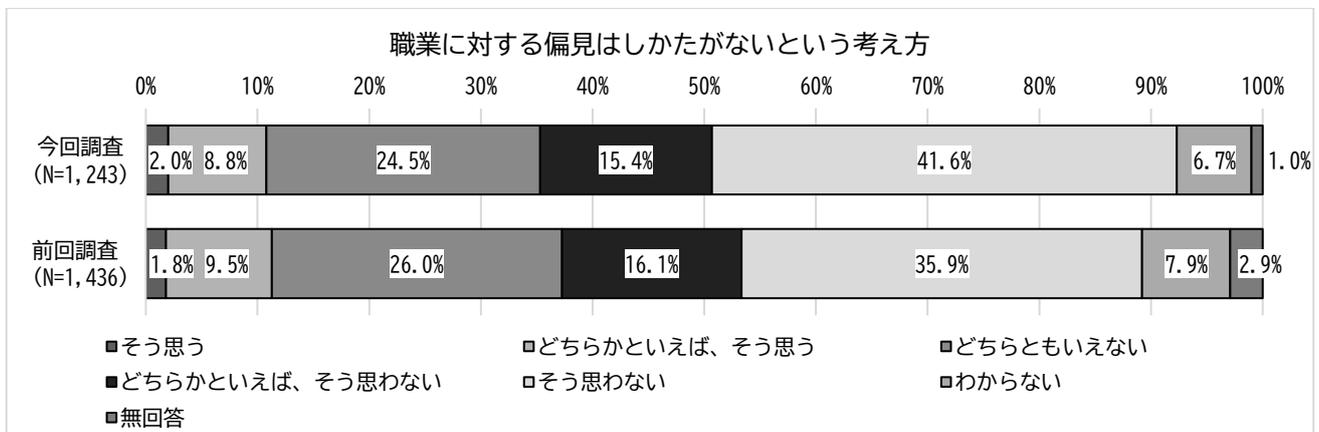


- そう思う
- どちらかといえば、そう思う
- どちらかといえば、そう思わない
- どちらともいえない
- 無回答
- どちらかといえば、そう思わない
- わからない

## ⑪ 職業への偏見について

### ■ 全体

「そう思わない計」は57.0%で、「そう思う計」の10.8%に比べ46.2ポイント上回っています。前回調査と比較すると、「そう思わない計」が5.0ポイント増加しています。



### ■ 性別

「そう思う計」は「男性」が12.2%、「女性」が9.8%で「男性」が「女性」を2.4ポイント上回っています。また、「そう思わない計」は「男性」が59.7%、「女性」が55.4%で、「男性」が「女性」を4.3ポイント上回っています。

### ■ 年齢別

「そう思う計」は「19歳以下」が29.0%でもっとも高く、次いで「20～29歳」が21.0%、「30～39歳」が16.2%となっており、「60～69歳」が5.3%でもっとも低くなっています。また、「そう思わない計」は「60～69歳」が62.1%でもっとも高く、次いで「20～29歳」が60.5%、「70～79歳」が58.6%となっており、「19歳以下」は42.1%でもっとも低くなっています。

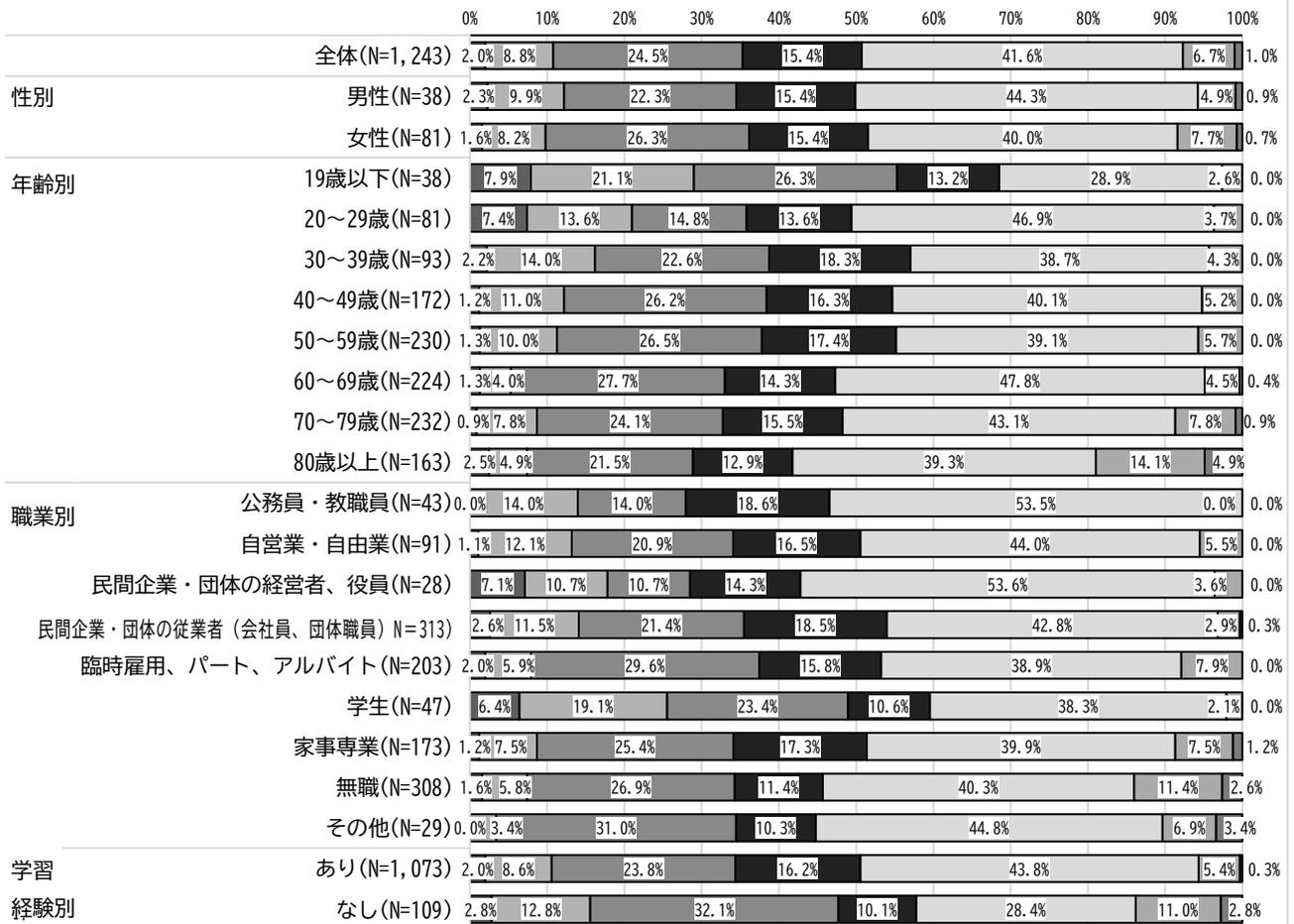
### ■ 職業別

「そう思う計」は「学生」が27.5%でもっとも高く、次いで「民間企業・団体の経営者、役員」が17.8%、「民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)」が14.1%となっており、「その他」が3.4%でもっとも低くなっています。また、「そう思わない計」は「公務員・教職員」が72.1%でもっとも高く、次いで「民間企業・団体の経営者、役員」が67.9%、「民間企業・団体の従業者」が61.3%となっており、「学生」は48.9%でもっとも低くなっています。

### ■ 学習経験別

「そう思う計」は「なし」が「あり」を5.0ポイント上回っています。また、「そう思わない計」は「あり」が「なし」を21.5ポイント上回っています。

### 職業に対する偏見はしかたがないという考え方

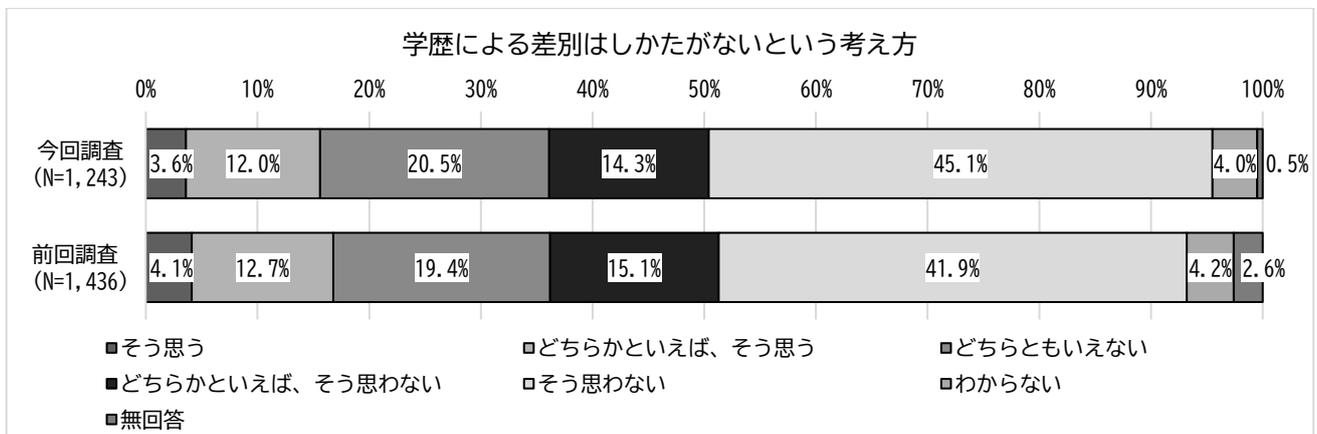


- そう思う
- どちらかといえば、そう思う
- どちらともいえない
- どちらかといえば、そう思わない
- そう思わない
- わからない
- 無回答

## ⑫ 学歴への偏見について

### ■ 全体

「そう思わない計」は59.4%で、「そう思う計」の15.6%に比べ43.8ポイント上回っています。前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



### ■ 性別

「そう思う計」は「男性」が17.7%、「女性」が14.1%で、「男性」が「女性」を3.6ポイント上回っています。また、「そう思わない計」に大きな変化はみられません。

### ■ 年齢別

「そう思う計」は「19歳以下」が39.5%でもっとも高く、次いで「20～29歳」が22.2%、「30～39歳」が19.4%となっており、「70～79歳」が11.2%でもっとも低くなっています。また、「そう思わない計」は「20～29歳」が66.7%でもっとも高く、次いで「30～39歳」が65.6%、「60～69歳」が62.5%となっており、「19歳以下」は34.2%でもっとも低くなっています。

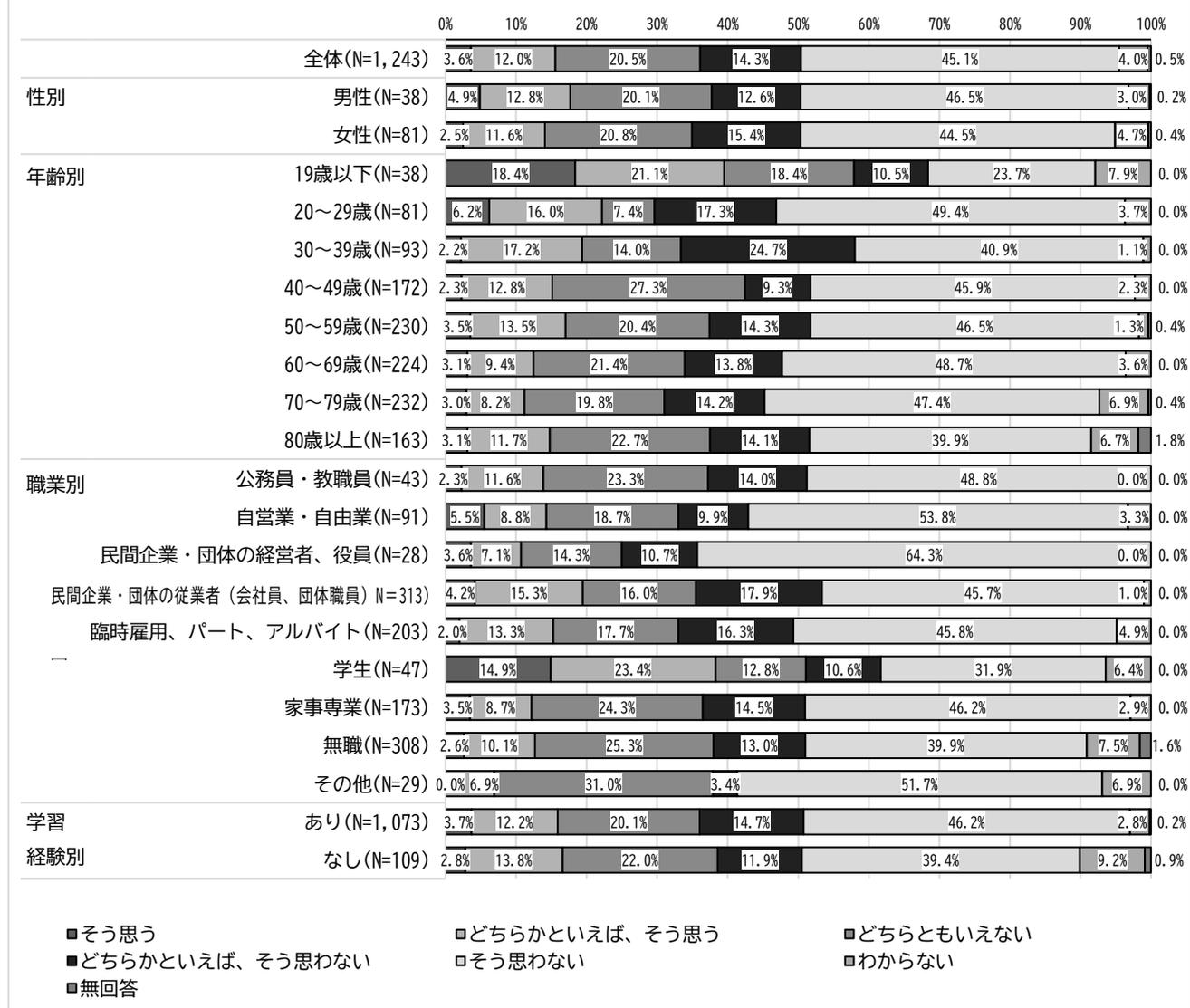
### ■ 職業別

「そう思う計」は「学生」が38.3%でもっとも高く、次いで「民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)」が19.5%、「臨時雇用、パート、アルバイト」が15.3%となっており、「その他」が6.9%でもっとも低くなっています。また、「そう思わない計」は「民間企業・団体の経営者、役員」が75.0%でもっとも高く、次いで「自営業・自由業」が63.7%、「民間企業・団体の従業者」が63.6%となっており、「学生」は42.5%でもっとも低くなっています。

### ■ 学習経験別

「そう思う計」は「なし」が「あり」を0.7ポイント上回っています。また、「そう思わない計」は「あり」が「なし」を9.6ポイント上回っています。

### 学歴による差別はしかたがないという考え方



#### 【①～⑫全体】

「そう思う計」は「⑥権利のみを主張して他人の迷惑を考えない人が増えたという考え方」が 64.4%でもっとも高く、次いで「①妻や子を養うのは男の責任であるという考え方」が 43.9%、「⑩外国人が近所に引越してくることは不安であるという考え方」が 25.9%となっています。

また、「そう思わない計」は「③障がい者はハンデがあり、できないことが多いので、社会進出は控えたほうがよいという考え方」が 78.5%でもっとも高く、次いで「⑫学歴による差別はしかたがないという考え方」が 59.4%、「⑪職業に対する偏見はしかたがないという考え方」が 57.0%となっています。

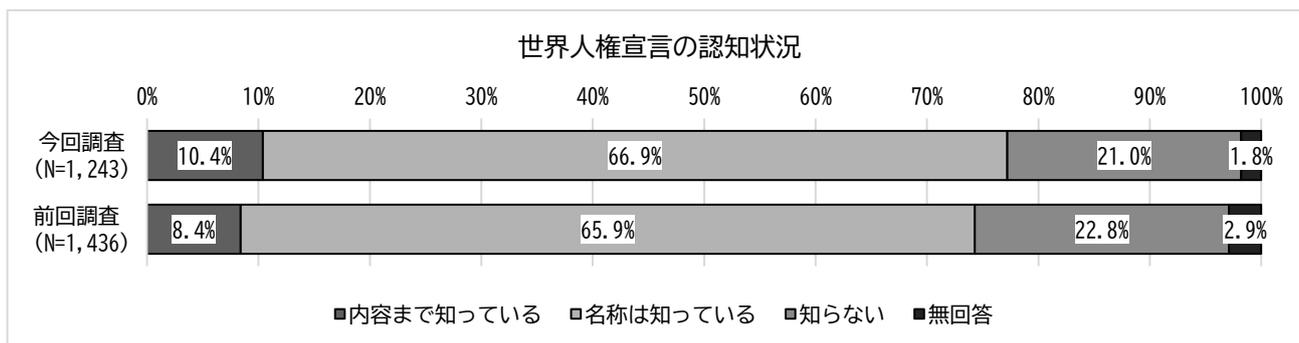
問 16 あなたは、次にあげる①～⑯の条約や法律、条例などをご存知ですか  
 (①～⑯について該当する番号を選択してください)。

「内容まで知っている」「名称は知っている」を合計した「知っている計」で比較すると、以下のようになります。

① 世界人権宣言

■ 全体

「内容まで知っている」10.4%、「名称は知っている」66.9%を合計した「知っている計」は 77.3%となっており、前回調査と比較すると、「知っている計」は 3.0 ポイント増加しています。



■ 性別

「知っている計」は「男性」が 78.8%、「女性」が 76.4%で、「男性」が「女性」を 2.4 ポイント上回っています。

■ 年齢別

「知っている計」は「60～69 歳」が 84.0%でもっとも高く、次いで「30～39 歳」が 82.8%、「40～49 歳」が 80.8%となっており、「80 歳以上」は 64.4%でもっとも低くなっています。

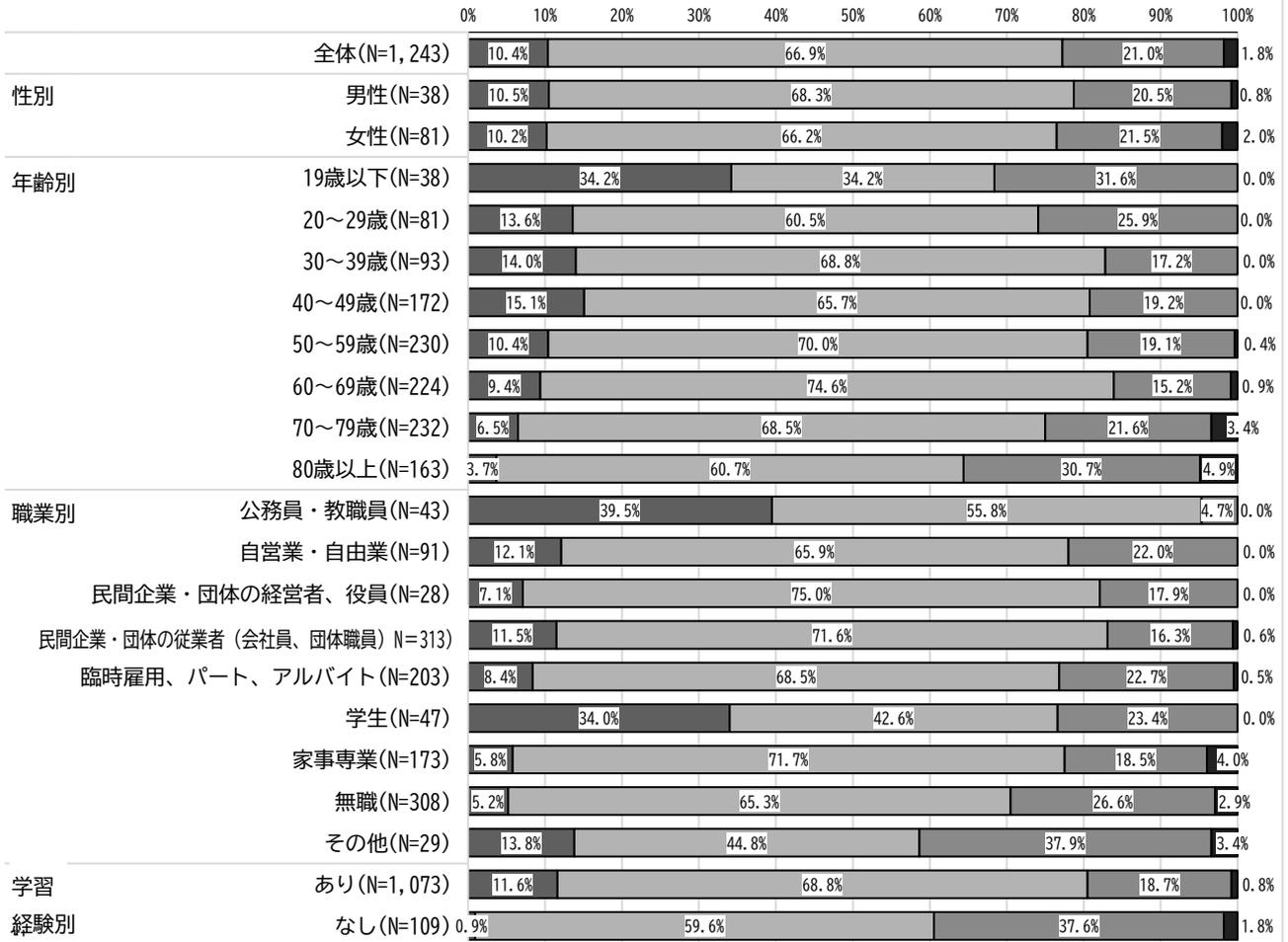
■ 職業別

「知っている計」は「公務員・教職員」が 95.3%でもっとも高く、次いで「民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)」が 83.1%、「民間企業・団体の経営者、役員」が 82.1%となっており、「その他」は 58.6%でもっとも低くなっています。

■ 学習経験別

「知っている計」は「あり」が「なし」を 19.9 ポイント上回っています。

### ①世界人権宣言の認知状況

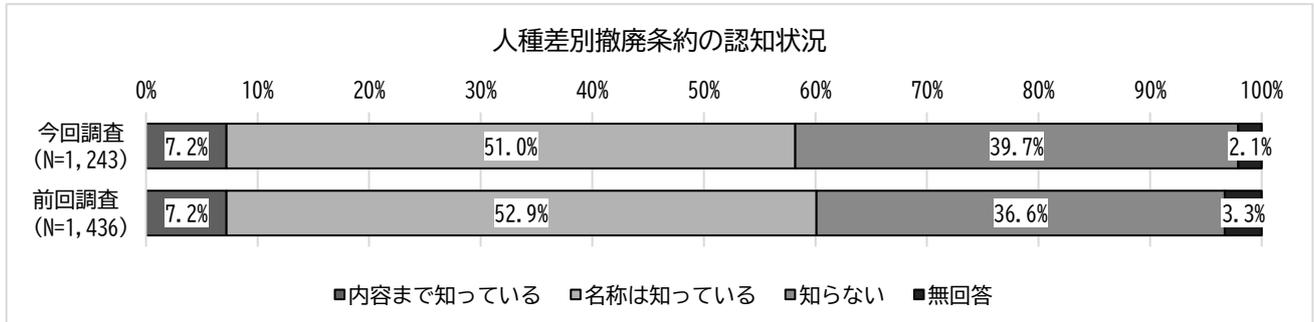


■内容まで知っている □名称は知っている ■知らない ■無回答

## ② 人種差別撤廃条約

### ■ 全体

「内容まで知っている」7.2%、「名称は知っている」51.0%を合計した「知っている計」は58.2%となっており、前回調査と比較すると、「知っている計」は1.9ポイント減少しています。



### ■ 性別

「知っている計」は「男性」が59.7%、「女性」が57.4%で、「男性」が「女性」を2.3ポイント上回っています。

### ■ 年齢別

「知っている計」は「30～39歳」が73.1%でもっとも高く、次いで「40～49歳」が70.3%、「19歳以下」が68.4%となっており、「80歳以上」は46.6%でもっとも低くなっています。

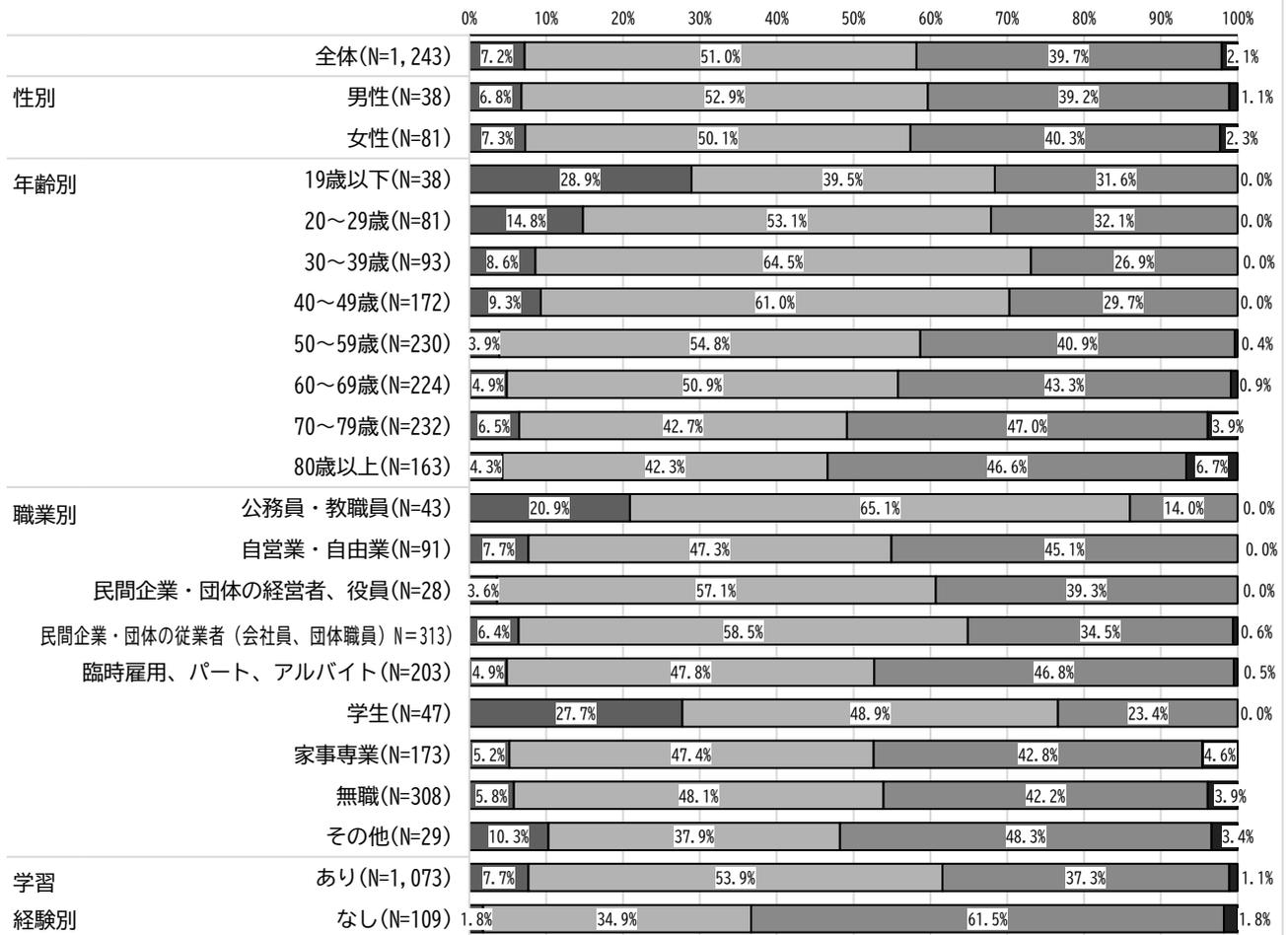
### ■ 職業別

「知っている計」は「公務員・教職員」が86.0%でもっとも高く、次いで「学生」が76.6%、「民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)」が64.9%となっており、「その他」は48.2%でもっとも低くなっています。

### ■ 学習経験別

「知っている計」は「あり」が「なし」を24.9ポイント上回っています。

## ②人種差別撤廃条約の認知状況

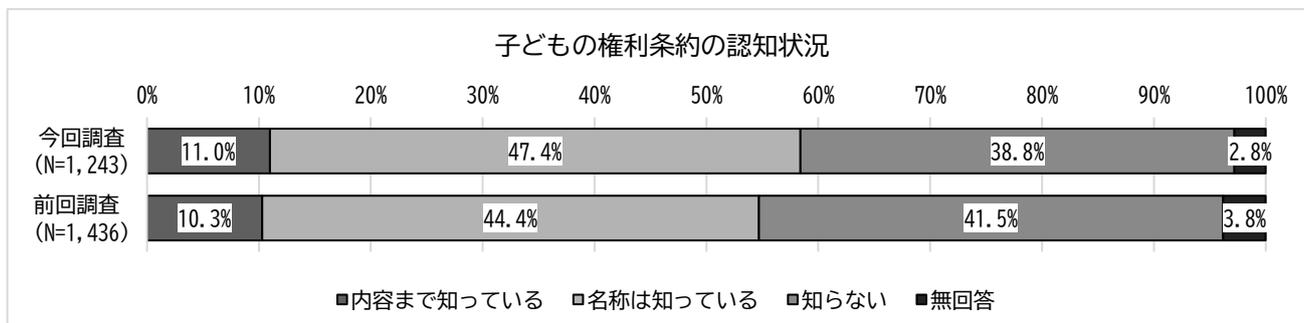


■内容まで知っている □名称は知っている □知らない ■無回答

### ③ 子どもの権利条約

#### ■ 全体

「内容まで知っている」11.0%、「名称は知っている」47.4%を合計した「知っている計」は 58.4%となっており、前回調査と比較すると、「知っている計」は 3.7 ポイント増加しています。



#### ■ 性別

「知っている計」は「女性」が 61.3%、「男性」が 54.9%で、「女性」が「男性」を 6.4 ポイント上回っています。

#### ■ 年齢別

「知っている計」は「30～39歳」が 77.5%でもっとも高く、次いで「20～29歳」が 71.6%、「40～49歳」が 70.3%となっており、「80歳以上」は 38.0%でもっとも低くなっています。

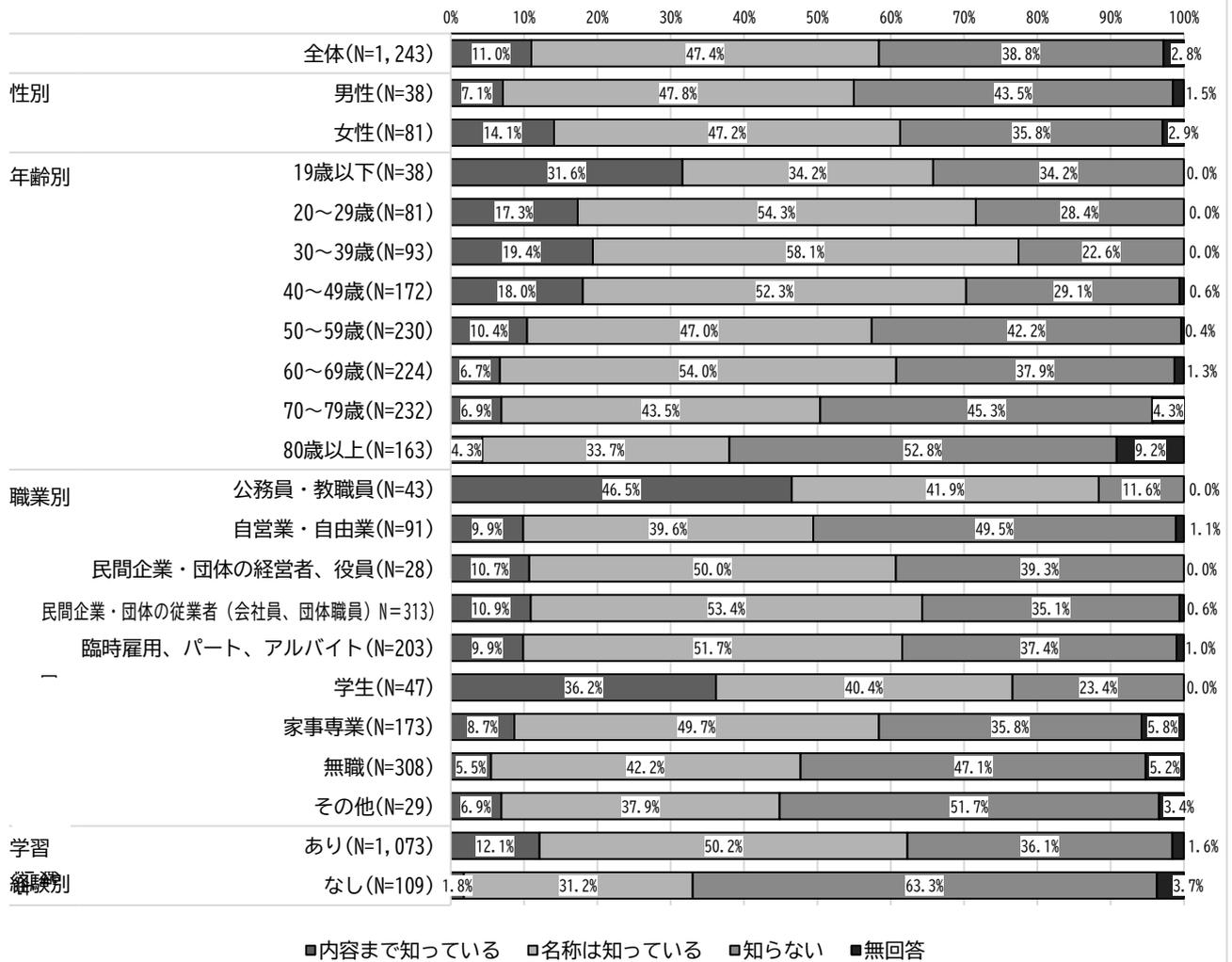
#### ■ 職業別

「知っている計」は「公務員・教職員」が 88.4%でもっとも高く、次いで「学生」が 76.6%、「民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)」が 64.3%となっており、「その他」は 44.8%でもっとも低くなっています。

#### ■ 学習経験別

「知っている計」は「あり」が「なし」を 29.3 ポイント上回っています。

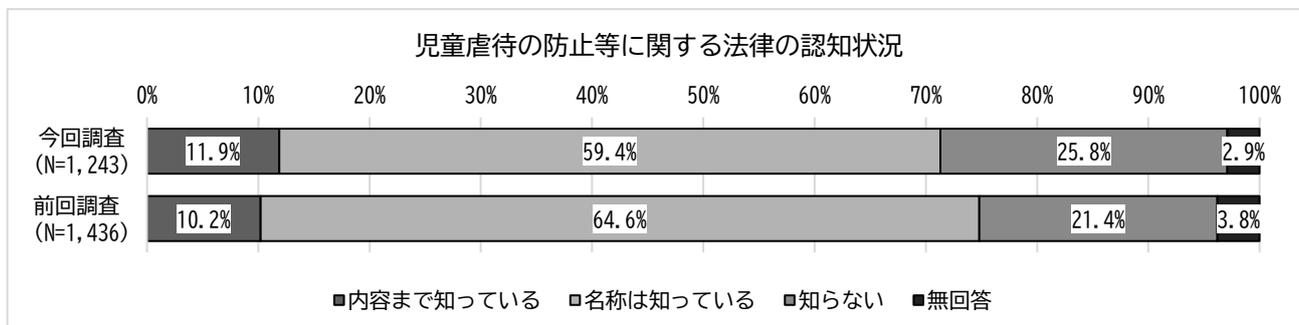
### ③子どもの権利条約の認知状況



#### ④ 児童虐待の防止等に関する法律

##### ■ 全体

「内容まで知っている」11.9%、「名称は知っている」59.4%を合計した「知っている計」は 71.3%となっており、前回調査と比較すると、「知っている計」は 3.5 ポイント減少しています。



##### ■ 性別

「知っている計」に大きな差はみられません。

##### ■ 年齢別

「知っている計」は「40～49歳」が 77.9%でもっとも高く、次いで「60～69歳」が 76.4%、「50～59歳」が 75.6%となっており、「80歳以上」は 58.9%でもっとも低くなっています。

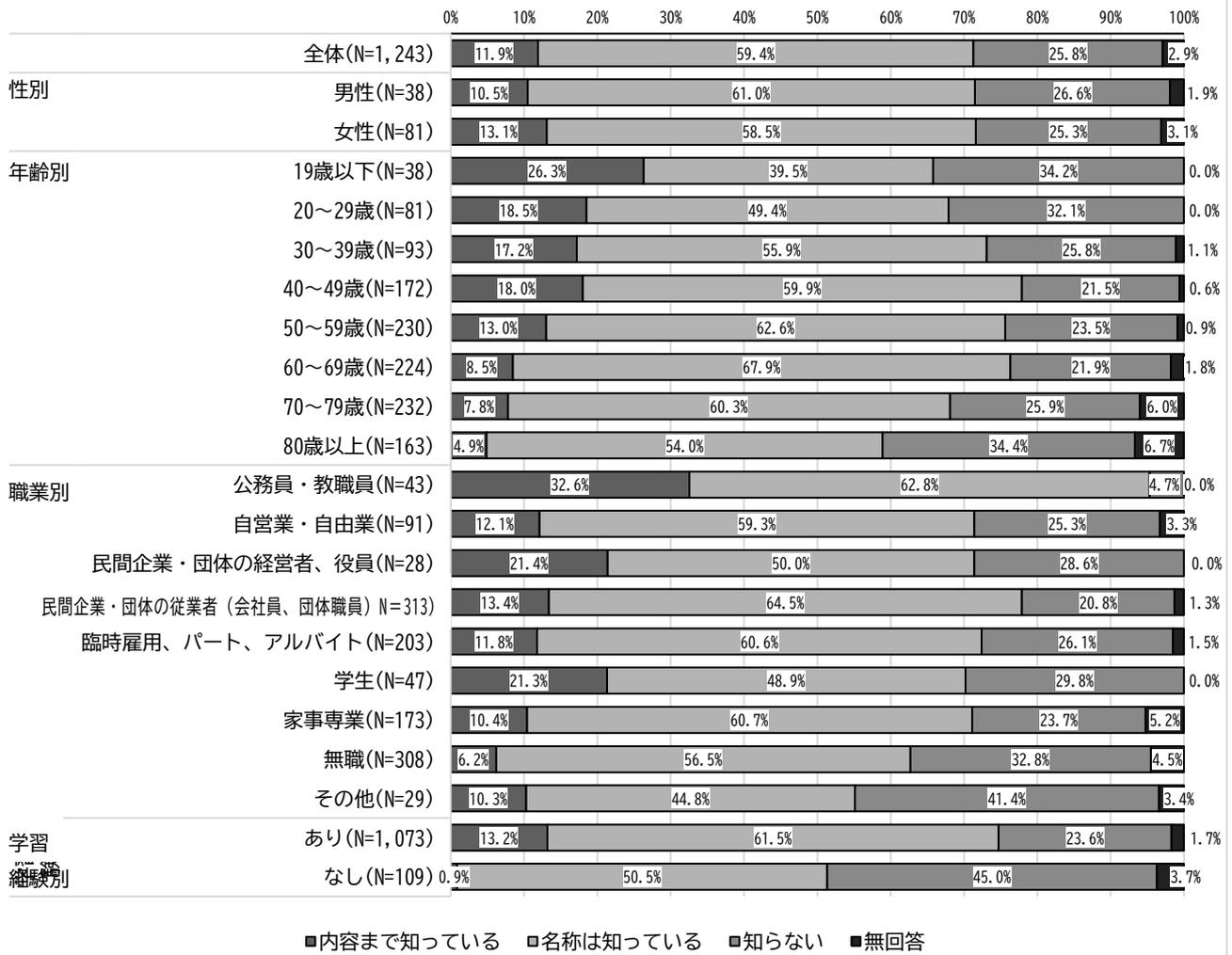
##### ■ 職業別

「知っている計」は「公務員・教職員」が 95.4%でもっとも高く、次いで「民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)」が 77.9%、「臨時雇用、パート、アルバイト」が 72.4%となっており、「その他」は 55.1%でもっとも低くなっています。

##### ■ 学習経験別

「知っている計」は「あり」が「なし」を 23.3 ポイント上回っています。

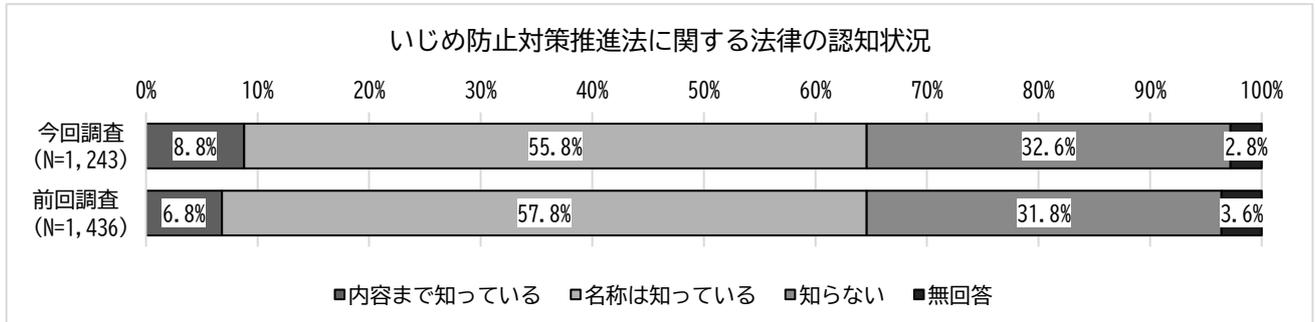
#### ④児童虐待の防止等に関する法律の認知状況



## ⑤ いじめ防止対策推進法

### ■ 全体

「内容まで知っている」8.8%、「名称は知っている」55.8%を合計した「知っている計」は 64.6%となっており、前回調査と比較すると、「知っている計」の変化はありません。



### ■ 性別

「知っている計」は「女性」が 66.2%、「男性」が 62.8%で、「女性」が「男性」を 3.4 ポイント上回っています。

### ■ 年齢別

「知っている計」は「20～29歳」が 71.6%でもっとも高く、次いで「40～49歳」が 71.0%、「50～59歳」が 70.8%となっており、「80歳以上」は 52.2%でもっとも低くなっています。

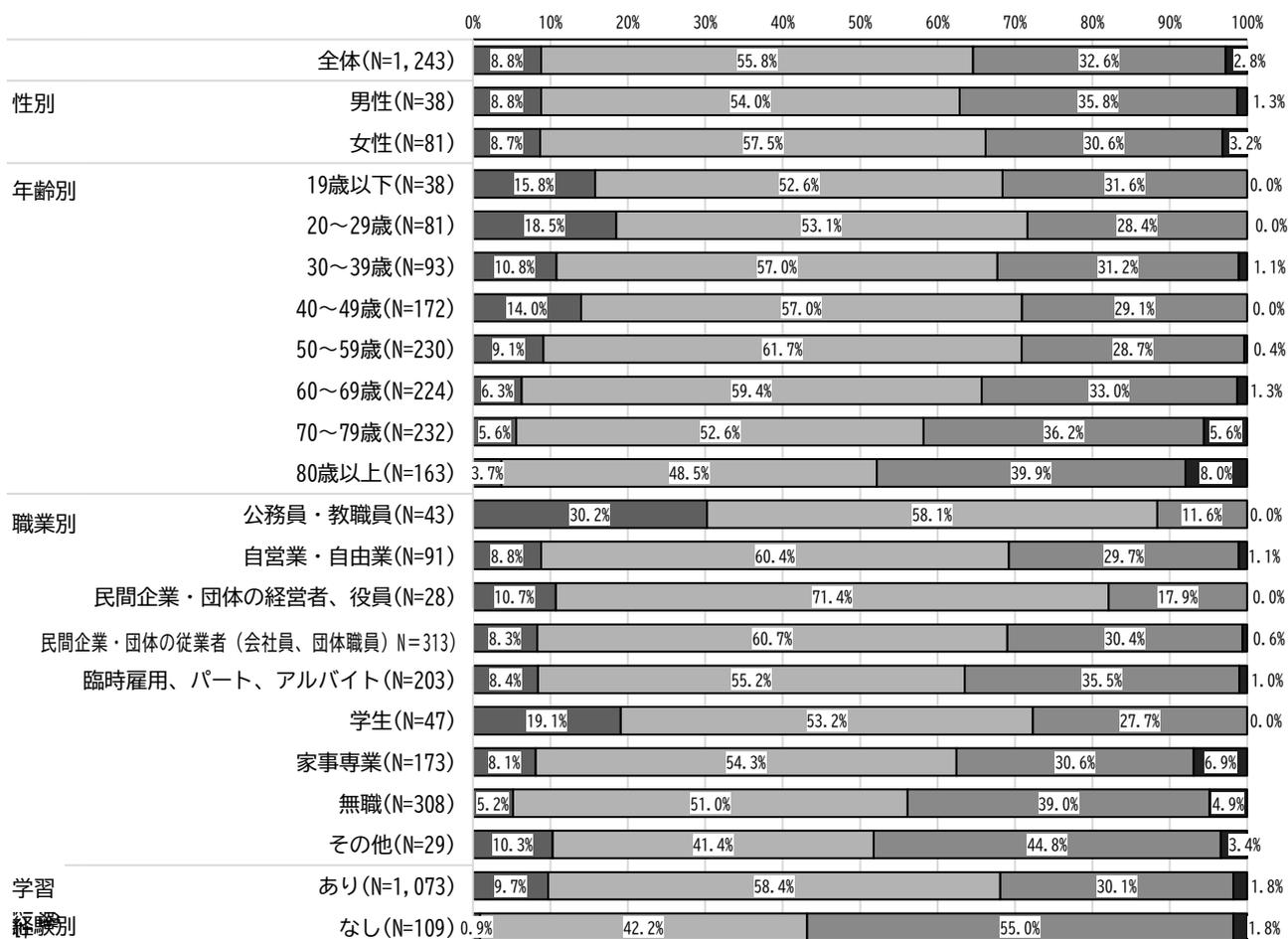
### ■ 職業別

「知っている計」は「公務員・教職員」が 88.3%でもっとも高く、次いで「民間企業・団体の経営者、役員」が 82.1%、「学生」が 72.3%となっており、「その他」は 51.7%でもっとも低くなっています。

### ■ 学習経験別

「知っている計」は「あり」が「なし」を 25.0 ポイント上回っています。

### ⑤いじめ防止対策推進法の認知状況

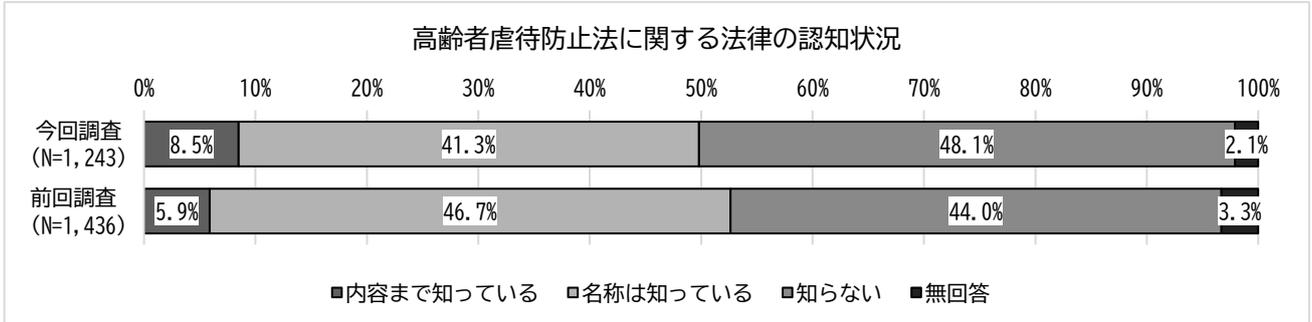


■内容まで知っている □名称は知っている □知らない ■無回答

⑥ 高齢者虐待防止法(高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律)

■ 全体

「内容まで知っている」8.5%、「名称は知っている」41.3%を合計した「知っている計」は49.8%となっており、前回調査と比較すると、「知っている計」は2.8ポイント減少しています。



■ 性別

「知っている計」は「女性」が52.4%、「男性」が47.0%で、「女性」が「男性」を5.4ポイント上回っています。

■ 年齢別

「知っている計」は「60～69歳」が57.2%でもっとも高く、次いで「80歳以上」が55.8%、「50～59歳」が54.7%となっており、「19歳以下」は34.3%でもっとも低くなっています。

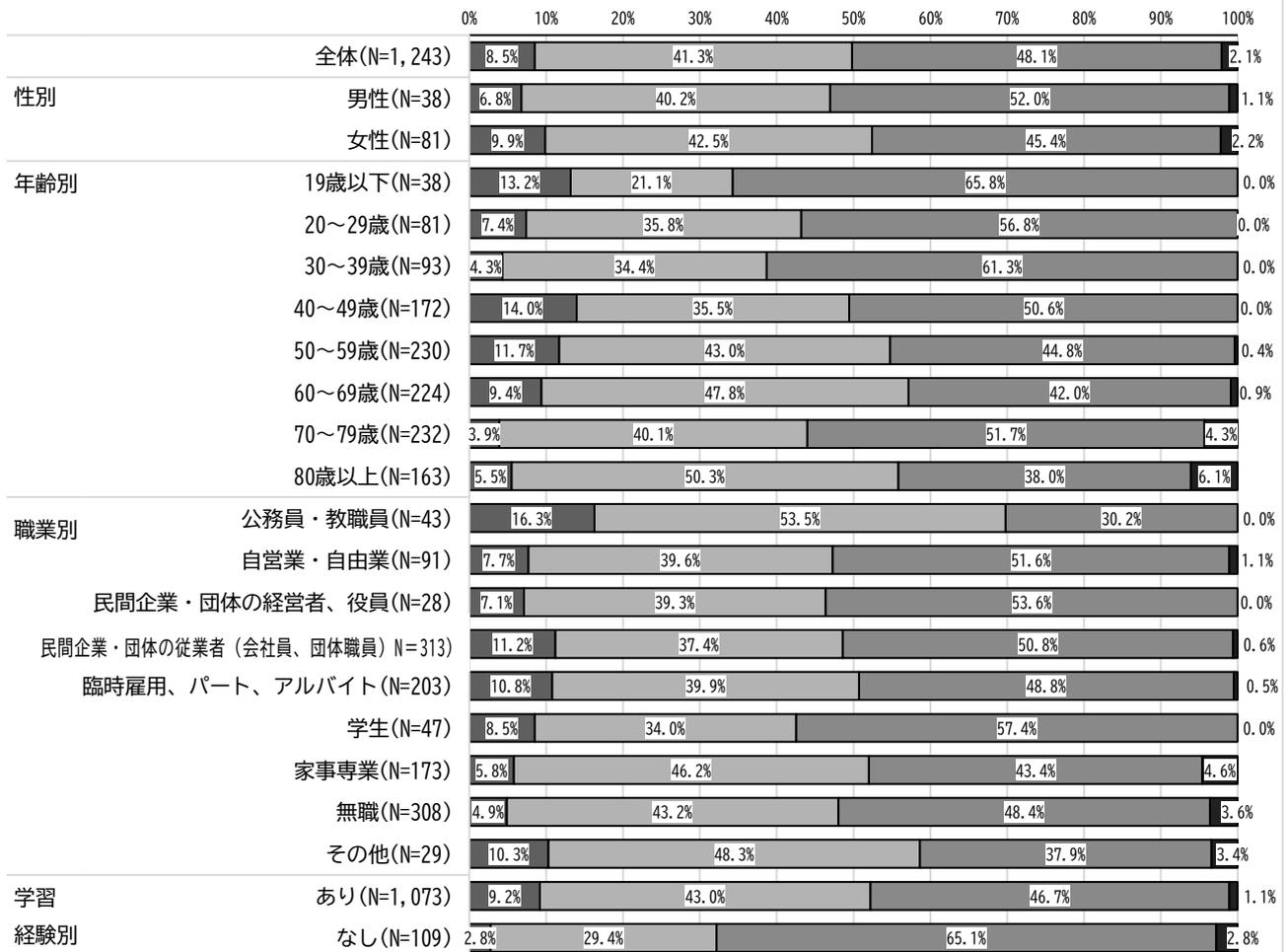
■ 職業別

「知っている計」は「公務員・教職員」が69.8%でもっとも高く、次いで「その他」が58.6%、「家事専業」が52.0%となっており、「学生」は42.5%でもっとも低くなっています。

■ 学習経験別

「知っている計」は「あり」が「なし」を20.0ポイント上回っています。

### ⑥高齢者虐待防止法の認知状況

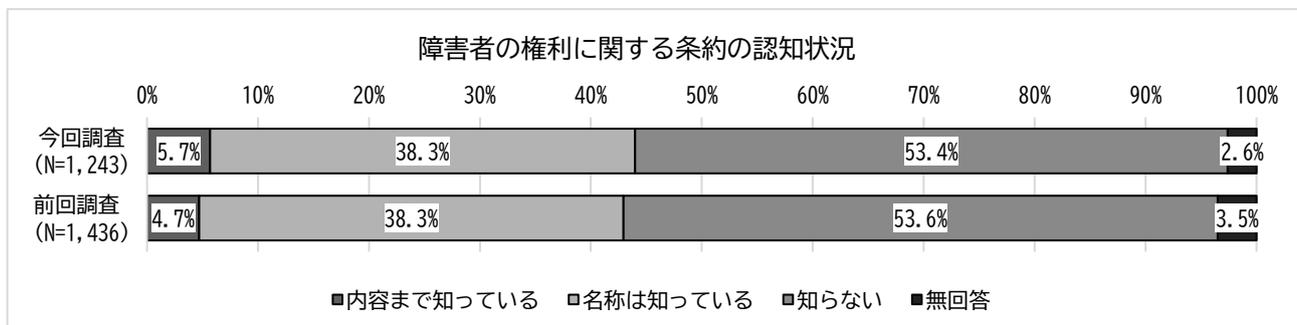


■内容まで知っている □名称は知っている □知らない ■無回答

## ⑦ 障害者の権利に関する条約

### ■ 全体

「内容まで知っている」5.7%、「名称は知っている」38.3%を合計した「知っている計」は 44.0%となっており、前回調査と比較すると、「知っている計」は 1.0 ポイント増加しています。



### ■ 性別

「知っている計」は「女性」が 45.2%、「男性」が 42.3%で、「女性」が「男性」を 2.9 ポイント上回っています。

### ■ 年齢別

「知っている計」は「20～29歳」が 55.6%でもっとも高く、次いで「40～49歳」が 50.0%、「30～39歳」が 47.3%となっており、「80歳以上」は 36.8%でもっとも低くなっています。

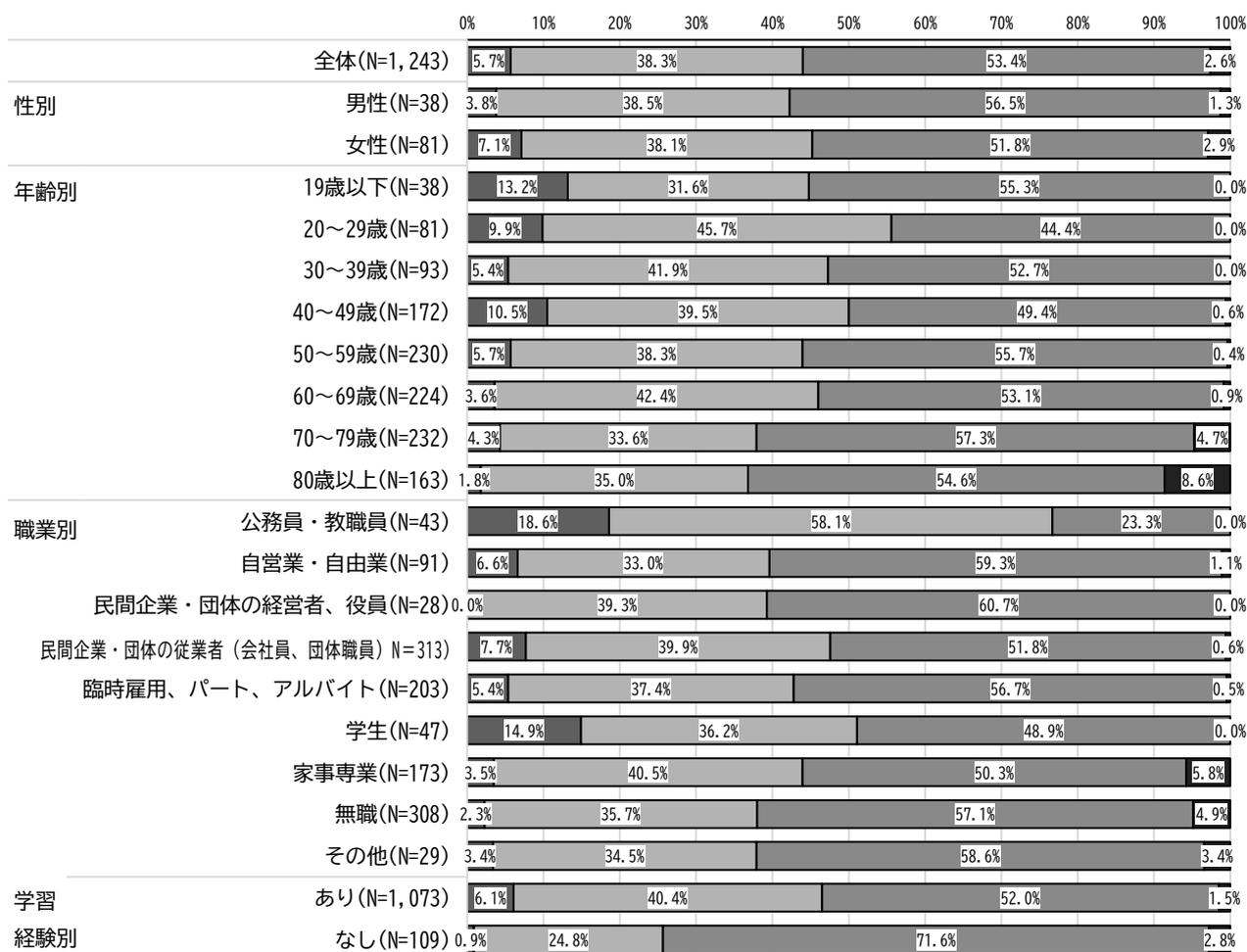
### ■ 職業別

「知っている計」は「公務員・教職員」が 76.7%でもっとも高く、次いで「学生」が 51.1%、「民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)」が 47.6%となっており、「その他」は 37.9%でもっとも低くなっています。

### ■ 学習経験別

「知っている計」は「あり」が「なし」を 20.8 ポイント上回っています。

### ⑦障害者の権利に関する条約の認知状況

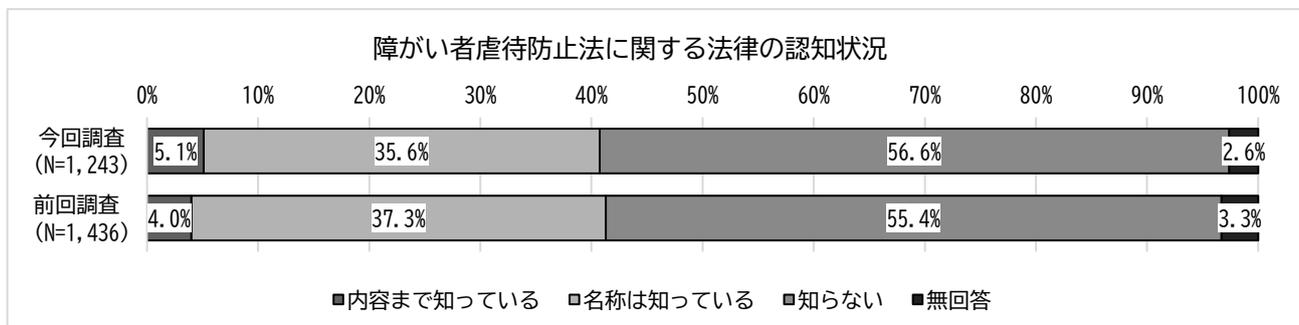


■内容まで知っている □名称は知っている □知らない ■無回答

⑧ 障害者虐待防止法(障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律)

■ 全体

「内容まで知っている」5.1%、「名称は知っている」35.6%を合計した「知っている計」は40.7%となっており、前回調査と比較すると、「知っている計」は0.6ポイント減少しています。



■ 性別

「知っている計」は「女性」が41.5%、「男性」が39.7%で、「女性」が「男性」を1.8ポイント上回っています。

■ 年齢別

「知っている計」は「20～29歳」が49.4%でもっとも高く、次いで「60～69歳」が49.1%、「50～59歳」が44.8%となっており、「80歳以上」は31.3%でもっとも低くなっています。

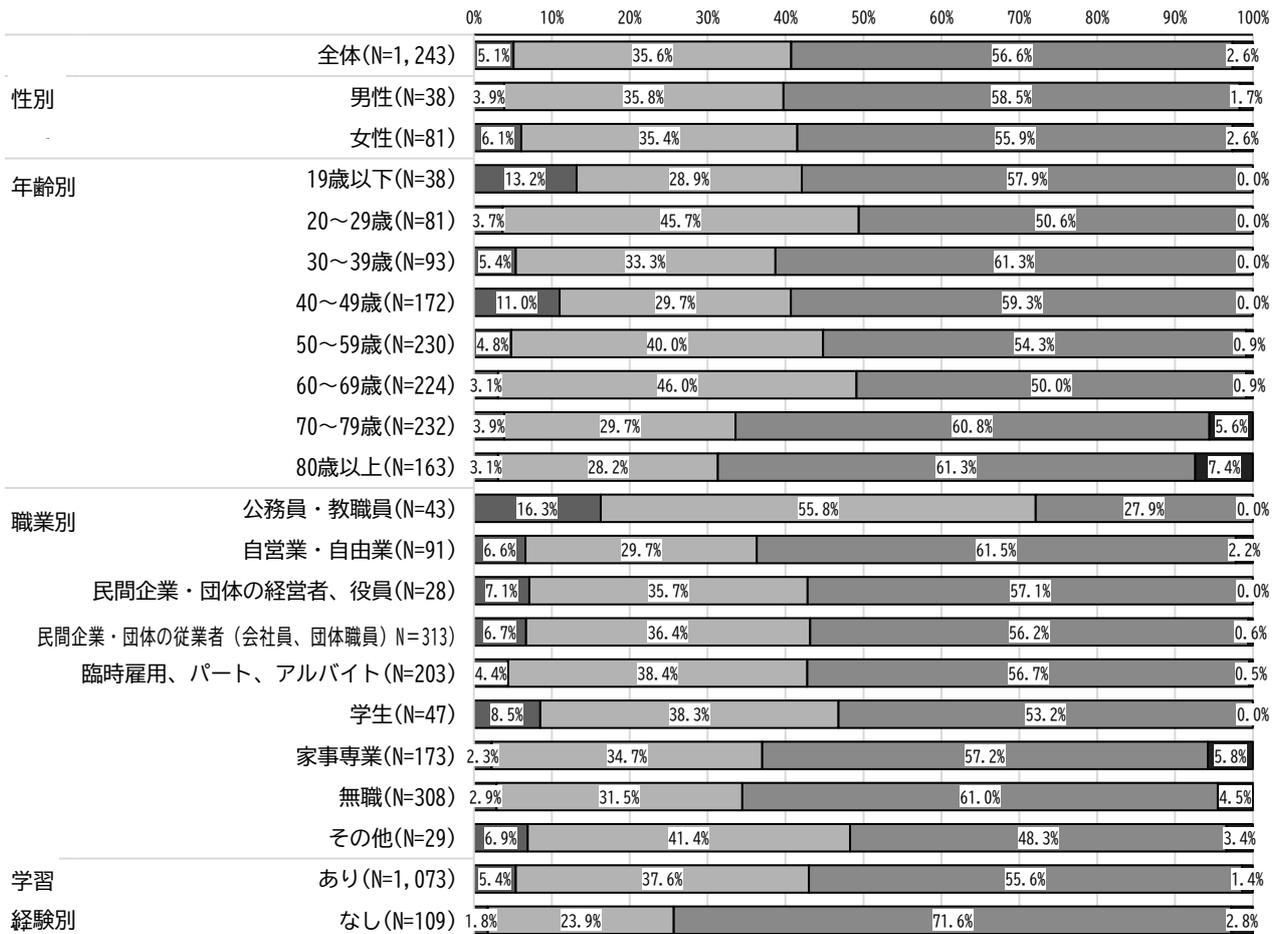
■ 職業別

「知っている計」は「公務員・教職員」が72.1%でもっとも高く、次いで「その他」が48.3%、「学生」が46.8%となっており、「無職」は34.4%でもっとも低くなっています。

■ 学習経験別

「知っている計」は「あり」が「なし」を17.3ポイント上回っています。

### ⑧障害者虐待防止法の認知状況

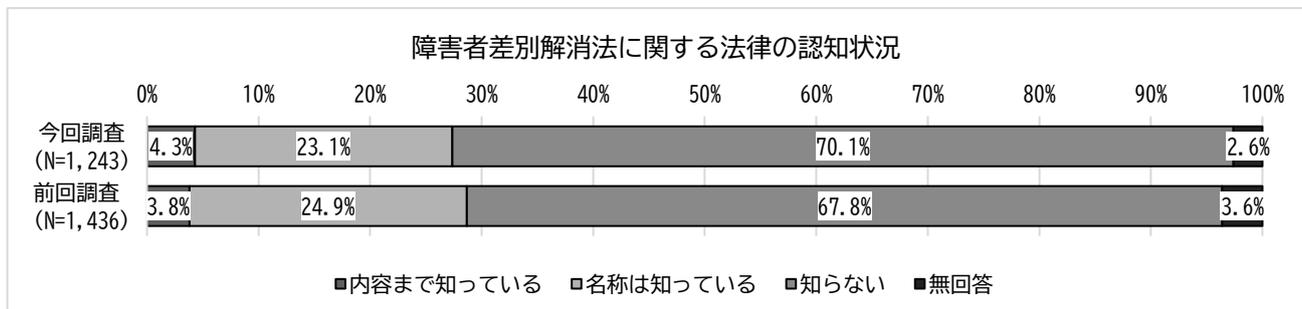


■内容まで知っている □名称は知っている □知らない ■無回答

### ⑨-1 障害者差別解消法(障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律)

#### ■ 全体

「内容まで知っている」4.3%、「名称は知っている」23.1%を合計した「知っている計」は27.4%となっており、前回調査と比較すると、「知っている計」は1.3ポイント減少しています。



#### ■ 性別

「知っている計」は「女性」が28.1%、「男性」が26.3%で、「女性」が「男性」を1.8ポイント上回っています。

#### ■ 年齢別

「知っている計」は「19歳以下」が47.3%でもっとも高く、次いで「20～29歳」が33.3%、「40～49歳」が31.4%となっており、「80歳以上」は18.4%でもっとも低くなっています。

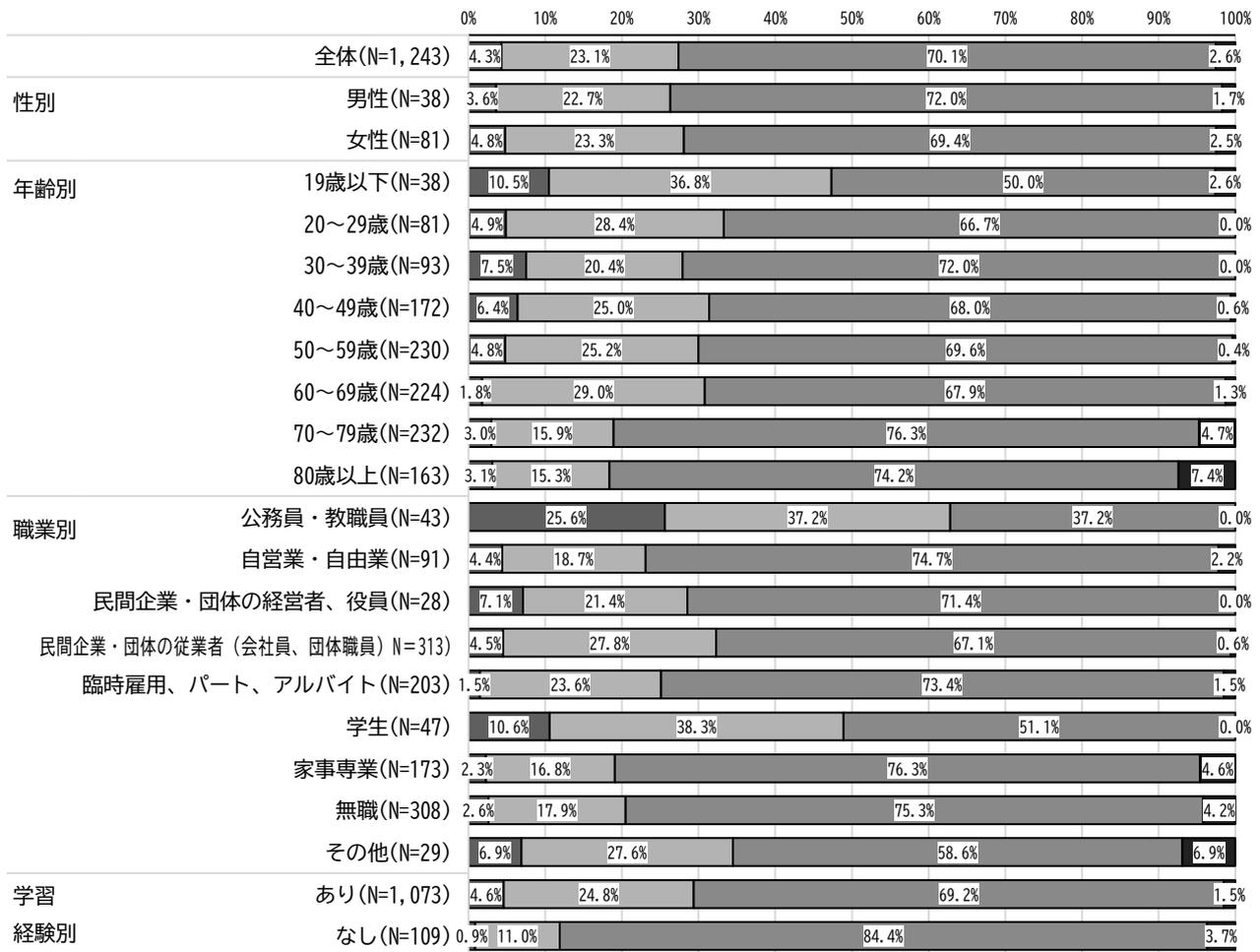
#### ■ 職業別

「知っている計」は「公務員・教職員」が62.8%でもっとも高く、次いで「学生」が48.9%、「その他」が34.5%となっており、「家事専業」は19.1%でもっとも低くなっています。

#### ■ 学習経験別

「知っている計」は「あり」が「なし」を17.5ポイント上回っています。

⑨-1 障害者差別解消法の認知状況

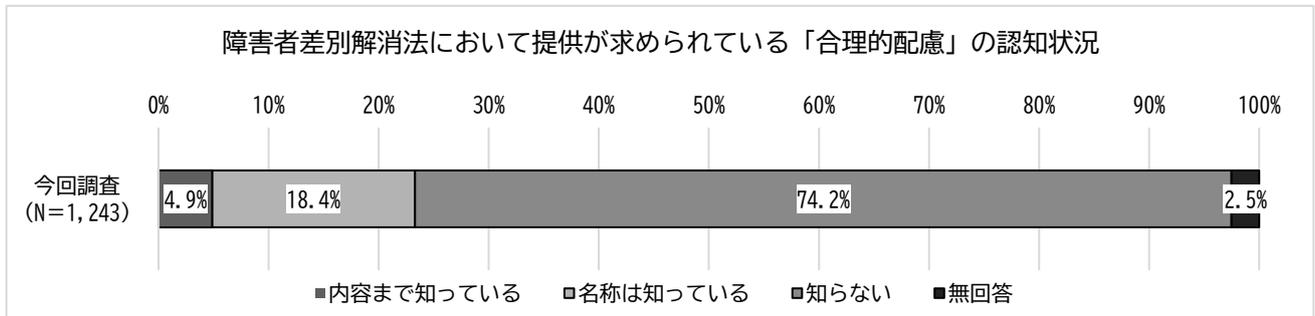


■内容まで知っている □名称は知っている □知らない ■無回答

## ⑨-2 障害者差別解消法において提供が求められている「合理的配慮」

### ■ 全体

「内容まで知っている」4.9%、「名称は知っている」18.4%を合計した「知っている計」は 23.3%となっています。



### ■ 性別

「知っている計」は「男性」が 23.1%、「女性」が 23.0%で、ほとんど差はありません。

### ■ 年齢別

「知っている計」は「19歳以下」が 36.9%でもっとも高く、次いで「20～29歳」が 32.1%、「40～49歳」が 30.2%となっており、「80歳以上」は 12.8%でもっとも低くなっています。

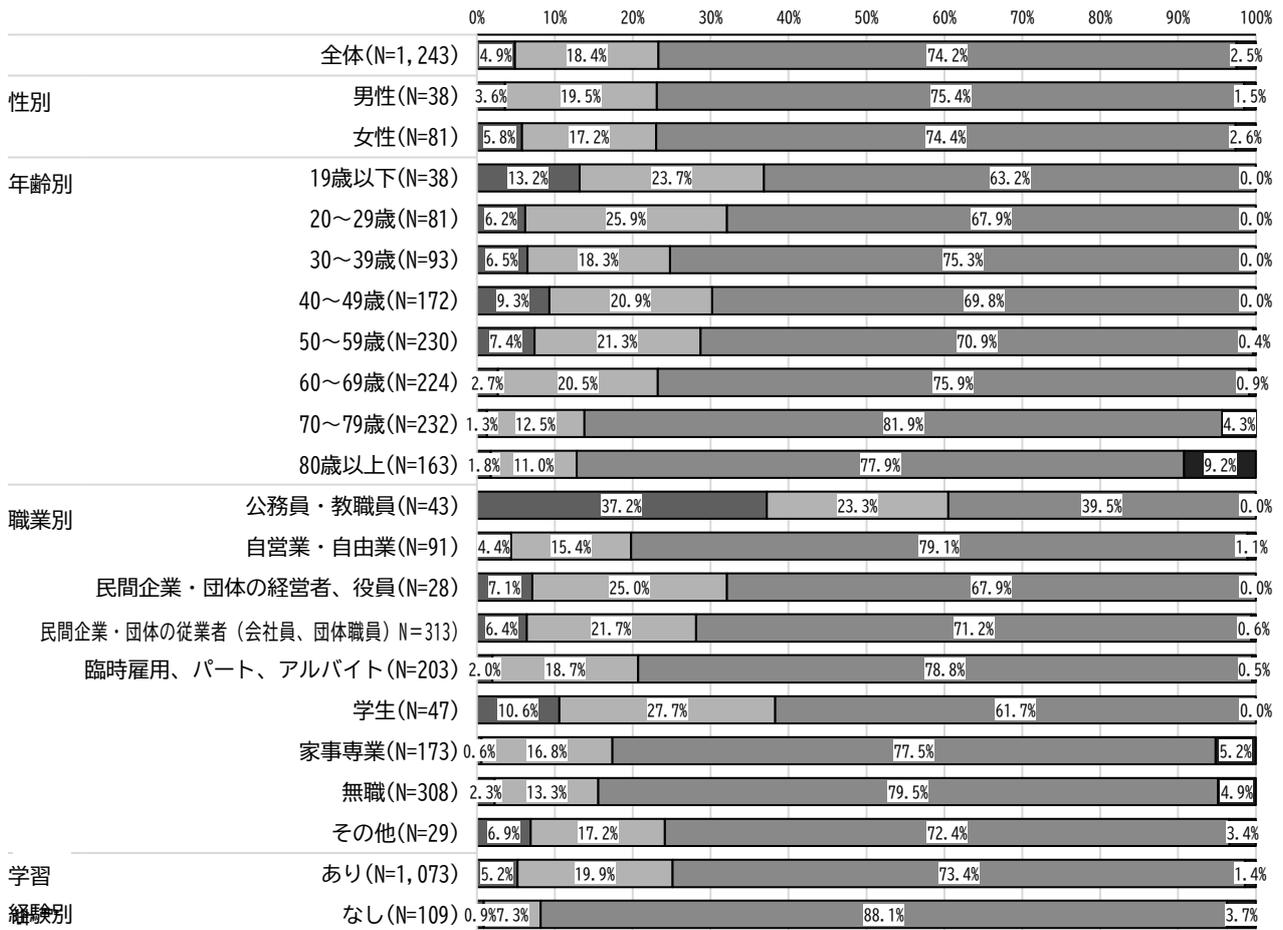
### ■ 職業別

「知っている計」は「公務員・教職員」が 60.5%でもっとも高く、次いで「学生」が 38.3%、「民間企業・団体の経営者、役員」が 32.1%となっており、「無職」は 15.6%でもっとも低くなっています。

### ■ 学習経験別

「知っている計」は「あり」が「なし」を 16.9 ポイント上回っています。

⑨-2 障害者差別解消法において提供が求められている「合理的配慮」の認知状況

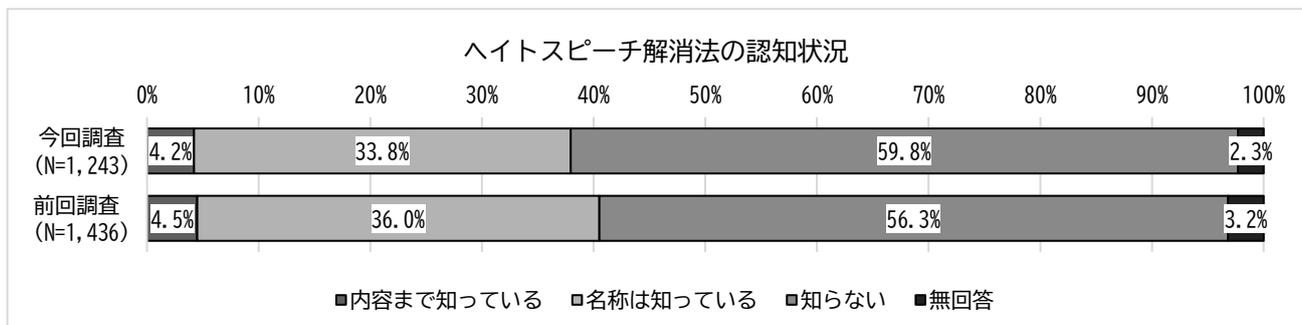


■内容まで知っている □名称は知っている □知らない ■無回答

⑩ ハイトスピーチ解消法(本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律)

■ 全体

「内容まで知っている」4.2%、「名称は知っている」33.8%を合計した「知っている計」は 38.0%となっており、前回調査と比較すると、2.5 ポイント減少しています。



■ 性別

「知っている計」は「男性」が 42.1%、「女性」が 34.8%で、「男性」が「女性」を 7.3 ポイント上回っています。

■ 年齢別

「知っている計」は「60～69歳」が 47.3%でもっとも高く、次いで「40～49歳」が 44.2%、「50～59歳」が 40.8%となっており、「80歳以上」は 27.0%でもっとも低くなっています。

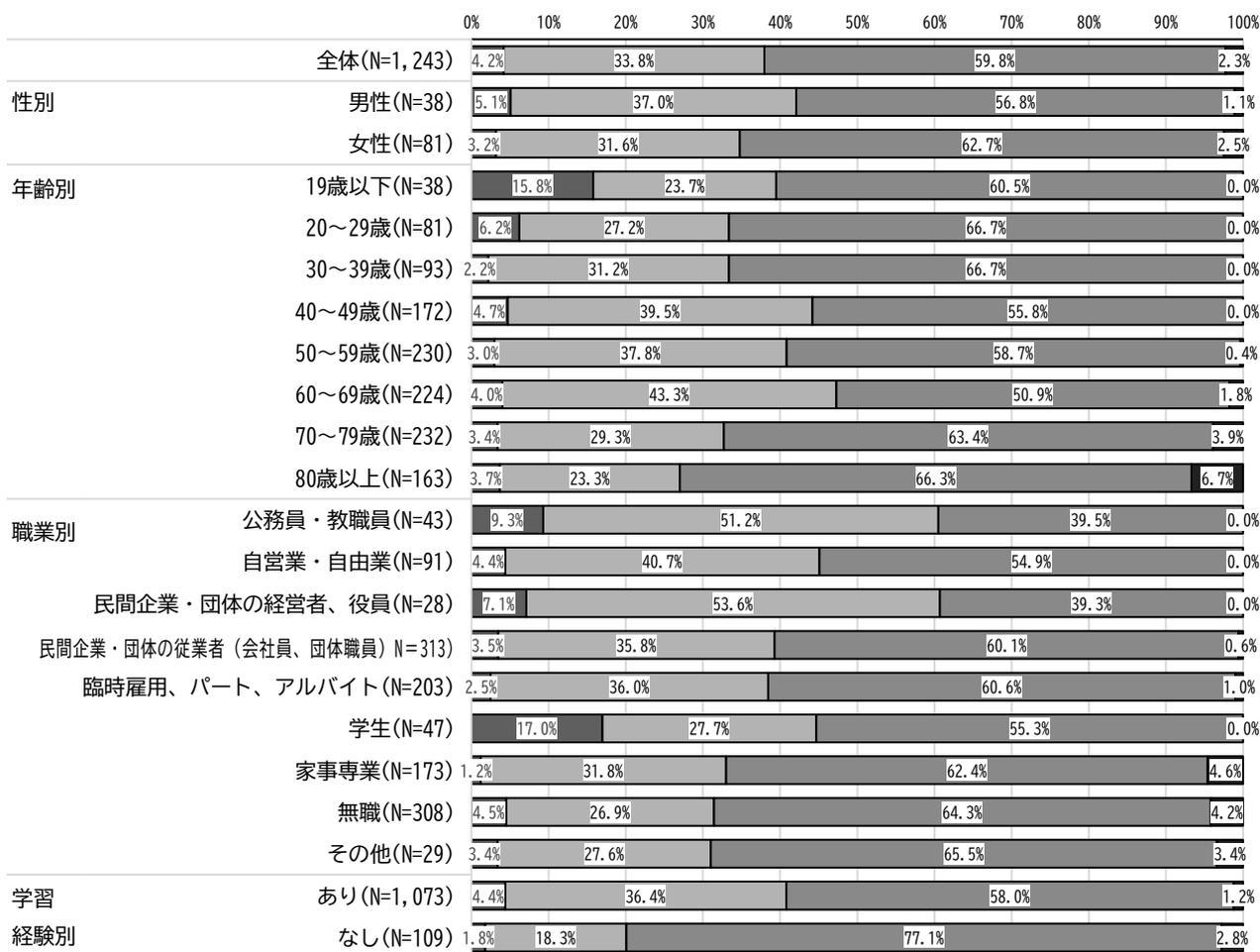
■ 職業別

「知っている計」は「民間企業・団体の経営者、役員」が 60.7%でもっとも高く、次いで「公務員・教職員」が 60.5%、「自営業・自由業」が 45.1%となっており、「その他」は 31.0%でもっとも低くなっています。

■ 学習経験別

「知っている計」は「あり」が「なし」を 20.7 ポイント上回っています。

⑩ヘイトスピーチ解消法の認知状況

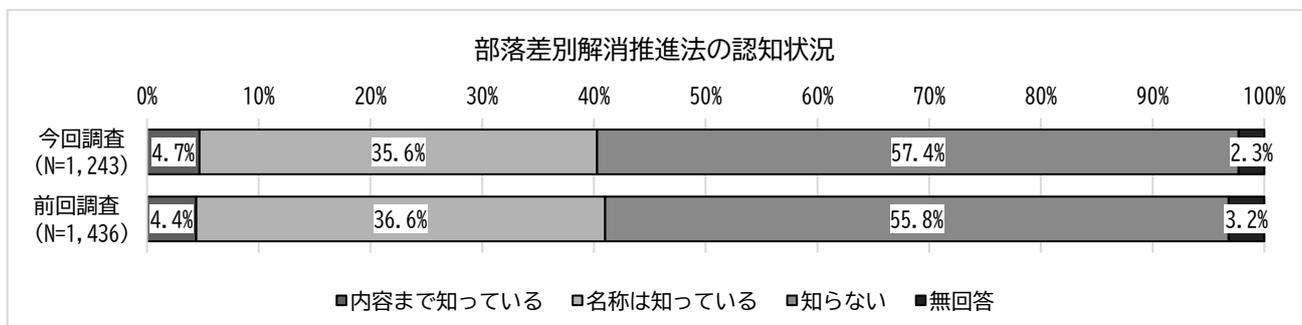


■内容まで知っている □名称は知っている □知らない ■無回答

## ⑪ 部落差別解消推進法(部落差別の解消の推進に関する法律)

### ■ 全体

「内容まで知っている」4.7%、「名称は知っている」35.6%を合計した「知っている計」は 40.3%となっており、前回調査と比較すると、ほとんど変化はありません。



### ■ 性別

「知っている計」は「男性」が43.7%、「女性」が37.7%で、「男性」が「女性」を6.0ポイント上回っています。

### ■ 年齢別

「知っている計」は「60～69歳」が48.3%でもっとも高く、次いで「19歳以下」が47.4%、「50～59歳」が43.4%となっており、「70～79歳」は32.7%でもっとも低くなっています。

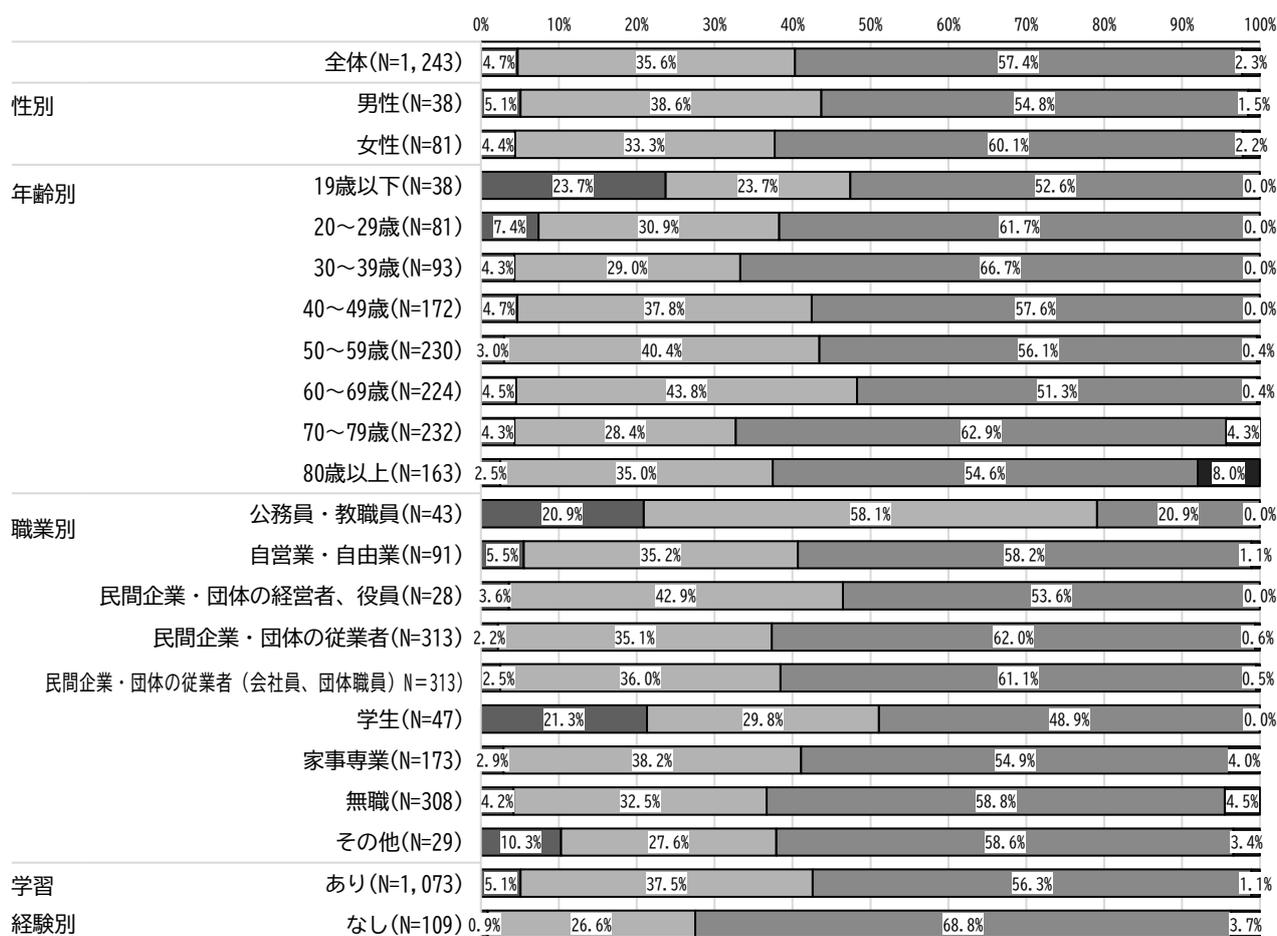
### ■ 職業別

「知っている計」は「公務員・教職員」が79.0%でもっとも高く、次いで「学生」が51.1%、「民間企業・団体の経営者、役員」が46.5%となっており、「無職」は36.7%でもっとも低くなっています。

### ■ 学習経験別

「知っている計」は「あり」が「なし」を15.1ポイント上回っています。

①部落差別解消推進法の認知状況

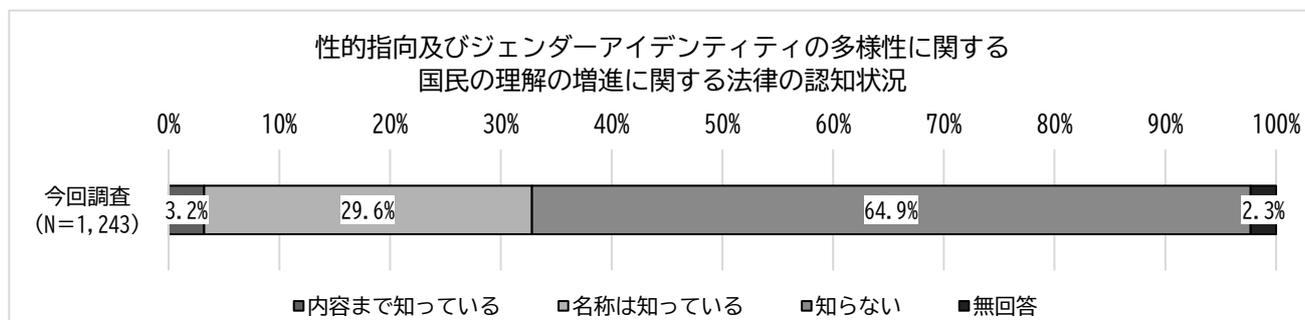


■内容まで知っている □名称は知っている □知らない ■無回答

## ⑫ 性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律

### ■ 全体

「内容まで知っている」3.2%、「名称は知っている」29.6%を合計した「知っている計」は 32.8%となっています。



### ■ 性別

「知っている計」は「男性」が 35.3%、「女性」が 30.7%で、「男性」が「女性」を 4.6 ポイント上回っています。

### ■ 年齢別

「知っている計」は「19歳以下」が 47.4%でもっとも高く、次いで「30～39歳」が 41.9%、「20～29歳」が 39.5%となっており、「80歳以上」は 21.4%でもっとも低くなっています。

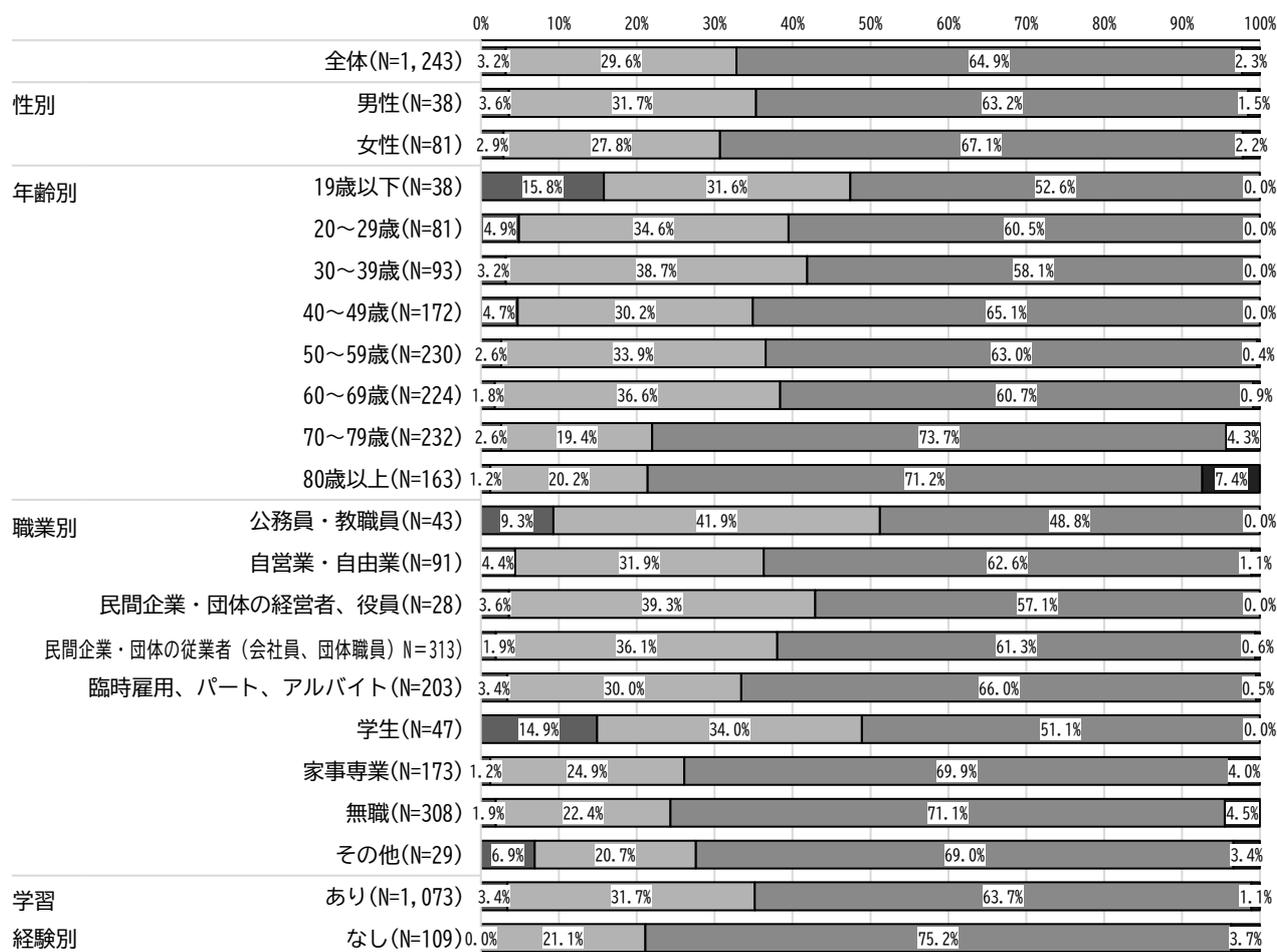
### ■ 職業別

「知っている計」は「公務員・教職員」が 51.2%でもっとも高く、次いで「学生」が 48.9%、「民間企業・団体の経営者、役員」が 42.9%となっており、「無職」は 24.3%でもっとも低くなっています。

### ■ 学習経験別

「知っている計」は「あり」が「なし」を 14.0 ポイント上回っています。

⑫性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する  
国民の理解の増進に関する法律の認知状況

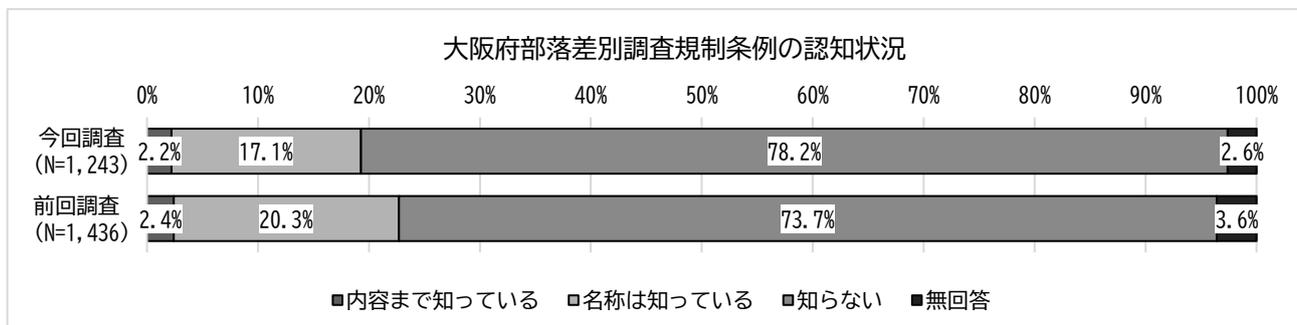


■内容まで知っている □名称は知っている □知らない ■無回答

### ⑬ 大阪府部落差別調査規制条例(大阪府部落差別事象に係る調査等の規制等に関する条例)

#### ■ 全体

「内容まで知っている」2.2%、「名称は知っている」17.1%を合計した「知っている計」は 19.3%となっており、前回調査と比較すると、「知っている計」は 3.4 ポイント減少しています。



#### ■ 性別

「知っている計」は「男性」が 21.2%、「女性」が 17.8%で、「男性」が「女性」を 3.4 ポイント上回っています。

#### ■ 年齢別

「知っている計」は「50～59歳」が 23.5%でもっとも高く、次いで「60～69歳」が 23.2%、「70～79歳」が 21.1%となっており、「40～49歳」は 13.9%でもっとも低くなっています。

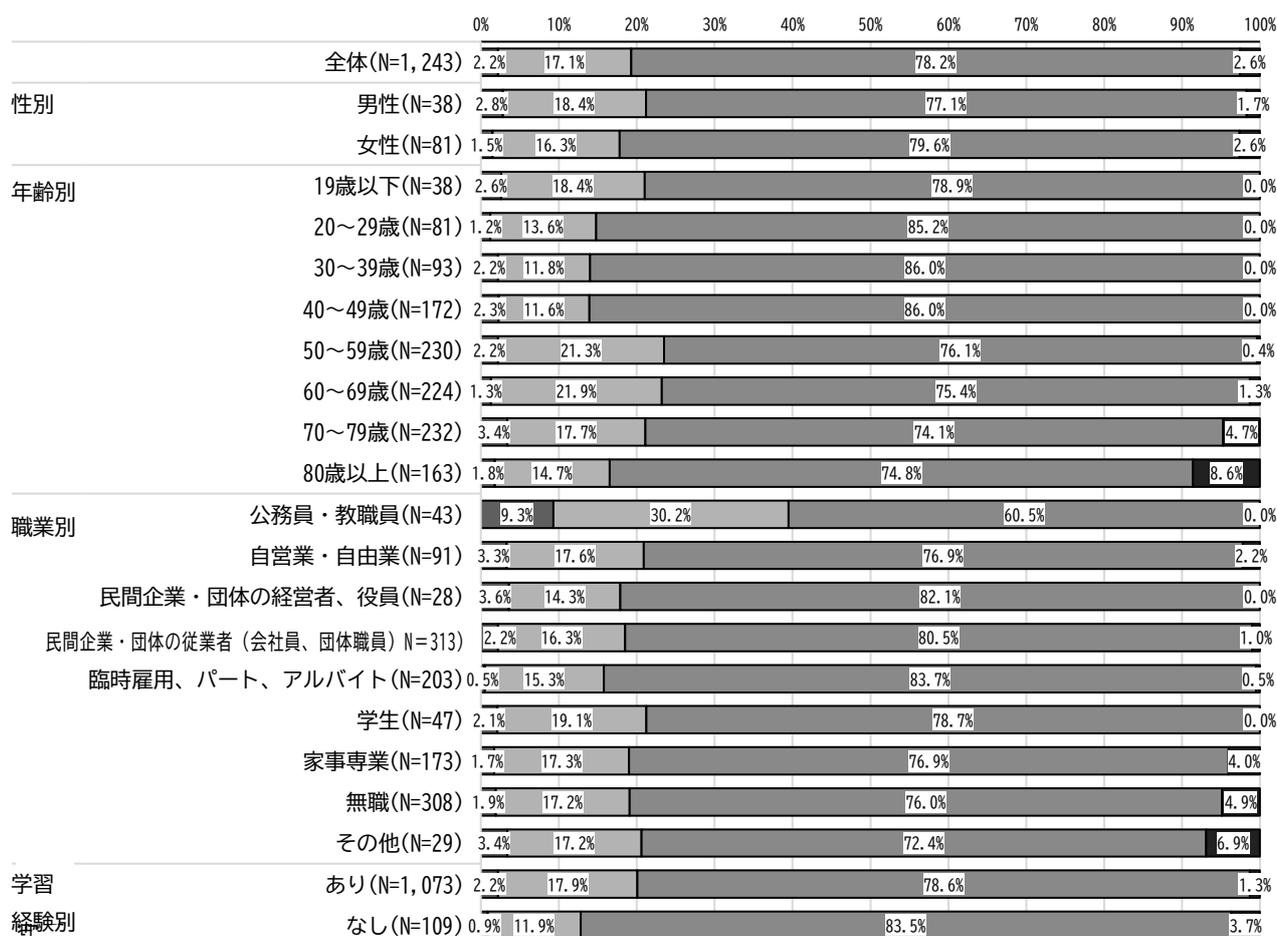
#### ■ 職業別

「知っている計」は「公務員・教職員」が 39.5%でもっとも高く、次いで「学生」が 21.2%、「自営業・自由業」が 20.9%となっており、「臨時雇用、パート、アルバイト」は 15.8%でもっとも低くなっています。

#### ■ 学習経験別

「知っている計」は「あり」が「なし」を 7.3 ポイント上回っています。

### ⑬大阪府部落差別調査規制条例の認知状況

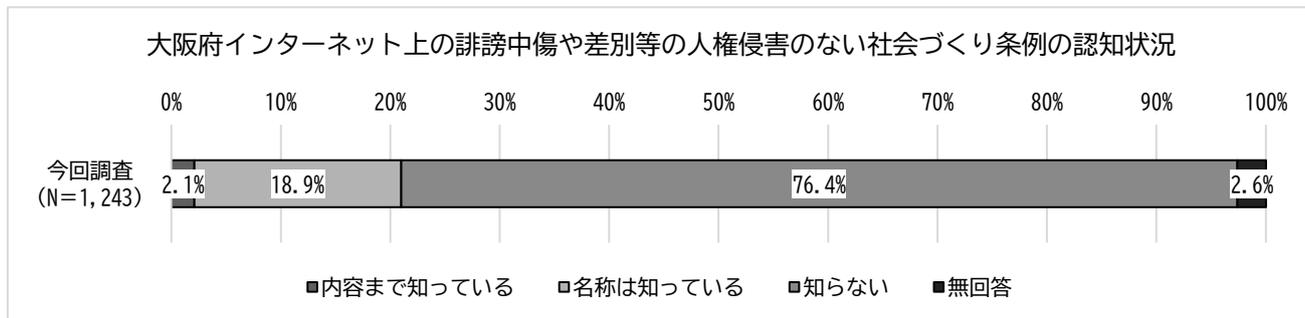


■内容まで知っている □名称は知っている □知らない ■無回答

#### ⑭ 大阪府インターネット上の誹謗中傷や差別等の人権侵害のない社会づくり条例

##### ■ 全体

「内容まで知っている」2.1%、「名称は知っている」18.9%を合計した「知っている計」は 21.0%となっています。



##### ■ 性別

「知っている計」は「男性」が 21.7%、「女性」が 20.2%で、ほとんど差はありません。

##### ■ 年齢別

「知っている計」は「60～69歳」が 26.3%でもっとも高く、次いで「20～29歳」が 25.9%、「50～59歳」が 23.9%となっており、「80歳以上」は 15.9%でもっとも低くなっています。

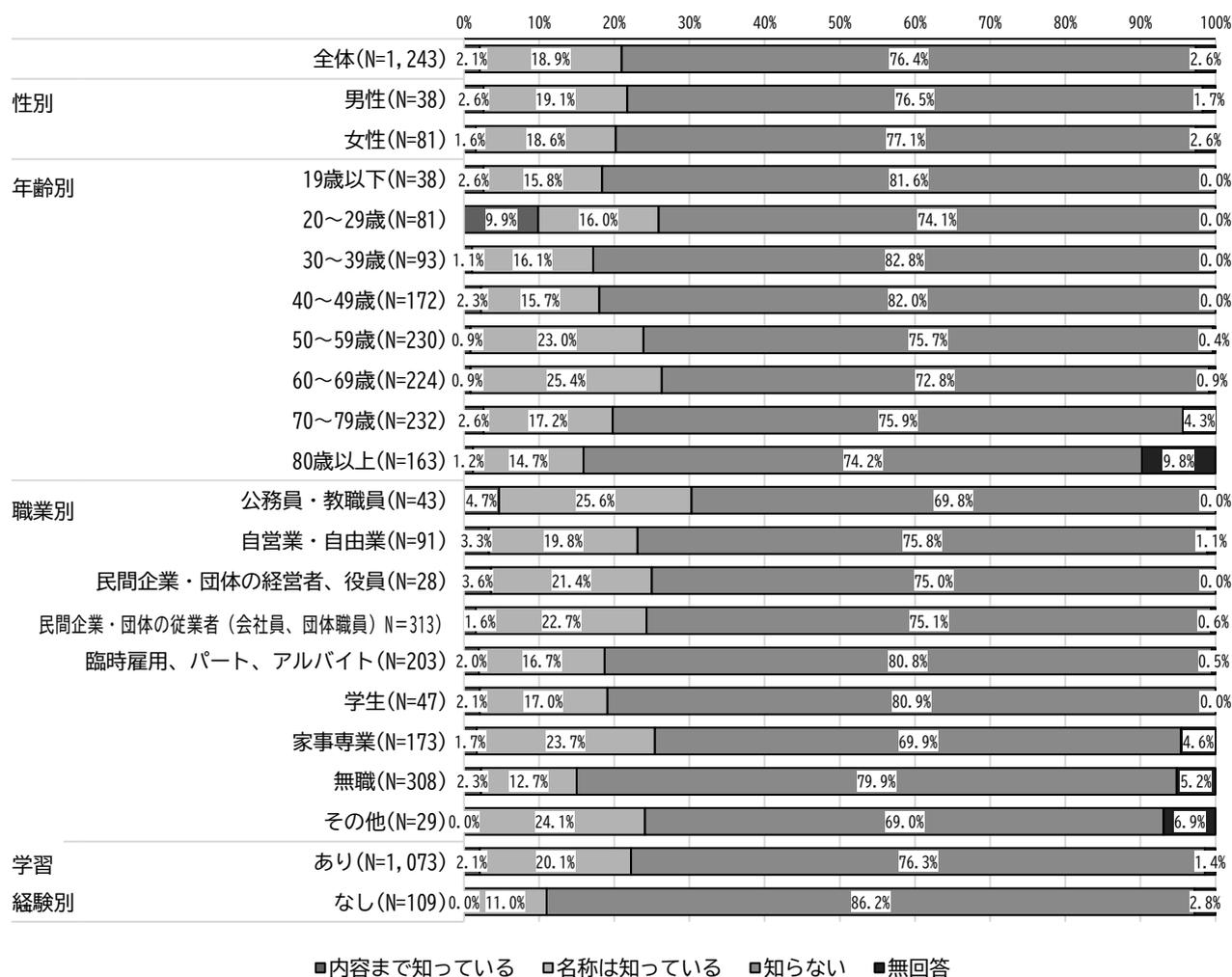
##### ■ 職業別

「知っている計」は「公務員・教職員」が 30.3%でもっとも高く、次いで「家事専業」が 25.4%、「民間企業・団体の経営者、役員」が 25.0%となっており、「無職」は 15.0%でもっとも低くなっています。

##### ■ 学習経験別

「知っている計」は「あり」が「なし」を 11.2 ポイント上回っています。

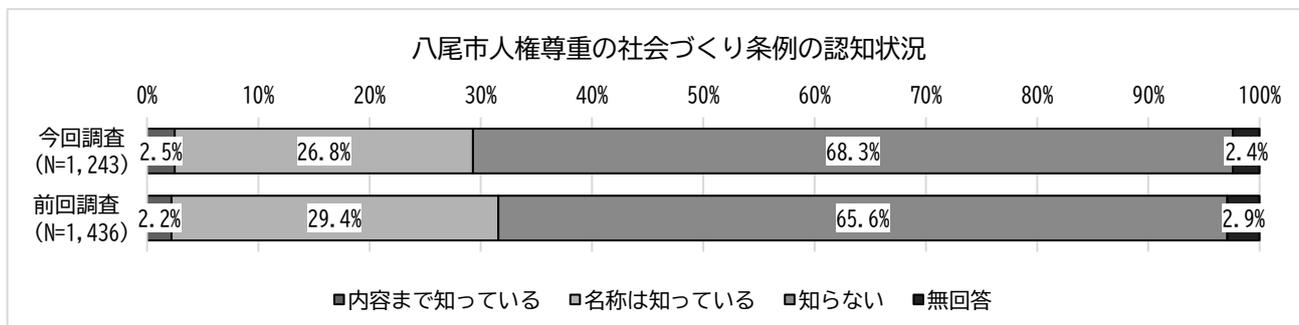
⑭大阪府インターネット上の誹謗中傷や差別等の  
人権侵害のない社会づくり条例の認知状況



⑮ 八尾市人権尊重の社会づくり条例

■ 全体

「内容まで知っている」2.5%、「名称は知っている」26.8%を合計した「知っている計」は 29.3%となっており、前回調査と比較すると、「知っている計」は 2.3 ポイント減少しています。



■ 性別

「知っている計」は「男性」が 30.4%、「女性」が 28.7%で、「男性」が「女性」を 1.7 ポイント上回っています。

■ 年齢別

「知っている計」は「60～69歳」が 35.3%でもっとも高く、次いで「70～79歳」が 34.5%、「50～59歳」が 31.3%となっており、「19歳以下」は 18.4%でもっとも低くなっています。

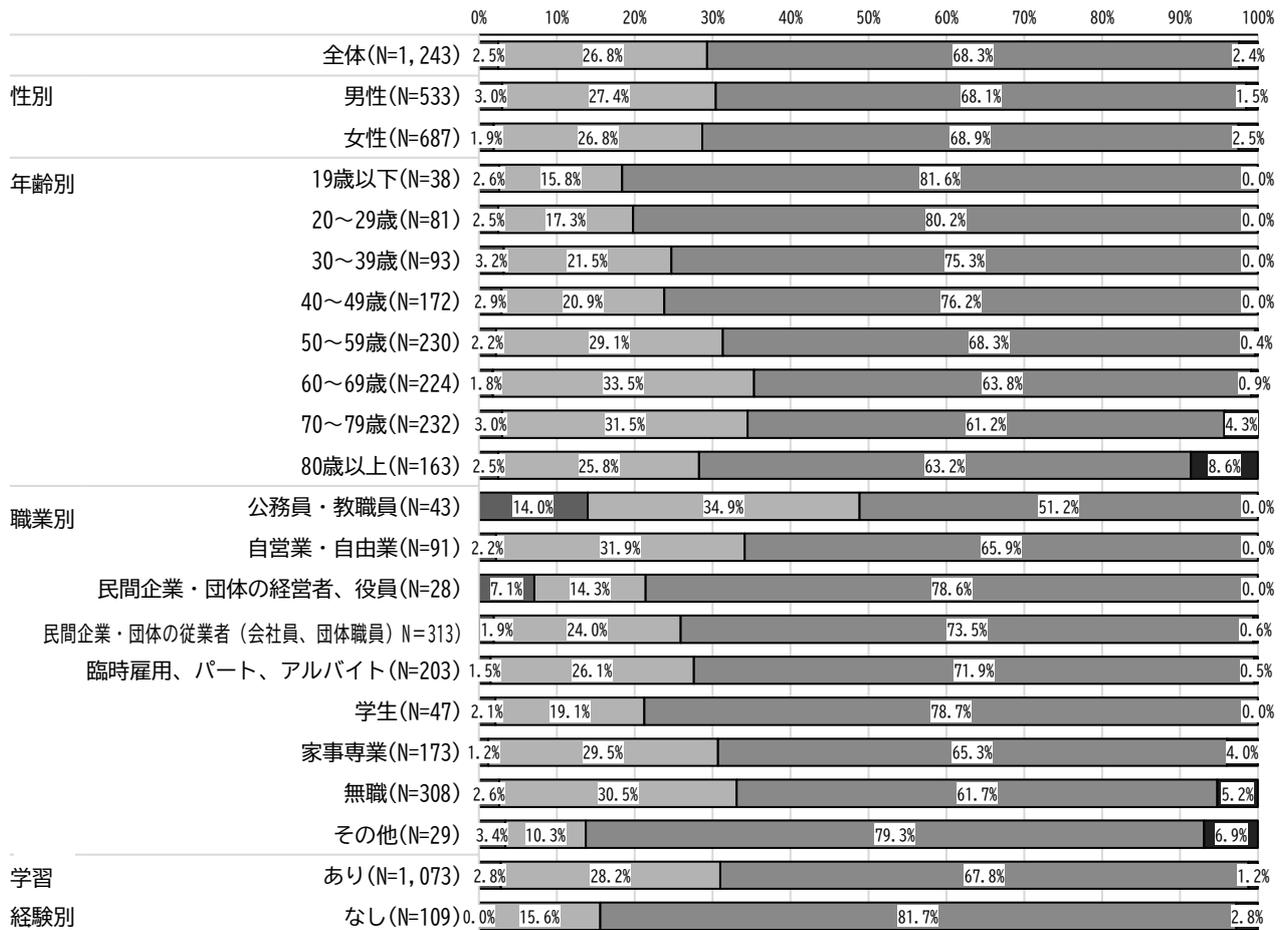
■ 職業別

「知っている計」は「公務員・教職員」が 48.9%でもっとも高く、次いで「自営業・自由業」が 34.1%、「無職」が 33.1%となっており、「その他」は 13.7%でもっとも低くなっています。

■ 学習経験別

「知っている計」は「あり」が「なし」を 15.4 ポイント上回っています。

⑮八尾市人権尊重の社会づくり条例の認知状況

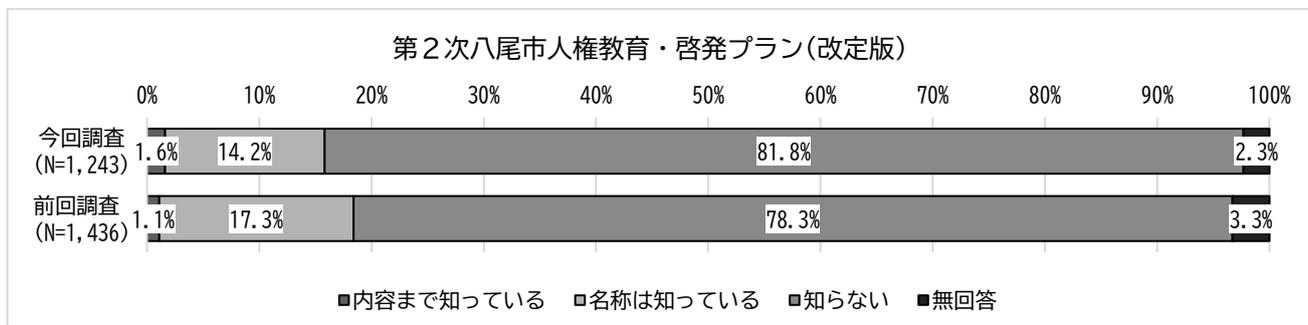


■内容まで知っている □名称は知っている □知らない ■無回答

⑩ 第2次八尾市人権教育・啓発プラン(改定版)

■ 全体

「内容まで知っている」1.6%、「名称は知っている」14.2%を合計した「知っている計」は 15.8%となっており、前回調査と比較すると、「知っている計」は 2.6 ポイント減少しています。



■ 性別

「知っている計」は「男性」が 17.5%、「女性」が 14.5%で、「男性」が「女性」を 3.0 ポイント上回っています。

■ 年齢別

「知っている計」は「50～59歳」が 20.0%でもっとも高く、次いで「70～79歳」が 17.2%、「19歳以下」が 15.8%となっており、「30～39歳」は 10.8%でもっとも低くなっています。

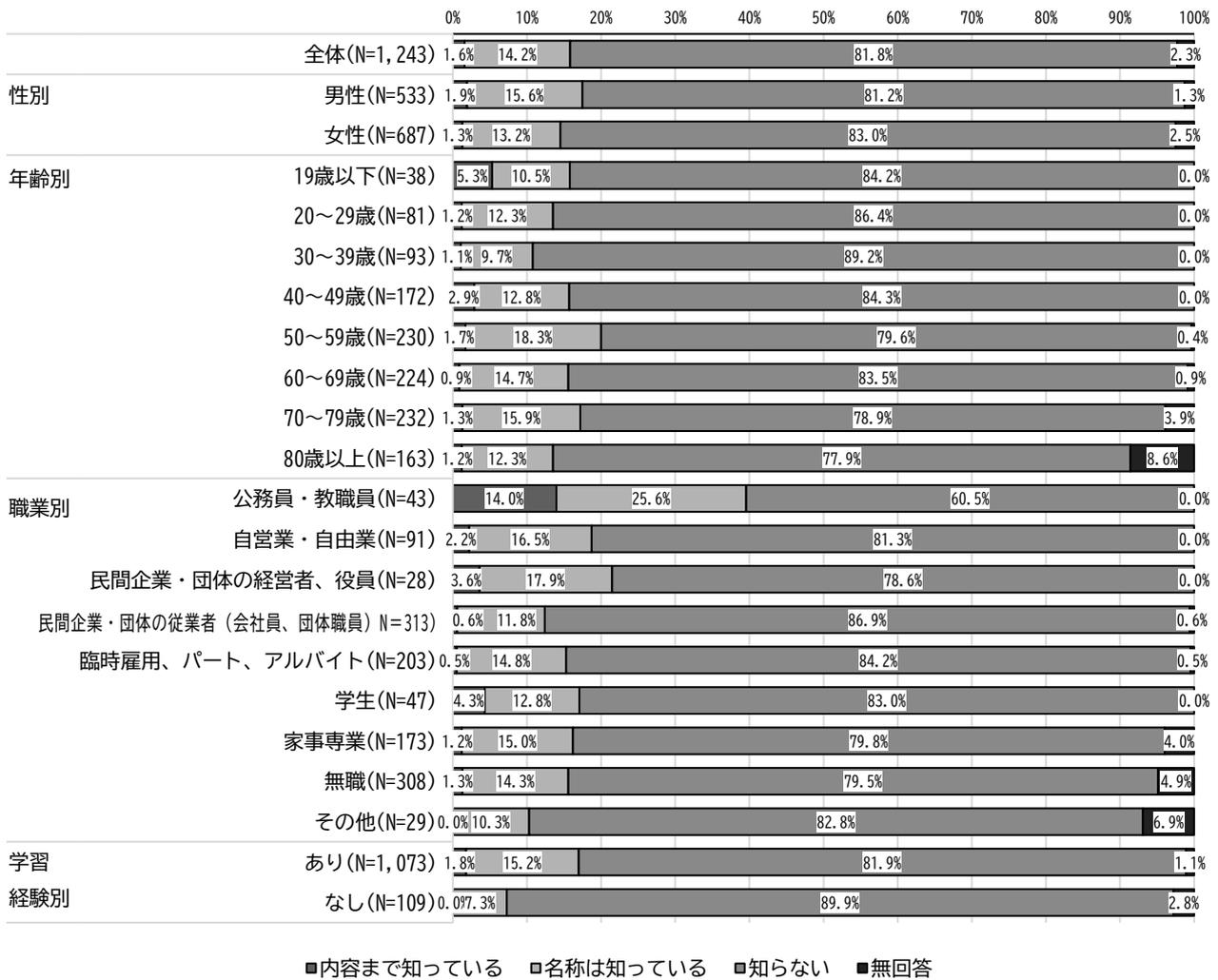
■ 職業別

「知っている計」は「公務員・教職員」が 39.6%でもっとも高く、次いで「民間企業・団体の経営者、役員」が 21.5%、「自営業・自由業」が 18.7%となっており、「その他」は 10.3%でもっとも低くなっています。

■ 学習経験別

「知っている計」は「あり」が「なし」を 9.7 ポイント上回っています。

⑩第2次八尾市人権教育・啓発プラン(改定版)



【①～⑩全体】

「知っている計」は「①世界人権宣言」が 77.3%でもっとも高く、次いで「④児童虐待の防止等に関する法律」が 71.3%、「⑤いじめ防止対策推進法」が 64.6%となっています。

また、「知らない計」は「⑩第2次八尾市人権教育・啓発プラン(改定版)」が 81.8%でもっとも高く、次いで「⑬大阪府部落差別調査規制条例(大阪府部落差別事象に係る調査等の規制等に関する条例)」が 78.2%、「⑭大阪府インターネット上の誹謗中傷や差別等の人権侵害のない社会づくり条例」が 76.4%となっています。

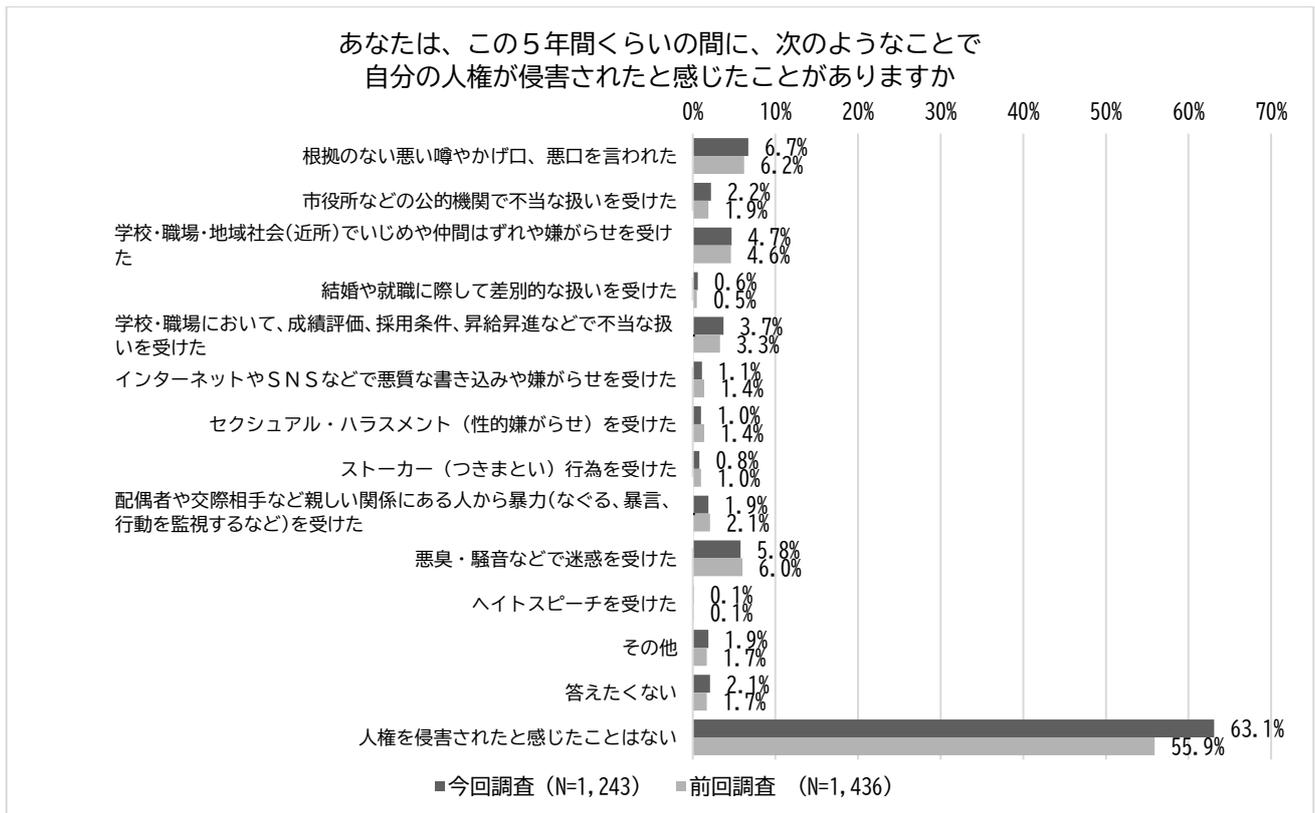
#### 4. 人権侵害や擁護について

問 17 あなたは、この5年間くらいの間に、次のようなことで自分の人権が侵害されたと感じたことがありますか(いくつでも選択できます)。

##### ■ 全体

「根拠のない悪い噂やかげ口、悪口を言われた」が 6.7%でもっとも高く、次いで「悪臭・騒音などで迷惑を受けた」が 5.8%、「学校・職場・地域社会(近所)でいじめや仲間はずれや嫌がらせを受けた」が 4.7%となっています。

また「人権を侵害されたと感じたことはない」は 63.1%で、前回調査と比較して、7.2 ポイント増加しています。



##### ■ 性別

「男性」は「悪臭・騒音などで迷惑を受けた」が 5.6%、「女性」は「根拠のない悪い噂やかげ口、悪口を言われた」が 7.4%でもっとも高くなっています。

また、「人権を侵害されたと感じたことはない」は「男性」が 66.4%、「女性」が 61.6%で、「男性」が 4.8 ポイント上回っています。

##### ■ 年齢別

「19歳以下」「20～29歳」「40～49歳」「80歳以上」は「根拠のない悪い噂やかげ口、悪口を言われた」、「30～39歳」は「学校・職場において、成績評価、採用条件、昇給昇進などで不当な扱いを受けた」、「50～79歳」は「悪臭・騒音などで迷惑を受けた」がもっとも高くなっています。

また、「人権を侵害されたと感じたことはない」は「60～69歳」が 70.5%でもっとも高く、次いで「40～49歳」が 70.3%、「30～39歳」が 67.7%となっています。

## ■ 職業別

「公務員・教職員」「学生」「無職」は「根拠のない悪い噂やかげ口、悪口を言われた」、「自営業・自由業」は「答えたくない」、「民間企業・団体の経営者、役員」は「その他」、「民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)」「家事専業」は「悪臭・騒音などで迷惑を受けた」、「臨時雇用、パート、アルバイト」は「学校・職場・地域社会(近所)でいじめや仲間はずれや嫌がらせを受けた」がもっとも高くなっています。

また、「人権を侵害されたと感じたことはない」は「民間企業・団体の経営者、役員」が78.6%でもっとも高く、次いで「公務員・教職員」が76.7%、「臨時雇用、パート、アルバイト」が70.4%となっています。

## ■ 学習経験別

「あり」は「根拠のない悪い噂やかげ口、悪口を言われた」が7.4%、「なし」は「悪臭・騒音などで迷惑を受けた」が3.7%でもっとも高くなっています。

また、「人権を侵害されたと感じたことはない」は「あり」が65.5%、「なし」が58.7%となっており、「あり」が「なし」を6.8ポイント上回っています。

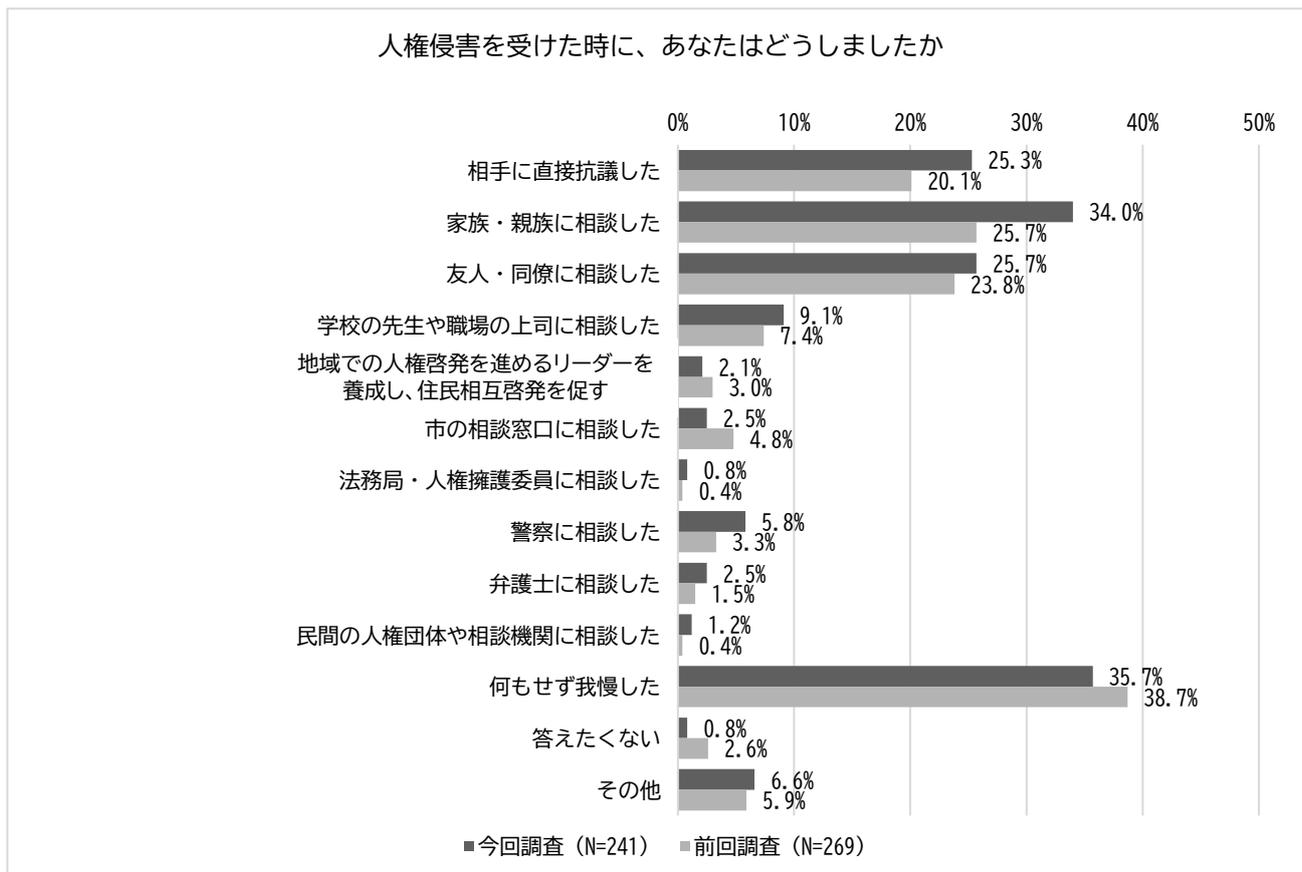
	根拠のない悪い噂やかげ口、悪口を言われた	市役所などの公的機関で不当な扱いを受けた	学校・職場・地域社会(近所)でいじめや仲間はずれや嫌がらせを受けた	結婚や就職に際して差別的な扱いを受けた	学校・職場において、成績評価、採用条件、昇給昇進などで不当な扱いを受けた	インターネットやSNSなどで悪質な書き込みや嫌がらせを受けた	セクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)を受けた	ストーカー(つきまとい)行為を受けた	配偶者や交際相手など親しい関係にある人から暴力(なぐる、暴言、行動を監視するなど)を受けた	悪臭・騒音などで迷惑を受けた	ハイトスピーチを受けた	その他	答えたくない	人権を侵害されたと感じたことはない
全体(N=1,243)	6.7%	2.2%	4.7%	0.6%	3.7%	1.1%	1.0%	0.8%	1.9%	5.8%	0.1%	1.9%	2.1%	63.1%
性別														
男性(N=533)	5.4%	2.3%	3.6%	0.4%	2.4%	0.9%	0.4%	0.2%	0.0%	5.6%	0.0%	1.3%	2.6%	66.4%
女性(N=687)	7.4%	2.2%	5.2%	0.9%	4.8%	1.2%	1.6%	1.2%	3.1%	6.0%	0.0%	2.0%	1.6%	61.6%
年齢別														
19歳以下(N=38)	26.3%	5.3%	13.2%	0.0%	5.3%	5.3%	5.3%	5.3%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	60.5%
20~29歳(N=81)	11.1%	2.5%	8.6%	3.7%	7.4%	4.9%	4.9%	1.2%	1.2%	2.5%	0.0%	4.9%	1.2%	61.7%
30~39歳(N=93)	3.2%	2.2%	6.5%	0.0%	9.7%	4.3%	4.3%	0.0%	2.2%	5.4%	0.0%	4.3%	3.2%	67.7%
40~49歳(N=172)	9.9%	2.9%	5.8%	1.2%	5.8%	0.0%	1.2%	1.2%	0.6%	6.4%	0.0%	1.2%	2.9%	70.3%
50~59歳(N=230)	7.4%	3.0%	6.1%	0.9%	7.0%	0.4%	0.4%	0.9%	3.5%	10.9%	0.4%	2.2%	1.7%	65.7%
60~69歳(N=224)	4.0%	2.2%	4.0%	0.4%	1.3%	0.4%	0.0%	0.4%	0.9%	6.7%	0.0%	0.4%	3.1%	70.5%
70~79歳(N=232)	3.4%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.4%	1.3%	3.9%	0.0%	0.4%	0.4%	57.3%
80歳以上(N=163)	6.1%	2.5%	0.6%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.6%	2.5%	3.1%	0.0%	3.7%	2.5%	49.1%
職業別														
公務員・教職員(N=43)	9.3%	0.0%	4.7%	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	76.7%
自営業・自由業(N=43)	5.5%	3.3%	3.3%	1.1%	3.3%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	5.5%	0.0%	2.2%	6.6%	57.1%
民間企業・団体の経営者、役員(N=28)	3.6%	0.0%	3.6%	0.0%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.6%	0.0%	7.1%	0.0%	78.6%
民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)(N=313)	7.7%	2.6%	5.8%	1.0%	7.3%	1.9%	2.2%	0.3%	1.9%	8.0%	0.3%	1.9%	1.0%	67.7%
臨時雇用、パート、アルバイト(N=203)	6.4%	1.5%	6.9%	0.0%	3.0%	0.0%	0.0%	1.5%	2.5%	6.4%	0.0%	0.0%	2.5%	70.4%
学生(N=47)	19.1%	4.3%	8.5%	2.1%	4.3%	4.3%	6.4%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	63.8%
家事専業(N=173)	5.2%	1.7%	2.9%	0.0%	0.6%	0.6%	0.0%	1.2%	2.3%	5.8%	0.0%	1.7%	1.7%	61.3%
無職(N=308)	5.5%	1.9%	2.6%	0.6%	1.9%	1.0%	0.3%	0.3%	1.3%	3.9%	0.0%	2.3%	2.6%	54.9%
その他(N=29)	3.4%	6.9%	10.3%	3.4%	10.3%	3.4%	3.4%	3.4%	3.4%	17.2%	0.0%	10.3%	0.0%	41.4%
学習経験別														
あり(N=1,073)	7.4%	2.3%	5.0%	0.7%	4.1%	1.2%	1.1%	0.8%	1.9%	6.2%	0.1%	1.9%	2.2%	65.5%
なし(N=109)	1.8%	1.8%	2.8%	0.0%	1.8%	0.9%	0.9%	0.9%	1.8%	3.7%	0.0%	2.8%	0.9%	58.7%

問18 問17で答えられたような人権侵害を受けた時に、あなたはどうしましたか  
(いくつでも選択できます)。

■ 全体

「何もせず我慢した」が 35.7%でもっとも高く、次いで「家族・親族に相談した」が 34.0%、「友人・同僚に相談した」が 25.7%、「相手に直接抗議した」が 25.3%となっています。

前回調査と比較すると、「家族・親族に相談した」が 8.3 ポイント、「相手に直接抗議した」が 5.2 ポイント、「警察に相談した」が 2.5 ポイント増加し、「何もせず我慢した」は 3.0 ポイント減少しています。



■ 性別

「男性」は「何もせず我慢した」が 37.5%でもっとも高く、次いで「家族・親族に相談した」が 22.5%、「相手に直接抗議した」が 20.0%となっています。

「女性」は「家族・親族に相談した」が 41.8%でもっとも高く、次いで「何もせず我慢した」が 34.0%、「友人・同僚に相談した」が 31.4%となっています。

また、「家族・親族に相談した」が 19.3 ポイント、「友人・同僚に相談した」が 13.9 ポイント、「相手に直接抗議した」が 8.1 ポイント、「女性」が「男性」を上回っています。

■ 年齢別

「49歳以下」は「家族・親族に相談した」、「50～79歳」は「何もせず我慢した」、「80歳以上」は「相手に直接抗議した」がもっとも高くなっています。

## ■ 職業別

「公務員・教職員」は「友人・同僚に相談した」「何もせず我慢した」、「自営業・自由業」は「相手に直接抗議した」「家族・親戚に相談した」「何もせず我慢した」、「民間企業・団体の経営者、役員」は「相手に直接抗議した」「地域の自治会長(町会長)や民生委員・児童委員などに相談した」「何もせず我慢した」、「民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)」「無職」は「何もせず我慢した」、「臨時雇用、パート、アルバイト」は「友人・同僚に相談した」、「学生」は「家族・親族に相談した」「友人・同僚に相談した」、「その他」は「家族・親族に相談した」がもっとも高くなっています。

## ■ 学習経験別

「友人・同僚に相談した」は 27.1 ポイント、「家族・親族に相談した」は 18.9 ポイント、「学校の先生や職場の上司に相談した」は 9.3 ポイント、「あり」が「なし」を上回り、「何もせず我慢した」は「あり」が 34.7%、「なし」が 50.0%で、「なし」が「あり」を 15.3 ポイント上回っています。

		相手に直接抗議した	家族・親族に相談した	友人・同僚に相談した	学校の先生や職場の上司に相談した	地域の自治会長(町会長)や民生委員・児童委員などに相談した	市の相談窓口相談した	法務局・人権擁護委員に相談した	警察に相談した	弁護士に相談した	民間の人権団体や相談機関に相談した	何もせず我慢した	答えたくない	その他
性別	全体(N=241)	25.3%	34.0%	25.7%	9.1%	2.1%	2.5%	0.8%	5.8%	2.5%	1.2%	35.7%	0.8%	6.6%
	男性(N=80)	20.0%	22.5%	17.5%	6.3%	1.3%	5.0%	2.5%	7.5%	2.5%	1.3%	37.5%	2.5%	7.5%
	女性(N=153)	28.1%	41.8%	31.4%	10.5%	2.0%	1.3%	0.0%	3.9%	2.6%	0.0%	34.0%	0.0%	5.9%
年齢別	19歳以下(N=14)	28.6%	50.0%	35.7%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	21.4%	0.0%	0.0%
	20~29歳(N=27)	25.9%	44.4%	25.9%	22.2%	3.7%	0.0%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%	37.0%	0.0%	3.7%
	30~39歳(N=25)	12.0%	56.0%	32.0%	12.0%	0.0%	8.0%	0.0%	4.0%	4.0%	0.0%	36.0%	0.0%	4.0%
	40~49歳(N=37)	29.7%	40.5%	32.4%	10.8%	0.0%	2.7%	0.0%	5.4%	2.7%	0.0%	18.9%	0.0%	8.1%
	50~59歳(N=62)	33.9%	30.6%	24.2%	9.7%	1.6%	3.2%	1.6%	4.8%	4.8%	1.6%	46.8%	0.0%	4.8%
	60~69歳(N=34)	14.7%	23.5%	20.6%	2.9%	2.9%	2.9%	0.0%	2.9%	0.0%	2.9%	35.3%	2.9%	11.8%
	70~79歳(N=21)	14.3%	14.3%	28.6%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	9.5%	0.0%	0.0%	42.9%	0.0%	14.3%
	80歳以上(N=20)	35.0%	20.0%	10.0%	0.0%	10.0%	0.0%	5.0%	10.0%	5.0%	5.0%	30.0%	5.0%	5.0%
職業別	公務員・教職員(N=7)	28.6%	28.6%	42.9%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	42.9%	0.0%	0.0%
	自営業・自由業(N=14)	42.9%	42.9%	21.4%	14.3%	0.0%	7.1%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	42.9%	0.0%	0.0%
	民間企業・団体の経営者、役員(N=3)	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%
	民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)(N=82)	24.4%	37.8%	28.0%	13.4%	1.2%	1.2%	1.2%	4.9%	3.7%	1.2%	39.0%	0.0%	6.1%
	臨時雇用、パート、アルバイト(N=38)	23.7%	36.8%	42.1%	10.5%	0.0%	2.6%	2.6%	5.3%	2.6%	0.0%	31.6%	0.0%	7.9%
	学生(N=15)	33.3%	46.7%	46.7%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	13.3%	0.0%	6.7%
	家事専業(N=28)	32.1%	28.6%	14.3%	7.1%	3.6%	0.0%	0.0%	7.1%	3.6%	0.0%	32.1%	0.0%	7.1%
	無職(N=43)	16.3%	20.9%	9.3%	0.0%	4.7%	7.0%	0.0%	9.3%	2.3%	4.7%	41.9%	4.7%	7.0%
	その他(N=10)	20.0%	50.0%	20.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%
学習経験別	あり(N=225)	25.3%	35.6%	27.1%	9.3%	2.2%	2.7%	0.9%	5.3%	2.2%	1.3%	34.7%	0.9%	6.2%
なし(N=12)	25.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	16.7%	

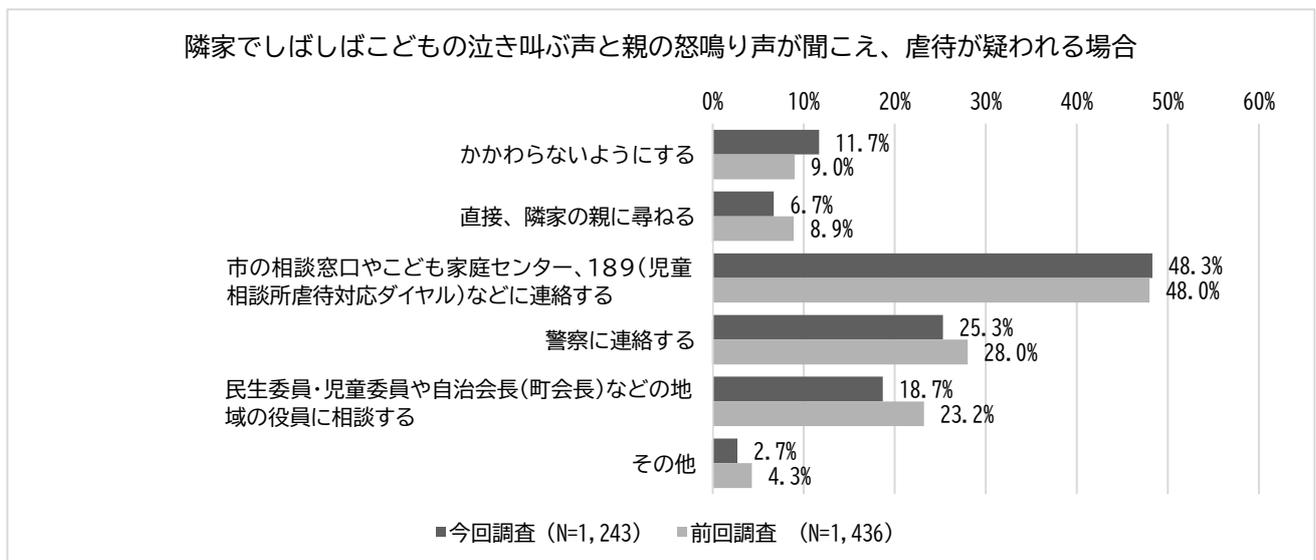
問 19 次のような場面(A~C)に出合ったとき、あなたご自身はどうすると思われますか  
(いくつでも選択できます)。

A. 隣家でしばしばこどもの泣き叫ぶ声と親の怒鳴り声が聞こえ、虐待が疑われる場合。

■ 全体

「市の相談窓口や子ども家庭センター、189(児童相談所虐待対応ダイヤル)などに連絡する」が 48.3%でもっとも高く、次いで「警察に連絡する」が 25.3%、「民生委員・児童委員や自治会長(町会長)などの地域の役員に相談する」が 18.7%となっています。

前回調査と比較すると、「かかわらないようにする」が 2.7 ポイント増加し、「民生委員・児童委員や自治会長(町会長)などの地域の役員に相談する」が 4.5 ポイント減少しています。



■ 性別

「警察に連絡する」は 9.1 ポイント、「かかわらないようにする」は 5.2 ポイント、「男性」が「女性」を上回り、「市の相談窓口や子ども家庭センター、189(児童相談所虐待対応ダイヤル)などに連絡する」は 7.8 ポイント、「女性」が「男性」を上回っています。

■ 年齢別

「19歳以下」は「警察に連絡する」、「20歳以上」は「市の相談窓口や子ども家庭センター、189(児童相談所虐待対応ダイヤル)などに連絡する」がもっとも高くなっています。

■ 職業別

「学生」は「市の相談窓口や子ども家庭センター、189(児童相談所虐待対応ダイヤル)などに連絡する」「警察に連絡する」、「学生」以外は「市の相談窓口や子ども家庭センター、189(児童相談所虐待対応ダイヤル)などに連絡する」がもっとも高くなっています。

■ 学習経験別

「市の相談窓口や子ども家庭センター、189(児童相談所虐待対応ダイヤル)などに連絡する」は「あり」が「なし」

を 16.9 ポイント上回り、「かかわらないようにする」は「なし」が「あり」を 5.8 ポイント上回っています。

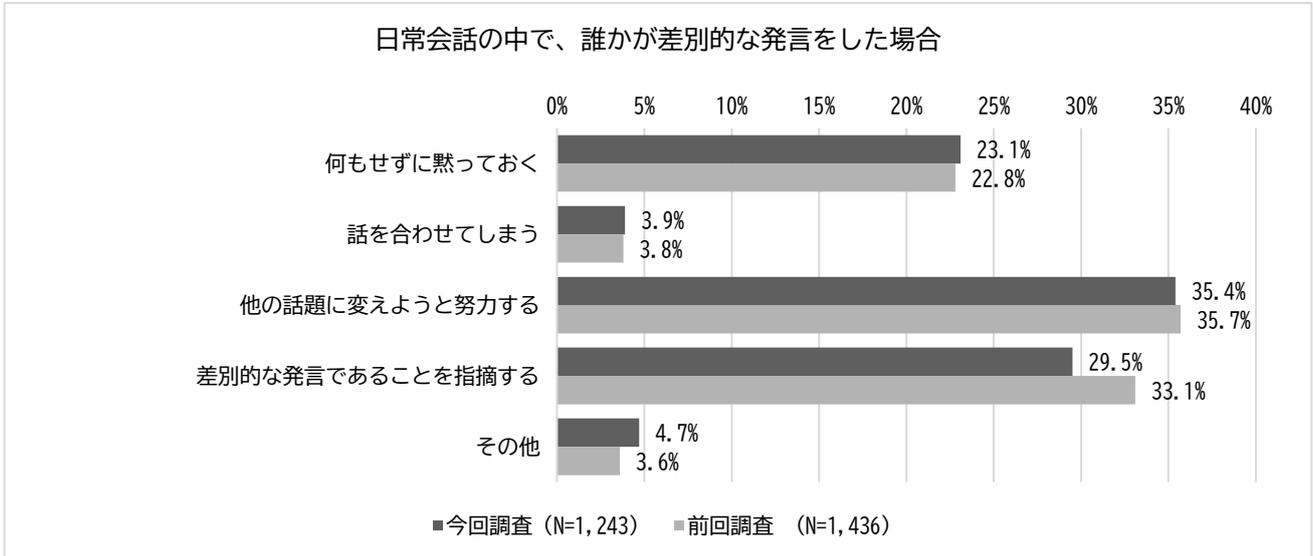
		かかわらないようにする	直接、隣家の親に尋ねる	市の相談窓口や子ども家庭センター、189（児童相談所虐待対応ダイヤル）などに連絡する	警察に連絡する	民生委員・児童委員や自治会長（町会会長）などの地域の役員に相談する	その他
	全体(N=1,243)	11.7%	6.7%	48.3%	25.3%	18.7%	2.7%
性別	男性(N=533)	14.8%	6.9%	44.3%	30.6%	18.9%	1.9%
	女性(N=687)	9.6%	6.3%	52.1%	21.5%	18.6%	3.3%
年齢別	19歳以下(N=38)	23.7%	5.3%	26.3%	28.9%	10.5%	0.0%
	20～29歳(N=81)	17.3%	6.2%	38.3%	29.6%	2.5%	7.4%
	30～39歳(N=93)	10.8%	5.4%	57.0%	20.4%	5.4%	3.2%
	40～49歳(N=172)	14.5%	7.0%	58.1%	26.7%	11.6%	2.9%
	50～59歳(N=230)	8.3%	4.3%	57.8%	29.1%	12.6%	3.0%
	60～69歳(N=224)	9.4%	6.3%	56.3%	25.0%	19.6%	2.7%
	70～79歳(N=232)	11.2%	7.3%	38.4%	23.7%	32.8%	1.7%
	80歳以上(N=163)	13.5%	9.8%	34.4%	20.9%	30.7%	1.8%
職業別	公務員・教職員(N=43)	2.3%	2.3%	72.1%	20.9%	7.0%	0.0%
	自営業・自由業(N=91)	13.2%	9.9%	58.2%	24.2%	22.0%	1.1%
	民間企業・団体の経営者、役員(N=28)	7.1%	7.1%	50.0%	35.7%	17.9%	3.6%
	民間企業・団体の従業者（会社員、団体職員）(N=313)	11.5%	6.7%	51.8%	28.8%	10.9%	2.6%
	臨時雇用、パート、アルバイト(N=203)	14.8%	4.9%	51.7%	25.6%	15.3%	3.9%
	学生(N=47)	25.5%	4.3%	29.8%	29.8%	8.5%	0.0%
	家事専業(N=173)	6.4%	8.1%	55.5%	19.1%	23.7%	2.9%
	無職(N=308)	13.0%	7.1%	36.7%	23.7%	29.2%	2.3%
その他(N=29)	6.9%	0.0%	34.5%	31.0%	6.9%	13.8%	
学習経験別	あり(N=1,073)	11.6%	7.0%	50.8%	26.0%	18.7%	2.5%
	なし(N=109)	17.4%	2.8%	33.9%	23.9%	22.0%	5.5%

## B. 日常会話の中で、誰かが差別的な発言をした場合。

### ■ 全体

「他の話題に変えようと努力する」が 35.4%でもっとも高く、次いで「差別的な発言であることを指摘する」が 29.5%、「何もせずに黙っておく」が 23.1%となっています。

前回調査と比較すると、「差別的な発言であることを指摘する」が 3.6 ポイント減少しています。



### ■ 性別

「何もせずに黙っておく」は「男性」が 6.9 ポイント上回り、「他の話題に変えようと努力する」は「女性」が 11.5 ポイント上回っています。

### ■ 年齢別

「69歳以下」は「他の話題に変えようと努力する」、「70～79歳」は「差別的な発言であることを指摘する」、「80歳以上」は「何もせずに黙っておく」がもっとも高くなっています。

### ■ 職業別

「公務員・教職員」「民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)」「臨時雇用、パート、アルバイト」「学生」「家事専業」は「他の話題に変えようと努力する」、「自営業・自由業」は「他の話題に変えようと努力する」「差別的な発言であることを指摘する」、「民間企業・団体の経営者、役員」「その他」は「差別的な発言であることを指摘する」、「無職」は「何もせずに黙っておく」「他の話題に変えようと努力する」がもっとも高くなっています。

### ■ 学習経験別

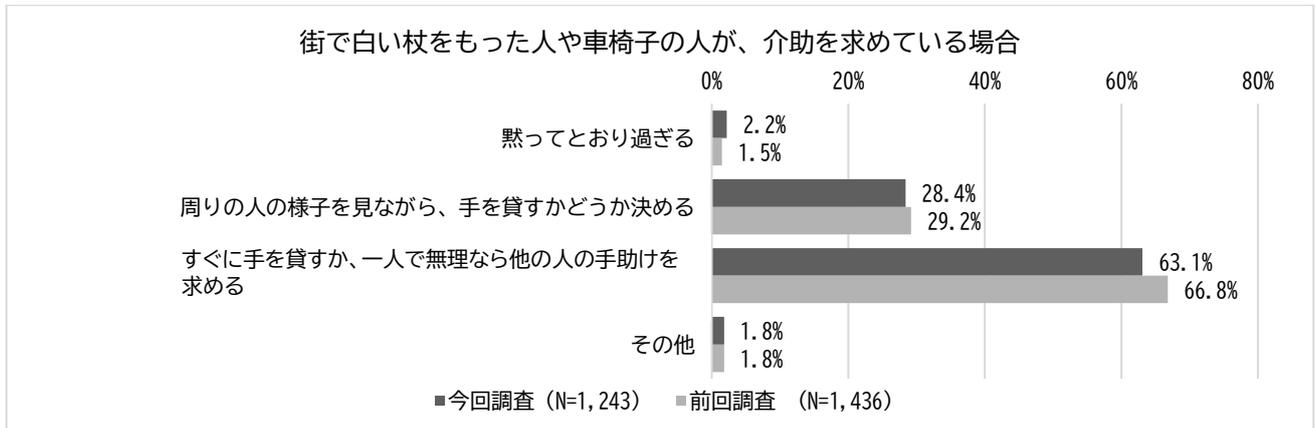
「差別的な発言であることを指摘する」は「あり」が「なし」を 14.2 ポイント上回り、「何もせずに黙っておく」は「なし」が「あり」を 13.6 ポイント上回っています。

		何もせずに黙っておく	話を合わせてしまう	他の話題に変えようと努力する	差別的な発言であること指摘する	その他
	全体(N=1,243)	23.1%	3.9%	35.4%	29.5%	4.7%
性別	男性(N=533)	27.0%	4.5%	29.1%	31.7%	4.3%
	女性(N=687)	20.1%	3.5%	40.6%	28.5%	4.9%
年齢別	19歳以下(N=38)	15.8%	10.5%	34.2%	21.1%	2.6%
	20～29歳(N=81)	16.0%	3.7%	35.8%	28.4%	6.2%
	30～39歳(N=93)	20.4%	2.2%	40.9%	28.0%	3.2%
	40～49歳(N=172)	20.3%	4.7%	44.2%	32.6%	5.2%
	50～59歳(N=230)	21.7%	5.2%	42.2%	29.6%	4.8%
	60～69歳(N=224)	21.4%	4.0%	37.5%	31.3%	4.9%
	70～79歳(N=232)	27.6%	0.9%	28.0%	30.2%	4.7%
	80歳以上(N=163)	31.9%	4.9%	21.5%	27.6%	3.7%
職業別	公務員・教職員(N=43)	7.0%	0.0%	41.9%	37.2%	4.7%
	自営業・自由業(N=91)	27.5%	3.3%	29.7%	29.7%	6.6%
	民間企業・団体の経営者、役員(N=28)	17.9%	7.1%	25.0%	39.3%	3.6%
	民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)(N=313)	18.5%	2.6%	39.9%	34.5%	2.2%
	臨時雇用、パート、アルバイト(N=203)	25.6%	5.4%	41.9%	25.6%	3.9%
	学生(N=47)	17.0%	10.6%	34.0%	19.1%	4.3%
	家事専業(N=173)	24.3%	1.7%	36.4%	28.9%	7.5%
	無職(N=308)	28.9%	4.5%	28.9%	27.3%	4.2%
	その他(N=29)	17.2%	6.9%	24.1%	31.0%	17.2%
学習経験別	あり(N=1,073)	22.2%	4.0%	37.1%	31.6%	4.5%
	なし(N=109)	35.8%	3.7%	29.4%	17.4%	6.4%

### C. 街で白い杖をもった人や車椅子の人が、介助を求めている場合。

#### ■ 全体

「すぐに手を貸すか、一人で無理なら他の人の手助けを求める」が 63.1%でもっとも高く、次いで「周りの人の様子を見ながら、手を貸すかどうか決める」が 28.4%、「黙ってとおり過ぎる」が 2.2%となっています。前回調査と比較すると、「すぐに手を貸すか、一人で無理なら他の人の手助けを求める」が 3.7 ポイント減少しています。



#### ■ 性別

「周りの人の様子を見ながら手を貸すかどうか決める」は「男性」が 3.7 ポイント上回り、「すぐに手を貸すか、一人で無理なら他の人の手助けを求める」は「女性」が 5.3 ポイント上回っています。

#### ■ 年齢別

「19歳以下」は「周りの人の様子を見ながら、手を貸すかどうか決める」、「20歳以上」は「すぐに手を貸すか、一人で無理なら他の人の手助けを求める」がもっとも高くなっています。

#### ■ 職業別

「学生」は「周りの人の様子を見ながら、手を貸すかどうか決める」、「学生」以外は「すぐに手を貸すか、一人で無理なら他の人の手助けを求める」がもっとも高くなっています。

#### ■ 学習経験別

「周りの人の様子を見ながら、手を貸すかどうか決める」は「あり」が「なし」を 6.6 ポイント上回り、「すぐに手を貸すか、一人で無理なら他の人の手助けを求める」は「なし」が「あり」を 5.2 ポイント上回っています。

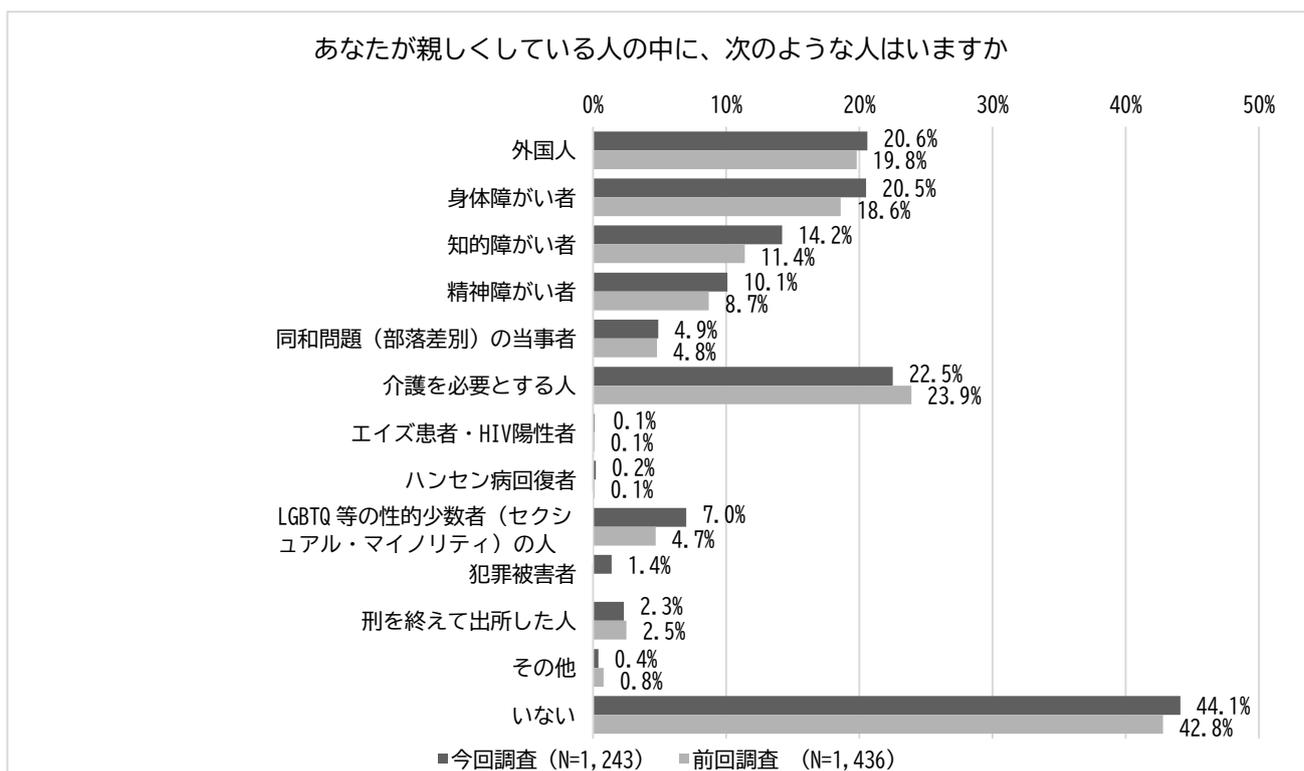
		黙ってと おり過 ぎる	周りの人の様子 を見ながら、手 を貸すかどうか 決める	すぐに手を貸す か、一人で無理 なら他の人の手 助けを求める	その他
	全体(N=1,243)	2.2%	28.4%	63.1%	1.8%
性別	男性(N=533)	3.0%	30.8%	60.2%	1.7%
	女性(N=687)	1.5%	27.1%	65.5%	1.6%
年齢別	19歳以下(N=38)	7.9%	42.1%	28.9%	2.6%
	20～29歳(N=81)	2.5%	34.6%	46.9%	1.2%
	30～39歳(N=93)	0.0%	44.1%	46.2%	2.2%
	40～49歳(N=172)	4.1%	36.6%	57.0%	0.0%
	50～59歳(N=230)	0.9%	26.5%	66.1%	1.3%
	60～69歳(N=224)	1.3%	25.9%	68.3%	1.8%
	70～79歳(N=232)	2.2%	21.6%	72.4%	1.3%
	80歳以上(N=163)	3.1%	20.9%	70.6%	4.3%
職業別	公務員・教職員(N=43)	0.0%	30.2%	51.2%	4.7%
	自営業・自由業(N=91)	0.0%	24.2%	72.5%	0.0%
	民間企業・団体の経営者、役員(N=28)	3.6%	32.1%	60.7%	0.0%
	民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員) (N=313)	1.9%	33.5%	55.6%	0.6%
	臨時雇用、パート、アルバイト(N=203)	1.0%	30.0%	63.5%	1.0%
	学生(N=47)	6.4%	42.6%	36.2%	2.1%
	家事専業(N=173)	2.9%	26.0%	70.5%	1.7%
	無職(N=308)	3.2%	21.8%	70.5%	2.9%
	その他(N=29)	0.0%	31.0%	51.7%	6.9%
学習経験別	あり(N=1,073)	2.0%	29.5%	63.6%	2.1%
	なし(N=109)	1.8%	22.9%	68.8%	0.0%

問 20 あなたが親しくしている人の中に、次のような人はいますか(いくつでも選択できます)。

■ 全体

「いない」が 44.1%でもっとも高く、次いで「介護を必要とする人」が 22.5%、「外国人」が 20.6%、「身体障がい者」が 20.5%となっています。

前回調査と比較すると、「知的障がい者」が 2.8 ポイント、「LGBTQ等の性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)の人」が 2.3 ポイント増加しています。



■ 性別

「外国人」は 4.3 ポイント、「男性」が「女性」を上回り、「介護を必要とする人」は 3.3 ポイント、「LGBTQ等の性的少数者の人」は 3.2 ポイント、「知的障がい者」は 3.1 ポイント、「精神障がい者」は 3.0 ポイント、「女性」が「男性」を上回っています。

■ 年齢別

「19歳以下」は「知的障がい者」、「20～49歳」は「外国人」、「50～69歳」「80歳以上」は「介護を必要とする人」、「70～79歳」は「身体障がい者」がもっとも高くなっています。

■ 職業別

「公務員・教職員」「民間企業・団体の経営者、役員」「民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)」「臨時雇用、パート、アルバイト」は「外国人」、「学生」は「外国人」「知的障がい者」、「家事専業」「無職」は「介護を必要とする人」、「その他」は「知的障がい者」がもっとも高くなっています。

■ 学習経験別

「外国人」は 14.1 ポイント、「身体障がい者」は 7.6 ポイント、「介護を必要とする人」は 6.9 ポイント、「あり」が「なし」を上回り、「いない」は 14.2%、「なし」が「あり」を上回っています。

		外国人	身体障がい者	知的障がい者	精神障がい者	同和問題(部落差別)の当事者	介護を必要とする人	性者 エイズ患者・三陽	ハンセン病回復者	少数者の人 LGBTQ等の性的	犯罪被害者	人を終えて出所した	その他	いない
	全体(N=1,243)	20.6%	20.5%	14.2%	10.1%	4.9%	22.5%	0.1%	0.2%	7.0%	1.4%	2.3%	0.4%	44.1%
性別	男性(N=533)	22.9%	21.8%	12.8%	8.4%	5.8%	21.0%	0.0%	0.2%	5.1%	1.9%	3.0%	0.6%	43.9%
	女性(N=687)	18.6%	19.9%	15.9%	11.4%	3.9%	24.3%	0.1%	0.1%	8.3%	1.0%	1.7%	0.3%	43.8%
年齢別	19歳以下(N=38)	23.7%	10.5%	26.3%	5.3%	0.0%	10.5%	0.0%	0.0%	10.5%	2.6%	0.0%	0.0%	44.7%
	20～29歳(N=81)	24.7%	13.6%	19.8%	12.3%	2.5%	11.1%	0.0%	0.0%	12.3%	2.5%	3.7%	1.2%	40.7%
	30～39歳(N=93)	19.4%	15.1%	15.1%	9.7%	5.4%	14.0%	1.1%	0.0%	18.3%	5.4%	3.2%	1.1%	45.2%
	40～49歳(N=172)	31.4%	25.0%	15.7%	13.4%	6.4%	23.8%	0.0%	0.6%	16.3%	3.5%	4.7%	0.6%	42.4%
	50～59歳(N=230)	26.1%	22.2%	19.6%	16.1%	8.3%	28.3%	0.0%	0.0%	8.7%	0.9%	3.9%	0.0%	41.3%
	60～69歳(N=224)	21.0%	22.3%	14.3%	8.5%	5.8%	27.2%	0.0%	0.4%	2.2%	0.0%	1.3%	0.4%	44.2%
	70～79歳(N=232)	15.1%	20.7%	8.2%	7.3%	2.6%	18.1%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.4%	0.0%	46.6%
	80歳以上(N=163)	6.1%	20.2%	8.0%	4.9%	1.8%	27.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.6%	0.6%	0.6%	46.0%
職業別	公務員・教職員(N=43)	32.6%	30.2%	27.9%	18.6%	20.9%	16.3%	0.0%	2.3%	23.3%	2.3%	0.0%	0.0%	25.6%
	自営業・自由業(N=91)	26.4%	33.0%	9.9%	9.9%	8.8%	35.2%	0.0%	0.0%	7.7%	2.2%	7.7%	1.1%	30.8%
	民間企業・団体の経営者、役員(N=28)	32.1%	17.9%	7.1%	14.3%	3.6%	14.3%	0.0%	0.0%	10.7%	3.6%	3.6%	0.0%	42.9%
	民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)(N=313)	27.5%	18.2%	12.8%	11.5%	4.5%	21.4%	0.0%	0.0%	9.6%	2.6%	4.5%	0.6%	47.0%
	臨時雇用、パート、アルバイト(N=203)	24.1%	21.2%	17.2%	14.3%	5.4%	21.2%	0.0%	0.5%	7.9%	0.5%	0.5%	0.0%	45.8%
	学生(N=47)	25.5%	8.5%	25.5%	6.4%	0.0%	10.6%	0.0%	0.0%	12.8%	2.1%	0.0%	0.0%	40.4%
	家事専業(N=173)	12.1%	20.2%	16.2%	8.1%	2.9%	26.0%	0.0%	0.0%	3.5%	0.6%	0.0%	1.2%	43.4%
	無職(N=308)	10.4%	19.5%	9.7%	5.8%	3.2%	22.7%	0.3%	0.0%	1.9%	0.6%	0.3%	0.0%	50.0%
	その他(N=29)	20.7%	24.1%	27.6%	13.8%	3.4%	20.7%	0.0%	0.0%	10.3%	0.0%	13.8%	0.0%	17.2%
学習経験別	あり(N=1,073)	22.4%	21.4%	14.7%	10.6%	4.8%	23.4%	0.1%	0.2%	7.5%	1.5%	2.4%	0.5%	43.6%
	なし(N=109)	8.3%	13.8%	11.0%	6.4%	2.8%	16.5%	0.0%	0.0%	2.8%	0.0%	0.9%	0.0%	57.8%

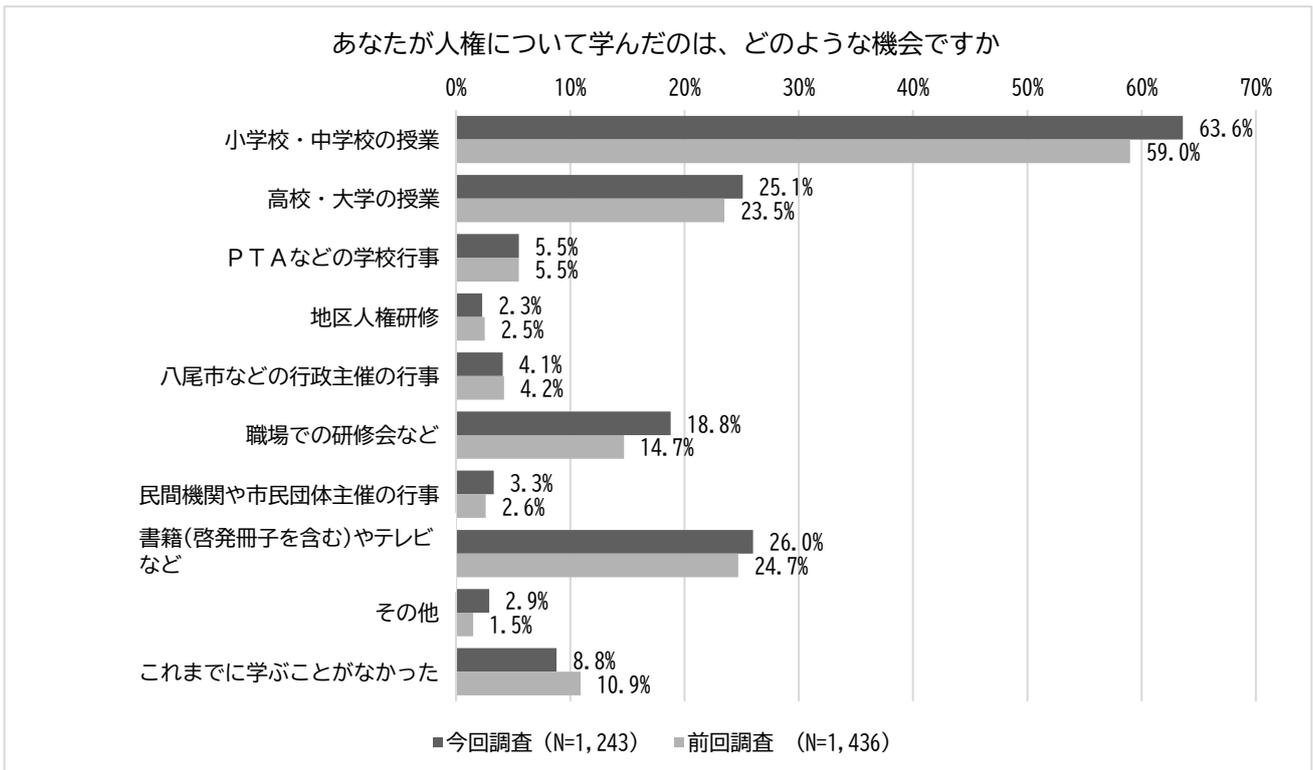
## 5. 人権に関する啓発活動について

問 21 あなたが人権について学んだのは、どのような機会ですか(いくつでも選択できます)。

### ■ 全体

「小学校・中学校の授業」が63.6%でもっとも多く、次いで「書籍(啓発冊子を含む)やテレビなど」が26.0%、「高校・大学の授業」が25.1%、「職場での研修会など」が18.8%となっています。

前回調査と比較すると、「小学校・中学校の授業」は4.6ポイント、「職場での研修会など」は4.1ポイント増加し、「これまでに学ぶことがなかった」は2.1ポイント減少しています。



### ■ 性別

「PTAなどの学校行事」は5.9ポイント、「小学校・中学校の授業」は4.6ポイント、「書籍(啓発冊子を含む)やテレビなど」が3.8ポイント、「女性」が「男性」を上回り、「職場での研修会など」は3.8ポイント、「これまでに学ぶことがなかった」は2.6ポイント、「男性」が「女性」を上回っています。

### ■ 年齢別

「69歳以下」は「小学校・中学校の授業」、「70歳以上」は「書籍(啓発冊子を含む)やテレビなど」がもっとも高くなっています。

また、「これまでに学ぶことがなかった」は「80歳以上」が25.2%でもっとも高く、次いで「70～79歳」が16.8%、「20～29歳」が9.9%となっています。

■ 職業別

- 「公務員・教職員」は「職場での研修会など」が 83.7%でもっとも高く、次いで「小学校・中学校の授業」が 74.4%、「高校・大学の授業」が 44.2%
- 「自営業・自由業」は「小学校・中学校の授業」が 54.9%でもっとも高く、次いで「書籍(啓発冊子を含む)やテレビなど」が 31.9%、「高校・大学の授業」が 28.6%
- 「民間企業・団体の経営者、役員」は「小学校・中学校の授業」が 60.7%でもっとも高く、次いで「高校・大学の授業」が 28.6%、「書籍(啓発冊子を含む)やテレビなど」が 21.4%
- 「民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)」は「小学校・中学校の授業」が 81.8%でもっとも高く、次いで「高校・大学の授業」が 27.8%、「職場での研修会など」が 25.9%
- 「臨時雇用、パート、アルバイト」は「小学校・中学校の授業」が 75.4%でもっとも高く、次いで「書籍(啓発冊子を含む)やテレビなど」が 26.1%、「高校・大学の授業」が 23.2%
- 「学生」は「小学校・中学校の授業」が 93.6%でもっとも高く、次いで「高校・大学の授業」が 74.5%、「書籍(啓発冊子を含む)やテレビなど」が 12.8%
- 「家事専業」は「小学校・中学校の授業」が 60.1%でもっとも高く、次いで「書籍(啓発冊子を含む)やテレビなど」が 29.5%、「高校・大学の授業」が 24.3%
- 「無職」は「小学校・中学校の授業」が 37.7%でもっとも高く、次いで「書籍(啓発冊子を含む)やテレビなど」は 29.5%、「これまでに学ぶことがなかった」が 19.2%
- 「その他」は「小学校・中学校の授業」が 55.2%でもっとも高く、次いで「書籍(啓発冊子を含む)やテレビなど」が 31.0%、「高校・大学の授業」が 20.7%

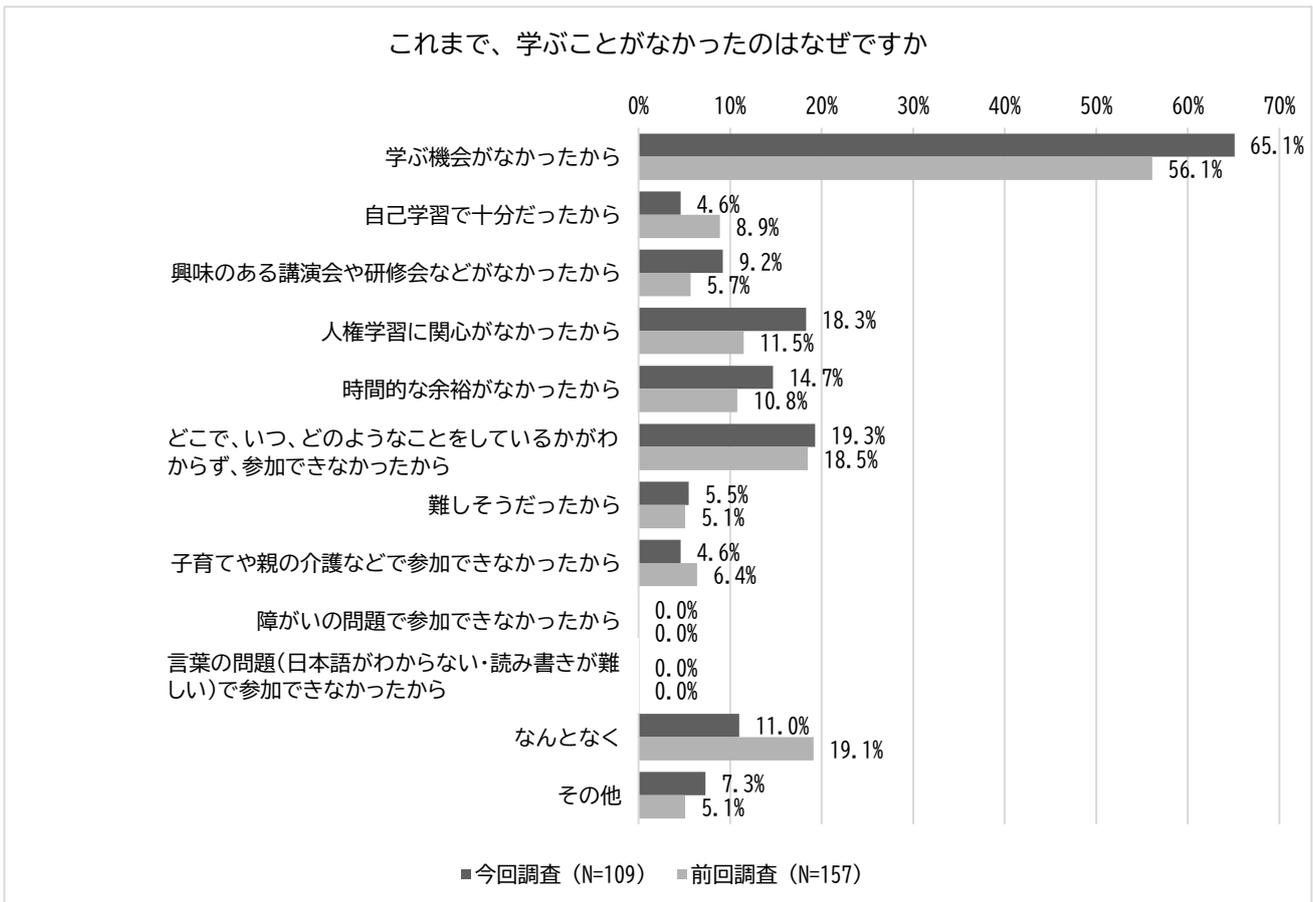
となっています。

	小学校・中学校の授業	高校・大学の授業	PTAなどの学校行事	地区人権研修	八尾市などの行政主催の行事	職場での研修会など	民間機関や市民団体主催の行事	書籍(啓発冊子を含む)やテレビなど	その他	これまでに学ぶことがなかった
全体(N=1,243)	63.6%	25.1%	5.5%	2.3%	4.1%	18.8%	3.3%	26.0%	2.9%	8.8%
性別										
男性(N=533)	61.5%	23.3%	2.1%	2.8%	3.8%	21.0%	3.6%	24.0%	3.4%	10.3%
女性(N=687)	66.1%	26.6%	8.0%	1.7%	4.5%	17.2%	3.1%	27.8%	2.3%	7.7%
年齢別										
19歳以下(N=38)	89.5%	65.8%	2.6%	2.6%	2.6%	0.0%	5.3%	15.8%	2.6%	2.6%
20~29歳(N=81)	79.0%	60.5%	0.0%	1.2%	1.2%	17.3%	0.0%	9.9%	4.9%	9.9%
30~39歳(N=93)	86.0%	41.9%	2.2%	0.0%	2.2%	23.7%	1.1%	23.7%	3.2%	2.2%
40~49歳(N=172)	84.3%	26.7%	5.2%	0.6%	3.5%	25.0%	2.9%	19.8%	4.1%	2.9%
50~59歳(N=230)	82.2%	22.2%	7.4%	1.3%	3.5%	24.3%	1.7%	27.0%	1.7%	1.7%
60~69歳(N=224)	71.4%	20.5%	4.9%	2.2%	0.9%	21.9%	1.3%	29.0%	2.2%	4.0%
70~79歳(N=232)	30.6%	16.8%	7.3%	5.6%	6.0%	14.7%	7.3%	32.8%	1.3%	16.8%
80歳以上(N=163)	27.6%	9.2%	6.1%	2.5%	10.4%	9.2%	5.5%	28.8%	4.9%	25.2%
職業別										
公務員・教職員(N=43)	74.4%	44.2%	7.0%	7.0%	11.6%	83.7%	0.0%	23.3%	0.0%	0.0%
自営業・自由業(N=91)	54.9%	28.6%	4.4%	1.1%	0.0%	8.8%	5.5%	31.9%	2.2%	13.2%
民間企業・団体の経営者、役員(N=28)	60.7%	28.6%	7.1%	0.0%	3.6%	14.3%	3.6%	21.4%	0.0%	7.1%
民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)(N=313)	81.8%	27.8%	1.9%	1.3%	0.6%	25.9%	3.2%	20.8%	2.2%	3.2%
臨時雇用、パート、アルバイト(N=203)	75.4%	23.2%	8.9%	1.0%	5.4%	18.2%	1.5%	26.1%	1.5%	7.4%
学生(N=47)	93.6%	74.5%	2.1%	2.1%	2.1%	0.0%	4.3%	12.8%	0.0%	0.0%
家事専業(N=173)	60.1%	24.3%	8.7%	3.5%	4.0%	9.8%	4.6%	29.5%	3.5%	4.0%
無職(N=308)	37.7%	13.0%	4.9%	3.6%	7.8%	14.6%	3.2%	29.5%	4.5%	19.2%
その他(N=29)	55.2%	20.7%	10.3%	0.0%	0.0%	17.2%	6.9%	31.0%	10.3%	13.8%

(1) 「10. これまでに学ぶことがなかった」と答えた方だけにお聞きします。これまで、学ぶことがなかったのはなぜですか(いくつでも選択できます)。

■ 全体

「学ぶ機会がなかったから」が 65.1%でもっとも高く、次いで「どこで、いつ、どのようなことをしているかがわからず、参加できなかったから」が19.3%、「人権学習に関心なかったから」が18.3%となっています。前回調査と比較すると、「学ぶ機会がなかったから」が9.0ポイント、「人権学習に関心なかったから」が6.8ポイント増加し、「なんとなく」が8.1ポイント、「自己学習で十分だったから」が4.3ポイント減少しています。



■ 性別

「どこで、いつ、どのようなことをしているかがわからず、参加できなかったから」が8.5ポイント、「なんとなく」が7.0ポイント、「男性」が「女性」を上回り、「興味のある講演会や研修会などがなかったから」が7.7ポイント、「子育てや親の介護などで参加できなかったから」が5.7ポイント、「女性」が「男性」を上回っています。

■ 年齢別

「40～49歳」は「人権学習に関心なかったから」が60.0%、「50～59歳」は「学ぶ機会がなかったから」「自己学習で十分だったから」「人権学習に関心なかったから」「どこで、いつ、どのようなことをしているかがわからず、参加できなかったから」「難しそうだったから」がいずれも25.0%、「20～39歳」「60歳以上」は「学ぶ機会がなかったから」がもっとも高くなっています。

■ 職業別

「公務員・教職員」「学生」以外は「学ぶ機会がなかったから」がもっとも高くなっています。

「公務員・教職員」「学生」は回答がありませんでした。

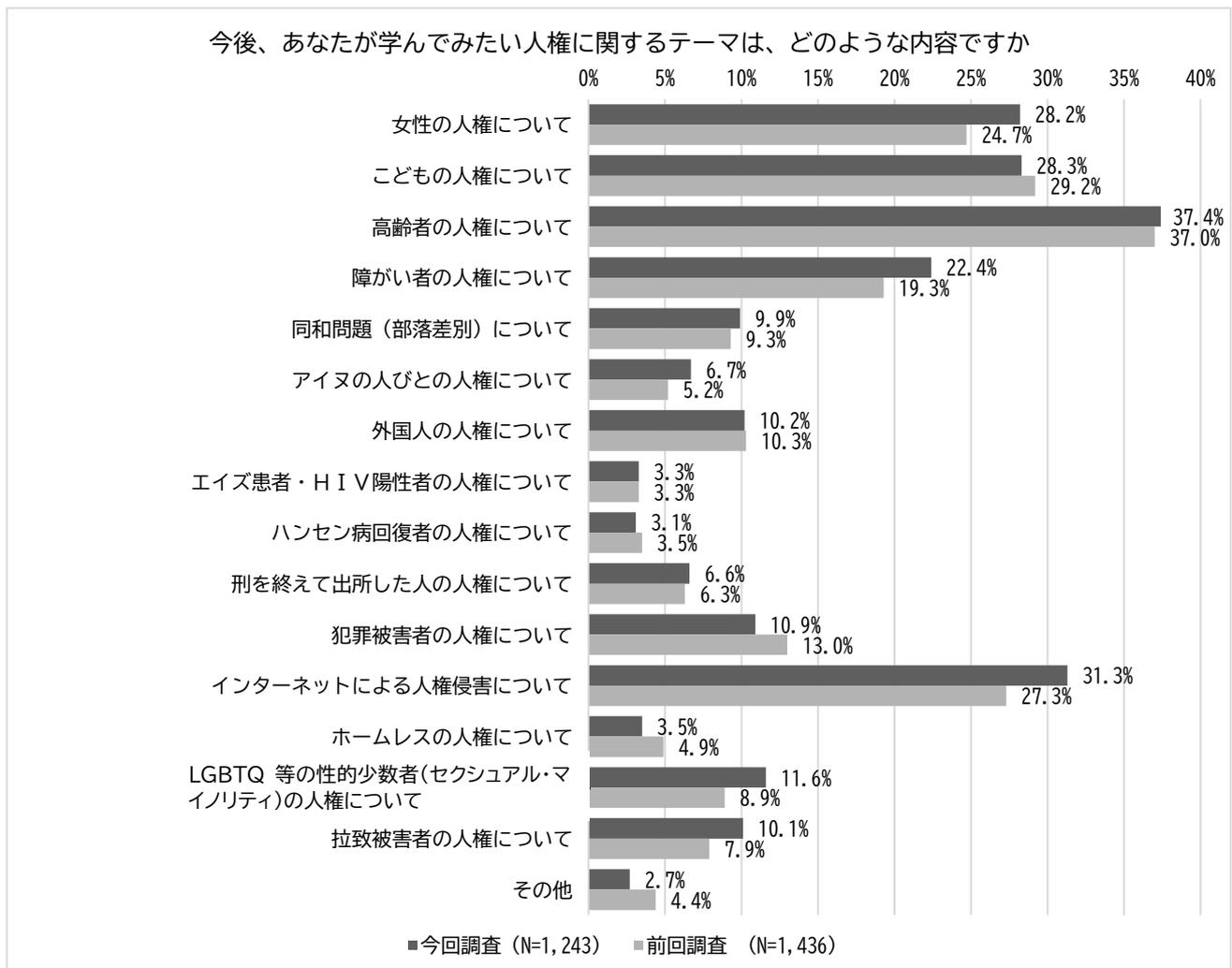
		学ぶ機会がなかったから	自己学習で十分だったから	興味のある講演会や研修会などがなかったから	人権学習に関心がなかったから	時間的な余裕がなかったから	どこで、いつ、どのようなことをしているかわからず、参加できなかったから	難しすぎだったから	子育てや親の介護などで参加できなかったから	障がいの問題で参加できなかったから	言葉の問題（日本語がわからない・読み書きが難しい）で参加できなかったから	なんとなく	その他	
	全体(N=109)	65.1%	4.6%	9.2%	18.3%	14.7%	19.3%	5.5%	4.6%	0.0%	0.0%	11.0%	7.3%	
性別	男性(N=55)	63.6%	3.6%	5.5%	18.2%	12.7%	23.6%	3.6%	1.8%	0.0%	0.0%	14.5%	5.5%	
	女性(N=53)	67.9%	5.7%	13.2%	18.9%	17.0%	15.1%	7.5%	7.5%	0.0%	0.0%	7.5%	7.5%	
年齢別	19歳以下(N=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
	20～29歳(N=8)	62.5%	0.0%	12.5%	25.0%	12.5%	25.0%	12.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	
	30～39歳(N=2)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	40～49歳(N=5)	40.0%	0.0%	0.0%	60.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	50～59歳(N=4)	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	
	60～69歳(N=9)	77.8%	0.0%	11.1%	11.1%	22.2%	33.3%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	
	70～79歳(N=39)	53.8%	5.1%	7.7%	15.4%	17.9%	17.9%	2.6%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	15.4%	7.7%
	80歳以上(N=41)	80.5%	4.9%	12.2%	17.1%	14.6%	19.5%	2.4%	7.3%	0.0%	0.0%	0.0%	14.6%	0.0%
職業別	公務員・教職員(N=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	自営業・自由業(N=12)	58.3%	0.0%	8.3%	33.3%	33.3%	41.7%	8.3%	16.7%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	
	民間企業・団体の経営者、役員(N=2)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	民間企業・団体の従業者（会社員、団体職員）(N=10)	60.0%	0.0%	10.0%	40.0%	10.0%	30.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	
	臨時雇用、パート、アルバイト(N=15)	53.3%	6.7%	6.7%	40.0%	6.7%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	20.0%	
	学生(N=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	家事専業(N=7)	71.4%	0.0%	0.0%	14.3%	28.6%	14.3%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	28.6%	14.3%	
	無職(N=59)	69.5%	6.8%	10.2%	8.5%	13.6%	16.9%	3.4%	3.4%	0.0%	0.0%	13.6%	1.7%	
その他(N=4)	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%		

問 22 今後、あなたが学んでみたい人権に関するテーマは、どのような内容ですか  
(いくつでも選択できます)。

■ 全体

「高齢者の人権について」が 37.4%でもっとも高く、次いで「インターネットによる人権侵害について」が 31.3%、「子どもの人権について」が 28.3%、「女性の人権について」が 28.2%、「障がい者の人権について」が 22.4%となっています。

前回調査と比較すると、「インターネットによる人権侵害について」が 4.0 ポイント、「女性の人権について」が 3.5 ポイント、「障がい者の人権について」が 3.1 ポイント増加しています。



■ 性別

「外国人の人権について」は 5.2 ポイント、「男性」が「女性」を上回り、「女性の人権について」は 21.6 ポイント、「高齢者の人権について」は 5.3 ポイント、「子どもの人権について」は 4.5 ポイント、「女性」が「男性」を上回っています。

■ 年齢別

「19歳以下」は「障がい者の人権について」、「20～29歳」は「女性の人権について」「子どもの人権について」、「30～49歳」は「子どもの人権について」、「50～59歳」は「インターネットによる人権侵害について」、「60歳以

上」は「高齢者の人権について」がもっとも高くなっています。

### ■ 職業別

「公務員・教職員」は「障がい者の人権について」、「自営業・自由業」「民間企業・団体の経営者、役員」「臨時雇用、パート、アルバイト」「家事専業」「無職」は「高齢者の人権について」、「学生」は「こどもの人権について」、「その他」は「女性の人権について」がもっとも高くなっています。

### ■ 学習経験別

「こどもの人権について」は 18.7 ポイント、「インターネットによる人権侵害について」は 15.3 ポイント、「女性の人権について」は 14.8 ポイント、「あり」が「なし」を上回り、「高齢者の人権について」は 10.0 ポイント、「なし」が「あり」を上回っています。

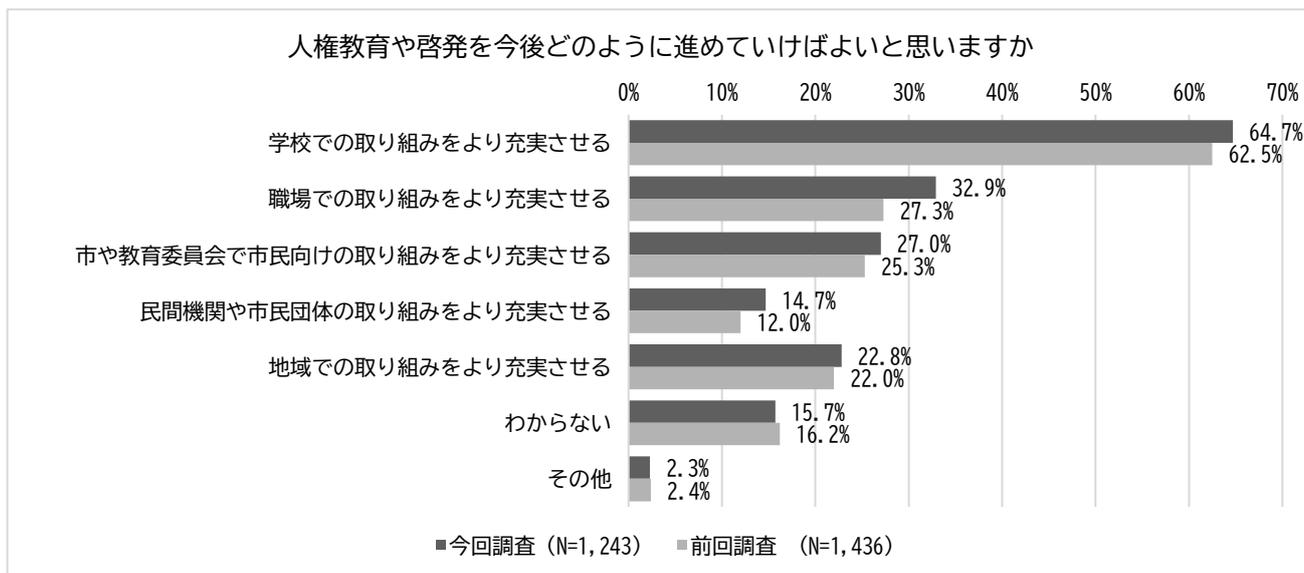
		女性の人権について	こどもの人権について	高齢者の人権について	障がい者の人権について	同和問題（部落差別）について	アイヌの人びとの人権について	外国人の人権について	エイズ患者・HIV陽性者の人権について	ハンセン病回復者の人権について	刑を終えて出所した人の人権について	犯罪被害者の人権について	インターネットによる人権侵害について	ホームレスの人権について	LGBTQ等の性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）の人権	拉致被害者の人権について	その他
性別	全体(N=1,243)	28.2%	28.3%	37.4%	22.4%	9.9%	6.7%	10.2%	3.3%	3.1%	6.6%	10.9%	31.3%	3.5%	11.6%	10.1%	2.7%
	男性(N=533)	16.1%	25.9%	34.3%	21.8%	11.4%	7.5%	13.1%	3.8%	3.6%	7.1%	10.9%	32.6%	3.9%	9.6%	11.1%	4.7%
	女性(N=687)	37.7%	30.4%	39.6%	23.0%	8.7%	6.1%	7.9%	2.8%	2.8%	6.1%	10.6%	30.6%	3.2%	12.8%	9.6%	1.3%
年齢別	19歳以下(N=38)	39.5%	42.1%	21.1%	44.7%	15.8%	15.8%	21.1%	13.2%	13.2%	7.9%	13.2%	28.9%	7.9%	36.8%	15.8%	0.0%
	20～29歳(N=81)	38.3%	38.3%	13.6%	33.3%	11.1%	12.3%	19.8%	12.3%	7.4%	11.1%	11.1%	37.0%	8.6%	27.2%	9.9%	2.5%
	30～39歳(N=93)	35.5%	46.2%	15.1%	19.4%	12.9%	5.4%	17.2%	4.3%	4.3%	9.7%	11.8%	39.8%	4.3%	17.2%	4.3%	2.2%
	40～49歳(N=172)	32.6%	38.4%	24.4%	21.5%	11.0%	6.4%	9.9%	3.5%	3.5%	10.5%	14.5%	36.0%	2.3%	21.5%	5.2%	2.9%
	50～59歳(N=230)	37.8%	31.7%	36.1%	24.3%	11.3%	7.8%	12.6%	3.5%	4.8%	6.5%	14.3%	44.3%	3.9%	12.2%	8.7%	2.2%
	60～69歳(N=224)	24.6%	19.2%	40.6%	21.0%	9.8%	8.5%	7.6%	1.8%	0.4%	3.1%	8.0%	26.8%	1.3%	8.0%	12.1%	4.0%
	70～79歳(N=232)	19.4%	21.1%	51.7%	19.0%	8.6%	3.9%	7.8%	0.4%	0.9%	5.2%	9.1%	24.6%	2.6%	1.7%	13.4%	2.2%
	80歳以上(N=163)	16.6%	18.4%	57.1%	19.6%	5.5%	3.1%	3.7%	1.2%	2.5%	4.9%	6.7%	17.2%	4.3%	1.8%	12.3%	3.7%
職業別	公務員・教職員(N=38)	39.5%	42.1%	21.1%	44.7%	15.8%	15.8%	21.1%	13.2%	13.2%	7.9%	13.2%	28.9%	7.9%	36.8%	15.8%	0.0%
	自営業・自由業(N=91)	20.9%	29.7%	41.8%	18.7%	12.1%	11.0%	11.0%	0.0%	2.2%	8.8%	6.6%	36.3%	1.1%	9.9%	9.9%	2.2%
	民間企業・団体の経営者、役員(N=28)	21.4%	35.7%	42.9%	21.4%	17.9%	7.1%	14.3%	10.7%	7.1%	10.7%	7.1%	28.6%	7.1%	28.6%	14.3%	0.0%
	民間企業・団体の従業者（会社員、団体職員）(N=313)	28.1%	33.9%	28.1%	19.5%	10.9%	5.8%	14.1%	4.2%	2.9%	7.7%	12.5%	40.3%	2.2%	11.5%	6.1%	2.2%
	臨時雇用、パート、アルバイト(N=203)	30.0%	23.6%	37.4%	20.7%	8.4%	5.9%	10.3%	3.0%	2.0%	4.4%	10.3%	29.6%	3.4%	13.8%	8.9%	2.5%
	学生(N=47)	40.4%	42.6%	19.1%	38.3%	10.6%	14.9%	19.1%	14.9%	12.8%	12.8%	17.0%	31.9%	6.4%	36.2%	12.8%	0.0%
	家事専業(N=173)	38.7%	30.1%	44.5%	26.0%	8.1%	5.8%	3.5%	1.2%	1.7%	4.6%	8.7%	27.2%	2.3%	7.5%	11.6%	1.7%
	無職(N=308)	19.2%	20.1%	46.1%	20.8%	8.1%	5.5%	7.8%	2.3%	2.9%	4.9%	9.4%	23.7%	4.9%	4.5%	12.7%	4.2%
	その他(N=29)	44.8%	31.0%	37.9%	37.9%	20.7%	10.3%	20.7%	3.4%	10.3%	13.8%	17.2%	27.6%	6.9%	17.2%	27.6%	10.3%
学習経験別	あり(N=1,073)	30.4%	30.6%	37.7%	23.3%	10.4%	7.5%	11.4%	3.4%	3.5%	6.9%	11.6%	33.6%	3.4%	12.8%	10.4%	2.5%
	なし(N=109)	15.6%	11.9%	47.7%	21.1%	3.7%	2.8%	3.7%	1.8%	0.9%	3.7%	7.3%	18.3%	2.8%	4.6%	6.4%	5.5%

問 23 「人権教育や啓発」、「人権についての学習」についてお尋ねします。

(1) あなたは、人権教育や啓発を今後どのように進めていけばよいと思いますか  
(いくつでも選択できます)。

■ 全体

「学校での取り組みをより充実させる」が 64.7%でもっとも高く、次いで「職場での取り組みをより充実させる」が 32.9%、「市や教育委員会で市民向けの取り組みをより充実させる」が 27.0%となっています。  
 前回調査と比較すると、「職場での取り組みをより充実させる」が 5.6 ポイント、「民間機関や市民団体の取り組みをより充実させる」が 2.7 ポイント、「学校での取り組みをより充実させる」が 2.2 ポイント増加しています。



■ 性別

「学校での取り組みをより充実させる」が 3.7 ポイント、「地域での取り組みをより充実させる」が 3.1 ポイント、「女性」が「男性」を上回っています。

■ 年齢別

全ての年齢で「学校での取り組みをより充実させる」がもっとも高くなっています。

■ 職業別

全ての職業で「学校での取り組みをより充実させる」がもっとも高くなっています。

■ 学習経験別

「学校での取り組みをより充実させる」が 23.6 ポイント、「職場での取り組みをより充実させる」が 18.9 ポイント、「あり」が「なし」を上回っています。

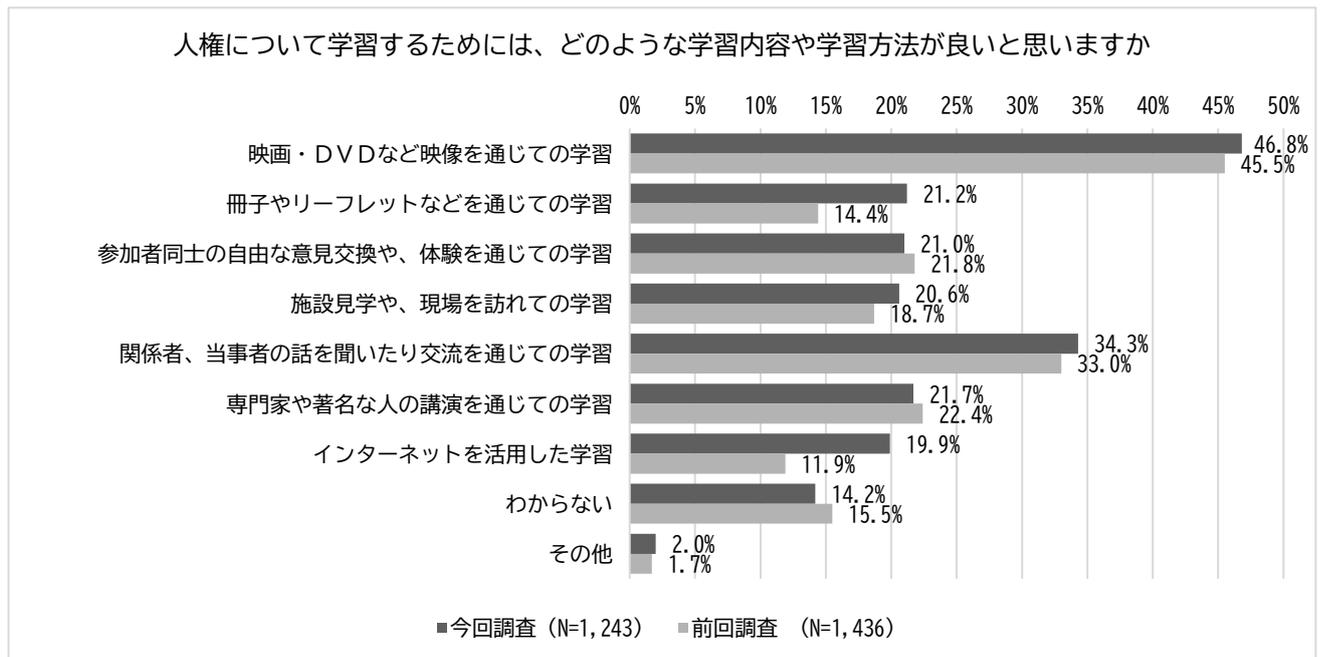
また、「わからない」が 18.1 ポイント、「なし」が「あり」を上回っています。

		学校での取り組みを より充実させる	職場での取り組みを より充実させる	市や教育委員会で市 民向けの取り組みを より充実させる	民間機関や市民団体 の取り組みをより充 実させる	地域での取り組みを より充実させる	わからない	その他
	全体(N=1,243)	64.7%	32.9%	27.0%	14.7%	22.8%	15.7%	2.3%
性別	男性(N=533)	63.0%	32.8%	25.7%	13.7%	21.2%	16.9%	2.4%
	女性(N=687)	66.7%	33.0%	27.4%	15.1%	24.3%	15.0%	2.2%
年齢別	19歳以下(N=38)	84.2%	39.5%	28.9%	13.2%	21.1%	2.6%	2.6%
	20～29歳(N=81)	79.0%	45.7%	23.5%	17.3%	24.7%	11.1%	2.5%
	30～39歳(N=93)	76.3%	46.2%	20.4%	12.9%	21.5%	10.8%	4.3%
	40～49歳(N=172)	70.3%	40.1%	18.0%	15.1%	18.0%	14.0%	4.1%
	50～59歳(N=230)	71.7%	42.6%	26.5%	16.1%	22.6%	13.9%	1.7%
	60～69歳(N=224)	65.2%	31.7%	29.0%	13.4%	23.2%	15.6%	0.9%
	70～79歳(N=232)	53.0%	20.3%	33.6%	12.9%	21.6%	19.8%	2.2%
	80歳以上(N=163)	47.9%	16.0%	30.1%	16.0%	30.7%	23.3%	1.2%
職業別	公務員・教職員(N=38)	84.2%	81.6%	28.9%	23.7%	31.6%	5.3%	5.3%
	自営業・自由業(N=91)	61.5%	31.9%	26.4%	16.5%	19.8%	15.4%	4.4%
	民間企業・団体の経営者、役員 (N=28)	64.3%	25.0%	35.7%	14.3%	14.3%	17.9%	0.0%
	民間企業・団体の従業者(会社 員、団体職員)(N=313)	75.1%	43.8%	23.6%	14.4%	22.4%	9.9%	2.2%
	臨時雇用、パート、アルバイト (N=203)	61.1%	28.6%	24.1%	11.8%	20.7%	18.2%	1.0%
	学生(N=47)	85.1%	38.3%	27.7%	14.9%	31.9%	2.1%	4.3%
	家事専業(N=173)	67.1%	27.2%	37.0%	11.6%	26.0%	12.7%	2.3%
	無職(N=308)	53.2%	21.8%	25.3%	15.9%	22.1%	24.4%	1.3%
	その他(N=29)	51.7%	41.4%	34.5%	24.1%	31.0%	27.6%	6.9%
学習経験 別	あり(N=1,073)	68.6%	35.4%	28.1%	15.6%	23.9%	14.0%	2.2%
	なし(N=109)	45.0%	16.5%	22.0%	8.3%	18.3%	32.1%	1.8%

(2) あなたは、人権について学習するためには、どのような学習内容や学習方法が良いと思いますか  
(いくつでも選択できます)。

■ 全体

「映画・DVDなど映像を通じての学習」が 46.8%でもっとも高く、次いで「関係者、当事者の話を聞いたり交流を通じての学習」が34.3%、「専門家や著名な人の講演を通じての学習」が21.7%となっています。前回調査と比較すると、「インターネットを活用した学習」が 8.0 ポイント、「冊子やリーフレットなどを通じての学習」が6.8 ポイント増加しています。



■ 性別

「インターネットを活用した学習」が 3.1 ポイント、「男性」が「女性」を上回り、「関係者、当事者の話を聞いたり交流を通じての学習」が 6.8 ポイント、「冊子やリーフレットなどを通じての学習」が 4.2 ポイント、「女性」が「男性」を上回っています。

■ 年齢別

「20～29歳」は「関係者、当事者の話を聞いたり交流を通じての学習」、「19歳以下」「30歳以上」は「映画・DVDなど映像を通じての学習」がもっとも高くなっています。

■ 職業別

「学生」は「映画・DVDなど映像を通じての学習」「関係者、当事者の話を聞いたり交流を通じての学習」、「学生」以外は「映画・DVDなど映像を通じての学習」がもっとも高くなっています。

## ■ 学習経験別

「映画・DVDなど映像を通じての学習」が22.5ポイント、「関係者、当事者の話を聞いたり交流を通じての学習」が16.3ポイント、「インターネットを活用した学習」が13.0ポイント、「あり」が「なし」を上回っています。また、「わからない」が21.3ポイント、「なし」が「あり」を上回っています。

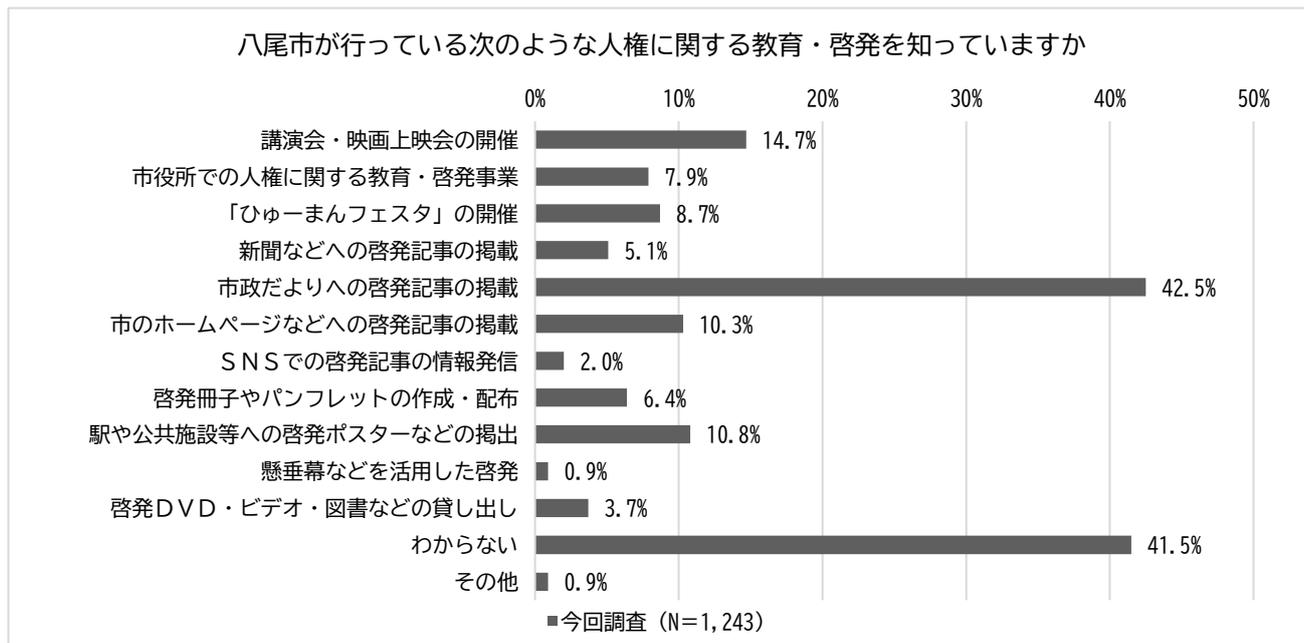
	映画・DVDなど映像を通じての学習	冊子やリーフレットなどを通じての学習	参加者同士の自由な意見交換や、体験を通じての学習	施設見学や、現場を訪れての学習	関係者、当事者の話を聞いたり交流を通じての学習	専門家や著名人の講演を通じての学習	インターネットを活用した学習	わからない	その他	
	全体(N=1,243)	46.8%	21.2%	21.0%	20.6%	34.3%	21.7%	19.9%	14.2%	2.0%
性別	男性(N=533)	45.8%	18.8%	19.7%	19.9%	30.6%	21.8%	21.6%	16.5%	1.7%
	女性(N=687)	48.0%	23.0%	22.1%	21.8%	37.4%	21.8%	18.5%	12.1%	2.3%
年齢別	19歳以下(N=38)	57.9%	15.8%	44.7%	21.1%	50.0%	26.3%	26.3%	0.0%	2.6%
	20～29歳(N=81)	49.4%	13.6%	25.9%	33.3%	51.9%	28.4%	30.9%	2.5%	0.0%
	30～39歳(N=93)	52.7%	26.9%	25.8%	30.1%	36.6%	18.3%	32.3%	4.3%	5.4%
	40～49歳(N=172)	51.7%	18.0%	28.5%	27.3%	41.3%	25.6%	25.0%	11.6%	2.9%
	50～59歳(N=230)	50.9%	26.1%	16.5%	19.1%	37.0%	19.1%	29.6%	12.6%	2.6%
	60～69歳(N=224)	50.9%	20.1%	18.8%	18.8%	32.1%	24.6%	17.9%	13.4%	0.9%
	70～79歳(N=232)	40.5%	20.7%	19.0%	15.1%	27.2%	19.8%	9.1%	22.4%	1.3%
	80歳以上(N=163)	33.7%	22.7%	14.7%	15.3%	21.5%	19.0%	5.5%	22.7%	1.8%
職業別	公務員・教職員(N=38)	71.1%	28.9%	31.6%	34.2%	65.8%	44.7%	23.7%	2.6%	2.6%
	自営業・自由業(N=91)	38.5%	18.7%	24.2%	19.8%	31.9%	24.2%	20.9%	14.3%	3.3%
	民間企業・団体の経営者、役員(N=28)	42.9%	17.9%	28.6%	17.9%	28.6%	21.4%	28.6%	14.3%	3.6%
	民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)(N=313)	52.7%	21.1%	21.1%	25.9%	36.1%	20.4%	31.6%	9.3%	1.6%
	臨時雇用、パート、アルバイト(N=203)	47.3%	19.2%	21.2%	19.7%	38.4%	21.7%	19.7%	13.8%	1.5%
	学生(N=47)	59.6%	12.8%	42.6%	25.5%	59.6%	21.3%	21.3%	0.0%	2.1%
	家事専業(N=173)	48.0%	22.5%	18.5%	15.6%	30.6%	22.5%	15.0%	12.7%	2.3%
	無職(N=308)	39.6%	23.1%	15.6%	16.9%	24.7%	18.8%	9.7%	24.0%	1.3%
	その他(N=29)	41.4%	31.0%	27.6%	27.6%	37.9%	34.5%	17.2%	10.3%	10.3%
学習経験別	あり(N=1,073)	50.0%	22.6%	22.6%	22.2%	36.5%	22.9%	21.3%	11.7%	2.0%
	なし(N=109)	27.5%	13.8%	12.8%	11.9%	20.2%	15.6%	8.3%	33.0%	2.8%

問 24 八尾市の取り組みについてお尋ねします。

あなたは、八尾市が行っている次のような人権に関する教育・啓発を知っていますか  
(いくつでも選択できます)。

■ 全体

「市政だよりへの啓発記事の掲載」が 42.5%でもっとも高く、次いで「わからない」が 41.5%、「講演会・映画上映会の開催」が 14.7%、「駅や公共施設等への啓発ポスターなどの掲出」が 10.8%、「市のホームページなどへの啓発記事の掲載」が 10.3%となっています。



■ 性別

「市政だよりへの啓発記事の掲載」が 7.8 ポイント、「ひゅーまんフェスタ」の開催」が 5.7 ポイント、「講演会・映画上映会の開催」が 3.1 ポイント、「女性」が「男性」を上回っています。

■ 年齢別

「19歳以下」及び「20～49歳」までは「わからない」、「50歳～79歳」及び「80歳以上」は「市政だよりへの啓発記事の掲載」がもっとも高くなっています。

■ 職業別

「公務員・教職員」「自営業・自由業」「臨時雇用、パート、アルバイト」「家事専業」「無職」は「市政だよりへの啓発記事の掲載」、それ以外の職業は「わからない」がもっとも高くなっています。

■ 学習経験別

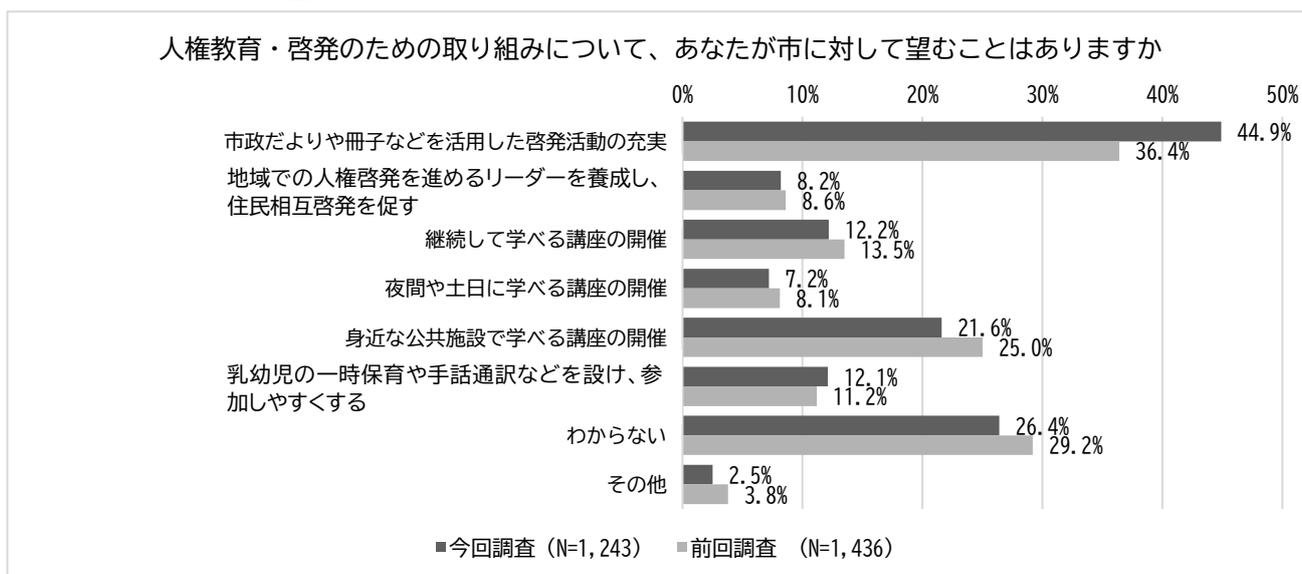
「市政だよりへの啓発記事の掲載」が 15.3 ポイント、「講演会・映画上映会の開催」が 11.2 ポイント、「あり」が「なし」を上回っています。また、「わからない」が 22.2 ポイント、「なし」が「あり」を上回っています。

		講演会・映画上映会の開催	市役所での人権に関する教育・啓発事業	「ひゅーまんフェスタ」の開催	新聞などへの啓発記事の掲載	市政だよりへの啓発記事の掲載	市のホームページなどへの啓発記事の掲載	SNSでの啓発記事の情報発信	啓発冊子やパンフレットの作成・配布	駅や公共施設等への啓発ポスターなどの掲出	啓発	懸垂幕などを活用した啓発	啓発DVD・ビデオ・図書などの貸し出し	わからない	その他
	全体(N=1,243)	14.7%	7.9%	8.7%	5.1%	42.5%	10.3%	2.0%	6.4%	10.8%	0.9%	3.7%	41.5%	0.9%	
性別	男性(N=533)	12.9%	8.1%	5.4%	5.1%	38.3%	9.8%	1.7%	7.7%	11.4%	1.1%	2.8%	46.3%	0.8%	
	女性(N=687)	16.0%	7.1%	11.1%	5.1%	46.1%	10.8%	2.2%	5.5%	10.5%	0.7%	4.2%	38.1%	1.0%	
年齢別	19歳以下(N=38)	15.8%	7.9%	15.8%	7.9%	18.4%	0.0%	5.3%	7.9%	10.5%	0.0%	7.9%	55.3%	0.0%	
	20～29歳(N=81)	3.7%	3.7%	6.2%	3.7%	21.0%	3.7%	2.5%	0.0%	11.1%	0.0%	3.7%	63.0%	0.0%	
	30～39歳(N=93)	9.7%	5.4%	15.1%	4.3%	33.3%	8.6%	5.4%	4.3%	10.8%	2.2%	3.2%	50.5%	0.0%	
	40～49歳(N=172)	14.5%	7.6%	12.8%	1.7%	40.1%	8.7%	1.2%	5.2%	8.1%	0.0%	4.1%	44.8%	1.2%	
	50～59歳(N=230)	16.1%	8.3%	10.0%	2.2%	43.9%	10.4%	3.5%	7.4%	9.1%	0.9%	3.0%	43.9%	0.4%	
	60～69歳(N=224)	13.8%	8.5%	8.0%	3.6%	50.9%	11.6%	0.9%	5.4%	11.2%	0.9%	4.0%	37.1%	1.8%	
	70～79歳(N=232)	19.0%	7.8%	5.6%	8.2%	48.3%	15.9%	0.4%	9.5%	14.2%	1.7%	3.0%	33.2%	0.4%	
	80歳以上(N=163)	17.2%	8.6%	3.7%	11.0%	45.4%	9.2%	1.8%	7.4%	11.0%	0.6%	4.3%	35.0%	1.8%	
職業別	公務員・教職員(N=43)	32.6%	27.9%	34.9%	7.0%	60.5%	18.6%	2.3%	20.9%	16.3%	4.7%	14.0%	20.9%	0.0%	
	自営業・自由業(N=91)	15.4%	11.0%	6.6%	3.3%	48.4%	20.9%	3.3%	6.6%	15.4%	1.1%	3.3%	34.1%	0.0%	
	民間企業・団体の経営者、役員(N=28)	17.9%	10.7%	3.6%	3.6%	42.9%	10.7%	0.0%	17.9%	7.1%	3.6%	3.6%	46.4%	0.0%	
	民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)(N=313)	11.2%	5.8%	5.1%	2.6%	35.1%	7.7%	2.9%	4.2%	9.3%	0.3%	2.2%	53.7%	0.0%	
	臨時雇用、パート、アルバイト(N=203)	14.3%	7.4%	12.8%	3.4%	47.3%	10.3%	0.5%	3.9%	11.3%	0.5%	2.5%	36.5%	3.4%	
	学生(N=47)	14.9%	4.3%	14.9%	8.5%	14.9%	0.0%	4.3%	4.3%	17.0%	0.0%	6.4%	57.4%	0.0%	
	家事専業(N=173)	15.6%	6.9%	10.4%	7.5%	48.6%	11.6%	2.9%	6.9%	7.5%	1.2%	3.5%	35.8%	0.6%	
	無職(N=308)	15.9%	6.5%	5.2%	6.5%	44.5%	10.4%	1.0%	7.5%	11.4%	1.0%	3.9%	39.0%	0.3%	
	その他(N=29)	10.3%	6.9%	6.9%	13.8%	31.0%	3.4%	3.4%	3.4%	10.3%	0.0%	10.3%	34.5%	6.9%	
学習経験別	あり(N=1,073)	15.8%	8.6%	9.4%	5.4%	44.7%	11.0%	2.3%	7.0%	11.4%	1.0%	3.8%	40.2%	0.8%	
	なし(N=109)	4.6%	1.8%	4.6%	1.8%	29.4%	4.6%	0.0%	2.8%	7.3%	0.0%	1.8%	62.4%	1.8%	

問 25 人権教育・啓発のための取り組みについて、あなたが市に対して望むことはありますか  
(いくつでも選択できます)。

■ 全体

「市政だよりや冊子などを活用した啓発活動の充実」が 44.9%でもっとも高く、次いで「わからない」が 26.4%、「身近な公共施設で学べる講座の開催」が 21.6%、「継続して学べる講座の開催」が 12.2%、「乳幼児の一時保育や手話通訳などを設け、参加しやすくする」が 12.1%となっています。  
前回調査と比較すると、「市政だよりや冊子などを活用した啓発活動の充実」が 8.5 ポイント増加し、「身近な公共施設で学べる講座の開催」が 3.4 ポイント減少しています。



■ 性別

「わからない」が 6.6 ポイント、「男性」が「女性」を上回っています。また、「乳幼児の一時保育や手話通訳などを設け、参加しやすくする」が 6.0 ポイント、「女性」が「男性」を上回っています。

■ 年齢別

全ての年齢で「市政だよりや冊子などを活用した啓発活動の充実」がもっとも高くなっています。

■ 職業別

全ての職業で「市政だよりや冊子などを活用した啓発活動の充実」がもっとも高くなっています。

■ 学習経験別

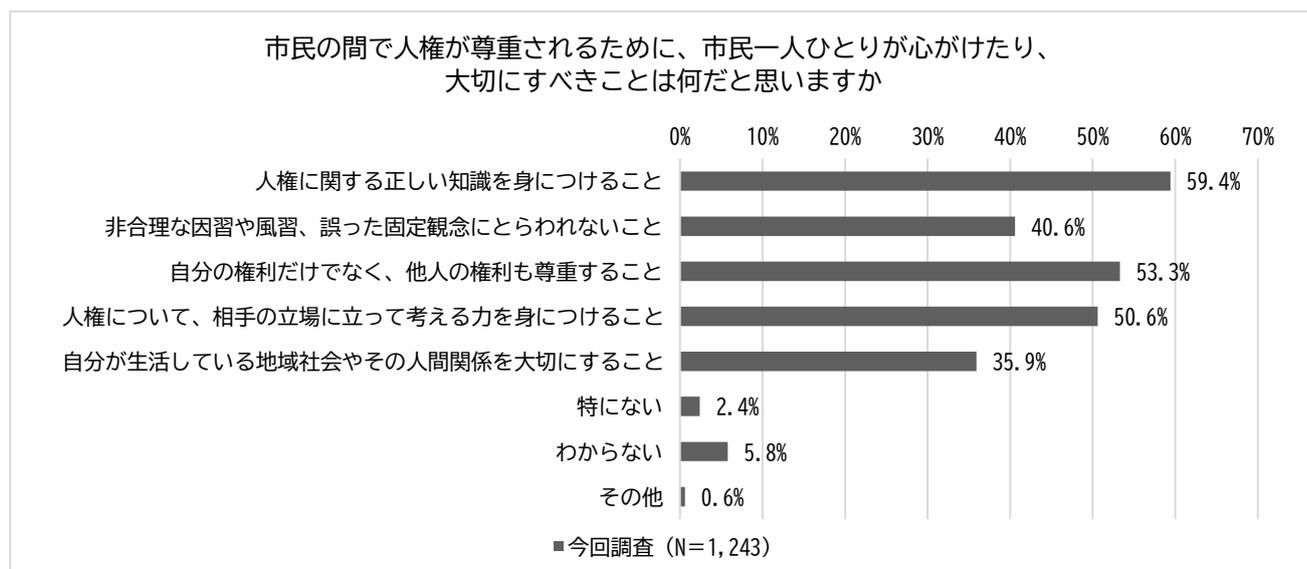
「市政だよりや冊子などを活用した啓発活動の充実」が 8.2 ポイント、「身近な公共施設で学べる講座の開催」が 7.4 ポイント、「乳幼児の一時保育や手話通訳などを設け、参加しやすくする」が 7.4 ポイント、「あり」が「なし」を上回っています。  
また、「わからない」が 13.9 ポイント、「なし」が「あり」を上回っています。

		市政だよりや冊子などを活用した啓発活動の充実	地域での人権啓発を進めるリーダーを養成し、住民相互啓発を促す	継続して学べる講座の開催	夜間や土日に学べる講座の開催	身近な公共施設で学べる講座の開催	乳幼児の一時保育や手話通訳などを設け、参加しやすくする	わからない	その他
	全体(N=1,243)	44.9%	8.2%	12.2%	7.2%	21.6%	12.1%	26.4%	2.5%
性別	男性(N=533)	43.5%	9.4%	11.8%	7.5%	20.3%	8.8%	30.0%	3.2%
	女性(N=687)	46.1%	7.4%	12.5%	7.0%	22.9%	14.8%	23.4%	2.0%
年齢別	19歳以下(N=38)	23.7%	5.3%	13.2%	10.5%	15.8%	15.8%	23.7%	5.3%
	20～29歳(N=81)	33.3%	12.3%	9.9%	9.9%	24.7%	23.5%	24.7%	1.2%
	30～39歳(N=93)	34.4%	5.4%	10.8%	5.4%	19.4%	22.6%	31.2%	3.2%
	40～49歳(N=172)	38.4%	7.0%	10.5%	10.5%	25.0%	17.4%	30.2%	3.5%
	50～59歳(N=230)	48.7%	7.8%	14.8%	13.5%	24.3%	11.3%	28.3%	2.6%
	60～69歳(N=224)	44.2%	5.8%	8.9%	4.5%	17.0%	7.6%	29.0%	2.7%
	70～79歳(N=232)	53.4%	9.5%	13.4%	3.4%	20.7%	6.0%	23.3%	2.6%
	80歳以上(N=163)	52.8%	12.3%	15.3%	3.7%	22.7%	9.8%	19.6%	0.6%
職業別	公務員・教職員(N=43)	41.9%	9.3%	14.0%	14.0%	20.9%	11.6%	20.9%	2.3%
	自営業・自由業(N=91)	46.2%	6.6%	9.9%	5.5%	20.9%	6.6%	25.3%	4.4%
	民間企業・団体の経営者、役員(N=28)	46.4%	10.7%	21.4%	10.7%	21.4%	10.7%	39.3%	0.0%
	民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)(N=313)	41.5%	8.3%	14.4%	12.8%	22.7%	16.0%	26.5%	3.2%
	臨時雇用、パート、アルバイト(N=203)	41.4%	6.9%	9.9%	5.9%	22.7%	11.8%	28.6%	0.5%
	学生(N=47)	27.7%	8.5%	12.8%	10.6%	21.3%	17.0%	23.4%	4.3%
	家事専業(N=173)	55.5%	8.7%	10.4%	2.3%	23.1%	10.4%	19.1%	2.9%
	無職(N=308)	49.4%	8.4%	11.7%	4.2%	18.8%	9.1%	29.9%	1.6%
その他(N=29)	27.6%	13.8%	17.2%	6.9%	24.1%	24.1%	20.7%	10.3%	
学習経験別	あり(N=1,073)	46.7%	8.9%	12.6%	7.4%	23.0%	12.9%	24.6%	2.6%
	なし(N=109)	38.5%	3.7%	9.2%	5.5%	15.6%	5.5%	38.5%	1.8%

問 26 あなたは、市民の間で人権が尊重されるために、市民一人ひとりが心がけたり、大切にすべきことは何だと思いますか(いくつでも選択できます)。

■ 全体

「人権に関する正しい知識を身につけること」が 59.4%でもっとも高く、次いで「自分の権利だけでなく、他人の権利も尊重すること」が 53.3%、「人権について、相手の立場に立って考える力を身につけること」が 50.6%となっています。



■ 性別

「非合理的な因習や風習、誤った固定観念にとらわれないこと」が 5.7 ポイント、「人権について、相手の立場に立って考える力を身につけること」が 5.6 ポイント、「女性」が「男性」を上回っています。

■ 年齢別

「19歳以下」「30～39歳」「50歳以上」は「人権に関する正しい知識を身につけること」、「20～29歳」「40～49歳」は「自分の権利だけでなく、他人の権利も尊重すること」がもっとも高くなっています。

■ 職業別

「民間企業・団体の経営者、役員」は「人権について、相手の立場に立って考える力を身につけること」、「民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)」は「自分の権利だけでなく、他人の権利も尊重すること」、「民間企業・団体の経営者、役員」「民間企業・団体の従業者」以外は「人権に関する正しい知識を身につけること」がもっとも高くなっています。

■ 学習経験別

「人権について、相手の立場に立って考える力を身につけること」が 21.5 ポイント、「人権に関する正しい知識を身につけること」が 20.3 ポイント、「非合理的な因習や風習、誤った固定観念にとらわれないこと」が 17.6

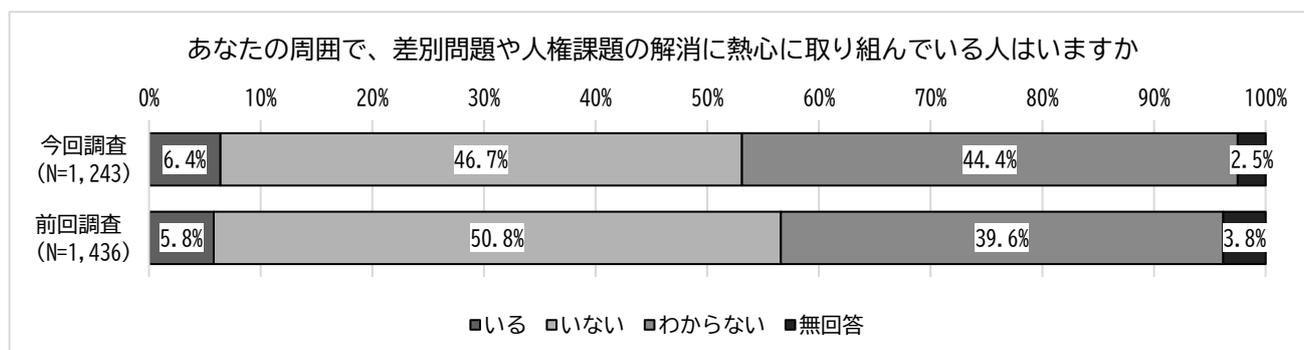
ポイント、「自分の権利だけでなく、他人の権利も尊重すること」が16.5ポイント、「あり」が「なし」を上回っています

		人権に関する正しい知識を身につけること	非合理的な因習や風習、誤った固定観念にとらわれないこと	も尊重すること	自分の権利だけでなく、他人の権利も尊重すること	人権について、相手の立場に立って考える力を身につけること	自分が生活している地域社会やその人間関係を大切にすること	特になし	わからない	その他
	全体(N=1,243)	59.4%	40.6%	53.3%	50.6%	35.9%	2.4%	5.8%	0.6%	
性別	男性(N=533)	58.2%	37.5%	52.5%	47.5%	34.1%	3.6%	6.8%	0.6%	
	女性(N=687)	60.8%	43.2%	54.6%	53.1%	37.1%	1.6%	4.9%	0.6%	
年齢別	19歳以下(N=38)	68.4%	65.8%	55.3%	36.8%	36.8%	0.0%	2.6%	2.6%	
	20～29歳(N=81)	55.6%	46.9%	60.5%	55.6%	39.5%	2.5%	8.6%	1.2%	
	30～39歳(N=93)	72.0%	43.0%	55.9%	52.7%	30.1%	0.0%	7.5%	0.0%	
	40～49歳(N=172)	61.0%	46.5%	61.6%	54.1%	29.7%	4.1%	4.1%	1.2%	
	50～59歳(N=230)	60.9%	42.6%	53.0%	53.5%	34.3%	1.3%	5.7%	0.4%	
	60～69歳(N=224)	59.4%	41.1%	49.1%	54.0%	29.9%	4.0%	4.0%	0.9%	
	70～79歳(N=232)	56.5%	34.5%	52.6%	48.3%	42.7%	2.2%	6.5%	0.0%	
	80歳以上(N=163)	53.4%	29.4%	47.2%	41.1%	42.9%	2.5%	7.4%	0.6%	
職業別	公務員・教職員(N=43)	86.0%	46.5%	46.5%	55.8%	34.9%	0.0%	2.3%	2.3%	
	自営業・自由業(N=91)	61.5%	35.2%	58.2%	53.8%	35.2%	2.2%	3.3%	0.0%	
	民間企業・団体の経営者、役員(N=28)	53.6%	53.6%	50.0%	57.1%	32.1%	3.6%	10.7%	0.0%	
	民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)(N=313)	60.1%	40.3%	60.7%	55.0%	34.8%	2.2%	3.8%	0.6%	
	臨時雇用、パート、アルバイト(N=203)	60.1%	40.4%	54.7%	53.7%	32.0%	2.0%	5.9%	0.5%	
	学生(N=47)	72.3%	68.1%	59.6%	44.7%	42.6%	0.0%	0.0%	0.0%	
	家事専業(N=173)	60.1%	45.1%	54.9%	54.9%	33.5%	2.3%	2.3%	1.7%	
	無職(N=308)	53.6%	34.4%	43.8%	41.2%	40.3%	3.2%	10.4%	0.3%	
その他(N=29)	48.3%	37.9%	48.3%	41.4%	31.0%	6.9%	13.8%	0.0%		
学習経験別	あり(N=1,073)	62.5%	43.3%	55.9%	53.6%	35.4%	2.0%	4.9%	0.7%	
	なし(N=109)	42.2%	25.7%	39.4%	32.1%	38.5%	6.4%	10.1%	0.9%	

問 27 あなたの周囲で、差別問題や人権課題の解消に熱心に取り組んでいる人はいますか  
(1つ選択してください)。

■ 全体

「いる」が6.4%、「いない」が46.7%となっており、前回調査と比較すると、「いない」が4.1ポイント減少しています。



■ 性別

「いない」が8.6ポイント、「女性」が「男性」を上回っています。

■ 年齢別

「19歳以下」「70歳以上」は「わからない」、「60～69歳」は「いない」「わからない」、「20～59歳」は「いない」がもっとも高くなっています。

■ 職業別

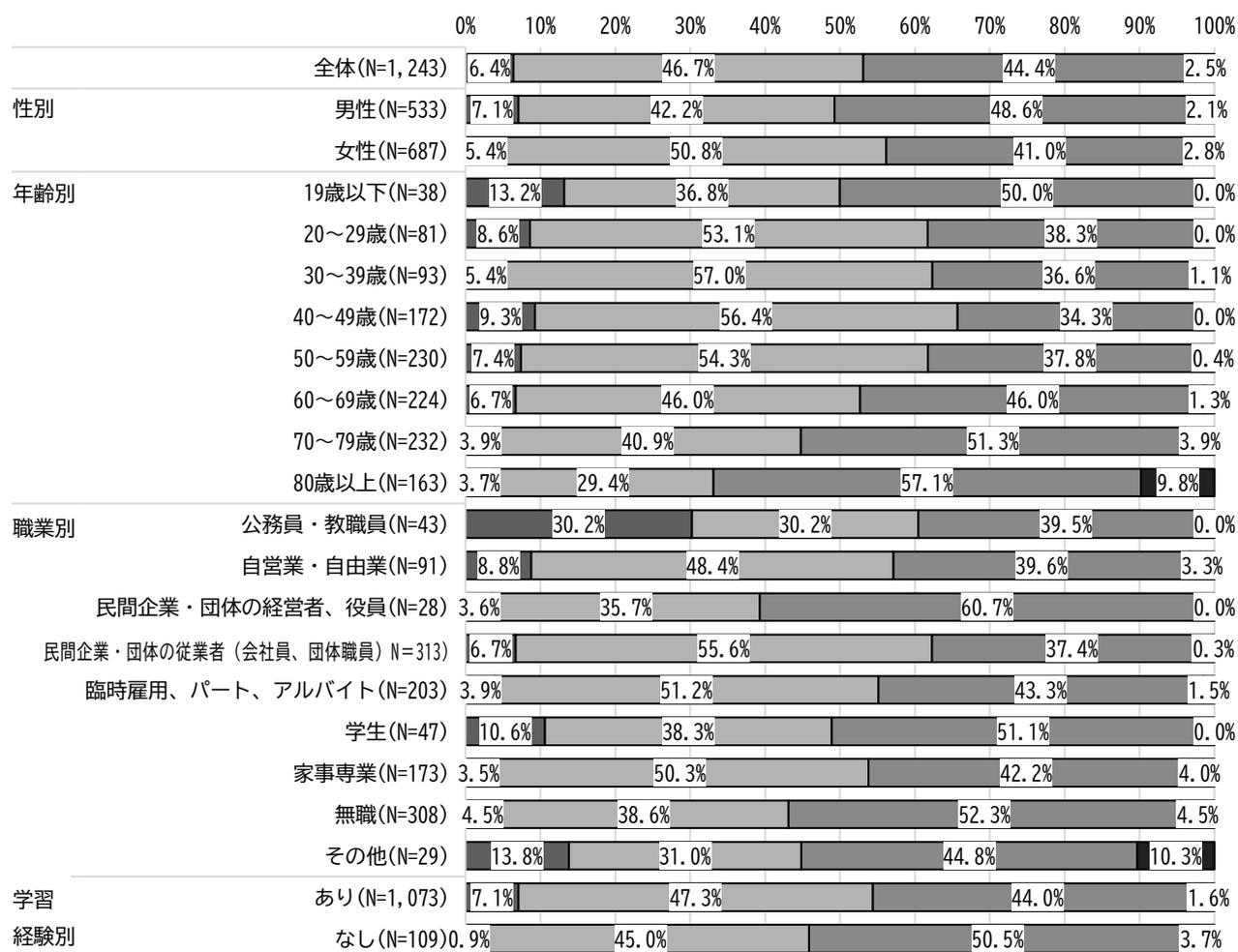
「自営業・自由業」「民間企業・団体の従業者(会社員、団体職員)」「臨時雇用、パート、アルバイト」「家事専業」は「いない」、「公務員・教職員」「民間企業・団体の経営者、役員」「学生」「無職」「その他」は「わからない」がもっとも高くなっています。

■ 学習経験別

「いる」が6.2ポイント、「あり」が「なし」を上回っています。

また、「わからない」が6.5ポイント、「なし」が「あり」を上回っています。

あなたの周りで、差別問題や人権課題の解消に熱心に取り組んでいる人はいますか



■いる □いない □わからない ■無回答

問 28 人権が尊重される社会にするために、ご意見があればご記入ください。

いただきましたご意見は、19 のカテゴリーに区分し、主な意見を掲載しています。

### 1. 教育全般

- 子どもが小学生の頃に人権啓発で PTA の役員として数か月講習を受けましたが、その時だけで今は周りを見渡してもそれを論じることがなく忘れられています。正直このアンケートで当時を思い出しました。より良い生活を営むうえで思い起こしました。
- 人権が尊重されることは重要。そのためには、教育が不可欠。外国に比べて日本がなぜ安心安全なのかを考えてみる必要があるのでは。一点を見て議論するのではなく、総合的に判断し、教育を行わないと、安心安全でなくなってしまうのでは(外国の失敗に学ぶ)
- 正しい教育だと思う。市もとなりの市がこんなにするから八尾市もしようとするものがないように。外側にお金をかけず。人材などいないから、育てること。八尾市のトップ等の感じ方も大事。

### 2. 学校教育

- 経験不足だと思います。もっと小さい頃に教えるべきだと思います。色々な人がいるので難しい問題です(意見が違ったりするので)。まだ日本人は相手のことを考えるので…行動できたりできますけど、核家族化になってきているので個人で人権問題を知るには難しいです。小学生、中学生頃にもっと教えるべきではと思います。
- 小学校から授業に取り入れる。国語や算数より大事。毎日のように殺人や、赤ちゃんトイレで産んで殺すとかあって異常な世の中。もっと人の命の大切さを一番に教えないとダメ。何より大事。人の心も傷つけてはならない。もっと自分が人の立場を考える。もっと当たり前の世の中になるように。
- 小・中・高・大人まで誰もが、命の大切さと相手の立場になって考えられる思いやりのある人になれるような教育や社会になればいいなと思います。

### 3. 家庭での教育

- 子どもへの教育をどれだけ行おうと、家庭での親の考え方を普段から聞かされている子は直りません。親世代への教育が必要だと思います。
- 学校だけでなく各家庭においても人権に関する教育を日頃から行うことができれば、人権が尊重される社会に一步近づけるのではないかと思います。
- 人を尊重する心は子どもの時より親が見せなければ育たない。お互いに他の人を認め合わなければその人の立場に立てなければ見えないから、広い心を持てる人になるための教育を考えてください。

### 4. 女性

- シングルマザーの人権の尊重を強く希望します。離婚し市役所での手続きの際、とてもひどい発言をされました。シングルマザーだからかはわかりませんが、これが例えば男性であれば言わなかったのではと思います。

- 子育てや働くママへの支援だけでなく、職場に残された独身女子にも目を向けてほしいです。時短、育休の間、独身女子は都合よく使われます。好きで独身、子ナシな訳ではありません。必死で休んでいる人の分まで働いています。そのフォローで成り立っている職場は多くあります。真の平等を求めます。私はその不平等が限界で7月に15年続けた教員をやめました。

## 5. こども

- このような意識調査をしている段階で、完全に浸透しているとは言い難いです。他人事であることも多いので、小さい子どものうちから触れる機会と継続的に行う必要があると思います。
- 今の時代は、人と人との関わりが薄いので、差別などあまり気にならないのですが(自分は)、子どもは学校でいじめやマウントなどとこれからも付き合っていくといけないので、気にかけています(お友達のお母さんは、我が子のクラスのカーストがこのくらいなど話していて、私は、カーストって言葉を知らなかったのが怖かったです。差別ですよ)。

## 6. 高齢者

- 高齢者への社会の扱いをもっと人権を守り、引き続き働けるような社会にしてほしい。
- 問題の趣旨に該当するかわかりませんが、4~5年くらい前、かかりつけ医より前年に受けた検査を今年もお願いしましたと言ったところ、『年を取っていつ死んでもいいから検査を受けない』と言う人が多いが、どうしますか?』と言われました。私は受けますと言いい検査を受けました。言い替えればあなたも高齢者だから受けないよね…と言われているようでした。早期発見、早期治療…とか言っていますが、若者だけの呼びかけなのでしょうか?

## 7. インターネット

- もっと社会全体が他人へ優しくできる余裕が生まれるような社会をまずめざすことです。最近の現代人はスマホで他人を匿名で攻撃できる社会で生きているため、人権侵害をしている自覚もないように思えます。
- 自分自身が幸せならば他の人を嘲笑して悪口や噂をすることは無い。インターネットで書き込む人々はなんとバカな人々だと思ふ。

## 8. LGBTQ等の性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)

- 性的マイノリティを持っている人の生きやすい世の中にしてほしい。
- 東京で共用トイレが問題になったが、治安の問題からトイレや公衆浴場などは今まで通り身体性別で区別してもらいたい。その上でLGBTQの人たちのためのスペースや苦しくない方法を考えるべきだと思う。
- いまだに世間ではセクシュアル・マイノリティの方々への理解やそういった方達のことを知らないという人が多いので、セクシュアル・マイノリティの方々への理解を深めてほしいです。

## 9. 一人ひとりが意識を高める

- 一人ひとりの適切な知識。

- 一人ひとりの考えが変わらないと何も変わらない。
- 人権や差別をアピールするのではなく、一人の人間として意識を持てば良い。あまり、このような回答を求めたりなどしないほうが何も知らない次の世代には良いと思う。
- 理想ですが市民一人ひとりが人権について相手の立場に立って考えられるような人がいっぱい育ってくれば良いと思います。

## 10. 他人を尊重する、思いやりを持つ

- 自分自身を大切にすること。それができて周りにも優しい心で接することができるようになると思うので
- 大きな世界に生きる個人ではあるけれど、社会の中の一員として自分や周りの人々とのかかわりを大切に考えられる、行動する努力は必要かと思います。個人個人を尊重することにより、他の人をも尊重する心が育つと思います。ノーマルに生きる、助け合う！
- 憲法第 14 条に掲げられていることがすべてと思うが、ひとりの人間として人権や性別や職業やさまざまな点において、差別されることなく平等に扱われるようお互い「思いやりの心」を持って接することが大切だと思う。
- 相手を思いやる気持ちや優しさが必要だと思う。今の世の中、ご近所さんの顔を見るのも嫌で話をするのも嫌という日常になっているが、人と話をすることによって親近感が湧き、何かあれば助けようと思う気持ちが芽生えて、よりよい社会になっていく気がします。

## 11. 相互理解を深める

- 人々がお互いを尊重(尊敬)できるように、相互理解ができる環境をつくっていただきたい。
- 「皆、考え方が違う」ということを念頭におき、互いに譲り合い、理解や知識をつけることが大事だと思う。
- 相手に求める一方通行ではなく、相互の信頼関係をより良く築くための学びと実践の積み重ねが大切。短期的ではなく生涯にわたって考えて努力すること。
- 人間一人ひとりが違うのは当たり前のことであり、その違いを認め合うことが人権の尊重につながると思います。

## 12. 過剰に権利を主張しない

- 昨今何事にも過剰反応のきらいがみられることにマスコミ(インターネット、新聞、TV)関連、それ等につられて人の動きが刺激となり、事を大きくしているのでは。そのことにより世の中少々窮屈になっているのでは。また反面何でもありの自由がはびこっている面もあり、要はお互いに人間力を高めなければ、難しいことですがそちらのほうも啓蒙すべきでは。
- 今はやりすぎて一部が利権化している。それに男性への差別がほったらかし、ハゲ、チビなどネットだと「チー牛」「弱男」など。特にオタクと呼ばれる人や中年男性への差別やヘイトが放置されている。本当に人権というなら社会的に弱い男性もサポートされるべきである。今ひとつとしてサポートされていない、このアンケートも男性への問はなかった。このアンケート自体が人権を無視している。

### 13. 啓発・PR

- 無関心は人とのつながりを薄めてしまうことにもなると思いますので、問題の起こっている事柄をわかりやすく広く色々な人々に周知し、一人ひとりの考えを持ち寄って皆で共有できる社会になればいいと思います。
- 学校を卒業すると人権教育等を受ける機会がとことん減っていく。しかし、人権の問題や制度は日々変化しており、定期的に意識をアップデートしていく必要があると感じる。ポスターや市民だよりなどでそういった機会がもっと得られるといいなと思う。
- テレビCMやYouTube広告でACジャパンの「叩くより称え合おう」のような、短いけど相手の気持ちを考える気づきにつながるようなものを再生する。もう少し自然で現実に近いストーリーのほうがいいかもしれない。

### 14. 行政

- 図書館や市役所などで、人権教育・啓発の映画をして知ることができるのが一番参加しやすい。忙しいので、講座を開催されてもわざわざ行く気がしない。
- 身近に受けられる講義(人権)があれば考え方が変わる人が増えるかもしれない。講義をするにしても人数がそろわないのであるならば、このアンケートみたいに必ず受けなければならないではなく、できるかぎり参加してほしいなりの努力はする側もしないといけないのかなと思った。
- 子どもの頃の経験、体験は必要だと思う。私が八尾市の保育所で働いていた頃、今メディアで取り上げられているような子どもに対して酷い言葉をぶつける保育士が何人かいた。その子たちは絶対自尊心が傷つけられていると思う。まずはそういった職員がいなくなるよう市には取り組んでほしい。
- いつだったか、戦争が最大の人権侵害、という言葉を見た。ここ数年のウクライナやガザの報道を見ると、本当にそう感じる。平和につながる啓発や行動を市が行うことが、一番大切な人権を守る取り組みなのでないでしょうか。

### 15. 相談窓口

- 誰でも日常的に「自分は理不尽な目に会っている」「自分は大切にされていない」と感じたら人権問題の当事者と思い、遠慮なく口に出せるようになること。

### 16. 交流機会

- 義務教育の時は学ぶ機会が多かったが、社会人になると触れる機会が減るため、地域のような小さなコミュニティで意見の交換ができればいいと感じます。
- 大人になってから正しい知識をつけたほうがより理解できると思うので、職場でのディスカッションなどはとても重要で有意義だと考えます。
- 小学校や中学校で、子ども達と当事者との交流があればわかりやすく伝わるのではないかと思います。授業などで当事者の体験談を聞くなど体で感じられる方法のほうが伝わるのではないかと思います。
- 地域のイベントや祭事を通じた地域のふれあいや世代を超えた交流。

## 17. 憲法・法律

- 法律の簡略化及びきつい厳罰と罰則金支払いの義務化。
- 法整備なども検討。

## 18. 経済不安の解消

- 人権問題というのは貧困問題と密接に関わっております。まずは貧困問題を解決することが急務である。多様化する社会においては自主性を重んずることが大切です。まずは貧困問題を解決してください。

## 19. その他

- 障がい者も女性も弱い立場にある人間が、平等な社会であると思えたら、そのときは人権が尊重されている社会なのだと思います。社会的に強い立場の人間が「今は平等」と感じててもそれは平等ではないと思います。当事者の意見を大切にしてほしいです。
- 権利が優先している社会現象、義務が少し非優先に思える。いずれかに偏ってはいけなと思います。人権とは権利と義務のどちらにも偏らない平等な考え方ができる人間が必要だと考えます。お互いに尊重できる社会環境ができると良いと思います。
- 人権尊重は必要なことではあるが、特別扱いしすぎることは、またそれは違うと思うので、当事者が本当に人権侵害であると感じていることに対しての保護なり介助なりできれば良いと思う。腫れ物に触るように扱うのは間違い。
- 他人のことを思い遣る気持ちは、まずその本人の生活や気持ちに余裕がなければ生まれなと思います。皆の暮らしに等しく余裕のある世の中になれば良いのですが…。
- 生活環境の充実。人としての役割をしっかりと持てるように皆で見守る社会に。暖かい人、子どもに育つよう教育。人の傷みをわかるような人になることを期待します。小さなマナーが大事だと思うがニュースを見ていると心が痛みます。

その他にも、多くのご意見をいただきました。

## 第3章 考察

### 1. 人権全般についての考察

#### (1) この5年間における意識の変化

##### ① 人権を守る法律や制度について

- 「充実してきた」「少し充実してきた」を合計した「充実してきた計」は 38.4%で、「少しひどくなってきた」「ひどくなってきた」を合計した「ひどくなってきた計」の 5.2%を 33.2 ポイント上回っています。  
また、「充実してきた計」は前回調査の 30.8%に比べ、7.6 ポイント増加しており、この間の人権に関する取り組みの成果が現れています。
- 学習経験別でみると、「充実してきた計」は「あり」が「なし」を 11.6 ポイント上回っており、人権学習を経験した人のほうが、人権を取り巻く社会情勢の変化をポジティブに捉える傾向を示しています。

##### ② 市民の人権意識について

- 「高くなってきた」「少し高くなってきた」を合計した「高くなってきた計」は 32.5%で、「少し低くなってきた」「低くなってきた」を合計した「低くなってきた計」の 5.0%を 27.5 ポイント上回っています。  
また、「高くなってきた計」は前回調査の 27.6%に比べ、4.9 ポイント増加しており、この間の人権に関する取り組みの成果が現れています。
- 学習経験別でみると、「高くなってきた計」は「あり」が「なし」を 12.0 ポイント上回っており、人権学習を経験することで人権意識を高めていることを示しています。

#### (2) 人権課題について

人権に対する意識や行動についての考察は「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」を合計した「そう思う計」、「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」を合計した「そう思わない計」で比較し、考察を行いました。

##### 1) 人権全般について

『世界人権宣言』『人種差別撤廃条約』の認知状況は高いものの、「内容まで知っている」は10%前後にとどまっています。『大阪府インターネット上の誹謗中傷や差別等の人権侵害のない社会づくり条例』『八尾市人権尊重の社会づくり条例』『第2次八尾市人権教育・啓発プラン(改定版)』の認知状況は低く、周知・啓発が必要です。

##### ① 世界人権宣言の認知状況

- 「内容まで知っている」10.4%、「名称は知っている」66.9%を合計した「知っている計」は 77.3%となっており、前回調査と比較すると、「知っている計」は 3.0 ポイント増加しています。
- 学習経験別で比較すると、「知っている計」は「あり」が「なし」を 19.9 ポイント上回っています。

##### ② 人種差別撤廃条約の認知状況

- 「内容まで知っている」7.2%、「名称は知っている」51.0%を合計した「知っている計」は 58.2%となっ

ており、前回調査と比較すると、「知っている計」は 1.9 ポイント減少しています。

- 学習経験別で比較すると、「知っている計」は「あり」が「なし」を 24.9 ポイント上回っています。

### ③ 大阪府インターネット上の誹謗中傷や差別等の人権侵害のない社会づくり条例の認知状況

- 「内容まで知っている」2.1%、「名称は知っている」18.9%を合計した「知っている計」は 21.0%となっています。
- 学習経験別で比較すると、「知っている計」は「あり」が「なし」を 11.2 ポイント上回っています。

### ④ 八尾市人権尊重の社会づくり条例の認知状況

- 「内容まで知っている」2.5%、「名称は知っている」26.8%を合計した「知っている計」は 29.3%となっており、前回調査と比較すると、「知っている計」は 2.3 ポイント減少しています。
- 学習経験別で比較すると、「知っている計」は「あり」が「なし」を 15.4 ポイント上回っています。

### ⑤ 第2次八尾市人権教育・啓発プラン(改定版)の認知状況

- 「内容まで知っている」1.6%、「名称は知っている」14.2%を合計した「知っている計」は 15.8%となっており、前回調査と比較すると、「知っている計」は 2.6 ポイント減少しています。
- 学習経験別で比較すると、「知っている計」は「あり」が「なし」を 9.7 ポイント上回っています。

## 2) 女性の人権

女性に関することで特に問題だと思うことは「男女ともに、働きながら、家事や子育て・介護などを両立できる環境が整備されていないこと」がもっとも高いものの、「妻や子を養うのは男の責任であるという考え方」は「そう思う計」が「そう思わない計」を上回っており、男女共同参画の普及・啓発が必要です。

### ① 女性に関することで特に問題だと思うこと

- 「男女ともに、働きながら、家事や子育て・介護などを両立できる環境が整備されていないこと」が 52.1%と最も高く、次いで「痴漢や強制わいせつ、レイプ(強姦)などの性犯罪をすること」が 50.9%、「セクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)をすること」が 40.4%となっています。
- 性別で比較すると、「男女ともに、働きながら、家事や子育て・介護などを両立できる環境が整備されていないこと」が 10.0 ポイント、「就職時の採用条件、仕事内容、昇給昇進などで男女格差があること」が 9.8 ポイント、「痴漢や強制わいせつ、レイプ(強姦)などの性犯罪をすること」が 7.4 ポイント、「女性」が「男性」を上回っており、男女間に意識の差が見られます。
- 学習経験別で比較すると、「男女ともに、働きながら、家事や子育て・介護などを両立できる環境が整備されていないこと」は 11.5 ポイント、「セクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)をすること」は 7.9 ポイント、「就職時の採用条件、仕事内容、昇給昇進などで男女格差があること」は 7.4 ポイント、「あり」が「なし」を上回っており、人権学習の経験が女性に関する問題の気づきに役立っています。

## ② 妻や子を養うのは男の責任であるという考え方

- 「そう思う計」は 43.9%となっており、「そう思わない計」の 28.1%に比べ 15.8 ポイント上回っています。
- 前回調査と比較すると、「そう思う計」は 10.8 ポイント減少し、「そう思わない計」は 8.8 ポイント増加しており、「妻や子を養うのは男の責任である」という考え方に否定的な人が増えています。
- 学習経験別で比較すると、「そう思わない計」は「あり」が「なし」を 3.0 ポイント上回っています。

## 3) こどもの人権

『子どもの権利条約』『児童虐待の防止等に関する法律』『いじめ防止対策推進法』の認知状況は高いものの「内容まで知っている」は 10%前後にすぎず、さらなる周知の取り組みが必要です。

こどもに関することで特に問題だと思うことは、いじめや虐待が上位を占めており、「こどものしつけのためには、体罰もやむをえないという考え方」については「そう思わない計」が「そう思う計」を 39.3 ポイント上回っています。

人権学習の経験がこどもに関する問題の気づきに役立っており、さらに人権啓発を進めていく必要があります。

### ① 子どもの権利条約の認知状況

- 「内容まで知っている」11.0%、「名称は知っている」47.4%を合計した「知っている計」は 58.4%となっており、前回調査と比較すると、「知っている計」は 3.7 ポイント増加しています。
- 学習経験別で比較すると、「知っている計」は「あり」が「なし」を 29.3 ポイント上回っています。

### ② 児童虐待の防止等に関する法律の認知状況

- 「内容まで知っている」11.9%、「名称は知っている」59.4%を合計した「知っている計」は 71.3%となっており、前回調査と比較すると、「知っている計」は 3.5 ポイント減少しています。
- 学習経験別で比較すると、「知っている計」は「あり」が「なし」を 23.3 ポイント上回っています。

### ③ いじめ防止対策推進法の認知状況

- 「内容まで知っている」8.8%、「名称は知っている」55.8%を合計した「知っている計」は 64.6%となっており、前回調査と比較すると、「知っている計」の変化はありません。
- 学習経験別で比較すると、「知っている計」は「あり」が「なし」を 25.0 ポイント上回っています。

### ④ こどもに関することで特に問題だと思うこと

- 「インターネットやスマートフォン、SNSなどでいじめや嫌がらせを行うこと」が 69.1%でもっとも高く、次いで「親がこどもに虐待をすること(暴力、暴言、食事を与えないなど)」が 64.1%、「仲間はずれや無視、暴力や相手が嫌がることをしたりさせたりするなど、いじめを行うこと」が 63.6%となっています。
- 前回調査との比較では「インターネットやスマートフォン、SNSなどでいじめや嫌がらせを行うこと」が 8.2 ポイント、「児童売春・買春、児童ポルノなど、こどもに有害な情報が氾濫していること」が 7.3 ポイント増加しており、インターネットやSNSなどの弊害についての関心が高まっています、

- 学習経験別で比較すると、「インターネットやスマートフォン、SNSなどでいじめや嫌がらせを行うこと」が19.4ポイント、「貧困、ヤングケアラーなどの理由で教育を受ける機会が等しくないこと」が10.9ポイント、「あり」が「なし」を上回っており、人権学習の経験がこどもに関する問題の気づきに役立っています。

⑤ こどものしつけのためには、体罰もやむをえないという考え方

- 「そう思わない計」は55.3%で、「そう思う計」の16.0%に比べ39.3ポイント上回っています。
- 前回調査と比較すると、「そう思わない計」は6.2ポイント増加しており、体罰を否定する人が増えています。
- 学習経験別で比較すると、「そう思わない計」は「あり」が「なし」を15.0ポイント上回っています。

#### 4) 高齢者の人権

『高齢者虐待防止法』は約半数が知っているものの、「内容まで知っている」は8.5%にすぎません。さらに周知が必要です。

高齢者に関することで特に問題だと思うことは、「悪徳商法や詐欺などで財産を搾取すること」「病院や福祉施設において、職員等の対応が不十分であったり、暴力、暴言などの虐待をしたりすること」「働ける場所や能力を発揮する機会が少ないこと」が上位を占めています。

高齢者を悪徳商法や詐欺から守ること、虐待防止、社会参加の促進などの取り組みを強化していく必要があります。

- ① 高齢者虐待防止法(高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律)の認知状況
- 「内容まで知っている」8.5%、「名称は知っている」41.3%を合計した「知っている計」が49.8%となっており、前回調査と比較すると、「知っている計」は2.8ポイント減少しています。
  - 学習経験別で比較すると、「知っている計」は「あり」が「なし」を20.0ポイント上回っています。

② 高齢者に関することで特に問題だと思うこと

- 「悪徳商法や詐欺などで財産を搾取すること」が56.1%でもっとも高く、次いで「病院や福祉施設において、職員等の対応が不十分であったり、暴力、暴言などの虐待をしたりすること」が42.4%、「働ける場所や能力を発揮する機会が少ないこと」が35.4%となっています。
- 学習経験別で比較すると、「働ける場所や能力を発揮する機会が少ないこと」が6.9ポイント、「近隣や地域の人とのふれあいや理解を深める機会が少なく孤立していること」が4.5ポイント、「日常生活に必要な情報をわかりやすく伝える配慮が足りないこと」が4.1ポイント、「あり」が「なし」を上回っており、人権学習の経験がこどもに関する問題の気づきに役立っています。

## 5) 障がいのある人の人権

障がいのある人に関わる条約や法律の認知状況は、高いとは言えません。特に「内容まで知っている」は5%前後にすぎない状態です。さらなる周知に努める必要があります。

障がいのある人に関することで特に問題だと思うことは、「道路の段差や乗り物、建物の設備などにおいて、障がいのある人が暮らしやすいまちづくりが進んでいないこと」「働ける場所や雇用に取り組んでいる企業が少なく」「サービス事業所や福祉施設・病院において、職員等の対応が不十分であったり、暴力、暴言などの虐待をしたりすること」が上位に上がっています。

「障がい者はハンデがあり、できないことが多いので、社会進出は控えたほうがよいという考え方」は「そう思わない計」が78.5%、「精神障がい者は犯罪を犯しやすいという考え方」は「そう思わない計」が43.2%、「知的障がい者は大声をあげたり暴れたりするなど、問題を起こしやすいという考え方」は「そう思わない計」が40.5%となっており、障がい者の中でも、精神障がい者、知的障がい者への理解が進んでいません。障がいのある人への理解をさらに深めるための啓発が重要です。

### ① 障害者の権利に関する条約の認知状況

- 「内容まで知っている」5.7%、「名称は知っている」38.3%を合計した「知っている計」は44.0%となり、前回調査と比較すると、「知っている計」は1.0ポイント増加しています。
- 学習経験別で比較すると、「知っている計」は「あり」が「なし」を20.8ポイント上回っています。

### ② 障害者虐待防止法(障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律)の認知状況

- 「内容まで知っている」5.1%、「名称は知っている」35.6%を合計した「知っている計」は40.7%となり、前回調査と比較すると、「知っている計」は0.6ポイント減少しています。
- 学習経験別で比較すると、「知っている計」は「あり」が「なし」を17.3ポイント上回っています。

### ③ 障害者差別解消法(障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律)の認知状況

- 「内容まで知っている」4.3%、「名称は知っている」23.1%を合計した「知っている計」は27.4%となり、前回調査と比較すると、「知っている計」は1.3ポイント減少しています。
- 学習経験別で比較すると、「知っている計」は「あり」が「なし」を17.5ポイント上回っています。

### ④ 障害者差別解消法において提供が求められている「合理的配慮」の認知状況

- 「内容まで知っている」4.9%、「名称は知っている」18.4%を合計した「知っている計」は23.3%となっています。
- 学習経験別で比較すると、「知っている計」は「あり」が「なし」を16.9ポイント上回っています。

### ⑤ 障がいのある人に関することで問題だと思うこと

- 「道路の段差や乗り物、建物の設備などにおいて、障がいのある人が暮らしやすいまちづくりが進んでいないこと」が44.8%でもっとも高く、次いで「働ける場所や雇用に取り組んでいる企業が少なく」ことが40.4%、「サービス事業所や福祉施設・病院において、職員等の対応が不十分であったり、暴力、暴言などの虐待をしたりすること」が32.2%となっています。

- 学習経験別で比較すると、「働ける場所や雇用に取り組んでいる企業が少ないこと」は 7.9 ポイント、「意見や行動を尊重されなかったり、無視されたりすること」は 5.1 ポイント、「差別的な発言や落書きなどをすること」は 4.7 ポイント、「あり」が「なし」を上回り、「近隣や地域の人とのふれあいや理解を深める機会が少なく、孤立していること」は 7.2 ポイント、「じろじろ見たり、避けたりすること」は 5.1 ポイント、「なし」が「あり」を上回っているように、学習経験の有無によって、感じ方に差がみられました。

⑥ 障がい者はハンデがあり、できないことが多いので、社会進出は控えたほうがよいという考え方

- 「そう思わない計」は 78.5%で、「そう思う計」の 3.5%に比べ 75.0 ポイント上回っています。
- 前回調査と比較すると、「そう思わない計」は 4.8 ポイント増加しています。
- 学習経験別で比較すると、「そう思わない計」は「あり」が「なし」を 9.6 ポイント上回っています。

⑦ 精神障がい者は犯罪を犯しやすいという考え方

- 「そう思わない計」は 43.2%で、「そう思う計」の 14.5%に比べ 28.7 ポイント上回っています。
- 前回調査と比較すると、「そう思わない計」は 5.2 ポイント増加しています。
- 学習経験別で比較すると、「そう思わない計」は「あり」が「なし」を 5.0 ポイント上回っています。

⑧ 知的障がい者は大声をあげたり暴れたりするなど、問題を起こしやすいという考え方

- 「そう思わない計」は 40.5%で、「そう思う計」の 17.7%に比べ 22.8 ポイント上回っています。
- 前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。
- 学習経験別で比較すると、「そう思わない計」は「あり」が「なし」を 11.7 ポイント上回っています。

6) 同和問題(部落差別)について

『部落差別解消推進法(部落差別の解消の推進に関する法律)』を「知っている計」は 40.3%、『大阪府部落差別調査規制条例(大阪府部落差別事象に係る調査等の規制等に関する条例)』を「知っている計」は 19.3%となっており、認知状況は高いとは言えません。

同和問題(部落差別)に関することで特に問題だと思うことは「正しく理解されていないこと」「インターネットなどを利用して、デマや差別的な情報を掲載すること」「就職や職場等において不利な扱いをすること」「結婚や就職にあたって、身元調査をすること」が上位を占めています。

同和問題(部落差別)に関する教育や啓発はできるだけ行わず、そっとしておくほうがよいという考え方は「そう思わない計」が 45.5%で、「そう思う計」の 18.6%に比べ 26.9 ポイント上回っています。

インターネットなどで、デマや差別的な情報が掲載されている中、同和問題(部落差別)を正しく理解するための啓発が求められています。

① 部落差別解消推進法(部落差別の解消の推進に関する法律)の認知状況

- 「内容まで知っている」4.7%、「名称は知っている」35.6%を合計した「知っている計」は 40.3%となっており、前回調査と比較すると、ほとんど変化はありません。
- 学習経験別で比較すると、「知っている計」は「あり」が「なし」を 15.1 ポイント上回っています。

② 大阪府部落差別調査規制条例(大阪府部落差別事象に係る調査等の規制等に関する条例)の認知状況

- 「内容まで知っている」2.2%、「名称は知っている」17.1%を合計した「知っている計」は 19.3%となっており、前回調査と比較すると、「知っている計」は 3.4 ポイント減少しています。
- 学習経験別で比較すると、「知っている計」は「あり」が「なし」を 7.3 ポイント上回っています。

③ 同和問題(部落差別)に関することで特に問題だと思うこと

- 「同和問題(部落差別)に関して、正しく理解されていないこと」が 36.8%でもっとも高く、次いで「インターネットなどを利用して、デマや差別的な情報を掲載すること」が 32.9%、「就職や職場等において不利な扱いをすること」が 29.8%、「結婚や就職にあたって、身元調査をすること」が 29.2%となっています。
- 前回調査との比較では「インターネットなどを利用して、デマや差別的な情報を掲載すること」が 4.5 ポイント、「就職や職場等において不利な扱いをすること」が 3.9 ポイント増加し、「わからない」が 5.6 ポイント減少しています。
- 学習経験別で比較すると、「結婚や就職にあたって、身元調査をすること」は 10.4 ポイント、「インターネットなどを利用して、デマや差別的な情報を掲載すること」は 8.3 ポイント、「就職や職場等において不利な扱いをすること」は 5.9 ポイント、「あり」が「なし」を上回っており、人権学習の経験が同和問題(部落差別)に関する問題の気づきに役立っています。

④ 同和問題(部落差別)に関する教育や啓発はできるだけ行わず、そっとしておくほうがよいという考え方

- 「そう思わない計」は 45.5%で、「そう思う計」の 18.6%に比べ 26.9 ポイント上回っています。
- 前回調査と比較すると、「そう思わない計」は 8.4 ポイント増加しています。
- 学習経験別で比較すると、「そう思わない計」は「あり」が「なし」を 18.1 ポイント上回っています。

## 7) 外国人の人権

『ヘイトスピーチ解消法(本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律)』の認知状況は「知っている計」が 38.0%で、高いとは言えません。

外国人に関することで特に問題だと思うことは「特定の民族や国籍の人々に対して不当な差別的言動(ヘイトスピーチ)が行われること」「外国語で対応できる相談窓口や病院・施設が少ないこと」「就職や職場等において不利な扱いをすること」が上位を占めています。

外国人労働者が増えると日本人の労働の場が奪われるという考え方は「そう思わない計」が 45.7%、外国人が近所に引越してくることは、不安であるという考え方は「そう思わない計」が 39.3%となっています。

① ヘイトスピーチ解消法(本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律)の認知状況

- 「内容まで知っている」4.2%、「名称は知っている」33.8%を合計した「知っている計」は 38.0%となっており、前回調査と比較すると、2.5 ポイント減少しています。
- 学習経験別で比較すると、「知っている計」は「あり」が「なし」を 20.7 ポイント上回っています。

② 外国人に関することで特に問題だと思うこと

- 「特定の民族や国籍の人々に対して不当な差別的言動(ヘイトスピーチ)が行われること」が 37.3%でもっとも高く、次いで「外国語で対応できる相談窓口や病院・施設が少ないこと」が 35.0%、「就職や職場等において不利な扱いをすること」が 25.8%となっています。
- 前回調査との比較では「差別的な発言や落書きなどをする事」が 4.5 ポイント、「特定の民族や国籍の人々に対して不当な差別的言動(ヘイトスピーチ)が行われること」が 4.4 ポイント、増加しており、外国人に対する差別的な言動への関心が高まっています。
- 学習経験別で比較すると、「特定の民族や国籍の人々に対して不当な差別的言動(ヘイトスピーチ)が行われること」が 14.6 ポイント、「外国語で対応できる相談窓口や病院・施設が少ないこと」が 9.0 ポイント、「差別的な発言や落書きなどをする事」が 8.6 ポイント、「あり」が「なし」を上回っており、人権学習の経験が外国人に関する問題の気づきに役立っています。

③ 外国人労働者が増えると日本人の労働の場が奪われるという考え方

- 「そう思わない計」は 45.7%で、「そう思う計」の 22.3%に比べ 23.4 ポイント上回っています。
- 前回調査と比較すると、「そう思う計」は 3.2 ポイント、「そう思わない計」は 0.7 ポイント増加しています。
- 学習経験別で比較すると、「そう思わない計」は「あり」が「なし」を 8.9 ポイント上回っています。

④ 外国人が近所に引越してくることは、不安であるという考え方

- 「そう思わない計」は 39.3%で、「そう思う計」の 25.9%に比べ 13.4 ポイント上回っています。
- 前回調査と比較すると、「そう思う計」は 5.2 ポイント増加し、「そう思わない計」は 2.9 ポイント減少しています。
- 学習経験別で比較すると、「そう思わない計」は「あり」が「なし」を 5.4 ポイント上回っています。

## 8) エイズ患者・HIV陽性者の人権

エイズ患者・HIV陽性者に関することで特に問題だと思うことは「エイズ・HIV陽性者に関して、正しく理解されていないこと」「偏見による差別的な発言や行動をすること」「患者・陽性者のプライバシーを守らないこと」が上位を占めています。

エイズ患者・HIV陽性者について、正しく理解するための啓発が重要です。

① エイズ患者・HIV陽性者に関することで特に問題だと思うこと

- 「エイズ・HIV陽性者に関して、正しく理解されていないこと」が 42.2%でもっとも高く、次いで「偏見に

よる差別的な発言や行動をすること」が 29.3%、「患者・陽性者のプライバシーを守らないこと」が 26.9%となっています。

- 学習経験別で比較すると、「患者・陽性者のプライバシーを守らないこと」が 11.7 ポイント、「偏見による差別的な発言や行動をすること」が 10.6 ポイント、「あり」が「なし」を上回り、「わからない」が 15.9 ポイント、「なし」が「あり」を上回っており、人権学習の経験がエイズ・HIV陽性者に関する問題の気づきに役立っています。

## 9) ホームレスの人権

ホームレスに関することで特に問題だと思うことは「居住場所がないなどにより、就労が困難であること」「危害を加えたり、嫌がらせをしたりすること」「相談窓口や就労・生活支援体制が不十分であること」が上位を占めています。ホームレスへの就労・生活支援を充実すると共に、ホームレスに対する人権侵害を防止する取り組みが求められています。

### ① ホームレスに関することで特に問題だと思うこと

- 「居住場所がないなどにより、就労が困難であること」が 46.7%でもっとも高く、次いで「危害を加えたり、嫌がらせをしたりすること」が 40.1%、「相談窓口や就労・生活支援体制が不十分であること」が 38.2%となっています。
- 学習経験別で比較すると、「居住場所がないなどにより、就労が困難であること」は 10.2 ポイント、「危害を加えたり、嫌がらせをしたりすること」は 9.5 ポイント、「あり」が「なし」を上回り、「わからない」は「なし」が「あり」を 11.7 ポイント上回っており、人権学習の経験がホームレスに関する問題の気づきに役立っています。

## 10) インターネット上の人権

インターネットに関することで特に問題だと思うことは「デマを流したり、他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現などを掲載すること」「出会い系サイトやコミュニティサイトなどが犯罪を誘発する可能性のある場となっていること」「詐欺や強盗等の犯罪に利用されていること」が上位を占めています。

インターネットに潜む危険性の啓発やフェイクニュースに惑わされないよう情報リテラシーを向上させる取り組みが求められます。

### ① インターネットに関することで特に問題だと思うこと

- 「デマを流したり、他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現などを掲載すること」が 67.3%でもっとも高く、次いで「出会い系サイトやコミュニティサイトなどが犯罪を誘発する可能性のある場となっていること」が 58.2%、「詐欺や強盗等の犯罪に利用されていること」が 57.4%となっています。
- 学習経験別で比較すると、「個人情報の流出などの問題が多く発生していること」は 19.2 ポイント、「デマを流したり、他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現などを掲載すること」は 16.1 ポイント、「詐欺や強盗等の犯罪に利用されていること」は 12.3 ポイント、「あり」が「なし」を上回り、「わからない」

は 9.1 ポイント、「なし」が「あり」を上回っており、人権学習の経験がインターネットに関する問題の気づきに役立っています。

## 11) ハンセン病回復者の人権

ハンセン病回復者に関することで特に問題だと思うことは「ハンセン病に関して、正しく理解されていないこと」「就職・職場等において不利な扱いをすること」「じろじろ見たり、避けたりすること」が上位を占めています。

ハンセン病に関する問題を正しく理解するための啓発が求められています。

### ① ハンセン病回復者に関することで特に問題だと思うこと

- 「ハンセン病に関して、正しく理解されていないこと」が 46.2%でもっとも高く、次いで「わからない」が 33.5%、「就職・職場等において不利な扱いをすること」が 22.7%、「じろじろ見たり、避けたりすること」が 19.4%となっています。
- 学習経験別で比較すると、「就職・職場等において不利な扱いをすること」は 8.1 ポイント、「ハンセン病に関して、正しく理解されていないこと」は 4.4 ポイント、「じろじろ見たり、避けたりすること」は 3.6 ポイント、「あり」が「なし」を上回り、「近隣や地域の人とのふれあいや理解を深める機会が少なく孤立していること」は 4.0 ポイント、「なし」が「あり」を上回っており、学習経験の有無による感じ方の差がみられます。

## 12) LGBTQ等の性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)の人権

『性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律』の認知状況は「知っている計」が 32.8%となっています。

LGBTQ等の性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)に関することで特に問題だと思うことは「性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)に関して、正しく理解されていないこと」「偏見による差別的な発言や行動をすること」「学校や職場でいじめや嫌がらせをすること」が上位を占めています。

LGBTQ等の性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)を正しく理解するための啓発により、偏見や差別的な考え方を払しょくする取り組みが求められています。

### ① 性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律の認知状況

- 「内容まで知っている」3.2%、「名称は知っている」29.6%を合計した「知っている計」は 32.8%となっています。
- 学習経験別で比較すると、「知っている計」は「あり」が「なし」を 14.0 ポイント上回っています。

### ② LGBTQ等の性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)に関することで特に問題だと思うこと

- 「性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)に関して、正しく理解されていないこと」が 44.7%でもっとも

高く、次いで「偏見による差別的な発言や行動をすること」が 39.7%、「学校や職場でいじめや嫌がらせをすること」が 35.6%となっています。

- 学習経験別で比較すると、「性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)に関して、正しく理解されていないこと」が 17.1 ポイント、『「男らしく、女らしく」という考えを押しつけること」が 13.6 ポイント、「学校や職場でいじめや嫌がらせをすること」が 11.0 ポイント、「あり」が「なし」を上回り、「わからない」は 18.7 ポイント、「なし」が「あり」を上回っており、人権学習の経験が LGBTQ等の性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)に関する問題の気づきに役立っています。

### 13) 犯罪被害者(犯罪によって被害を受けた人及び家族など)の人権

犯罪被害者(犯罪によって被害を受けた人及び家族など)に関することで特に問題だと思うことは「報道、インターネットや地域住民によってプライバシーを侵害され、生活の平穏が保てなくなること」「犯罪行為によって精神的、経済的な負担を受けること」「インターネット等で犯罪被害者への誹謗中傷があること」が上位を占めています。

犯罪被害者(犯罪によって被害を受けた人及び家族など)について正しく理解するための啓発が求められています。

#### ③ 犯罪被害者(犯罪によって被害を受けた人及び家族など)に関することで特に問題だと思うこと

- 「報道、インターネットや地域住民によってプライバシーを侵害され、生活の平穏が保てなくなること」が 63.2%でもっとも高く、次いで「犯罪行為によって精神的、経済的な負担を受けること」が 59.2%、「インターネット等で犯罪被害者への誹謗中傷があること」が 57.1%となっています。
- 学習経験別で比較すると、「犯罪行為によって精神的、経済的な負担を受けること」が 24.0 ポイント、「捜査や刑事裁判において精神的負担を受けること」が 18.4 ポイント、「インターネット等で犯罪被害者への誹謗中傷があること」が 16.9 ポイント、「あり」が「なし」を上回り、「わからない」は 14.7 ポイント、「なし」が「あり」を上回っており、人権学習の経験が犯罪被害者(犯罪によって被害を受けた人及び家族など)に関する問題の気づきに役立っています。

### 14) 刑を終えて出所した人の人権

刑を終えて出所した人に関することで特に問題だと思うことは「就職・職場等において不利な扱いをすること」「報道、インターネットや地域住民によってプライバシーを侵害され、生活の平穏が保てなくなること」「偏見による差別的な発言や行動をすること」が上位を占めています。

刑を終えて出所した人に関する問題を正しく理解するための啓発が求められています。

#### ① 刑を終えて出所した人に関することで特に問題だと思うこと

- 「就職・職場等において不利な扱いをすること」が 33.7%でもっとも高く、次いで「報道、インターネットや地域住民によってプライバシーを侵害され、生活の平穏が保てなくなること」が 33.4%、「偏見による差別的な発言や行動をすること」が 27.0%となっています。

- 学習経験別で比較すると、「相談窓口や支援体制が不十分であること」が 7.2 ポイント、「偏見による差別的な発言や行動をすること」が 4.9 ポイント、「あり」が「なし」を上回り、「わからない」が 8.4 ポイント、「なし」が「あり」を上回っており、人権学習の経験が刑を終えて出所した人に関する問題の気づきに役立っています。

## 15) その他の人権について

「権利のみを主張して他人の迷惑を考えない人が増えた」という考え方は「そう思う計」が 64.4%となっています。憲法で保障された権利を正しく理解するための啓発が求められています。

「差別の原因には差別される人の側に問題がある」という考え方は「そう思わない計」が 49.9%となっています。差別の原因についての正しい理解を広めるための啓発が求められています。

「職業に対する偏見はしかたがない」という考え方は「そう思わない計」が 57.0%となっています。職業に関する人権教育の推進が求められています。

「学歴による差別はしかたがない」という考え方は「そう思わない計」が 59.4%となっています。学歴格差による不利益が生じないまちづくりを進めていく必要があります。

### ① 権利のみを主張して他人の迷惑を考えない人が増えたという考え方

- 「そう思う計」は 64.4%で、「そう思わない計」の 8.1%に比べ 56.3 ポイント上回っています。
- 前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。
- 学習経験別で比較すると、「そう思う計」は「あり」が「なし」を 2.7 ポイント上回っています。

### ② 差別の原因には差別される人の側に問題があるという考え方

- 「そう思わない計」は 49.9%で、「そう思う計」の 8.3%に比べ 41.6 ポイント上回っています。
- 前回調査と比較すると、「そう思わない計」は 7.7 ポイント増加しています。
- 学習経験別で比較すると、「そう思わない計」は「あり」が「なし」を 11.6 ポイント上回っています。

### ③ 職業に対する偏見はしかたがないという考え方

- 「そう思わない計」は 57.0%で、「そう思う計」の 10.8%に比べ 46.2 ポイント上回っています。
- 前回調査と比較すると、「そう思わない計」が 5.0 ポイント増加しています。
- 学習経験別で比較すると、「そう思わない計」は「あり」が「なし」を 21.5 ポイント上回っています。

### ④ 学歴による差別はしかたがないという考え方

- 「そう思わない計」は 59.4%で、「そう思う計」の 15.6%に比べ 43.8 ポイント上回っています。
- 前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。
- 学習経験別で比較すると、「そう思わない計」は「あり」が「なし」を 9.6 ポイント上回っています。

## 2. 人権侵害や擁護についての考察

人権侵害を受けた時の行動は学習経験が「あり」は「なし」に比べ、「友人・同僚に相談した」が 27.1 ポイント、「家族・親族に相談した」が 18.9 ポイント、「学校の先生や職場の上司に相談した」が 9.3 ポイント上回っています。人権侵害を受けた時、我慢することなく、毅然と対応できるよう人権学習を充実していく必要があります。

### (1) この5年間くらいの間の人権侵害されたと感じたこと

- 「根拠のない悪い噂やかげ口、悪口を言われた」が 6.7%でもっとも高く、次いで「悪臭・騒音などで迷惑を受けた」が 5.8%、「学校・職場・地域社会(近所)でいじめや仲間はずれや嫌がらせを受けた」が 4.7%となっています。
- 前回調査と比較して、「人権を侵害されたと感じたことはない」は 63.1%で、7.2 ポイント増加しています。

### (2) 人権侵害を受けた時の対処法

- 「何もせず我慢した」が 35.7%でもっとも多く、次いで「家族・親族に相談した」が 34.0%、「友人・同僚に相談した」が 25.7%、「相手に直接抗議した」が 25.3%となっています。
- 学習経験別で比較すると、「友人・同僚に相談した」は 27.1 ポイント、「家族・親族に相談した」は 18.9 ポイント、「学校の先生や職場の上司に相談した」は 9.3 ポイント、「あり」が「なし」を上回り、「何もせず我慢した」は「なし」が「あり」を 15.3 ポイント上回っています。

### (3) 人権侵害と思われる場面に遭遇した時にどのように対処するか

人権学習経験の有無によって、人権侵害と思われる場面に遭遇した時の対処方法に差がみられました。

人権侵害に対して正しく行動できるよう、人権学習を充実する必要があります。

#### A. 隣家でしばしばこどもの泣き叫ぶ声と親の怒鳴り声が聞こえ、虐待が疑われる場合。

- 「市の相談窓口やこども家庭センター、189(児童相談所虐待対応ダイヤル)などに連絡する」が 48.3%でもっとも高く、次いで「警察に連絡する」が 25.3%、「民生委員・児童委員や自治会長(町会長)などの地域の役員に相談する」が 18.7%となっています。
- 学習経験別で比較すると、「市の相談窓口やこども家庭センター、189(児童相談所虐待対応ダイヤル)などに連絡する」は「あり」が「なし」を 16.9 ポイント上回り、「かかわらないようにする」は「なし」が「あり」を 5.8 ポイント上回っています。

#### B. 日常会話の中で、誰かが差別的な発言をした場合。

- 「他の話題に変えようと努力する」が 35.4%でもっとも高く、次いで「差別的な発言であることを指摘する」が 29.5%、「何もせずに黙っておく」が 23.1%となっています。
- 学習経験別で比較すると、「差別的な発言であることを指摘する」は「あり」が「なし」を 14.2 ポイント上回り、「何もせずに黙っておく」は「なし」が「あり」を 13.6 ポイント上回っています。

C. 街で白い杖をもった人や車椅子の人が、介助を求めている場合。

- 「すぐに手を貸すか、一人で無理なら他の人の手助けを求める」が 63.1%でもっとも高く、次いで「周りの人の様子を見ながら、手を貸すかどうか決める」が 28.4%、「黙ってとおり過ぎる」が 2.2%となっています。
- 学習経験別で比較すると、「周りの人の様子を見ながら、手を貸すかどうか決める」は「あり」が「なし」を 6.6 ポイント上回り、「すぐに手を貸すか、一人で無理なら他の人の手助けを求める」は「なし」が「あり」を 5.2 ポイント上回っています。

### 3. 人権に関する啓発活動についての考察

#### (1) 人権について学んだ機会

- 「小学校・中学校の授業」「書籍(啓発冊子を含む)やテレビなど」「高校・大学の授業」「職場での研修会など」が上位を占めています。「PTAなどの学校行事」「地区人権研修」「八尾市などの行政主催の行事」「民間機関や市民団体主催の行事」が少ないことから、これらの研修機会を充実していく必要があります。
- 職業別で比較すると、「公務員・教職員」は「職場での研修会など」がもっとも高く、「公務員以外」は「小学校・中学校の授業」がもっとも高くなっています。また、「民間企業・団体の経営者、役員」「民間企業・団体の従業者」「臨時雇用、パート、アルバイト」など、被用者の「職場での研修会など」の割合が低いことから、「職場での研修会など」を受講する機会を充実していく必要があります。

#### (2) 人権について学ぶことがなかった理由

- 「学ぶ機会がなかったから」「どこで、いつ、どのようなことをしているかがわからず、参加できなかったから」「人権学習に関心がなかったから」が上位を占めています。
- 人権に関する学習機会を増やす取り組みが必要です。

#### (3) 学んでみたい人権に関するテーマ

- 「高齢者の人権について」「インターネットによる人権侵害について」「こどもの人権について」「女性の人権について」「障がい者の人権について」が上位を占めています。

#### (4) 「人権教育や啓発」、「人権についての学習」について

##### ① 人権教育や啓発を今後どのように進めていけばよいと思いますか

- 「学校での取り組みをより充実させる」「職場での取り組みをより充実させる」「市や教育委員会で市民向けの取り組みをより充実させる」が上位を占めています。

##### ② どのような学習内容や学習方法が良いと思いますか

- 「映画・DVDなど映像を通じての学習」「関係者、当事者の話を聞いたり交流を通じての学習」「専門家や著名な人の講演を通じての学習」が上位を占めています。

(5) 八尾市が行っている人権に関する教育・啓発の認知度

- 「市政だよりへの啓発記事の掲載」「講演会・映画上映会の開催」「駅や公共施設等への啓発ポスターなどの掲出」「市のホームページなどへの啓発記事の掲載」が上位を占めています。

(6) 人権教育・啓発のための取り組みについて、市に対して望むこと

- 「市政だよりや冊子などを活用した啓発活動の充実」「身近な公共施設で学べる講座の開催」「継続して学べる講座の開催」「乳幼児の一時保育や手話通訳などを設け、参加しやすくする」が上位を占めています。

(7) 人権が尊重されるために、市民一人ひとりが心がけたり、大切にすべきこと

- 「人権に関する正しい知識を身につけること」「自分の権利だけでなく、他人の権利も尊重すること」「人権について、相手の立場に立って考える力を身につけること」が上位を占めています。

(8) あなたの周囲で、差別問題や人権課題の解消に熱心に取り組んでいる人はいますか

- 「いる」が6.4%、「いない」が46.7%となっています。



資料編

## 調 査 票

# 「令和6年度人権についての市民意識調査」への ご協力をお願い

回答用ID

市民のみなさまには、日頃より市政にご協力いただきましてありがとうございます。  
本市では、「第2次八尾市人権教育・啓発プラン」を2016(平成28)年3月に策定、中間見直しにより令和3年3月に改定し、人権尊重の社会づくりに向けた取り組みを推進しているところです。

この度、広く市民のみなさまの人権についての現状や意識、ご意見をお伺いし、八尾市の人権施策を推進するうえでの貴重な基礎資料として活用するため、本市民意識調査を実施することになりました。

この調査は満16歳以上の市民を対象として、住民基本台帳から3,000名の方々を無作為に選ばせていただきました。

無記名でご回答いただきました調査票は、個人情報保護法に基づいて適切に管理し、また、調査データは統計的に処理いたしますので、内容が外部にもれたり、個人にご迷惑をおかけしたりすることは決してありません。

お忙しい中、お手数をおかけいたしますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

2024(令和6)年10月 八尾市

## ご記入にあたってのお願い

\* ご自分で文章を読んだり書いたりすることが困難な方は、ご家族やご友人に代筆していただいても結構です。また、代筆が困難な場合は、下記までご連絡ください。

\* 回答は、あてはまる番号を○で囲んでください。

\* 選択肢の中で「その他」を選んだ場合は、( ) 内に具体的な内容をご記入ください。

## 郵送でご回答いただく場合

\* ご記入が済みましたら、調査票のみを同封の返信用封筒に入れて、回答期日までにポストへご投函ください(切手はいりません)。

## WEB調査でご回答いただく場合

\* パソコン、タブレット、スマートフォンで八尾市電子申請システムの下記のURLまたはQRコードにアクセスしていただき、画面の指示に従ってご回答ください。

なお、回答の際にはデータ通信料がかかりますので、ご承知のうえご協力ください。

➤ URL <https://lgpos.task-asp.net/cu/272124/ea/residents/procedures/apply/50acb326-9536-426d-a9da-16403d1b99c5/start>

➤ 回答画面に入るためには、回答用IDが必要です。このページの右上に記載されている回答用IDを入力して、回答画面に入ってください。

➤ 回答用IDは、郵送による回答との重複を防ぐために付与されるもので、これにより個人が特定されるわけではありません。



10月15日(火曜日)までに 回答ください。

## 問い合わせ先

調査についての問い合わせは、下記までお願いします。

八尾市人権ふれあい部 人権政策課

電話：072-924-3830

ファックス：072-924-0175

# れいわ ねんどじんけん しみんいしきちょうさひょう 令和6年度人権についての市民意識調査票

## ようごかいせつ 用語解説

ちゅう

### 注1 ドメスティック・バイオレンス (DV)

はいぐうしや こうさいあいて した かんけい ひと たい ぼうげん は こうどう  
配偶者や交際相手など親しい関係にある人に対して、なぐる、暴言を吐く、行動  
を監視するなどの暴力。精神的暴力、経済的暴力、性的暴力、社会的暴力、  
こどもを利用した暴力などを含む。

ちゅう

### 注2 SNS

りやく つう ひと ひと  
ソーシャルネットワーキングサービスの略で、インターネットを通じて人と人  
が交流できるサービスのこと。

ライン (LINE)、エックス (X) (旧ツイッター (Twitter))、インスタグラム  
(Instagram)、フェイスブック (Facebook)、ティックトック (TikTok) など。

ちゅう

### 注3 包括的性教育

しんたい せいしよく しく にんげんかんけい せい たようせい びようどう こうふく  
身体や 生殖の仕組みだけでなく、人間関係や性の多様性、ジェンダー平等、幸福  
など幅広いテーマを含む教育。

ちゅう

### 注4 ヤングケアラー

ほんらいおとな にな そうてい かじ かぞく せわ にちじょうてき おこな  
本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行ってい  
るこどものこと。責任や負担の重さにより、学業や友人関係などに影響が出  
てしまうことがある。

ちゅう

### 注5 HIV

めんえきふぜん  
ヒト免疫不全ウイルス (Human Immunodeficiency Virus) のこと。これにより  
こうてんせいめんえきふぜんしやうこうぐん おせん けつえき  
後天性免疫不全症候群 (AIDS) がひきおこされる。ウイルスに汚染された血液  
せいざい とうよ せいこうい ぼし かんせん かんせんけいろ  
製剤の投与、性行為、母子感染がHIVの感染経路とされている。  
このウイルスが血液の中に入るとリンパ球を破壊し、その結果、全身の免疫  
けつえき なか はい きゅう は かい けつか ぜんしん めんえき  
機構が破壊され、抵抗力がなくなりさまざまな感染症や悪性腫瘍にかかりや  
きこう は かい ていこうりやく かんせんしやう あくせいしゅやう  
すくなる。

ちゅう

### 注6 LGBTQ

じよせいどうせいあいしや だんせいどうせいあいしや りょうせいあいしや  
女性同性愛者 (レズビアン、Lesbian)、男性同性愛者 (ゲイ、Gay)、両性愛者  
せいどういつせいしやう ふく せいべつえつきやうしや  
(バイセクシュアル、Bisexual)、性同一性障がいを含む性別越境者など (ト  
だんせいじよせい き むずか き  
ランスジェンダー、Transgender)、男性女性どちらかに決めるのが難しい、決  
めていない、または、決まらない人 (クエスチョニング、Questioning) の人々を  
い み とうじご  
意味する頭字語。

さいしょ じしん たず  
最初に、あなたご自身のことについてお尋ねします。

せいべつ せんたく  
性別は（1つ選択してください）。

- |       |       |                       |
|-------|-------|-----------------------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. 男性・女性と答えることに抵抗を感じる |
|-------|-------|-----------------------|

ねんれい せんたく  
年齢は（1つ選択してください）。

- |           |           |
|-----------|-----------|
| 1. 19歳以下  | 5. 50～59歳 |
| 2. 20～29歳 | 6. 60～69歳 |
| 3. 30～39歳 | 7. 70～79歳 |
| 4. 40～49歳 | 8. 80歳以上  |

げんざい しごと しょくぎょう せんたく  
現在のお仕事（職業）は（1つ選択してください）。

- |                          |
|--------------------------|
| 1. 公務員・教職員               |
| 2. 自営業・自由業               |
| 3. 民間企業・団体の経営者、役員        |
| 4. 民間企業・団体の従業者（会社員、団体職員） |
| 5. 臨時雇用、パート、アルバイト        |
| 6. 学生                    |
| 7. 家事専業                  |
| 8. 無職                    |
| 9. その他（具体的に_____）        |

じんけんぜんぱん たず  
人権全般について、お尋ねします。

とい つぎ ねんかん へんか かん  
問 1 次のことについて、あなたはこの5年間でどう変化したと感じていますか（1つ  
せんたく  
選択してください）。

じんけん まも ほりつ せいど  
(1) 人権を守る法律や制度について

しみん じんけんいしき  
(2) 市民の人権意識について

1. じゅうじつ 充実してきた
2. すこ じゅうじつ 少し充実してきた
3. いぜん か 以前と変わらない
4. すこ 少しひどくなってきた
5. ひどく ひどくなってきた
6. わからない

1. たか 高くなってきた
2. すこ たか 少し高くなってきた
3. いぜん か 以前と変わらない
4. すこ ひく 少し低くなってきた
5. ひく 低くなってきた
6. わからない

とい じよせい かん とく もんだい おも  
問 2 女性に関することで、あなたが特に問題だと思っるのはどのようなことですか（い  
せんたく  
くつでも選択できます）。

1. おとこ しごと おんな かてい せいべつ こていてき やくわりぶんたんいしき  
「男は仕事、女は家庭」といった性別による固定的な役割分担意識があること
2. しゅうしょくじ さいようじょうけん しごとないよう しょうきゅうしょうしん だんじょかくさ  
就職時の採用条件、仕事内容、昇給昇進などで男女格差があること
3. せいせいきや  
セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）をすること
4. まぶ むごんでんわ こうい  
待ち伏せや無言電話などドストーカー（つきまとい）行為をすること
5. ちかん きょうせい ごうかん せいはんざい  
痴漢や強制わいせつ、レイプ（強姦）などの性犯罪をすること
6. ちゅう  
ドメスティック・バイオレンス（DV、注1）をすること
7. しょくば にんしん しゅつさんとう りゆう  
職場などにおいて、マタニティ・ハラスメント（妊娠・出産等を理由とする  
ふり あつか  
不利な扱い）をすること
8. ざっし はんばい ふく せんしゃ  
テレビ、DVD、雑誌（コンビニでの販売を含む）、インターネット、電車  
なかづ こうこく じよせい せいせき たいしやう じやうほう  
の中吊り広告などで、女性を性的な対象とする情報があふれていること
9. だんじょ はたら かじ こそだ かいご りやうりつ かんきやう  
男女ともに、働きながら、家事や子育て・介護などを両立できる環境が  
せいび  
整備されていないこと
10. た ぐたいでき  
その他（具体的に\_\_\_\_\_）
11. とく  
特にない
12. わからない

問3 とい かん とく もんだい おも  
 こどもに関する<sup>こと</sup>で、あなたが特に問題だ<sup>と</sup>思う<sup>のは</sup>どのような<sup>こと</sup>ですか  
 (いくつでも<sup>せんたく</sup>選択<sup>でき</sup>ます)。

1. な か ま む し ぼ う り よ く あ い て い や  
 仲間はずれや無視、暴力や相手が嫌がることをしたりさせたりするなど、  
 いじめ<sup>おこな</sup>を行う<sup>こと</sup>
2. ち ゆ う い や  
 インターネットやスマートフォン、SNS (注 2) などでいじめや嫌がらせ  
 を<sup>おこな</sup>行う<sup>こと</sup>
3. ひ と み み  
 いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする<sup>こと</sup>
4. お や ぎ ゃ く た い ぼ う り よ く ぼ う げ ん し ょ く じ あ た  
 親がこどもに虐待<sup>おこな</sup>を<sup>おこな</sup>すること (暴力、暴言、食事を与えないなど)
5. き ょ う し し ど う て き た ち ば ひ と たい ば つ く わ  
 教師など指導的な立場にある人がこどもに体罰を加える<sup>こと</sup>
6. お と な い け ん む し お と な か ん が お  
 大人がこどもの意見を無視したり、大人の考えを押しつけたりする<sup>こと</sup>
7. じ ど う ば い し ゆ ん か い し ゆ ん じ ど う ゆ う が い じ ょ う ほ う ほ ん ら ん  
 児童売春・買春、児童ポルノなど、こどもに有害な情報が氾濫している<sup>こと</sup>
8. は つ た つ だ ん か い お う ほ う か つ て き せ い き ょ う い く ち ゆ う  
 発達段階に応じた包括的性教育 (注 3) がなされていない<sup>こと</sup>
9. ひ ん こ ん ち ゆ う り ゆ う き ょ う い く う き か い ひ と  
 貧困、ヤングケアラー (注 4) などの理由で教育を受ける機会が等しく  
 ない<sup>こと</sup>
10. た ぐ た い て き  
 その他 (具体的に \_\_\_\_\_ )
11. と く  
 特<sup>とく</sup>にない
12. わ か ら な い  
 わからない

とい  
問 4 高齢者こうれいしゃに関するかんことで、あなたあなたが特とくに問題もんだいだと思おもうのはどのようなことですか  
(いくつでも選せんたくできます)。

1. 働はたらける場所ばしょや能のうりよく力を発揮はつきする機き会かいが少すくないこと
2. 悪徳あくとく商法しょうほうや詐欺さぎなどで財産ざいさんを搾取さくしゆすること
3. 賃貸住宅ちんたいじゆうたくへの入居にゆうきよを拒むこぼこと
4. 家族かぞくが必要な支援ひつようをしなかつたり、暴力しえん、暴言ぼうりよくなどの虐待ぼうげんをしたりする  
こと
5. 病院びやういんや福祉施設ふくししせつにおいて、職員等しよくいんとうの対たい応おうが不ふ十分じゆうぶんであつたり、暴力ぼうりよく、  
暴言ぼうげんなどの虐待ぎやくたいをしたりすること
6. 意見いけんや行動こうどうを尊そん重ちゆうされなかつたり、無視むしされたりすること
7. 日常生活にちじゆうせいかつに必要な情報ひつようをわかりやすく伝つたえる配慮はいりよが足りたないこと
8. 道路どうろの段差だんさや乗り物の、建物ものの設備たてもなどにおいて、高せつ齢者びが暮こうれいしゃらしやすすくま  
ちづくりが進すすんでいないこと
9. 近隣きんりんや地ち域いきの人ひととのふれあいや理解りかいを深ふかめる機き会かいが少すくなく孤こ立りつしている  
こと
10. その他た (具体的ぐたいてきに\_\_\_\_\_)
11. 特とくにない
12. わからない

とい しょう ひと かん とく もんだい おも  
 問5 障がいのある人に関する事で、あなたが特に問題だと思ふのはどのような  
 ことですか（いくつでも選択できます）。

1. じろじろ見たり、避けたりすること
2. 意見や行動を尊重されなかつたり、無視されたりすること
3. 家族が必要な支援をしなかつたり、暴力、暴言などの虐待をしたりする  
こと
4. 賃貸住宅への入居を拒むこと
5. 道路の段差や乗り物、建物の設備などにおいて、障がいのある人が暮ら  
しやすいまちづくりが進んでいないこと
6. 働ける場所や雇用に取り組んでいる企業が少くないこと
7. サービス事業所や福祉施設・病院において、職員等の対応が不十分であ  
つたり、暴力、暴言などの虐待をしたりすること
8. 地域の学校に通えない場合があること
9. 近隣や地域の人とのふれあいや理解を深める機会が少なく、孤立している  
こと
10. 差別的な発言や落書きなどをする事
11. 聴覚や視覚に障がいのある人などへ必要な情報を伝える配慮が足りな  
いこと
12. その他（具体的に\_\_\_\_\_）
13. 特にない
14. わからない

とい どうわもんだい ぶらくさべつ かん とく もんだい おも  
 問6 同和問題（部落差別）に関する事で、あなたが特に問題だと思ふのはどのよ  
 うな事ですか（いくつでも選択できます）。

1. 結婚や就職にあたって、身元調査をすること
2. 就職や職場等において不利な扱いをすること
3. 家を借りたり購入したりする際に同和地区を避けること
4. 差別的な発言や落書きなどをする事
5. インターネットなどを利用して、デマや差別的な情報を掲載すること
6. 交流や交際を避けること
7. 同和問題（部落差別）に関して、正しく理解されていないこと
8. その他（具体的に\_\_\_\_\_）
9. 特にない
10. わからない

問7 外国人に関する<sup>が</sup>ことで、あなたが特に問題だ<sup>と</sup>思うのはどのようなことですか  
(いくつでも<sup>せんたく</sup>選択できます)。

1. 特定の<sup>とくてい</sup>民族や国籍<sup>みんぞく</sup>の人々<sup>こくせき</sup>に対して<sup>ひとびと</sup>不当な<sup>たいふとう</sup>差別的言動<sup>さべつてきげんどう</sup> (ヘイトスピーチ) が  
おこな  
行<sup>おこな</sup>われること
2. 宿泊<sup>しゆくはくしせつ</sup>施設<sup>てんぽ</sup>、店舗<sup>にゆうてん</sup>などへの入店<sup>りよう</sup>や利用<sup>こぼ</sup>を拒むこと
3. 差別的<sup>さべつてき</sup>な発言<sup>はつげん</sup>や落書き<sup>らくが</sup>など<sup>らくが</sup>をすること
4. 賃貸<sup>ちんたいじゆうたく</sup>住宅<sup>にゆうきよ</sup>への入居<sup>こぼ</sup>を拒むこと
5. 就<sup>しゆうしよく</sup>職<sup>しよくぼなど</sup>や職場<sup>ふり</sup>等<sup>あつか</sup>において不利<sup>ふり</sup>な扱<sup>あつか</sup>い<sup>あつか</sup>をすること
6. 施設<sup>しせつ</sup>・道路<sup>どうろ</sup>・鉄道<sup>てつどう</sup>案内<sup>あんない</sup>の外国語<sup>がいこくご</sup>表記<sup>ひょうき</sup>など、外国人<sup>がいこくじん</sup>市民<sup>しみん</sup>にも暮<sup>く</sup>らしやすいま  
ち<sup>すす</sup>づくりが進<sup>すす</sup>められていないこと
7. 外国語<sup>がいこくご</sup>で対<sup>たい</sup>応<sup>おう</sup>できる相談<sup>そうだん</sup>窓口<sup>まどぐち</sup>や病院<sup>びょういん</sup>・施設<sup>しせつ</sup>が少<sup>すく</sup>ないこと
8. 近隣<sup>きんりん</sup>や地域<sup>ちいき</sup>の人<sup>ひと</sup>とのふれあ<sup>り</sup>い<sup>り</sup>や理解<sup>りかい</sup>を深<sup>ふか</sup>める機<sup>き</sup>会<sup>かい</sup>が少<sup>すく</sup>なく孤<sup>こ</sup>立<sup>りつ</sup>している  
こと
9. その他<sup>たぐたいき</sup> (具体的に\_\_\_\_\_)
10. 特<sup>とく</sup>にない
11. わからない

問8 エイズ患者<sup>かんじや</sup>・H I V (注5) 陽性者<sup>ちゆうようせいしや</sup>に関する<sup>が</sup>ことで、あなたが特に問題だ<sup>と</sup>思う  
のはどのようなことですか (いくつでも<sup>せんたく</sup>選択できます)。

1. 患者<sup>かんじや</sup>・陽性者<sup>ようせいしや</sup>のプライバシー<sup>まも</sup>を守<sup>まも</sup>らないこと
2. 就<sup>しゆうしよく</sup>職<sup>しよくぼなど</sup>・職場<sup>ふり</sup>等<sup>あつか</sup>において不利<sup>ふり</sup>な扱<sup>あつか</sup>い<sup>あつか</sup>をすること
3. 病院<sup>びょういん</sup>が治療<sup>ちりよう</sup>や入院<sup>にゆういん</sup>を拒<sup>こぼ</sup>むこと
4. 周囲<sup>しゆうい</sup>が結<sup>けつ</sup>婚<sup>こん</sup>について反<sup>はん</sup>対<sup>たい</sup>すること
5. 無断<sup>むだん</sup>でH I V 検<sup>けん</sup>査<sup>さ</sup>をすること
6. 偏見<sup>へんけん</sup>による差<sup>さ</sup>別<sup>べつ</sup>的<sup>てき</sup>な発<sup>はつ</sup>言<sup>げん</sup>や行<sup>こう</sup>動<sup>どう</sup>をすること
7. エイズ・H I V 陽性者<sup>ようせいしや</sup>に關<sup>かん</sup>して、正<sup>ただ</sup>しく理<sup>り</sup>解<sup>かい</sup>され<sup>り</sup>てい<sup>り</sup>ないこと
8. その他<sup>たぐたいき</sup> (具体的に\_\_\_\_\_)
9. 特<sup>とく</sup>にない
10. わからない

問9 ホームレスに関する<sup>かん</sup>ことで、あなたが特に<sup>とく</sup>問題だ<sup>もんだい</sup>と思う<sup>おも</sup>のはどのようなことですか（いくつでも<sup>せんたく</sup>選択<sup>せんたく</sup>できます）。

1. じろじろ見<sup>み</sup>たり、避<sup>さ</sup>けたりすること
2. 危<sup>き</sup>害<sup>がい</sup>を加<sup>く</sup>えたり、嫌<sup>いや</sup>がらせをし<sup>し</sup>たりすること
3. 居<sup>きょ</sup>住<sup>じゅう</sup>場<sup>ばう</sup>所<sup>じょ</sup>がないなどにより、就<sup>しゅう</sup>労<sup>ろう</sup>が困<sup>こん</sup>難<sup>なん</sup>であること
4. 病<sup>びょう</sup>院<sup>いん</sup>が治<sup>ちりょう</sup>療<sup>りょう</sup>や入<sup>にゅう</sup>院<sup>いん</sup>を拒<sup>こぼ</sup>むこと
5. 相<sup>そう</sup>談<sup>だん</sup>窓<sup>まど</sup>口<sup>ぐち</sup>や就<sup>しゅう</sup>労<sup>ろう</sup>・生<sup>せい</sup>活<sup>かつ</sup>支<sup>し</sup>援<sup>えん</sup>体<sup>たい</sup>制<sup>せい</sup>が不<sup>ふ</sup>十<sup>じゅう</sup>分<sup>ぶん</sup>であること
6. その他（具体的<sup>た</sup>に<sup>ぐ</sup>たい<sup>てき</sup>に\_\_\_\_\_）
7. 特<sup>とく</sup>にない
8. わからない

問10 インターネットに関する<sup>かん</sup>ことで、あなたが特に<sup>とく</sup>問題だ<sup>もんだい</sup>と思う<sup>おも</sup>のはどのようなことですか（いくつでも<sup>せんたく</sup>選択<sup>せんたく</sup>できます）。

1. 出<sup>で</sup>会<sup>あ</sup>い系<sup>けい</sup>サ<sup>さ</sup>イトやコ<sup>こ</sup>ミュ<sup>ミュ</sup>ニ<sup>ニ</sup>ティ<sup>ティ</sup>サ<sup>さ</sup>イトなどが犯<sup>はん</sup>罪<sup>ざい</sup>を誘<sup>ゆう</sup>発<sup>はつ</sup>する可<sup>か</sup>能<sup>のう</sup>性<sup>せい</sup>のある場<sup>ば</sup>とな<sup>な</sup>っていること
2. 捜<sup>そう</sup>査<sup>さ</sup>の対<sup>たい</sup>象<sup>しょう</sup>とな<sup>な</sup>っている未<sup>み</sup>成<sup>せい</sup>年<sup>ねん</sup>者<sup>しゃ</sup>の実<sup>じつ</sup>名<sup>めい</sup>や顔<sup>かお</sup>写<sup>しゃ</sup>真<sup>しん</sup>を掲<sup>けい</sup>載<sup>ざい</sup>すること
3. わいせつな画<sup>が</sup>像<sup>ぞう</sup>や残<sup>ざん</sup>虐<sup>ぎやく</sup>な画<sup>が</sup>像<sup>ぞう</sup>などを掲<sup>けい</sup>載<sup>ざい</sup>すること
4. デマを流<sup>なが</sup>したり、他<sup>た</sup>人<sup>にん</sup>を誹<sup>ひ</sup>謗<sup>ぼう</sup>中<sup>ちゅう</sup> 傷<sup>ひょう</sup>する表<sup>ひょう</sup>現<sup>げん</sup>や差<sup>さ</sup>別<sup>べつ</sup>を助<sup>じょ</sup>長<sup>ちやう</sup>する表<sup>ひょう</sup>現<sup>げん</sup>などを掲<sup>けい</sup>載<sup>ざい</sup>すること
5. 個<sup>こ</sup>人<sup>じん</sup>情<sup>じょう</sup>報<sup>ほう</sup>の流<sup>りゅう</sup>出<sup>しゅつ</sup>などの問<sup>もん</sup>題<sup>だい</sup>が多<sup>おほ</sup>く発<sup>はつ</sup>生<sup>せい</sup>していること
6. インターネット上<sup>じょう</sup>で人<sup>じん</sup>権<sup>けん</sup>侵<sup>しん</sup>害<sup>がい</sup>を受<sup>う</sup>けた人<sup>ひと</sup>のため<sup>ため</sup>の相<sup>そう</sup>談<sup>だん</sup>・支<sup>し</sup>援<sup>えん</sup>体<sup>たい</sup>制<sup>せい</sup>が十<sup>じゅう</sup>分<sup>ぶん</sup>でないこと
7. 人<sup>じん</sup>権<sup>けん</sup>侵<sup>しん</sup>害<sup>がい</sup>する情<sup>じょう</sup>報<sup>ほう</sup>の発<sup>はつ</sup>信<sup>しん</sup>者<sup>しゃ</sup>に対<sup>たい</sup>する監<sup>かん</sup>視<sup>し</sup>や取<sup>とり</sup>締<sup>しま</sup>りが十<sup>じゅう</sup>分<sup>ぶん</sup>でないこと
8. 詐<sup>さ</sup>欺<sup>ぎ</sup>や強<sup>ごう</sup>盗<sup>とう</sup>等<sup>など</sup>の犯<sup>はん</sup>罪<sup>ざい</sup>に利<sup>り</sup>用<sup>りよう</sup>されていること
9. その他（具体的<sup>た</sup>に<sup>ぐ</sup>たい<sup>てき</sup>に\_\_\_\_\_）
10. 特<sup>とく</sup>にない
11. わからない

問 1 1 <sup>とく もんだい おも</sup> ハンセン病回復者に関する<sup>とく</sup>ことで、あなたが特に問題だと思<sup>おも</sup>うのはどのようなことですか（いくつでも<sup>せんたく</sup>選択できます）。

1. <sup>み さ</sup> じろじろ見たり、避けたりすること
2. <sup>しゅうしょく しょくばなど</sup> 就職・職場等<sup>ふり あつか</sup>において不利な扱<sup>あつか</sup>い<sup>せんたく</sup>を<sup>せんたく</sup>すること
3. <sup>ちんたいじゅうたく</sup> 賃貸住宅<sup>にゅうきよ こぼ</sup>への入居<sup>にゅうきよ</sup>を拒<sup>こぼ</sup>むこと
4. <sup>びょういん ちりょう</sup> 病院が治療<sup>にゅういん こぼ</sup>や入院<sup>にゅういん</sup>を拒<sup>こぼ</sup>むこと
5. <sup>かぞく しんぞく</sup> 家族や親族<sup>こうりゅう</sup>との交流<sup>こうりゅう</sup>やふれあいが少<sup>すく</sup>ないこと
6. <sup>きんりん ちいき ひと</sup> 近隣や地域の人<sup>ひと</sup>とのふれあい<sup>りかい</sup>や理解<sup>ふか</sup>を深<sup>きかい</sup>める機会<sup>すく</sup>が少<sup>こりつ</sup>なく孤立<sup>こりつ</sup>していること
7. <sup>しゆくはく しせつ りょう</sup> 宿泊<sup>しゆくはく</sup>や施設<sup>しせつ</sup>の利用<sup>りょう</sup>を拒<sup>こぼ</sup>むこと
8. <sup>びょう かん</sup> ハンセン病<sup>に</sup>関<sup>ただ</sup>して、正<sup>りかい</sup>しく理解<sup>りかい</sup>されてい<sup>ない</sup>ないこと
9. <sup>た</sup> その他<sup>ぐたいでき</sup>（具体的に\_\_\_\_\_）
10. <sup>とく</sup> 特<sup>とく</sup>にない
11. わからない

問 1 2 <sup>ちゆう など せいせきしょうすうしや</sup> LGBTQ（注 6）等<sup>ちゆう など</sup>の性的少数者<sup>せいせきしょうすうしや</sup>（セクシュアル・マイノリティ）<sup>かん</sup>に関する<sup>とく</sup>ことで、あなたが特に問題だと思<sup>おも</sup>うのはどのようなことですか（いくつでも<sup>せんたく</sup>選択できます）。

1. <sup>おとこ おんな</sup> 「男<sup>おとこ</sup>らしく、女<sup>おんな</sup>らしく」という考<sup>かんが</sup>え<sup>お</sup>を推<sup>お</sup>しつ<sup>お</sup>けること
2. <sup>がっこう しょくば</sup> 学校<sup>がっこう</sup>や職場<sup>しょくば</sup>でいじめ<sup>い</sup>や嫌<sup>いや</sup>がらせ<sup>いや</sup>を<sup>せんたく</sup>すること
3. <sup>しゅうしょく しょくばなど</sup> 就職・職場等<sup>ふり あつか</sup>において不利な扱<sup>あつか</sup>い<sup>せんたく</sup>を<sup>せんたく</sup>すること
4. <sup>ちんたいじゅうたく</sup> 賃貸住宅<sup>にゅうきよ こぼ</sup>への入居<sup>にゅうきよ</sup>を拒<sup>こぼ</sup>むこと
5. <sup>へんけん さべつてき ほつげん こうどう</sup> 偏見<sup>へんけん</sup>による差<sup>さ</sup>別的<sup>べつ</sup>な発<sup>はつ</sup>言<sup>げん</sup>や行<sup>こう</sup>動<sup>どう</sup>を<sup>せんたく</sup>すること
6. <sup>せいせきしょうすうしや</sup> 性的少数者<sup>せいせきしょうすうしや</sup>（セクシュアル・マイノリティ）<sup>かん</sup>に<sup>ただ</sup>関<sup>ただ</sup>して、正<sup>りかい</sup>しく理解<sup>りかい</sup>され<sup>ない</sup>てい<sup>ない</sup>ないこと
7. <sup>た</sup> その他<sup>ぐたいでき</sup>（具体的に\_\_\_\_\_）
8. <sup>とく</sup> 特<sup>とく</sup>にない
9. わからない

とい  
問 1 3 犯罪被害者（犯罪によって被害を受けた人および家族など）に関する事で、あなたが特に問題だと思ふのはどのようなことですか（いくつでも選択できます）。

1. 犯罪行為によって精神的、経済的な負担を受けること
2. 捜査や刑事裁判において精神的負担を受けること
3. 報道、インターネットや地域住民によってプライバシーを侵害され、生活の平穩が保てなくなること
4. インターネット等で犯罪被害者への誹謗中傷があること
5. 相談窓口や支援体制が不十分であること
6. 事実を知るために必要な情報入手することが困難であること
7. その他（具体的に\_\_\_\_\_）
8. 特にない
9. わからない

とい  
問 1 4 刑を終えて出所した人に関する事で、あなたが特に問題だと思ふのはどのようなことですか（いくつでも選択できます）。

1. 就職・職場等において不利な扱いをすること
2. 報道、インターネットや地域住民によってプライバシーを侵害され、生活の平穩が保てなくなること
3. 賃貸住宅への入居を拒むこと
4. 相談窓口や支援体制が不十分であること
5. 犯罪情報がいつまでもインターネット上に掲載されること
6. 偏見による差別的な発言や行動をすること
7. その他（具体的に\_\_\_\_\_）
8. 特にない
9. わからない

あなたの日常生活での人権に対する意識や行動についてお尋ねします。

問 15 あなたは、次にあげる①～⑫の考え方について、どう思われますか（①～⑫について該当する番号を選択してください）。

<①～⑫の考え方>	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらともいえない	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない
①妻や子を養うのは男の責任であるという考え方	1	2	3	4	5	6
②こどものしつけのためには、体罰もやむをえないという考え方	1	2	3	4	5	6
③障がい者はハンデがあり、できないことが多いので、社会進出は控えたほうがよいという考え方	1	2	3	4	5	6
④同和問題（部落差別）に関する教育や啓発はできるだけ行わず、そっとしておくほうがよいという考え方	1	2	3	4	5	6
⑤外国人労働者が増えると日本人の労働の場が奪われるという考え方	1	2	3	4	5	6
⑥権利のみを主張して他人の迷惑を考えない人が増えたという考え方	1	2	3	4	5	6
⑦差別の原因には差別される人の側の問題があるという考え方	1	2	3	4	5	6
⑧精神障がい者は犯罪を犯しやすいという考え方	1	2	3	4	5	6
⑨知的障がい者は大声をあげたり暴れたりするなど、問題を起こしやすいという考え方	1	2	3	4	5	6
⑩外国人が近所に引越してくることは、不安であるという考え方	1	2	3	4	5	6
⑪職業に対する偏見はしかたがないという考え方	1	2	3	4	5	6
⑫学歴による差別はしかたがないという考え方	1	2	3	4	5	6

とい 問 1 6 あなたは、次にあげる①～⑯の条約や法律、条例などをご存知ですか（①～⑯について該当する番号を選択してください）。

<p style="text-align: center;">&lt;①～⑯の条約や法律、条例など&gt;</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl;">内容まで知っている</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl;">名称は知っている</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl;">知らない</p>
<p>①世界人権宣言</p>	1	2	3
<p>②人種差別撤廃条約</p>	1	2	3
<p>③子どもの権利条約</p>	1	2	3
<p>④児童虐待の防止等に関する法律</p>	1	2	3
<p>⑤いじめ防止対策推進法</p>	1	2	3
<p>⑥高齢者虐待防止法（高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律）</p>	1	2	3
<p>⑦障害者の権利に関する条約</p>	1	2	3
<p>⑧障害者虐待防止法（障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律）</p>	1	2	3
<p>⑨-1 障害者差別解消法（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）</p>	1	2	3
<p>⑨-2 障害者差別解消法において提供が求められている「合理的配慮」</p>	1	2	3
<p>⑩ヘイトスピーチ解消法（本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律）</p>	1	2	3
<p>⑪部落差別解消推進法（部落差別の解消の推進に関する法律）</p>	1	2	3
<p>⑫性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律</p>	1	2	3

<small>おおさかふぶらくさべつちようさきせいじようれい おおさかふぶらくさべつ</small> <b>⑬大阪府部落差別調査規制条例（大阪府部落差別</b> <small>じしよう かか ちようさとう きせいとう かん じようれい</small> <b>事象に係る調査等の規制等に関する条例）</b>	1	2	3
<small>おおさかふ じよう ひほうちゆうしやう さべつ</small> <b>⑭大阪府インターネット上の誹謗中傷や差別</b> <small>とう じんけんしんがい しゃかい じようれい</small> <b>等の人権侵害のない社会づくり条例</b>	1	2	3
<small>や お し じんけんそんちよう しゃかい じようれい</small> <b>⑮八尾市人権尊重の社会づくり条例</b>	1	2	3
<small>だい じ や お し じんけんきやういく けいはつ かいいていばん</small> <b>⑯第2次八尾市人権教育・啓発プラン（改定版）</b>	1	2	3

じんけんしんがい ようご たず  
人権侵害や擁護についてお尋ねします。

とい  
問 17 あなたは、この5年間ねんかんくらいの間に、次のようなことで自分じぶんの人権じんけんが侵害しんがいされたと感じたことがありますか（いくつでも選択せんたくできます）。

1. 根拠こんきょのない悪い噂わるうわさやかげ口ぐち、悪口わるぐちを言われた
2. 市役所しやくしょなどの公的機関こうてききかんで不当ふとうな扱いあつかを受けた
3. 学校がっこう・職場しよくば・地域社会ちいきしやかい（近所きんじよ）でいじめや仲間はずれなかまや嫌がらせいやを受けた
4. 結婚けっこんや就職しゅうしよくに際して差別的な扱いさべつてきを受けた
5. 学校がっこう・職場しよくばにおいて、成績評価せいせきひょうか、採用条件さいようじょうけん、昇給昇進しょうきゅうしょうしんなどで不当ふとうな扱いあつかを受けた
6. インターネットやSNSなどで悪質あくしつな書き込みかや嫌がらせこを受けた
7. セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせせいせきいや）を受けた
8. ストーカー（つきまといこうい）行為こういを受けた
9. 配偶者はいぐうしやや交際相手こうさいあいてなど親しい関係しんかにある人ひとから暴力ぼうりよく（なぐる、暴言ぼうげん、行動こうどう）を監視かんしするなど）を受けた
10. 悪臭あくしゅう・騒音そうおんなどで迷惑めいわくを受けた
11. ヘイトスピーチうを受けた
12. その他
13. 答えこたたくない
14. 人権じんけんを侵害しんがいされたと感じたことはない

問 18 へお進すすみください。

とい  
問 19 へお進すすみください。

→ (1) 「12. その他」と答こたえた方かたにお聞ききします。差し支さえなければどつかのような場合ばあいか、具体的ぐたいてきにご記入きにゆうください。

---



---



---



---



---



---



---



---

とい とい こと じんけんしんがい う とき  
 問 1 8 問 1 7で答えられたような人権侵害を受けた時に、あなたはどうしましたか  
 (いくつでも選択できます)。

1. 相手に直接抗議した
2. 家族・親族に相談した
3. 友人・同僚に相談した
4. 学校の先生や職場の上司に相談した
5. 地域の自治会長(町会長)や民生委員・児童委員などに相談した
6. 市の相談窓口(市)に相談した
7. 法務局・人権擁護委員に相談した
8. 警察に相談した
9. 弁護士に相談した
10. 民間の人権団体や相談機関(具体的に\_\_\_\_\_ )に相談した
11. 何もせず我慢した
12. 答えたくない
13. その他(具体的に\_\_\_\_\_ )

とい つぎ ばめん で あ じしん おも  
 問 1 9 次のような場面 (A～C) に出合ったとき、あなたご自身はどのように思われますか (いくつかでも選択できます)。

A. 隣家でしばしばこどもの泣き叫ぶ声と親の怒鳴り声が聞こえ、虐待が疑われる場合。

1. かかわらないようにする
2. 直接、隣家の親に尋ねる
3. 市の相談窓口やこども家庭センター、189 (児童相談所虐待対応ダイヤル) などに連絡する
4. 警察に連絡する
5. 民生委員・児童委員や自治会長 (町会長) などの地域の役員に相談する
6. その他 (具体的に\_\_\_\_\_)

B. 日常会話の中で、誰かが差別的な発言をした場合。

1. 何もせずに黙っておく
2. 話を合わせてしまう
3. 他の話題に変えようと努力する
4. 差別的な発言であることを指摘する
5. その他 (具体的に\_\_\_\_\_)

C. 街で白い杖をもった人や車椅子の人が、介助を求めている場合。

1. 黙ってとおり過ぎる
2. 周りの人の様子を見ながら、手を貸すかどうか決める
3. すぐに手を貸すか、一人で無理なら他の人の手助けを求める
4. その他 (具体的に\_\_\_\_\_)

とい した ひと なか つぎ ひと せんたく  
 問 2 0 あなたが親しくしている人の中に、次のような人はいますか (いくつかでも選択できます)。

- |                     |                   |
|---------------------|-------------------|
| 1. 外国人              | 8. ハンセン病回復者       |
| 2. 身体障がい者           | 9. LGBTQ等の性的少数者の人 |
| 3. 知的障がい者           | 10. 犯罪被害者         |
| 4. 精神障がい者           | 11. 刑を終えて出所した人    |
| 5. 同和問題 (部落差別) の当事者 | 12. その他 (_____)   |
| 6. 介護を必要とする人        | 13. いない           |
| 7. エイズ患者・HIV陽性者     |                   |

じんけん かん けいはつかつどう たず  
**人権に関する啓発活動についてお尋ねします。**

とい  
**問 2 1** あなたが人権について学んだのは、どのような機会ですか（いくつでも選<sup>せんたく</sup>択できま  
 す）。

とい  
**問 2 2** へお進<sup>すす</sup>みください。

1.	しょうがっこう ちゅうがっこう じゅぎょう 小学校・中学校の授業
2.	こうこう だいがく じゅぎょう 高校・大学の授業
3.	がっこうぎょうじ PTAなどの学校行事
4.	ちく じんけんけんしゅう 地区人権研修
5.	や おし ぎょうせいしゅさい ぎょうじ 八尾市などの行政主催の行事
6.	しょくば けんしゅうかい 職場での研修会など
7.	みんかんきかん しみんだんたいしゅさい ぎょうじ 民間機関や市民団体主催の行事
8.	しょせき けいはつさつし ふく 書籍（啓発冊子を含む）やテレビなど
9.	た ぐたいてき その他（具体的に_____）
10.	これまで <sup>まな</sup> に学ぶことがなかった

(1) 「10. これまで<sup>まな</sup>に学ぶことがなかった」と答<sup>こた</sup>えた方<sup>かた</sup>だけにお聞<sup>き</sup>きします。これまで、学<sup>まな</sup>  
 ぶことがなかったのはなぜですか（いくつでも選<sup>せんたく</sup>択できます）。

1.	まな きかい 学ぶ機会がなかったから
2.	じ こ がくしゅう じゅうぶん 自己学習で十分だったから
3.	きょうみ こうえんかい けんしゅうかい 興味のある講演会や研修会などがなかったから
4.	じんけんがくしゅう かんしん 人権学習に関心なかったから
5.	じかんでき よゆう 時間的な余裕がなかったから
6.	どこで、いつ、どのようなことをしているかがわからず、参加 <sup>さんか</sup> できなかつ たから
7.	むずか 難しそうだったから
8.	こそだ おや かいご さんか 子育てや親の介護などで参加できなかったから
9.	しょう もんだい さんか 障がいの問題で参加できなかったから
10.	ことば もんだい にほんご よ か むずか さんか 言葉の問題（日本語がわからない・読み書きが難しい）で参加できなかつ たから
11.	なんとなく
12.	た ぐたいてき その他（具体的に_____）

とい 2 2 今後、あなたが学んでみたい人権に関するテーマは、どのような内容ですか（いくつでも選択できます）。

1. 女性の人権について
2. こどもの人権について
3. 高齢者の人権について
4. 障がい者の人権について
5. 同和問題（部落差別）について
6. アイヌの人びとの人権について
7. 外国人の人権について
8. エイズ患者・HIV陽性者の人権について
9. ハンセン病回復者の人権について
10. 刑を終えて出所した人の人権について
11. 犯罪被害者の人権について
12. インターネットによる人権侵害について
13. ホームレスの人権について
14. LGBTQ等の性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）の人権について
15. 拉致被害者の人権について
16. その他（具体的に\_\_\_\_\_）

とい 2 3 「人権教育や啓発」、「人権についての学習」についてお尋ねします。

(1) あなたは、人権教育や啓発を今後どのように進めていけばよいと思いますか（いくつでも選択できます）。

1. 学校での取り組みをより充実させる
2. 職場での取り組みをより充実させる
3. 市や教育委員会で市民向けの取り組みをより充実させる
4. 民間機関や市民団体の取り組みをより充実させる
5. 地域での取り組みをより充実させる
6. わからない
7. その他（具体的に\_\_\_\_\_）

(2) あなたは、人権について学習するためには、どのような学習内容や学習方法が良  
 いと思いますか (いくつでも選択できます)。

1. 映画・DVDなど映像を通じての学習
2. 冊子やリーフレットなどを通じての学習
3. 参加者同士の自由な意見交換や、体験を通じての学習
4. 施設見学や、現場を訪れての学習
5. 関係者、当事者の話を聞いたり交流を通じての学習
6. 専門家や著名な人の講演を通じての学習
7. インターネットを活用した学習
8. わからない
9. その他 (具体的に\_\_\_\_\_)

問24 やおし とく たず  
 八尾市の取り組みについてお尋ねします。

あなたは、八尾市が行っている次のような人権に関する教育・啓発を知っていますか  
 (いくつでも選択できます)。

1. 講演会・映画上映会の開催
2. 市役所での人権に関する教育・啓発事業
3. 「ひゅーまんフェスタ」の開催
4. 新聞などへの啓発記事の掲載
5. 市政だよりへの啓発記事の掲載
6. 市のホームページなどへの啓発記事の掲載
7. SNSでの啓発記事の情報発信
8. 啓発冊子やパンフレットの作成・配布
9. 駅や公共施設等への啓発ポスターなどの掲出
10. 懸垂幕などを活用した啓発
11. 啓発DVD・ビデオ・図書などの貸し出し
12. わからない
13. その他 (具体的に\_\_\_\_\_)

とい 問 2 5 じんけんきょういく けいはつ と く し たい のぞ  
 人権教育・啓発のための取り組みについて、あなたが市に対して望むことはあ  
 りますか（いくつでもせんたく  
 選択できます）。

1. せいせい さっし かつよう けいはつかつどう じゅうじつ  
 1. 市政だよりや冊子などを活用した啓発活動の充実
2. ちいき じんけんけいはつ すす ようせい じゅうみんそうごけいはつ うなが  
 2. 地域での人権啓発を進めるリーダーを養成し、住民相互啓発を促す
3. けいぞく まな こうざ かいさい  
 3. 継続して学べる講座の開催
4. やかん どにち まな こうざ かいさい  
 4. 夜間や土日に学べる講座の開催
5. みちか こうきょうしせつ まな こうざ かいさい  
 5. 身近な公共施設で学べる講座の開催
6. にゅうようじ いちじほいく しゅわつうやく もう さんか  
 6. 乳幼児の一時保育や手話通訳などを設け、参加しやすくする
7. わからない
8. その他（具体的に\_\_\_\_\_）

とい 問 2 6 しみん あいだ じんけん さんちよう しみんひとり こころ  
 あなたは、市民の間で人権が尊重されるために、市民一人ひとりが心がけたり、  
 たいせつ たいせつ たいせつ  
 大切にすべきことは何だと思えますか（いくつでもせんたく  
 選択できます）。

1. じんけん かん ただ ちしき み  
 1. 人権に関する正しい知識を身につけること
2. ひごうり いんしゅう ふうしゅう あやま こていかんねん  
 2. 非合理的な因習や風習、誤った固定観念にとらわれないこと
3. じぶん けんり たにん けんり さんちよう  
 3. 自分の権利だけでなく、他人の権利も尊重すること
4. じんけん あいて たちば た かんが ちから み  
 4. 人権について、相手の立場に立って考える力を身につけること
5. じぶん せいかつ ちいきしゃかい にんげんかんけい たいせつ  
 5. 自分が生活している地域社会やその人間関係を大切にすること
6. とく  
 6. 特にない
7. わからない
8. その他（具体的に\_\_\_\_\_）

とい 問 2 7 しゅうい さべつもんだい じんけんかだい かいしょう ねっしん と く ひと  
 あなたの周囲で、差別問題や人権課題の解消に熱心に取り組んでいる人はいま  
 すか（1つせんたく  
 選択してください）。

- |       |        |          |
|-------|--------|----------|
| 1. いる | 2. いない | 3. わからない |
|-------|--------|----------|

とい じんけん そんちよう しゃかい いけん きにゆう  
問28 人権が尊重される社会にするために、ご意見があればご記入ください。

---

---

---

---

---

いじよう ちょうさ しゅうりよう きょうりよく  
以上で調査は終了になります。ご協力いただきありがとうございます  
ございました。

がつ にち か ようび ちょうさひょう どうふう へんしんようふうとう  
10月15日（火曜日）までに、調査票を同封の返信用封筒に  
い ちか ゆうびん とうかん きって  
入れてお近くの郵便ポストに投函するか（切手はいりません）、  
やおしでんしんせい かいとう  
八尾市電子申請システムにより回答してください。

令和 6 年度  
人権についての市民意識調査報告書

発行年月:2025(令和7)年 3 月

発 行 者:八尾市人権ふれあい部 人権政策課

所 在 地:〒581-0003 八尾市本町一丁目 1 番 1 号

T E L:072-924-3830(直通)

F A X:072-924-0175

刊行物番号 R6-231

